

- 4100 **彌阿**(みあ) ? - ? 伊予の時宗宝厳寺の僧/連歌作者、
1444-87頃「大山祇神社連歌」参加(；其阿きあ・河野通直・忽那通定らと参加)
彌阿(みあ；号) → 聖戒(しょうかい；法諱、河野通定/時宗僧/一遍絵伝編) F 2 2 7 9
みあみの局(みあみのつばね) → 俊成女(としなりのむすめ・藤原、建春門院中納言) 3 1 4 8
- 4150 **御形宣旨**(みあれのせんじ・右大弁源相職すけよりの女)?-? 987存 花山天皇の東宮時の女房(；宣旨名)、
歌人：986花山天皇退位時に藤原公任と歌の贈答、晩年は尼僧、
「御形宣旨集」、玄々集2首/続詞花集/秋風集入、平中説話は後世の附会、
勅撰4首；新古今(914/1585)新勅撰(925)玉葉(2243/2815)、
[見し夢をいづれのよぞと思ふまに折を忘れぬ花のかなしさ](新古今；1585/返歌)、
(よは夢と御代を掛る/贈歌；花山院退位の翌年仏名会の削花けりばなに付けた公任の歌；
ほどもなくさめぬる夢のうちなれどそのよににたる花の色かな；新古1584)
三井青淵(みせいえん) → 心覚(しんかく；法諱、真言僧) N 2 2 6 6
稜威(みつ) → 稜威(いず・藤井ふじい)
稜威神習所(みいつしんしゅうじょ) → 豊嗣(とよつぐ・岡本わおかもと、商家/歌人) U 3 1 6 0
三井寺大僧正(みいでらのだいそうじょう) → 覚実(かくじつ、天台僧/歌人) B 1 5 5 1
三井寺法印(みいでらのほういん) → 清誉(しょうよ；法諱、天台園城寺僧) B 2 2 8 1
御井廼小舎(みいのこや) → 水城(みずき・中村なかむら、藩士/神職/歌) J 4 1 7 4
美恵(みえ・的場) → 三重子(みえこ・的場まとは、歌人) K 4 1 5 8
- K4158 **三重子**(みえこ・的場まとは、別名；琴野/美恵)?-1857 備中都宇郡医者の的場健たけし(1773-1835)の妻、
歌人；香川景樹門(夫と同門)
- H4160 **水枝子**(みえこ/みづえこ?・天野あまの、天野政徳女)?-? 江後期歌人、父政徳(1784-1861)は幕臣で歌学者、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(父と共に)、
[子の日にも引く人あらずなりにけり松だに老はかなしからずや]、
(大江戸倭歌；子日に老松をみて)、
[売る布の糸より細きなりはひにつなぎかねたるおのが玉の緒](同；雑1978/商人)
- J4113 **美恵子**(みえこ・佐竹さたけ、号；貞照院、西家佐竹義茂女) 1835-92 58 歌人；高橋宗典門、
出羽角館城代佐竹義許よしもと(1837-52/16歳没)の婚約者、
義許没後も実家に戻らず歌人として活動
- 4151 **三重の采女**(みえのうねめ) ? - ? 古事記歌謡詠者；長谷の百枝槻ももえつきの宴に参加、
槻葉の落ちた盃を献上；雄略天皇に斬られようとした時の歌(100)；天語歌あまがたりうた
- 4152 **萩園**(みえん・山本やまもと、名；愛親なるちか、愛教[梨園]男) 1789-1855 67 京儒者/博識；古今百家に通ず、
書画を嗜む、「萩園みえん詩文集」、「萩園漫録」著、矢盛教愛のりちかの師、
[萩園(；号)の字/通称/別号]字；子孝、通称；簡(勘)四郎、別号；聡厓(そうがい)
- J4132 **美尾**(みお・須田すだ、初名；三保、仲之[1704-86]女)?-1796 信濃飯田の歌人；澄月門
みを(みお・児玉) → 美穂(よしほ・児玉こだま、国学者) M 4 7 8 6
未央庵(みおうあん) → 治郷(はるさと・松平、藩主/茶道) G 3 6 3 8
みを子(みおこ・久米/間宮) → 八十子(やそこ・間宮まみや/久米、歌人) D 4 5 6 9
港崎可酔(みおさきかすい；狂号) → 永言(ながこと・小栗おぐり/港崎可酔、国学/歌) K 3 2 2 8
三男三郎(みおさぶろう・若菜) → 夏井(かせい・若菜わかな/藤原、幕臣/歌) S 1 5 9 8
- H4128 **未可**(みか) ? - ? 江中期上州甘楽群尾沢村の俳人；關更門、
同村に芭蕉碑を建立、1774「蟬の声」編
美賀(みか・徳川/一条) → 美賀子(みかこ・徳川/一条/今出川、將軍室/歌人) J 4 1 8 6
- 4153 **麿雄**(みかお・林はやし、林圀[国]雄の養子)?-1862 武蔵秩父郡の国学者/弘化1844-48頃越後加茂住、
江戸住；平田篤胤門、1847「詞の片糸」、「重波集」編/「良寛禅師歌集」編、「山振日記」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[吉野川流るる花を惜しむまに春さへけふはとまらざりけり](大江戸倭歌；370春欲暮)、

- [甕雄(；名)の通称/号]通称；東馬、号；常葉居(養父の号)、甕臣^{みかおみ}の父
- H4139 **甕男**(^{みかお}・南部^{なんぶ}、静斎の長男)1844-192279 土佐高岡郡大野見村久万秋の儒者；藩校致道館入、陽明学；奥宮慥齋門、藩の軽士に採用；筆吏/1862勤王同盟に参加、1863藩命で上京/のち長州へ、1864池田屋襲撃事件後に再上京；堺町御門の戦に敗戦；三条実美ら七卿と長州へ逃亡、1867上京、維新後；大審院長・枢密院顧問官を歴任/男爵、1864「七生日録」著、[甕男(；名)の初名/通称/号]初名；忠成、通称；仲助/展衛/興夫/静太郎、号；南陽
- H4185 **甕臣**(^{みかおみ}・林^{はやし}、甕雄^{みかお}長男)1845-192278 越後高田の生；江戸に出て国学者；平田鉄胤門、中村正直門、英学・洋学；アーネスト・サトウ門、国語学研究、1888(明治21)「言文一致歌」で口語科を提唱/1900(明33)言文一致会の創立に尽力；1901(明34)「新文」創刊、言文一致運動の推進、06(明39)皇道国語会を設立、晩年は語原学に専念；(昭和7)「日本語原学」を刊行、下諏訪神社権宮司/貫前神社宮司、「詔勅実行策論」「新式林大典」著、歌；1860鋤柄助之「現存百人一首」入、妻；とく、研究熱心だったが家庭を顧みず子供達は牛乳配達をして家計を助ける、画家林武臣の父、[岩くぐるまつがね清水それのみは冬にもれても氷らざりけり](現存百人一首；25)、[甕臣(；名)の初名/号/変名]初名；国臣、号；真字かきの舎、変名；田口益城
- 4154 **御牆**(^{みかき}・布施^{ふせ}、別名；貞幹/甕城^{みかき})1799-185658 萩藩士；検使役/郡代官/地方右筆/遠近方、国典古記を修学；藩の典故に精通；毛利家の記録整理/歌人、催馬楽譜を編纂し藩主に献上、「自他問答」「他所問答」、「小郡宰判風土注進案」、1840「布施虎之助旧弊改正意見書」著、1842喜左衛門口述「唐太からふと話」評注、「童子先誦」「小郡宰判風土注進案」著、[御牆(；名)の字/通称/号]字；子足、通称；虎之助、号；夢齋/木公園
参考 → 喜左衛門(きざえもん・三保^{みほ}、船頭/樺太見聞口述)F 1 6 3 6
- 4155 **未覚**(^{みかく}) ? - ? 江戸俳人；1645玄札興行の会参加；重頼・未得らと
- 4156 **未覚**(^{みかく}) ? - ? 出羽俳人；1689等躬「葱摺しのぶずり」入
- 4157 **未角**(^{みかく}、法諱；明随、三上教明男)1727-9367 近江堅田真宗本福寺明観(俳号角々)の養子、本福寺を継嗣；14世、俳人；養父角々門、千那・角上の系統、1772「千那五十回忌追悼集」編(千那は曾祖父で本福寺11世)、1782「除元集」編、[未角(；号)の別号] 蒲萄坊/葡萄坊^{ぶどうぼう}、未覚(^{みかく}；俳号) → 久七(きゅうしち・天満屋、18c歌舞伎役/作者)G 1 6 4 2
- 4158 **未学**(^{みがく}・渡辺^{わたなべ}) ? - ? 江前期和泉堺の俳人/大阪で香具屋経営、1673西鶴「生玉万句」第七礎脇句/第一梅発句入、75宗因「大坂独吟集」78西鶴「物種集」入、「天満千句」参加、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、[出代^{でがは}に乳母が二瀬^{ふたせ}や飛鳥川](難波色紙；62/奉公人の春秋の交替期、乳母も下女の職探し/古今；世の中は何か常なる飛鳥川昨日の淵ぞ今日は瀬となる)
- 4159 **未学**(^{みがく}) ? - ? 美濃の俳人；1689「あら野」2句入；[すゞしさをわすれてもどる川辺哉](あら野；三)
未学堂(^{みがくどう}・和田) → 信定(^{のぶさだ}・和田、故実家) B 3 5 5 0
- K4186 **御蔭**(^{みかげ}・矢野^{やの})1830 - 192283 近江蒲生郡日野の商家、国学者/歌人、国学・歌；島崎春景(美景)・尾崎宍夫^{しお}門、妻；民子(歌人)、[御蔭(；名)の別名/通称/号]別名；春世/宗春/文則/呈貞、通称；文左衛門/定五郎、号；壺城/亀遊
- H4141 **御蔭**(^{みかげ}・岡村) 1847 - 190862 母；蒲歌子、飛騨高山の神職；水無神社祠官、大講義を務める、歌；宮原積・飯田年平門、「梶子」著、[御蔭(；名)の別名/通称/号]初名；俊夏/清爽、通称；豊之助/豊次郎/文平、号；穀園/眞洞居/柳窩/清晨庵夢香、諡号；国幸眞洞居大人
御陰(^{みかげ}・蓮沼) → 景正(^{かげまさ}・蓮沼^{はすぬま}、藩士/国学) V 1 5 4 0
躬陰(^{みかげ}・大石小石) → 大石小石躬陰(^{おおいしこいしのみかげ}、狂歌) B 1 4 6 8
御影大人(^{みかげのうし}) → 守貫(^{もりつら}・常磐井^{ときわい}、神職/歌人) K 4 4 5 0
- J4186 **美賀子**(^{みかこ}・徳川^{とくがわ}/一条、名；美賀、今出川[菊亭]公久女)1835-9460 京生/一条忠香の養女、1855(安政2)江戸の一橋(徳川)慶喜の正室、婚約者忠香女千代君(照姫)疱瘡もため代役婚、

1856自殺を図る;原因は慶喜と義祖母直子(徳信院)の親密な関係を疑ったことという、非常に寂しい新婚生活、女子出産も夭折、慶喜は将軍後見職で上京/将軍就任;別居生活、1868慶喜は将軍返上し江戸に帰るが上野寛永寺・駿府宝台院で謹慎生活;夫と別居のまま、省子を美賀子に改名、1869慶喜謹慎解除;静岡で10年ぶり同居、側室の子を実子とし養育、1894乳癌発症;東京で手術するも肺水腫を併発し没、昭憲皇太后の義姉、歌人、

[かくばかりうたて別をするが路につきぬ名残はふちのしらゆき](辞世/慶喜へ贈歌)、
[美賀子の別名/法号]別名;延君のぶきみ/省子(;結婚後)、法号;貞肅院

みか子(みかこ・山本/曾根)→ 妙現尼(みょうげんに、良寛妹/歌人) K 4 1 6 5

御笠(みかさ・南条) → 利愛(としちか・南条なんじょう、商家/国学) V 3 1 9 9

I4156 甕孫(みかしば・岡田おかだ、夏目小八郎3男)1836-8146 遠江白須賀の国学者、夏目甕麿(みかまろ)の孫、三河宝飯郡の岡田作左衛門諸岳の養子、歌人、

[甕孫(;名)の通称] 定吉郎/作兵衛/作郎

躬風(みかぜ→もとかぜ・谷口)→ 躬風(もとかぜ・谷口、国学者/歌文) C 4 4 2 9

三香園(みかぞの・瀬見) → 善隣(よしちか・瀬見せみ、国学) N 4 7 5 3

御方(三方みかた・山田) → 三方沙彌(みかたのさみ、廷臣/万葉歌人) 4 1 0 1

4160 三形王(御方王みかたのおおきみ、出自不詳)?-? 奈良後期廷臣;749従五下/759従四下木工頭、大監物、万葉四期歌人;廿4488/4511(;758年清麻呂邸宴歌)、

[み雪降る冬は今日のみ鶯の鳴かむ春へはあすにしあるらし](万葉;廿4488)、

(十二月十八日大監物三形王の宅にて宴する歌三首;甘南備伊香いかに真人と家持が参加)

4101 三方沙彌(三形-/御方沙弥みかたのさみ、山田やまだ史ふびと三方)?-? 河内渡来系出/684-9遣新羅留学僧、692還俗、710周防守/721文章博士/722免官/再出家、

万葉二期歌人7首;123/125/508/1027/2315/4228、玉葉(1327)入、

詩;懐風藻3首(山田史三方);山田史三方と別人説もある、

妻;園臣[苑臣]生羽そののおみくはの女むすめ(万葉・二124;三方沙彌と贈答)、

のち説話化;袋草紙/古今著聞集/十訓抄に歌詠む乞食僧(乞者きつしゃ)の説話、

[たけばぬれたかねば長き妹が髪このころ見ぬに搔き入れつらむか](万葉;二123/病床作)、

(たくは束ね結ぶこと/ぬれは解ける意/搔き入れは髪型を整える意か)

妻 → 園臣生羽之女(苑臣-そののおみくはのむすめ) E 2 5 1 5

☆[乞食の法師(三形沙彌)に家の女が琴を弾きこれを布施とせよというに答えて、

琴といはばあるじながらも得てしがな音ねはしらねどもひきこころみん)、

袋草紙入;音と寝・弾きと引きを掛ける)

御形宣旨(みかたのせんじ) → 御形宣旨(みあれのせんじ、花山期歌人) 4 1 5 0

三日月庵(みかづきあん) → 湖翠(こすい・田中たなか、俳人) M 1 9 8 4

三日月庵(みかづきあん) → 茂東(もとう・竹内たけうち、医者/俳人) C 4 4 1 3

三日月園(みかづきえん) → 梅二(ばいじ、俳人) B 3 6 3 9

三ヶ月上人(みかづきしょうにん)→ 聖阿(しょうけい;法諱、浄土僧/宗学) Q 2 2 9 6

三日月素輪(みかづきのそりん)→ 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4

K4113 甕甫(みかとし・林はやし、)1814-188673 備中浅口郡幕府領柏島村の庄屋/国学者、
[甕甫(;名)の通称] 彦太郎/幸兵衛

三香之進(みかのしん・牧村)→ 光香(みつか・牧村/源、藩士/国学者) D 4 1 1 9

瓮廼舎(みかのや) → 貞賢(さだかた・藤川ふじかわ、藩士/歌人) H 2 0 9 8

甕の舎(みかのや・瀬見) → 善隣(よしちか・瀬見せみ、国学) N 4 7 5 3

三香廼舎(みかのや) → 善水(よしみ・瀬見、善隣男/大庄屋/歌) H 4 7 2 8

美香之舎(みかのや) → 菅賢(すがよし・古屋、藩士/歌人) F 2 3 4 3

4161 甕麿(みかまろ・夏目なつめ/本姓;源)1773-1822水死50 遠江浜名郡白須賀の酒造業、名主役の家、当地笹子学園で修学/1790父没;名主役を継承、国学;1797内山真竜門/98本居宣長門、

1801本居春庭門、1814隠居、1818「鈴屋大人都日記」を出版;多大な経済援助、

1819頃より近畿山陵調査;撰津昆陽池で水死、「古野ふるの之若菜」「生島坐摩考」「萩園歌集」、

1815「禱釜巖釜考」16「万葉摘草」著/18「都のやとりの会歌」編、外編著多数、加納諸平の父、

[甕麿(;名)の別名/通称/号]英積(;初名)/別字;瓶麿・甕麻呂・甕万呂・甕満・三日丸・三ヶ月丸、

通称;小八/小八郎/嘉右衛門、号;菘園/茂竹庵笹好もちくあんささよし、法号;菘園浄学居士
瓶磨(甕麻呂・甕万呂・甕満・三日丸・三ヶ丸みかまろ・夏目)→ 甕磨(みかまろ・夏目) 4 1 6 1
三上兵庫(みかみひうご) → 宗三(そうさん・三上、住職/武将;城主) H 2 5 4 4
身輕織介[折輔](みがるのおりすけ、狂名)→京伝(きやうでん・山東、戯作/画) 1 6 3 7

- 4162 **三河**(参河みかわ、女蔵人によくろうど参河)?-? 平安中期女蔵人・歌人:
960内裏歌合参加、拾遺323(:村上天皇の乳母肥後の出羽下向への餞別)、
[あづまぢの草葉を分けん人よりも遅るゝ袖ぞまづは露けき](拾遺集;六別323)
- 4163 **三河**(参河みかわ・法性寺入道前関白家ほつしょうじにゅうどうさきのかんぱくけの・摂政家、源仲正女)?-? 女房歌人、
摂政藤原忠通(法性寺関白)家の女房、少将時代の大納言藤原重通と交渉、源頼綱の孫、
源三位頼政の妹/皇后宮美濃の姉妹、1126摂政左大臣忠通家歌合/1134頭輔歌合参加、
勅撰6首;金葉(80/260)千載(729)新勅(698)玉葉(2288)新千載(1565)、
後葉集入/続詞花集3首入(従一位宗子[藤原忠通室]との贈答歌746-7)、通称;殿下参河君、
[入日さす夕くれなゐの色はえて山下照らす岩いは躑躅つじかな](金葉集;80)
[波のよるほの三島江の芦の根のなかれて人を恋ひわたるかな](袋草紙入;
1138[保延3]或所歌合《散佚》;恋右/寄ると夜・ほの見しと三島・根と音を掛る、
上句は「泣く音」を導く序詞、判者藤原基俊は上下句初文字同じの平頭びょうとう病とする)
- 4164 **三河**(参河みかわ、大殿[平忠盛]の女房)?-? 平安後期歌人、1166重家家歌合/67平経盛歌合参、
[秋の野の千くさの花の色々を心ひとつに染めてこそみれ](平経盛家歌合;22)
- 4165 **三河**(参河みかわ、宗尊親王家女房、後藤基綱[1256没]女)?-? 鎌倉期;鎌倉歌壇の歌人、
宗尊親王家備前と姉妹、二階堂行氏の妻、通称;中務卿親王家三河(なかつかさきょうしんのうけのみかわ)、
安嘉門院四条(阿仏尼)と交流、行景の母?、東撰和歌六帖・拾遺風体集・柳風抄(3首)入、
勅撰3首:新後撰(563/1555)玉葉(2431)、
[思ひやれ幾重の雲の隔てともしらぬ心にはれぬ涙を](新後撰;八羈旅563)、
(越にいる頃宗尊親王への贈歌)、
[しのびかねきえんゆふべの露もなほこけのしたまでうきなもすな](柳風抄;恋122)
- 三河(参河みかわ・二条院内侍)→ 三河内侍(みかわのいし・二条院) 4 1 6 6
三河(みかわ・大藪) → 基足(もとたり・大藪おおよぶ、神職/国学) J 4 4 5 6
参河(みかわ・杉谷) → 彝倫(つねり・杉谷、国学者) E 2 9 8 1
参河(みかわ・佐竹) → 義茂(よししげ・佐竹さたけ、藩士/詩文) D 4 7 6 3
三河公(みかわこう) → 伊尹(こいまさ・藤原、摂政太政大臣/歌) 1 9 4 7
三河入道(参河-みかわにゅうどう)→ 寂昭(寂照じゃくしょう、入宋僧/歌人) 2 1 3 6
三河入道(みかわにゅうどう) → 輔景(すけかげ・長尾ながお/平、武家/連歌) G 2 3 1 5
三河阿闍梨(みかわのあじり)→ 円勇(えんゆう、天台僧/歌人/連歌) B 1 3 3 6
三河阿闍梨(みかわのあじり)→ 日要(にちよう;法諱・要学、日蓮僧) D 3 3 4 1
三河守(みかわのかみ・和泉)→ 豊房(とよふさ・和泉いずみ、武将/連歌) R 3 1 5 4
三河守(みかわのかみ・塩屋)→ 貞綱(さだつな・塩屋えんや/佐々木/源、武将/連歌) I 2 0 5 9
三河守(みかわのかみ・伊達)→ 宗泰(むねやす・伊達だて、岩出山城主) D 4 2 9 3
三河守(みかわのかみ・松平)→ 綱国(つなくに・松平まつだいら/氷見、世嗣) G 2 9 3 9
三河守(みかわのかみ・中川)→ 長延(ながのぶ・中川ながわ/藤原、廷臣/歌) F 3 2 1 9
三河守(みかわのかみ・中川)→ 長雄(ながお・中川ながわ/藤原、長延男/廷臣/歌) O 3 2 0 3
三河守(みかわのかみ・山本)→ 重胤(しげたね・山本やまと/賀茂、国学者) a 2 1 0 1
三河正(みかわのしょう・倉沢)→ 則喬(のりたか・倉沢くらすわ、神職/国学) I 3 5 3 0
参河介(みかわのすけ・宇都宮)→ 鏡男(かがみお・宇都宮うつのみや、神職) T 1 5 7 4
三河僧正(みかわのそうじょう)→ 行遍(ぎょうへん;法諱、真言僧) C 1 6 8 4
三河僧正(みかわのそうじょう)→ 栄尊(えいそん・ようそん、真言僧) D 1 3 1 4
- 4166 **三河内侍**(みかわのいし・二条院にじょういん、参河/兵衛佐、藤原為業[寂念]女)?-? 1200存 平安後期歌人、
実父は為業兄の範玄説あり、二条院の女房、のち後白河天皇女御琮子に出仕(;兵衛佐名)、
藤原実綱の妻;公仲・七条院大納言の母、定隆と交渉(前夫or恋人);建春門院新中将の母?、
歌:1170住吉社歌合/95経房家歌合/1200石清水若宮歌合等参加、
続詞花・今撰・言葉集入・檜葉集(1198佐渡配流の玄俊に贈歌)入、

- 勅撰12首;千載(740/879/1087)新古(733)玉(2398/2599)風(222/669/1466)新拾(405)以下、
 [衣手こもろでに落つる涙の色なくは露とも人にはいましものを](千載;740/忍びきれぬ恋)、
 息女 → 大納言(だいなごん・七条院、歌人) B 2 6 9 5
 三河聖(参河聖みかわのひじり) → 寂昭(寂照じゃくしょう、入宋僧/歌人) 2 1 3 6
 三河屋翁(みかわやおう) → 治右衛門(じえもん・三河屋/三河舎、書肆) P 2 1 6 9
- H4105 密柑皮種(みかんのかわたね) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;222、
 [てる月の鏡にむかふ立田姫もみぢ色こき山のくちべに](才蔵集)
- 4167 みき(・中山なかやま) 1798 - 1887.90 奈良の地主の主婦、天理王命を信仰;天理教の祖、
 「おふでさき」著
- J4143 美喜(みき・田中たなか、名;みき子、竹川竹斎[政胖まさやす]女) 1835-95.61 伊勢飯野郡射和の豪商の生、
 結婚;伊勢津に住、歌人;芝原(荻廼屋おぎのや)音信おとずれ門・佐々木弘綱門
- みき(三木みき・桂) → みき女(みきじよ・桂かつら、絵師) 4 1 7 0
 みき(・森本) → 都々子(つつこ・森本もりもと/川上、国学/歌) F 2 9 6 3
 三樹(みき・森) → 可澄(よしずみ・森もり/荒木、国学/歌) P 4 7 6 2
 造酒(みき・多久) → 顔楽斎(がらんくさい・多久たく、儒者) H 1 5 7 7
 造酒(みき・宇田) → 深林(しんりん・宇田うだ、藩士/書家) Q 2 2 1 6
 造酒(みき・山方) → 泰護(やすもり・山方やまがた/真崎、藩家老) D 4 5 3 1
 造酒(みき・生駒) → 魯斎(ろさい・生駒いこま/岡野、藩家老/詩歌/兵学) B 5 2 5 2
 造酒(みき・淡輪たんわ) → 常樹(恒樹つねき・橘/長谷川/淡輪、国学者) C 2 9 0 0
 造酒(みき・中根) → 香亭(こうてい/きょうてい・中根、幕臣/史家) F 1 9 3 1
 造酒(みき・堀) → 貞恒(さだつね・堀ほり/菅原、医者) I 2 0 6 4
 造酒(みき・福島) → 末茂(すえしげ・福島/度会、神職/詩文) B 2 3 1 7
 造酒(みき・米津/隠岐) → 菜軒(しゅけん・隠岐おき/米津、与力/詩人) I 2 1 6 5
 造酒(みき・榎倉/福井) → 端隠(たんいん・福井/度会/榎倉、神職/篆刻) T 2 6 1 5
 造酒(みき・八谷/内藤) → 万里助(まりのすけ・内藤/八谷、藩士/日記) K 4 0 2 0
 造酒(みき・渡辺) → 重名(しげな・渡辺わたなべ、神職/国学者) C 2 1 5 8
 造酒(みき・春日) → 延重(のぶしげ・春日かすが、神職/国学) H 3 5 9 0
 造酒(みき・車戸) → 宗功(むねたか・車戸くるまど/藤原、神職/国学) D 4 2 7 8
 造酒(みき・高山) → 茂樹(しげき・高山たかやま、神職/国学) Z 2 1 3 1
 造酒(みき・筑和) → 重姓(しげうじ・筑和ちくわ、藩士/国学) Z 2 1 4 5
 造酒(みき・佐藤) → 誠実(のぶざね・佐藤さとう、古事類苑) I 3 5 5 7
 幹有(みきあり・緑樹園) → 緑樹園(りよくじゅえん・小林、商家/狂歌) J 4 9 7 7
 幹右衛門(みきえもん・佐々木) → 孝政(たかまさ・佐々木ささき、儒者) N 2 6 1 8
 造酒右衛門(みきえもん・神田) → 月守(つきもり・神田かんだ、俳人) 2 9 6 3
 造酒右衛門(みきえもん・長坂/長阪) → 綱矩(つなりのり・長坂/長阪、藩士) B 2 9 2 3
 造酒右衛門(みきえもん・阿部) → 定珍(さだかね・さだよし・阿部あべ、庄屋/詩歌) N 2 0 6 8
- 4168 幹雄(みきお・三森みつもり、名;寛/幼名;菊治、兼吉男) 1829-1910.82 磐城石川郡形見村の俳人、
 1849(21歳)陸前名取郡南長谷邑玉崎の吉田屋六三郎の手代/互理の伊達家臣と俳諧、
 1854(26歳)江戸で俳人:西馬門/深川に春秋庵創設、明治期俳壇で活動/神道大成教入信、
 「俳諧明倫雑誌」刊、1860「其夕集」62「玉川行記」64「標注七部集」67「其玉集」編、
 「俳諧名譽談」「俳諧発句集」編、「俳諧掌玉」著、[行違ふ時のはやさや渡り鳥]、
 [幹雄(;号)の別号] 静波/樹下子/笈月人きゅうげつじん/潜庵/潜窓/春秋庵11世、不可庵/香楠居、
 不去庵/桐子園/大寿老人
- H4151 美幾子(みきこ;女房名、藤原美樹?) ?-? 江中期歌人、松平主殿頭家の老女(局)、
 歌;賀茂真淵門、1758(宝暦8)真淵家会宴歌参加(;本居大平「八十浦の玉」入、
 [氷りとけ春さりくればめづらしく波の花咲く庭の池水](八十浦;上24/真淵宴歌)
- H4149 美熙子(みきこ・榊原さかきばら) ?- ? 江中期歌人、幕臣小普請榊原平七郎の妻、
 歌人;1798石野広通「霞関集」入、
 [時のまに消えをあらそふ夕露の光に似たる人の世の中](霞関;雑1057)
- みき子(みきこ・田中) → 美喜(みき・田中たなか、歌人) J 4 1 4 3

- 幹貞(みきさだ・小山) → 素朴(そぼく・小山こやま、詩歌人) K 2 5 4 0
- 4169 三樹三郎(みきさぶろう・頼らい、名; 醇、山陽男) 1825-59 斬罪 35 母; 梨影、京三本木の儒者、
1840大阪の後藤松陰・篠崎小竹門、43羽倉簡堂に同道し江戸に游学; 昌平黌入; 強制退寮、
1846蝦夷地探検/49帰京し家塾を守る、詩文、尊攘派; 幕政批判、安政大獄に連座刑死、
「骨董集」(獄吏輯録)、「鴨厓先生一日百詩」著/1859「四英獄窓唱和集」編、歎涕和歌集入、
[三樹三郎(; 通称)の字/別通称/号]字; 子春/子厚、別通称; 三木八/三樹八郎、
号; 鴨厓おうがい/百城/古狂生/三樹、支峯の弟
頼家系図 → 春水(しゅんすい・頼らい) 2 1 6 0
- 幹三郎(みきさぶろう・魚住) → 長胤(ながたね・魚住うおずみ/源、藩士/国学/歌) L 3 2 3 0
- 4170 みき女(みきじよ・桂かつら、名; みき・三木) ?-? 大坂南能人町の絵師; 桂宗信門、春画・美人画、
滑稽本挿絵、国学/歌; 加藤景範[1720-96]門、「合雑生粹」画、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[月花のつきぬなさをくみしるも長閑のどけき御代の恵なりけり]、
(大江戸倭歌; 雑2035)
- 幹二郎(みきじろう・石河) → 明善(めいぜん・石河いしかわ、藩の儒者) 4 3 2 6
- 三喜介(みきすけ・藤岡) → 近方(ちかまさ・藤岡ふじおか、藩士/国学) N 2 8 4 0
- 幹蔵(みきぞう・中西) → 鷹山(ようざん・中西なかにし、医者/古医方) B 4 7 0 4
- 造酒蔵(みきぞう・生方) → 寛(ひろし・生方うぶかた/源、書家) F 3 7 9 0
- 美喜蔵(みきぞう・棚沢) → 花成(はななり・棚沢くるみざわ/源、国学者) K 3 6 1 2
- 造酒太郎(みきたろう・前沢) → 喜平(よしひら・前沢まえざわ、国学者/歌人) P 4 7 0 4
- 4171 三杵(みきね・科戸しなど) ?-? 俳人; 珪山門、俳論1767「瓜の蔓」、72撰集「藤枝折」著
- 4172 右大臣(みぎのおとど、姓名不詳) ?-? 1381新葉集成立時に南朝右大臣; 新葉集5首
3説 ① → 公長(きんなが・西園寺、新葉; 左近大将とあるので別人); 南朝公卿補任説
② → 顕能(あきよし・北畠、親房男/1327右大臣-83薨) C 1 0 8 7
③ → 冬実(ふゆざね・二条、教基男/新葉; 関白左大臣名; 29首入); 谷森善臣説 E 3 8 2 6
- 造酒正(みきのしろう・宇佐美) → 良賢(よしかた・宇佐美うさみ、兵学者) C 4 7 6 3
- 造酒丞(みきのじょう/みきのすけ・奥村) → 直氏(なおうじ・奥村、藩士/奉行) 3 2 7 2
- 幹之丞(みきのじょう/みきのすけ・赤根) → 武人(たけと・赤根あかね、奇兵隊総督) O 2 6 5 0
- 幹之進(みきのしん・宇津木) → 泰翼(やすすけ・宇津木うつき、泰交男/藩士/歌) F 4 5 3 7
- 造酒之進(みきのしん・山崎) → 宗運(そううん・山崎やまざき、幕臣/医者) G 2 5 0 8
- 造酒助(みきのすけ・小林) → 通貫(みちつら・越智おち、国学者) B 4 1 9 2
- 造酒佑(みきのすけ・山澄) → 英竜(ひでたつ・山澄/川方、藩士/戦記) D 3 7 1 5
- 造酒佑(みきのすけ・山澄) → 英貞(ひでさだ・山澄、英竜男/藩士/故実) D 3 7 0 4
- 造酒介(みきのすけ・宇佐美) → 良賢(よしかた・宇佐美うさみ、兵学者) C 4 7 6 3
- 造酒介(みきのすけ・生駒) → 秀一(ひでかず・生駒いこま、医者/歌人) L 3 7 1 0
- 造酒介(みきのすけ・岩松) → 益男(ますお・岩松いわまつ、神職/国学) N 4 0 8 5
- 造酒之介(みきのすけ・福嶋) → 紀隆(のりたか・福嶋ふくしま、神職) E 3 5 8 3
- 造酒之介(みきのすけ・小宮山) → 楓軒(ふうけん・小宮山、藩士/儒/農政) 3 8 5 3
- 造酒之助(みきのすけ・朝山) → 嘉路(よしみち・朝山あさやま/勝部、国学者) L 4 7 1 8
- 造酒之助(みきのすけ・岡部) → 千尋(ちひろ・岡部おかべ/狛こま、家老/歌) M 2 8 2 9
- 造酒之助(みきのすけ・田村) → 弥平(やへい・田村たむら/池原、皇典/神職) G 4 5 1 6
- 造酒之允(みきのすけ・樋口) → 東里(とうり・樋口ひぐち、医/儒者) I 3 1 0 9
- 幹之助(みきのすけ・沢田) → 徳国(ほくに・沢田さわだ/千葉、藩士/神職/歌) G 3 9 2 4
- 右之房(みぎのぼう) → 一瓢(いっぴょう・川原、日蓮僧/俳人) B 1 1 6 3
- 三木舎(みきのや) → 眞棹(まさお・成川なるかわ、医者/歌人) R 4 0 3 0
- 4173 幹規(みきのり・市毛いちげ) ?-? 江後期1830-44頃水戸藩士/文筆家、
「常南遊記」「常陸事蹟考」、「水府年録」編、[幹規(; 名)の通称] 左五衛門
- 三木八(みきはち・頼) → 三樹三郎(みきさぶろう・頼らい、儒者/勤王家) 4 1 6 9
- 三樹八郎(みきはちろう・頼) → 三樹三郎(みきさぶろう・頼らい、儒者/勤王家) 4 1 6 9
- J4184 幹平(みきはら・土肥どひ、通称; 平太/右近) 1773-1825 53 備前岡山藩士・歌人、

土肥経平・延平の一族

酒造松(みきまつ・丸山) → 眞篤(ますず・丸山まるやま、国学/歌人) S 4 0 8 0

- 4174 未及(みきゆう) ? - ? 俳人;1671重徳「新独吟集」下巻に独吟百韻入
- J4136 幹之(みきゆき・杉本すぎもと、旧姓;堀川) 1795-1856 62 信濃飯田藩士;江戸詰、国学者、
歌人;加藤千蔭・村田春海門、
[幹之(;名)の通称] 金次郎/竹次郎/慶助/庫八/善兵衛
- 4175 御匣(みくしげ・土御門つちみかど、藤原光子、大蔵卿藤原正光女) ?-1026? 枇杷皇太后宮妍子の女房、
別女房名;枇杷皇太后宮御匣、妍子は道長女、母;関白藤原兼家女房対御方、
中納言藤原公信[きんのぶ977-1026]の妻、実康の母、小一条院と交渉、弁乳母と贈答(栄花入)、
勅撰歌;後拾遺(142/960)玉葉(2369)
[こゝろえつ海人あまの栲縄たくなはうちはへてくるをくるしと思ふなるべし](後拾遺;960)、
(詞書;小一条院かれがれになりたまひける頃よめる/うちはへては長く延ばしての意)
- 4176 御匣(みくしげ・式乾門院しきけんもんいん、安嘉門院三条、久我通光女) ?-? 1283存 鎌倉期女房歌人、
久我通忠・雅忠の姉妹、式乾門院利子内親王(守貞親王女)の女房(女房名;式乾門院御匣)、
のち安嘉門院邦子内親王(高倉院皇女)の女房(女房名;安嘉門院三条);没時まで出仕、
1263住吉社歌合/65十五夜歌合参加/十六夜日記に入、雲葉集入、
勅撰52首;続後撰(909/1187)続古(8首737以下)続拾(10首207以下)新後撰(9首)以下、
[けふのみやかけてだに見むもろかづらうき身はよその名を忘るとも](続後撰;恋909)、
(もろかづら[諸葛];賀茂祭にふたば葵あふひを桂の枝につけたもの)
- 4177 御匣(みくしげ・新室町院しむむらちいん) ?-? 鎌倉南北期女房歌人:
新室町院[-1337没、後伏見天皇皇女/後醍醐天皇中宮]の女房、
1338-42頃花園院三十首歌に参加、風雅集2首;675/1112、
[岡辺をかべなる黄櫨はじの紅葉は色こくてよもの梢は露の一しほ](風雅;秋675/院三十首)
- 4178 御匣殿(みくしげどの・堀河院中宮ほりかわいんのちゅうぐうの、源資綱女?) ?-? 平安後期歌人、
堀河院中宮[篤子内親王]家女房/1093御匣殿に補せらる/1107中宮の随い出家、金葉集65、
[桜花さくらばなくもかゝるまでかきつめて吉野の山とけふは見るかな](金葉集;一65)
(詞書;堀河天皇が花を山と集めて中宮に贈ったのを見て中宮に代わり詠む)
- 4179 三国(みくに・安曇宿禰あづみのすくね) ?-? 755武蔵国部領防人使さきもりがことりづかい掾、正六上、万葉20首進歌
- 4180 躬国(みくに・永沢ながさわ) 1755-1807 53 下総香取郡佐原の歌人;加藤千蔭門、
歌:「永沢躬国家集」著、
[躬国(;名)の通称/号]通称;源吾/半十郎/太一、号;渚亭/浜亭
- 三国町(みくにのまち) → 町(まち・三国/仁明帝更衣、古今歌人) J 4 0 6 0
- 4181 三稜(みくり・堀内ほりうち、名;長郷ながさと、堀内義清男/) 1767-1843 77 堀内吉慶の養子、
伊予興居島村門田の庄屋/国学:藤井高尚門、昌郷まさとの父/匡平まさひらの祖父;3代とも歌人、
「堀内三稜翁詠草」著、景浦直孝著「堀内匡平伝」に328首入、
[大空の雲居にまじる声すなり心高くや春の雲雀は]、
[三稜(;号)の幼名/通称/別号]幼名;千五郎、通称;貞蔵/五左衛門/喜佐平、別号;三積/松陰
- 眉間白毫翁(みけんはくごうおう) → 敬輔(敬甫けいほ・高田、商家/絵師) G 1 8 1 7
- 皇子舎人(みことねり) → 舎人親王(とねりしんのう、書紀編纂/歌人) 3 1 5 4
- 御子宰相(みこのさいしょう) → 基平(もとひら・源みなもと、廷臣/日記) E 4 4 0 3
- 御子左大納言(みこひだりだいなごん) → 為定(ためさだ・二条、廷臣/歌人) 2 6 5 9
- 未済(みさい・荒木田) → 未済(みさい・荒木田、俳人) 4 1 9 6
- 未斎(みさい/ひさい・重野) → 成斎(せいさい・重野しげの、藩士/儒/史学) B 2 4 6 5
- 未済館主人(みさいかんしゅじん) → 貞(てい・伊佐、本草学者) 3 0 1 6
- J4172 操(みさお・玉松たままつ、山本公弘きんひろ2男) 1810-72 63 京の廷臣家の生/大炊御門経久猶子、
幼時;醍醐寺入;法名;猶海、大僧都/法印;僧律改革を主唱するも失敗、
還俗;山本毅軒のち玉松操を称す、国学;大国隆正門/国・儒・仏の典籍を涉獵、尊攘主唱、
1867(慶応3)岩倉具視の側近/王政復古の号令の渙発・神武創業への復帰など進言、
1869徴士内国事務権判事/70侍講、皇学所御用掛/大学中博士、
1871新政府の開国・洋学振興方針に反発;致仕

[操(；名)の別名/通称/号/法名]別名；重信/重誠/山本真弘、通称；大学頭、
号；深青/三青/毅軒、法名；猶海ゆうかい

J4116 操(みさお・齋藤さいとう、)1829 - 191789 甲斐巨摩郡鏡中条かがみなかじょう村の神主、
神道・国学；青島貞賢・平田鉄胤門、

[操(；名)の別名/通称/号]別名；良知/実啓、通称；権頭、号；真澄舎ますみのや

K4154 操(みさお・松岡まつおか、)1832 - 189665 母；松岡小鶴こつる(1806-73/医者/漢学/詩人)、
父(中川至)は婿養子；祖父左仲と不仲で離縁、母に厳しく養育される；医者/漢学者、
播磨神東郡田原村の生/一時姫路藩儒者角田心蔵の娘婿田島家の弟[田島賢次]名で修学；
仁寿山鬢・好古堂で医を修学；医業/のち姫路の熊川ゆうせん学舎で漢学指導、国学修学；神職、
下総葛飾郡に住/詩歌人、妻；たけ(尾柴利七の長女)/8男あり；うち松岡5兄弟が有名；
長男；松岡鼎(医者/地方自治)・3男；井上通泰(松岡泰蔵/国文学/歌人/医者)・

6男；柳田國男(民俗学者)・7男；松岡静雄(言語学・民族学者)・8男松岡映丘(日本画家)、
[操(；名)の別名/字/通称/号]別名；博文ひろふみ、字；子礼、通称；賢次、号；雪香/約齋

母 → 小鶴(こつる・松岡まつおか、医者/漢学者) R 1 9 3 3

美佐雄(みさお・高瀬) → 光明(みつあき・高瀬たかせ、国学者) J 4 1 5 9

J4106 操子(みさお・児島こじま/本姓；手塚、名；光子/美津子、)1837-65早世29 下野宇都宮の国学者、
憂国の志士の児島(手塚)葦原いげん(草臣しげおみ/1837-62獄死26歳)の妻

4182 三積(みさか・静岡しずま、初名；美積みさか)1778-186083 長門萩藩士；先手足軽、国学；揚井やない松雄門、
本居大平門、歌人、「松崎紀行」「奥津借嶋考」「新葉集補遺」、「新葉集南朝作者履歴正誤」著、
[三積(；名)の通称]衡介こうすけ/幸介/幸助

H4166 美佐子(みさこ・小川おがわ、芸妓名；小三/号；みさ女じよ・松乃門三艸子まつのとみさこ)1832-191483歳

江戸下谷仲町の名主小川惣兵衛定之女/母；壽賀、辻川長之助の妻；1848(17歳)夫と死別、
実家に帰る/歌人；井上文雄門、家運衰え1851(20歳)深川芸妓[小三]となる、美貌才気、
幕末の志士たちと交渉/晩年；歌道を教授；松乃門まつのを号す、歌誌「しきしま」選者、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(師の文雄と入)、1862(文久2)文尾「十番歌合」参加、
家集「松の門三艸子歌集」(門弟大峰筆子編)、

[いさや川いさ舟いだせ夕波も満ちくるをりぞ祓はらへしてまし]、

(大江戸倭歌；687夏祓/不知哉川いさやがわ；近江靈仙山りょうせんざんに発し彦根に落る川；歌枕)、

[思はぬを思ふは苦し思はぬに思はるるはた苦しかりける](同；恋1645)、

[いつくしみなでてうけたる黒髪をけふたらちねのみ手に返さん](母没；髪切り墓前に)

K4170 未瑳子(みさこ・水原みずはら、山田嘉猷えみち[1809-52]長女)1837-191478 京の柳馬場押小路北の生、
国学者/歌人；父門、国学者の水原史郎ふみお(1837-99)と結婚、慶夫よしの母、

[未瑳子(；名)の別名/号]別名；君子/操子、号；翠香/璞はく

夫 → 史郎(ふみお・水原みずはら、国学者/歌人) I 3 8 7 4

実父 → 嘉猷(えみち・山田、国学者/歌人) E 1 3 2 7

みさ女(みさじよ・小川) → 美佐子(みさこ・小川おがわ、小三、歌人) H 4 1 6 6

4183 京(みさと・帆足ほあし/岡、名；京子、帆足長秋女)1787-181731 肥後山鹿郡三玉の詩歌人、
；父の薫陶/1801父母と上京、本居大平家歌会参加、父が宣長から借用「古事記伝」を書写、
帰郷後；熊本藩士岡貞亮の妻、父と夫貞亮が不仲；夫婦で出奔/諸国流浪；

貧窮のうちに長門二見浦で病死、「刀環集」「日向の薄雪」「阿蘇の山ぶみ」著、

[京の幼名/別号]幼名；八潮[八塩]、別号；美佐登/御郷みさと

I4109 御郷(みさと・稲垣いながき/本姓；源、)？-？ 江後期；天保1830-44頃の京の歌人、
下鴨神社・上賀茂神社・松尾神社などに歌を奉納、

[御郷(；号)の名/通称]名；貞盛/京みさと、通称；治三郎/次助

I4106 御実(みさね・浅沼あさぬま、通称；伝兵衛)？-？ 江後期天保1830-44頃；備前岡山藩士、歌人

巳三郎(みさぶろう・村田) → 氏寿(うじひさ・村田、藩士/政治家) E 1 2 4 1

御射山翁(みさやまおう) → 羅人(らじん・山口、書肆/俳人) B 4 8 4 1

躬鹿(みじか・紀) → 紀躬鹿(きのみじか、井上、役人/狂歌) G 1 6 1 3

4184 美志子(みしこ・村上むらかみ、村上忠幹の妻)？-？1866前没 三河碧海郡堤村の歌人、夫は刈谷藩医、
「美志子咏藻」著

- 未之止(みし) → 猿左(えんさ・戸谷とや、俳人) B 1 3 7 4
- 4185 **三島王**(みしまのおおきみ、舎人親王男)?-? 淳仁天皇の兄、廷臣;723従四下、
万葉三期歌人;5883(憶良の松浦佐用姫の歌に追和する歌)、
[音に聞き目にはいまだ見ず佐用姫が領巾ひれ振りきとふ君松浦まつら山](万;883)
- 未熟庵(みじゅくあん) → 夢仏(むぶつ・枝桑庵しろうあん、俳人;雑俳) C 4 2 9 6
- 未熟庵(みじゅくあん) → 十寸尾(ますお・未熟庵、夢仏門俳人) I 4 0 9 3
- 実生(みしょう・津栗) → 如臯(2世じょう・瀬川せがわ、歌舞伎作者) 2 2 1 0
- 4186 **実生庵宗海**(みしょうあんそうかい、姓;伊藤)?-? 江中期江戸四谷伝馬町の華道家/1786法橋、
故実家滋野井公麗(みんかざ)[1733-81]に認められる、門弟多数、「実生流花道目録」著
- 4187 **未生齋一甫**(みしょうさいいつぽ、姓;山村/沼田)1761-182464 幕臣山村家の生/江戸の華道家、
遠州流花道を修得;諸国遊歴/1804但馬の大庄屋上田兼重の助力で大阪に未生流を開く、
大阪齋藤町住/晩年失明後も教授を続ける、「花術養之巻」「花術三才之巻」「插花皆伝」著、
「生花水揚秘伝授」「華術草木養之巻」「体用相応之巻」「妙空紫雲の巻」1816「插花百練」著、
[未生齋一甫(;号)の通称/別号]通称;山磧、別号;香林堂/未生齋(初世)
- 4188 **未生齋**(2世みしょうさい・広甫こうほ、姓;上田、上田九助男/本姓;源)1791-186171 但馬の華道家、
初世未生齋門、1818頃大阪で未生流2世継承/嵯峨御所に出仕;大覚寺の花務職、法眼、
「本朝花道中興」の六字を受く、1819「四方の薫り」/21「插花桜の香」編/28「插花常磐艸」著、
1835「花術三才嘯」36「原一旋転之巻」39「献備千歳花」48「插花明の色」著、
1856「浪速の蘆はな」外著多数、
[未生齋広甫(;号)の名/通称/別号]名;正行、通称;安太郎/周防、
別号;滄浪舎不濁/不濁齋/微生齋
- 未如之何也已矣(みじよしかやい) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高お橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4
- 4189 **未塵**(みじん・堀ほり、名;信美)?-? 江中期代々伊勢津藩士/俳人;蝶夢と親交、梢風の甥、
1758梢風(智周尼;友田良品の妻)の追善集「智周発句集[木葉集]」洞秋と共編、
[未塵(;号)の通称/別号]通称;七郎左衛門/伊織/雞談窓塵翁、別号;白鳥山人
- 美寿(みす・上田) → 残花(ざんか・上田/三宅、俳人/日記) L 2 0 8 9
- H4103 **湖舟人**(みずうみのふなびと) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入、
[咲く花の色につれてやむすぶらん水引草に紅白の露](才蔵集;185/水引草;紅白の花)
- 4190 **瑞枝**(みずえ・細木ほそぎ、勇助男)1780-184869 代々土佐高岡郡新居村の庄屋の家;1811家督嗣、
新居村の外各地の庄屋歴任/1841土佐藩内の庄屋が団結し天保庄屋同盟結成;指導者の1、
農政に尽力/経学;箕浦耕雨門/国学・歌:今村楽門、「桜根家集」「耕耘録」「盲人箒きょう」著、
[瑞枝(;名)の別名/通称/号]別名;庵恒/庵常/久蔭/五十秀恒(いそつね)/五十恒/五十穂津稻、
通称;源助/佐久郎/左九郎/作郎/治部丞、号;桜根/観田/酒甕の是飲
- H4155 **瑞枝**(みずえ・田島たじま/本姓;秦)?-? 伊勢山田の神職;伊勢神宮神官、
国学;本居大平門、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[あすもまたつぎて見にこむ足引の山桜花散らばをしけむ](八十浦;738)
- J4193 **水枝**(みずえ・中山なかやま、) ? - 1860 信濃飯田藩士、歌;桃沢夢宅門/国学;植松茂岳門、
国学/歌;森広主・香川景樹門、
[水枝(;号)の名/通称/別号]名;篤克/茂樹(げき)、通称;政之進/藤左衛門、別号;一貫
- I4151 **瑞枝**(みずえ・岡崎おかざき、通称;瑞翁)1806-8075 備前邑久郡郡太伯村の神職、
国学;業合大枝おえ門/歌人
- I4198 **瑞枝**(みずえ・倉知くらち、)1809-1906長寿98歳 土佐高岡郡の兵学者/国学者、
歌文;寺村成樹(老鷹)門/詩歌;安並雅景門、正修(まさなが)の父、
[瑞枝(;名)の別名/通称]初名;正路、通称;武太夫
- 4191 **瑞枝**(みずえ・齋木さいき/本姓;藤原)1810-7465 石見邑智郡市木村の神職;馬場八幡大宮司、
歌人/書/医術に通ず、「藻久豆集」著、巖(いわ)の(但馬)の父、
[瑞枝(;名)の別名/通称/号]別名;三根/正賢/正友、通称;出雲、号;景老
- H4194 **瑞枝**(みずえ・村松むらまつ) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ここはしもみはしのあとか吉野山なみだ落ちそふ石ずゑの苔]、

(大江戸倭歌;雑1703/旧都)

- L4114 **瑞枝**(みづえ・井上いのうえ) 1839- 1905 67 石見津和野藩士、1867京都御所を警備、
国学;大国隆正・平田鉄胤門、維新後;政府修史局勤務;旧藩主亀井家の家記編修担当、
太政官権少外史、
[瑞枝(;名)の別名/通称]別名;援国、通称;隆蔵りゅうぞう
- L4122 **瑞枝**(みづえ・石坂いしざか、重周男)?-1898 豊前宇佐の神官、国学/歌人、遺稿「脚斧集」、
[瑞枝(;名)の別名/通称]初名;重代、通称;桃廼舎ものや
- I4157 **水江**(みづえ・岡田おかだ) 1848 - 1910 63 遠江敷知郡の国学/歌人;竹尾正久門、
神職取締役分所長
瑞枝(みづえ・小栗直助) → 広伴(ひろとも・小栗おぐり、国学/歌人) G 3 7 5 4
瑞枝舎(みづえのや) → 夏樹(なつき・猪熊いのくま、神職/国学/歌) P 3 2 1 4
- 4192 **水雄**(みづお・赤井あかい、別名;夏門)?-1886 陸奥(岩代)安達郡下飯坂村の日枝神社神官、
国学者;本居内遠・内池永年門、皇漢塾で神典を講義、訓導教導職取締、「紀記歌拱」著、
木口訓重(小楯八幡神社神主)と交流、
[水雄(;名)の通称/号]通称;弥一郎/六左衛門、号;槻舎つきのや
- H4198 **水雄**(みづお・青井あおい、別名;千賀良) 1832-1907 76 讃岐山田郡の神官;藤尾八幡社村尾景経門
[水雄(;名)の通称] 筑後/但馬
水音(みずおと・谷) → 谷水音(たにのみずおと、絵師/狂歌作者) G 2 6 3 1
美図垣笑顔(みづがきえがお) → 笑顔(えがお・美図垣、書肆/合巻作者) 1 3 5 2
- J4174 **水城**(みづき・中村なかむら、) 1838-1908 71 筑後久留米藩士、
神典・国学;船曳磐主いわぬし(鉄門)門、歌人、維新後;明善堂助教/高良神社禰宜、少講義、
福岡県地誌編輯係、師没後筑後歌壇維持に尽力、千磐ちわや大枝おおえの師、
「味水御井うましみづみい小舎集」「御井古戦場記」「八院合戦記」「高良山十景歌謡」著、
[水城(;名)の通称/号]通称;武次/文太、号;御井廼小舎
- H4106 **水際根** (みづぎわのねじめ) ? - ? 下野の狂歌作者:1787「才蔵集」入;506、
[江の島の波の中より富士見えてあつさを夢になすや高殿](才蔵集;506/富士見楼)
- 4193 **瑞子**(みづこ・よしこ・戸沢とざわ、越後与板藩主井伊直朗女) 1765-1836 72 越後与板歌人:村田多勢子門、
1792新庄藩主戸沢正親の継室、文事に秀づ、彦根藩主井伊直中の妹、
「瑞子君歌集」「瑞子君文集」著
- I4165 **水子**(みづこ・狩野かのう、名;美津、山田勝証女) 1809-82 74 出羽大館久保田藩士狩野長安(間齋)の妻、
歌人、家集「のちのかたみ」著、漢学者狩野良知りょうち・旭峰きよくぼうの母
夫 → 間齋(かんさい・狩野かのう、良安/藩士) Q 1 5 6 0
息 → 良知(りょうち・狩野かのう、藩士/官僚/漢学) I 4 9 8 6
息 → 旭峰(きよくぼう・狩野かのう、漢学/ジャーナリスト) T 1 6 8 7
美鈴(みすず・宮島) → 常信(つねのぶ・宮島みやじま/林、神職/国学) G 2 9 5 8
水とりのや(みづとりのや) → 茂樹(しげき・川島/革島/林、幕臣/歌人) C 2 1 1 2
- J4199 **瑞直**(みづなお・半井なからい、広野道白男) 1711-61 51 和泉堺の医者半井瑞菴の養子;医業を継嗣、
歌人/俳人;俳号;錦水、大阪俳人宗ト(1751千葉春耕編「あふ夜」20句入)と同一?、
[瑞直(;名)の幼名/通称/号]幼名;彦六、通称;宗ト、
号;錦水(;;俳号)/牧菴/ト養軒/近思齋、法号;壽山養仙、瑞成よしなりの父
瑞成(みづなり・半井) → 瑞成(よしなり・半井なからい、瑞直男、医者/歌) O 4 7 2 7
水沼上人(みづぬましようにん) → 性心(せいしん・性真しようしん;法諱、浄土僧鎮西流藤田派祖) J 2 2 9 4
水上浦島子(みづのえのうらしまのこ) → 浦島子(うらしまのこ・うらのしまこ・水上、伝説人物) 1 2 9 7
水尾阿闍梨(みずのおのあじり) → 玄静(げんじょう;法諱、真言/天台僧) K 1 8 0 1
水之助(みづのすけ・小池) → 政永(まさなが・小池こいけ、藩士/記録) F 4 0 3 0
水之助(みづのすけ・和田) → 正主(まさぬし・和田わだ/橋、商家/国学) L 4 0 8 7
水之助(みづのすけ・蘆沢) → 長卿(ながのり・蘆沢あしざわ/玉井、藩士) K 3 2 8 3
水之助(みづのすけ・勝) → 賢友(かたとも・勝かつ/源、藩士/歌人) U 1 5 2 7
水呑(みづのみ・井筒) → 井筒水呑(いつつのみづのみ、狂歌) I 1 1 7 4
水廼舎(みづのや) → 保万(やすたか・高橋たかはし、藩陪臣/和学) G 4 5 2 0

- 瑞廼舎(みずのや) → 貞丸(さだまる・社やしろ、神職/国学) P 2 0 6 4
- B4198 水行形(みずのゆきなり) ? - ? 狂歌/1787「才蔵集」入;555、
[つはものの金きんごしらへの太刀先にお医者も銀の七さちをなげけり](才蔵;555)、
(医者が武芸者と将棋の手合わせ/つはものは歩兵駒/金・銀は将棋の・七は医者縁語)
- 瑞葉の屋(みずはのや) → 直清(なおきよ・熊谷くまがい/平、神職/国学) L 3 2 9 5
- J4158 瑞穂(みずほ・高沢たかさわ、) 1822-1897 76 越中射水郡の箭代神社神主、国学;平田鏡胤門、
国学・神道;権田直助・御巫みかんなぎ清直・角田つのだ忠行門、1876「拍手能一言」著、瑞信の父、
[瑞穂(;名)の通称/号]通称;司馬之助、号;鞆之舎どものや
- K4150 水穂(みずほ・前田まえだ、旧姓;夏目) 1823-98 76 紀伊和歌山の国学者・歌学;加納諸平門、
紀州藩国学所教授、のち鳥取藩重臣和田家に出仕、1859(安政6)「皇国形勢聞書」著、
[水穂(;名)の通称/号]通称;九左衛門、号;月廂げつしょう
- I4167 水穂(みずほ・賀茂かも、) 1840 - 1909 70 遠江浜名郡の国学者/兄山本金木と遠州報国隊を組織、
有栖川宮熾仁親王の麾下;先鋒として戊辰戦に参加、維新後;1874海軍省出仕;海軍少秘書、
海軍大秘書/海軍大主計/1891-1909靖国神社2代宮司<
[水穂(;名)の別名/通称/号]別名;直章、通称;備後、号;炳音
- K4143 瑞穂(みずほ・本田ほんだ、) 1842- 1906 65 駿河駿東郡原田村の天然寺住僧、
皇典講究分所副総裁
- K4131 瑞穂(みずほ・吹本ふきもと、) 1845-1894 50 紀伊伊都郡の丹生神社祠官、
国学;伊達宗興むねおき(竜夫)門/宮田美正門、
[瑞穂(;名)の通称] 宮石磨/若狭亮
- 水穂(みずほ・川合田) → 夏丸(夏磨なつまる・川合田かわいだ、歌人) L 3 2 6 8
- 瑞穂(みずほ・熊代) → 繁里(しげさと・熊代くましろ、国学者/歌人) C 2 1 2 3
- 瑞穂(みずほ・生島) → 繁高(しげたか・生島いくしま、神職) N 2 1 3 6
- 瑞穂(みずほ・志賀) → 光胤(みつたね・志賀しが/中村、国学/神道) J 4 1 2 4
- 水穂舎(みずほのや) → 豊平(とよひら・真鍋、神官/歌人) R 3 1 5 2
- 水穂舎(みずほのや) → 年実(としざね・原田はらだ、国学者) W 3 1 1 6
- 水穂の屋(みずほのや) → 広好(ひろよし・浅裏庵あさうらあん、藩士/狂歌) H 3 7 7 1
- 瑞穂廼舎(みずほのや) → 静雄(しずお・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 2 2
- 水穂部(みずほべ) → 穂積(ほづみ・津田、正生男/国学/神職) G 3 9 2 6
- 瑞穂屋(みずほのや) → 卯三郎(うさぶろう・清水、洋学者) C 1 2 2 5
- 4194 水丸(みずまる・山月楼さんげつろう、本名;中村元監、中村親信男) ?-1831 尾張名古屋の狂歌作者:
観世流謡曲;木下正三郎[初世]門、狂歌;西来居未仏門、「玉水集」著、
[山月楼水丸(;号)の通称/法号]通称;一学、法号;起兵道頭居士
- 水道(みずみち・土師) → 水道(みみち・土師宿禰) 4 1 3 8
- 水本宰相(みずもとのかいしょう) → 隆勝(りゅうしょう;法諱、真言僧/歌人) E 4 9 6 6
- 水本僧正(みずもとのそうじょう) → 隆源(りゅうげん;法諱、真言僧/歌人) D 4 9 6 5
- 水本大僧正(みずもとのだいそうじょう) → 源雅(げんが;法諱、真言僧) 1 8 0 4
- 水本法務僧正(みずもとのほうむそうじょう) → 隆濟(りゅうさい;法諱、真言僧) D 4 9 9 8
- 水本法務大僧正(みずもとのほうむだいそうじょう) → 寛濟(かんさい、真言僧) Q 1 5 5 0
- I4186 水守(みずもり・菊川きくかわ、通称:勘兵衛) ?-? 江後期;駿河志太郡の国学者/歌人、
石川依平(よりひら・1791-1859)門
- 4195 水也(みずや・土居どい、通称:真吉) ?-1654 江初期伊予宇和郡宮下村三島大明神の神官、
土居清良の一族、大森城主土居清良の没後に事蹟記録「清良記」著、「侍附聞書」著
みすや甚三郎(みすやじんごろう) → 定雅(ていが・西村にしむら、俳人/戯作) 3 0 4 1
- 4196 未済(みせい・荒木田) ? - ? 伊勢の俳人;
1683三千風・又玄・勝筵らと一座(:日本行脚文集入)
- 未済館主人(みせいかんしゅじん) → 貞(てい・伊佐、本草学者) 3 0 1 6
- 未生斎広甫(みせいさいこうほ) → 未生斎(2世みしょうさい・広甫こうほ、華道家) 4 1 8 8
- 4197 未雪(みせつ) ? - ? 播磨姫路の俳人;1692才磨「椎の葉」2句入
[柔和なる隣ぞうれし若楓わかかへで](椎の葉;119/隣家の楓を)

- 彌山(みせん・井伊) → 仁山(じんさん・井伊い、藩士/詩人) O 2 2 6 5
 未曾有懶子(みぞうらいし) → 白猷(はくがい:道号・穩貞おんてい、曹洞僧) C 3 6 8 5
 実副(みぞえ・橘、草屋師鯨、細井) → 橘実副(たちばなのみぞえ、橘洲門/狂歌) G 2 6 1 5
 実副(みぞえ・橘) → 橘洲(きつしゅう・唐衣からごろも、幕臣/狂歌) 1 6 2 2
 実副舎(みぞえのや) → 方秀(まさひで・友部ともべ、藩士/国学者) G 4 0 7 7
 4198 味足齋(みそくさい) ? - ? 江後期尾張名古屋の俳人/雑俳:柳江庵鸞亭門、
 1830「狂俳冠句奉納榎木社」編
 未足齋(みそくさい) → 六林(ろくりん・堀田、名古屋藩士/詩/俳) B 5 2 1 8
 未足齋(みそくさい) → 月風(げつふう・漢学/翻訳) H 1 8 3 4
 未足齋(みそくさい) → 文里(ぶんり・田辺/田/藤、藩士/俳人) G 3 8 6 5
 未足齋(みそくさい・堀田) → 六林(ろくりん・堀田、恒山、詩/俳人) B 5 2 1 8
 G4197 味噌こしきぶ(みそこしきぶ)? - ? 狂歌1785刊「徳和歌後万載集」入;
 [盛りなるうはさをきくや祖父婆々ちばも杖にすがも(巢鴨)の花の見物]
 H4150 御園(みその・橘たちばな/姓;宮島、名;三園みその/通称;左内)?-? 豊後杵築藩士;江戸詰、
 国学・歌;賀茂真淵(1697-1769)門、本居大平「八十浦の玉」入、
 [鶯の来鳴きしからに雪消えぬ野山も春と見えわたるかも]、
 (八十浦;上7/1758[宝暦8]真淵家宴)
 I4188 御園(みその・岸きし、通称;弥平治)?-1858 周防三田尻の生/長門萩藩士;萩住、
 国学;楊井松雄門/歌人、
 三十六(みそむ/みそろく) → 紹由(じょうゆう・宮村/今村、俳人) B 2 2 7 9
 4199 未琢(みたく・石田いしだ、未得みたく男/母;栄寿)?-1682(70余歳) 江戸の俳人・狂歌;父門、
 1677相模鎌倉に移住、1669「一本草」編、1676西鶴「俳諧師手鑑」82不卜「向之岡むかいのおか」入、
 未程(俳人)の父、
 [菖蒲ふく軒端は鳥の尾垂をだれ哉](手鑑/尾垂;軒庇)、
 [未琢(;号)の通称/別号]通称;要之助、別号;良斎/良堂/坤庵、法号;隆芳院
 H4147 みた子(みたこ・佐々木ささき)? - ? 幕臣佐々木万彦(まひこ/かずひこ)の妻、
 1798義父石野広通「霞関集」入、
 [咲きしより朝夕めづるなでしこの花の露そふ庭の籬垣まがき](霞関;夏297/庭瞿麦)
 未達(みだつ、俳人) → 市郎右衛門(いちろうえもん・西村、書肆) B 1 1 3 3
 三竜(みたく・浅野) → 武経(たけつね・浅野あさの、藩士/国学/歌) U 2 6 3 3
 4102 美楯(みたて・福田ふくだ、名;俊久)1789-185062 京の高辻東洞院の塗師・商家;吉野屋、
 国学者;富士谷御杖門/歌人、「脚結抄集解」「雅言示蒙」「北辺神書記聞」「雅言備忘」編、
 「福田美楯咏藻」「天保五年千首詠草」「天保十四年千首詠草」/1833「式社詣之記」外著多数、
 [美楯(;号)の通称/別号]通称;左兵衛/佐兵衛、別号;美楯みたて/幸舎さちのや、屋号;吉野屋、
 赤松祐以すけもちの父
 K4171 御楯(みたて・宮城みやぎ)1813-1863切腹51 長門萩藩士;500石、国学者/歌人、
 国学・歌;勝間田盛稔もりとし・宍戸眞激まさもと門、1863中山忠光の長州潜伏に随行;外国船砲撃、
 1863奇兵隊入隊;武士の先鋒隊が士庶混交の有志隊のはずだと反発;御楯襲撃を威嚇、
 教法寺事件発生;藩は御楯に切腹を下命;1863(文久3)8月没、
 [しの原のしのを刈りとり箭にはぎてあづまのかたにむけてはなたん]、
 (江洲篠原を過るとて;[萩の歌人]入)
 [御楯(;名)の初名/通称/号]初名;軌忠(軌忠?)、通称;富太郎/彦助ひすけ、
 号;対梟つひ/雨夜草庵(書室号)
 I4172 御楯(みたて・川辺かわべ/川邊、古賀[川邊紋右衛門正胤の長男)1838-190568 筑後山門郡柳川上町生、
 柳川藩士、絵師;父門(父は幼時より法眼狩野映信[久留米藩御用絵師三谷家第5代]門)、
 画;1849(嘉永2)頃三谷三雄門;三雄は勤王の志士でその影響を受け尊攘を主唱、
 守住貫魚・山名貫義・川崎千虎・田中有美らと共に幕末明治期を代表する大和絵師、
 国学;安武厳丸・西原晁樹門;有職故実をも修学、故実・兵学;真木保臣門、
 1859(安政6)父没家督継嗣、脱藩し国事奔走;失敗し帰藩、
 1865第二次長州征討で柳川勢に従軍中三雄に再開;軍を脱走し大宰府に向う、

小倉城自焼惨状図を三条実美に呈す;実美の返歌[君が為め御楯となる]に感銘し号とす、1868藩の貢士とし東京に上り太政官に出仕、1870神祇少祿官;京都で有職故実を精査、1872吹上禁苑初の大嘗祭で用掛/74伊勢神宮権禰宜/狩野永恵を補佐し外務省委嘱で製図、その間に大和絵;土佐光文門/国学;大国隆正・宝田通文門/故実;藪田守宣門、近代大和絵の技法研究、1877事故で免職、以後京大坂で画業に専念、1881東京住、内国絵画展など入賞;歴史画家、東洋絵画会結成に参加;1889日本美術協会幹事、息子白鶴・妻に先立たれ晩年は不遇、「正成詣笠置」「尹大納言赴比叡山図」、「花陵川邊御楯圖」「新田義頭血戦図」「末森合戦図絵巻」(末森赴援画卷)など画、[御楯(;名)の初名/号]初名;琴守、号;鷲外/花陵/墨流亭/都多之舎(蔦舎)/素堂

美楯(みたて・奥村) → 栄通(てるみち・奥村、藩士/国学/記録) C 3 0 9 6
 御楯(みたて・岡部) → 讓(ゆずる・岡部/賀茂、神職/国学) G 4 6 4 8
 御楯(みたて・高) → 義路(よしみち・熊野御堂くまのみどう/高、国学) M 4 7 6 2
 御楯(みたて・富永) → 守国(もりくに・富永とみなが、神職/国学) K 4 4 7 2

I4113 真種(まね・今村いまむら、) 1824-1884 61 陸奥弘前津軽藩士、歌人;1858(安政5)頃より作歌、歌集「桃の核」著、

[真種(;名)の通称/号]通称;要太郎、号;桃舎もものや

三田八(みたはち・坂東) → 三津五郎(3世みつごろう・坂東、歌舞役者) D 4 1 3 9

B4100 御民(みたま・泉いづみ) ? - ? 江後期肥前佐賀郡喬木村の歌人、1854「困窮百首」著、[御民(;名)の通称/号]通称;鞆負、号;鞆屋のあるじ

B4102 御民(みたま・天野あまの/本姓;藤原、冷泉古風男) 1841-1902 62 天野新右衛門の養子、長門萩藩校入学、藩士;1857松下村塾入学/1863上京;尊王論主唱/奇兵隊・御循隊入隊、維新後は刑部省出仕、

1869「続風簷ふうえん遺草」編、「歴世記事詠史百首」「詠史集」「長州諸隊略歴」編、外著多数、[御民(;名)の初名/幼名/通称/号]初名;清雅、幼名;雅二郎、通称;重次郎、号;本清御蒼生(御民みたま:筆名) → 蟬守(かにもり・今泉、鞆の屋、国学/歌) F 1 5 6 6

美田美(みたま・高橋) → 千川(ちかわ・高橋たかはし、国学/神職) M 2 8 7 8

J4114 道(みち・佐藤さとう、道女みちじよ、彦根藩士小川文吾女) 1644-75 32 近江彦根藩士佐藤家に嫁ぐ、歌人、歌;[彦根歌人伝・続寿]入

F4133 道(みち・井上いづえ、通称;従吾衛門/号;夜帰読書齋) ?-? 江後期江戸の儒者;紀州徳川家家臣、明教館/観光館で教授、「老子録」著

道(みち・田上/村田) → 菊舎尼(きくしゃに・田上たがみ、俳人) 1 6 1 1

三千(みち・稲毛/市河) → 恭斎(きょうさい・市河/稲毛、書家/詩) N 1 6 8 2

みち(・千村/小笠原) → 三千子(みちこ・小笠原おがさわら、歌人) B 4 1 4 5

みち(・相沢) → 升子(ますこ・西にし/相沢/石川、歌人) R 4 0 3 5

B4103 通顕(みちあき・中院なかのいん、初名;通平/通貞、通重男/本姓;源) 1291-1343 53 母;久我通能女、鎌倉南北期廷臣;1307従三位/08参議/12正三位/32内大臣/33出家(;空乗)、奨学院・淳和院の別当、歌;1318二条家和歌所始に参加、続現葉・松花・臨永集入集、勅撰10首;続千載(1360/1459)続後拾(923)風雅(802)新千(4首)新拾(384)新後拾(1264)、[うきものとまたはいふともわかれ路にふたたび見ばや有明の月](続千載;十三恋1360)、[通顕(;名)の法名/法号]法名;空乗、法号;如法三宝院、通冬の父

H4118 通顕(みちあき・河野こうの) ? - ? 室町期伊予の武将、連歌;1445「大山祇神社法楽連歌百韻」参加

B4104 通昭(みちあき・寺町てらまち、通称;左衛門大夫) ?-? 室町末期の記録者、将軍足利義輝の三好長慶邸訪問の際の詳細な記録;1561「三好亭御成記」著

B4105 通秋(みちあき・豊原とよはら、初名;寿秋、頼秋男) 1654-1715 62 母;賀茂権禰宜森盈久女、楽人;笙の家、1664正六下/左衛門少尉/83右近将監/1714正四下、「金革類聚抄」、1686「鳳管抄」著

B4106 通昭(みちあき・得能とくのう、通称;左平次) 1729-89 61歳 薩摩藩士;鹿児島城下住/郡奉行;農業奨励、歌人;「落葉集」著、「石馬集」編(;通昭録;四に採録)/「藻彙編」、「政事要録」著、1758「西藩野史」著、80「通昭録」編、外編著多数

B4107 通明(みちあき・津田つだ/旧姓;山田、津田通慶の養嗣子) 1730-1807 78 因幡鳥取;津田遠寿門、

通明流馬術を立てる;戦時の実用を主眼/騎射を併せ門弟指導、剣法・捕縄・挺棒に精通、
1751頃別当役;上下二箇所の厩管掌、
「馬術階梯」「馬術綱領」「馬法夜話」「療馬口訣」外著多数、
[通明(;名)の通称] 鉄松/恒之丞/小七郎/九郎兵衛、山田頼尚の弟

- J4104 **通明**(みちあき・久我こが、中院通維男)1780-1856 78 父の実家の内大臣久我信通の養嗣子、
廷臣;清華家当主として早い累進;侍従・左近衛権少将・左近衛権中将歴任、
1794(寛政6)従三位、右近衛中将・権中納言/1810(文化7/31歳)権大納言、1824内大臣;
右近衛大将・右馬寮御監兼任;致仕/1825従一位、室;就姫(細川治年女;美子)、志通の父
室 → 美子(よしこ・就姫なりひめ・久我こが、歌人) D 4 7 2 8
- J4123 **通顯**(みちあき・沢井さかい、通称;伝左衛門)?-? 江後期;美濃墨俣の国学者;墨俣宿本陣家の生?、
国学;本居春庭(1763-1828)門
- B4108 **通明**(みちあき・林はやし、友通男)1796-1850 55歳 祖父;友諒(子平の兄)、陸前仙台藩士、歌人、
1841「林子平仮字碑」著、
[通明(;名)の通称/号]通称;良伍、号;酔月庵、入道号;良阿
- B4109 **通明**(みちあき・築山つきやま、通称;為蔵/大蔵、通欽みちただ男)?-? 江後期安藝広島藩士;1842広島藩執政、
首座執政と衝突;1850退隠、故実典故に精通、「勸学俗文」著
- H4171 **通明**(みちあき・河野こうの) ? - ? 江後期絵師、「奇鳥生写図」(浜町狩野家蔵を転写)、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[来ても見ようときもをりに寄る波の磯山紅葉錦織るころ](大江戸倭歌;秋991磯紅葉)
- 通明(みちあき・大野) → 北海(ほっかい・大野おの、儒者/兵学) E 3 9 5 0
通明(みちあき・根本) → 羽嶽(うがく・根本、儒者) C 1 2 0 8
通明(みちあき・木村) → 黙老(もくろう・木村きむら、藩家老/芸能) B 4 4 1 4
通亮(みちあき・岩下) → 探春(たんしゅん・岩下いわした、儒者/詩) I 2 6 3 4
通亮(みちあき・小野崎) → 通亮(みちすけ・小野崎おのさき、藩士/神道) I 4 1 2 7
通昭(みちあき・小野) → 素郷(そきょう・小野、商家/俳人/謡曲) D 2 5 4 8
行顕(みちあき・田村) → 邦行(くにみち・田村たむら、藩主/藩政改革/歌) D 1 7 8 1
道明(みちあき・菅野) → 千秋(ちあき・菅野すがの/菅原、藩士/国学/神職) M 2 8 7 0
道穂(みちあき・道山) → 壮山(そうざん・道山みちやま、俳人) H 2 5 5 1
三千秋(みちあき・赤川) → 太郎左衛門(たろうざえもん・赤川、藩士) T 2 6 0 9
- B4110 **通詮**(みちあき・度会わたらい)? - ? 南北期伊勢の神官/歌;新葉集390、
[初時雨降りにけらしも外山なる柞はその木ずゑ色づきにけり](新葉;五秋390)
- B4111 **方朗**(みちあき・高林たかばやし、方教男)1769-1846 78 遠州浜松の有玉神社社司/国学1779内山真竜門、
1786師真竜と出雲・九州の旅、1788本居宣長門、吉田神道を修学、書、歌人;水野忠邦の師、
1827忠邦に随い京に出府、東海地方の歌の振興に尽力、本居大平・村田春海らと交流、
「宮古能八千草」「臣下庵詠草」「臣下庵祝詞集」「春能山都登」、「二条日記」「臣下庵雑記」、
1786「弥久毛乃道中」/1828歌集「忠誠武勇の歌」著、「玉かしは」著(;森磐子の歌を撰)、
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;5首入、養子;豊鷹とよたか(1795-1859)、
[いざ今日は春日のどけし長浜の澳おきつ汐あひにわかめ刈りてな]、
(八十浦;428/海辺春望)、
[方朗(;名)の幼名/通称/号]幼名;勝三郎、通称;伊兵衛/舎人、号;臣下庵/道秋羅、
方塾(みちあき・柳瀬) → 方塾(みちいへ・柳瀬やなせ、商家/国学/歌) B 4 1 1 8
- B4113 **通淳**(みちあつ・中院なかのいん/本姓;源、通守男)1389-1451 63 室町期廷臣;1419参議/権大納言/准大臣、
歌;1446文安詩歌合参加(3首;権大納言名)、
[たちぬはぬ衣の袖も色やそふ山路の菊の露の光に](文安詩歌合;十五番右)
- J4100 **通淳**(みちあつ・黒川くろかわ、)1765-1837 73 伊予小松藩士、国学/歌人;竹鼻正修まさなが門、
[通淳(;名)の通称/号]通称;宗次郎/文三郎、号;文窩
- I4100 **道篤**(みちあつ・水もとり、通称;国蔵)?-? 出雲楯縫郡美談村の歌人、
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- B4114 **通礼**(みちあや・河野こうの/本姓;越智、河野通遠の養子)1772-1810 39 京の廷臣;
1800宮内少丞/内舎人、1804正六上/09東宮侍者、暦学を修得、

1802「八線表根新術」04「渾天新語」編・出版、「応天曆」「応天曆諺解」「応天曆稿」著、
「拋消長法用数」「曆算源流」著、

[通礼(；名)の字/通称/号]字；字典、通称；主計之助がずえのすけ、号；竜岡/竜崗

B4115 **通理**(みちあり・久世くげ、通根男/本姓；源)1782-1850⁶⁹ 廷臣；1809従三位/38正二位/47権大納言、
歌人、「胡飲酒舞案譜」/1844「通理卿記」著、妻；鍋島治茂女、法号；祥雲院

B4116 **通有**(みちあり・源みなもと、太政大臣久我通光男)?-? 母；藤原範光女、久我の支流；六条家の祖、
鎌倉前期の廷臣、1221従五下/1230侍従/正四下左近少将、歌；新後撰集1483、
[いくかへり秋の夜長きねざめにも昔をひとり思ひいづらむ](新後撰；十九雑1483)
[通有(；名)の通称] 六条少将

H4112 **通有**(みちあり・河野) ? - 1311 鎌倉後期伊予の武将/弘安役に敵船襲撃；敵將を捕虜

B4117 **道家**(みちいえ・九条くじょう、良経男/本姓；藤原)1193-1252⁶⁰ 母；一条能保女、廷臣；1205従三位、
1215右大臣/18皇太子傅・左大臣、19源実朝没後に三男頼経が四代将軍に就任、
1221摂政/氏長者/28関白/31従一位/38出家；行遍・栄然門；伝法灌頂を受/東福寺建立、
1252頼経の子頼嗣が将軍職を追われる、不遇の中に東山峯殿で没、
歌人；父良経の跡継嗣し新古今以後の歌壇の庇護者；1217-32歌合を3度/詩会など主催、
1215内大臣道家家百首/32光明峰寺撰政家歌合/45光明峰寺撰政家秋三十首など催、
日記「玉蘂まよぐれ」、1210「順徳院御即位記」21「藤原道家願文」33「九条道家奏状」外著多数、
明恵上人歌集入；明恵の篤い帰依者、
勅撰118首；新勅(25首46/64下)/続後撰(18首9/19下)続古(21首8/15下)続拾(15首)以下、
[梅が香もあまぎる月にまがへつつそれとも見えずかすむころかな]、
(新勅撰；一春45/前関白名/家百首歌；夜梅)、

[道家(；名)の法名/通称]法名；行恵、

通称；光明峯寺殿こうみょうぶじどの/峯殿/東山/光明峯寺入道前摂政左大臣、
教実・良実・実経・頼経(1219四代将軍)らの父、

B4118 **方塾**(みちいえ・柳瀬やなせ、道意男)1685-1740⁵⁶ 遠州浜松の商家(豪商)、歌；武者小路実陰門、
国学；杉浦国頭くにあきら・荷田春満門/遠州歌壇を形成/のち江戸に出て門弟指導、
近世歌壇の革新を主唱、「遠津淡海名所歌集」、1734歌論書「秋夜随筆」著、
代表歌[初瀬路や初音きかまく尋ねてもまたこもりくの山ほととぎす]；
この歌により[隠口こもりくの美仲]と称さる、浜松の善正寺に歌碑、

[方塾(；名)の字/通称/号]字；美仲よしなか、通称；小左衛門、号；隠江翁/隠口翁/松江散人

K4122 **通庸**(みちいさ・みちやす・東久世ひがしくげ、通武男)1769-1818⁵⁰ 廷臣；1799正四下右近権中将、
1800従三位/1804(文化元)正三位、妻；敬子(権大納言甘露寺篤長女)、通岑の父、
歌人；中院通古・飛鳥井雅威まさたけ・久世通根門、
[通庸(；名)の初名/通称]初名；通正、通称；伯丸

B4119 **通氏**(みちうじ・中院なかのいん、通方男/本姓；源)1213-38^{早世26} 母；藤原長兼女、鎌倉期廷臣；
讃岐介/右中将、1238(嘉禎4)従三位、歌；1238通方催石清水八幡宮歌合に参加、
新勅撰編纂時に藤原定家に詠草を送る(明月記入)、万代集(1577)入、
具氏の父、勅撰5首；続後撰(424)続古今(524/996/1785)続拾遺(462)、
[たづねみんけふも時雨はしがらきのと山のもみぢ色やまさると](続後撰；七秋424)

B4120 **通氏**(みちうじ・中院なかのいん、初名；通治、通冬男/本姓；源)1347-95⁴⁹ 母；少将内侍、廷臣；右中将、
1365(貞治4)参議、85正二位/90(明德元)権大納言、「通氏卿改元定記」著、
通敏の兄、通守の父

K4100 **道欽**(みちうや・成田なりた、)1774-1838⁶⁵ 出羽久保田(秋田)藩士、儒学/歌人；加藤景範門、
[道欽(；名)の通称/号]通称；忠五郎/安之丞、号；保一

B4121 **通兄**(みちえ・久我こが、惟通男/本姓；源)1709-61⁵³ 母；細川綱利女、廷臣；1724従三位/50右大将、
内大臣/1754右大臣/従一位、1732「久我通兄権大納言拝賀記」47「御膳供進次第」著、
1754「条事定曆号定之記」57「元服理髮要」、「革命改元定之記-寛保四年」「通兄公記」著、
法号；含華光院

通恵(みちえ・河野) → 自蹊(じけい・河野、真宗僧/俳人) B 2 1 8 8

B4122 **通枝**(みちえだ・中院なかのいん、権大納言久世くげ通夏みちなつ男)1722-53³² 母；飛鳥井雅章女、

中院通躬の養子、廷臣;1743参議/45権中納言/47正三位/春宮権大夫、
歌人、「中院通枝詠草」著、
[通枝(;名)の初名/法号]初名;茂栄、法号;瑞溪院

- B4123 **道雄**(みちお・藤原ふじわら朝臣、大納言藤原小黒麻呂男)771-82353 母;藤原魚名女、廷臣;
796従五下/兵部少輔、阿波・河内・紀伊の国守/大学頭・宮内大輔・左中弁・典薬頭を歴任、
822蔵人頭/823参議/宮内卿、詩;凌雲集入;2首
- B4124 **道雄**(みちお・久我こが、通基男/本姓;源)1257-132973 母;姉小路頭朝女、廷臣;1274従三位、
1297内大臣/1313従一位/19太政大臣、長通の父、歌人;1324石清水社歌合参、
1315京極為兼催「詠法華経和歌」参加/続現葉集入、
勅撰8首;玉葉(662)続千載(152/300/572/1089)続後拾(315/965)風雅(1296)、
[紀の国や由良のみなどに風たちて月のでしほの雲はらふなり](玉葉;662/前内大臣名)、
[通雄(;名)の通称] 中院相国なかのいんのしょうこく/中院太政大臣
- B4125 **道雄**(みちお・太田/大田おた、通称;介六/号;不老泉)1671-175181 摂津西宮の歌人、
門下生たちと歌会を催す、野田忠肅と親交、「歳時実録」著、
門下生;吉井良行・岡良知・当舎敬貞・東向良達・伊丹屋基嗣・岡本敬嗣・加藤古庵など、
生田神社の神主後神孝秀・同重詮も歌会に参加
- I4197 **道男**(みちお・国本くにもと、通称;帯刀)1774-183057 因幡八上郡佐貫村の都波只知神社神主、
国学;衣川長秋門/長秋を鳥取に招聘し藩主斉邦の命で国学・歌道を伝授してらう、
因幡・伯耆に国学が広まる
- B4126 **道雄**(みちお・新庄しんじょう/本姓;藤原、別号;敬恭)1776-183560 駿河府中江川町の豪商、
儒;植野興竜/三浦永年/伊東蘭洲門、詩;石川敬之門/和算;齋藤九郎右衛門門、
歌;村松春枝門/国学;1811平田篤胤門/本居春庭・大平門、狂歌;鹿都部眞顔門、
地誌;1812官撰地誌「駿河誌」編纂に参加/13「駿河国郡名考」、のち35「駿河国新風土記」編、
「輜軒ゆうけん小録」1834「後輜軒小録」著、1835「赤県度制度考」校/35随筆「柏園独語」著、
「柏園随筆」「天保甲子賑竈記事」「大祓略解」著、
[道雄(;名)の通称/号]通称;幸次郎/平蔵/三階屋仁右衛門/新右衛門/新左衛門/甚右衛門、
号;柏園はくえん/松華主人/三階松屋/清藁科河(きよわらのしながわ;狂名)、
屋号;三階屋、 神号;玉鉾雷神
- J4125 **道雄**(みちお・重松しげまつ、通称;卯太夫)1777-182549 肥前佐賀の国学者/歌人、
歌;永淵有武・香川景柄門
- L4109 **道雄**(みちお・新井あらい、)1782-186988 信濃伊那郡の農業、国学者/歌人、
[道雄(;名)の通称/号]通称;亀太郎/治郎八郎/弥右衛門/孫右衛門、号;子中
- B4127 **三千雄**(みちお・松田まつた、名;理義・信順)1785-184258 伊予和気郡三津浜の酒造業唐津屋主人、
俳人;樗堂門/樗堂の孫娘と結婚、[樗堂誹諧集]三冊と[筆花集]を10余年かけ筆写編纂、
漢学・詩人/邸内に九霞楼・帯江楼を造営;諸国の文人を招き交流、「九霞楼詩文集」著、
「九霞楼寄題人名録」編、「はなのつと」著、
[三千雄(;通称)の字/別通称/号]字;修甫、別通称;次郎右衛門/古八郎、
号;浩齋/漁卿/酔樵/聴鷗軒/寒桃/九霞楼/帯江楼、屋号;唐津屋
- J4175 **道雄**(みちお・都筑つづき、)1800 - 186566 信濃飯田の指物業、国学・歌人;田中大秀門、
[道雄(;名)の別号/通称]別号;守道、通称;茂左衛門/金次郎
- K4141 **通緒**(みちお・堀ほり、名;安信)?- 1884 飛騨高山の国学者/歌人;上木清成門・
和漢学・歌;富田礼彦門
- K4114 **陸夫**(みちお・林はやし、良本よしと男)1841-190969 父は信濃松本藩家老、国学・歌;父門
歌人;冷泉為足・池袋清風きよかぜ門、名古屋に移住/陸軍歩兵大尉、松風会を結成
1893[三都花魁の図](原画は將軍家斉命で側役新見正路が三都の山口素絢・浅山蘆国・
勝川春暁に描かす;家斉没後新見に下賜され林良本(陸夫の父)に譲られもの)を携え、
名古屋移住後來遊中の京の四条派絵師水野香圃に依頼し縮図を作成;
のち名古屋遊郭の金波楼が顧客に年玉として一枚刷を配る、
[陸夫(;名)の初名/通称/号]初名;良貫、通称;節之進、号;松の屋/翠松園
通雄(みちお・小川) → 櫻齋(ていさい・小川、医者) 3088

- 道生(みちお・武石) → 道生(どうせい・武石たけいし、医者/歌) F 3 1 9 6
 道夫(みちお・並河) → 尚教(ひさのり・並河なみかわ・なび-/平、医者) B 3 7 8 0
 道夫(みちお・杉本/壱岐) → 桐園(とうえん・壱岐いき、藩士/儒者/詩) B 3 1 4 8
 三千雄(みちお・中村) → 守手(もりて・中村/永井、守臣養子/神職/国学/歌) F 4 4 8 7
- B4128 **道興**(みちおき;通称・樋口ひぐち) ?- ? 江前期江戸の町医者、
 天和1681-84頃朝鮮通信使の治療で有名、陸奥津軽藩主津軽信政の招聘;
 津軽藩の外科医/3百石、「韓客治験」著(1750刊)
- J4115 **途興**(みちおき・齋藤さいとう) 1795-1867 73 武蔵多摩郡乗願寺村の名主、国学/歌人、
 詩歌・国学;根岸典則つねのり門、眞指まさしの父、
 [途興(;名)の別名/通称/号]初名;行敬、通称;源左衛門、号;琴風軒/蒼鷹館
 道興(みちおき・宮原/森田) → 道依(みちより・森田/宮原、国学者/歌) C 4 1 9 2
 道臣(みちおみ・河合) → 道臣(ひろおみ・河合、家老/詩歌) F 3 7 6 1
- L4120 **道芳**(みちか・本庄ほんじょう、北小路きたこうじ、) 1604-68 65 二条康道(摂政左大臣/1607-66)の家臣、
 諸大夫;北小路を称す/従四下/宮内少輔/歌人、のち妹桂昌院(綱吉の生母)の縁で旗本、
 幕臣;本姓の[本庄]に復す、大師流の書を能くす、
 1635康道に随従し江戸へ(;烏丸光広[春の曙の記]入)、
 [月よいかに思ふ春の名清見瀧](春の曙の記;清見寺での即興発句、
 脇;かすみひまそふ遠をちのゆふ波)、
 [吹く風になびかぬ色やおほぞらの雲とつもれる富士の白雪](同;35/富士)
- B4129 **道香**(みちか・一条いちじょう、兼香男/本姓;藤原) 1722-69 48 廷臣;1730従三位/43従一位/46関白、
 氏長者、1747摂政、
 歌人:御会和歌・1740「元文五年和歌」・44「寛保四年正月廿四日和歌御会始」参加、
 1748-49「摂政道香公記」、50「桜町院凶事記並諒闇記」、「神饌伝書」著、法号;得成寺
- I4193 **道香**(みちか・久米くめ、) 1761 - 1839 79 近江彦根の医者、国学/歌人;香川景樹門、
 歌;[彦根歌人伝・続寿]入、
 [道香(;名)の別名/号]別名;道仲、号;壮山/牀山しょうざん
- H4154 **充香**(みちか・山田やまだ/本姓;源、通称;善右衛門) ?-1832 or 37 紀伊和歌山藩士、
 国学;本居太平・富樫広蔭門、大平撰「八十浦の玉」下巻;旋頭歌・短歌・長歌[紀の川]入、
 1832(天保3) or 1837(天保8)没、
 [処女子をためごが心名草の野をなつかしみ紅くねるのころも裾引き若菜摘む見ゆ]、
 (八十浦;694旋頭歌)
 [み吉野ゆ紀路にはろはろ流れての世世に絶えせじこれの河水]、
 (八十浦;1015紀の川反歌)
- B4130 **道香**(みちか・清水しみず) ? - ? 江後期和算家:藤田貞資門、「算法諸率諸角門」注
 道香(みちか・清岡) → 里三郎(りさぶろう・清岡/菅原、国学者) B 4 9 1 0
 親々(みちか・馬詰) → 親音(もとね・馬詰うまづめ、藩士/歌) D 4 4 6 6
- B4131 **通景**(みちかげ・介川すけがわ、別名;景、通遠男) 1780-1847 68 秋田藩士;藩校明德館で修学/795出仕、
 大番組/書記/1804江戸在番/1810勘定奉行;銅山奉行兼任;藩財政再建のため三都往来、
 1827宿老に列す/36能代奉行を兼任/辞任、41大番組/45致仕、藩主より宿老席世襲を賞与、
 詩文に長ず、頼山陽・篠崎小竹と交流、「静斎詩文集」「緑堂詩稿」「詩稿集」「子姪問談」著、
 1832「緑堂詩文叢」、「緑堂先生詩章」「介川氏随筆」著、「刑罰式」編、
 「文化年間海岸警備書附」著、
 [通景(;名)の字/通称/号]字;子明/子玖、通称;亀治/東馬、号;緑堂/静斎
- J4155 **道具**(みちかづ・多賀たが、旧姓;羽倉高惟たかなり) 1670-1738 69 山城伏見の医者、荷田春満の弟、
 荷田在満の父
- K4178 **道一**(みちかづ・百瀬ももせ、道可みちよし男) ?-1822 信濃筑摩郡洗馬宿の本陣経営、歌人;桃沢夢宅門、
 百瀬政武まさたけ(1741-1825)と同族、
 [道一(;名)の初名/通称]初名;道滉(みちひろ?)、通称;市大夫
- K4125 **道一**(みちかづ・兵藤ひょうどう、) 1781-1863 83 三河の医者、国学;本居春庭・富樫広蔭門、
 伊勢津に住、

[道一(；名)の号] 春庵/徳翁

- J4133 **道一**(みちかず・末吉すえよし、)1812-1879**68** 撰津住吉郡の国学者、道久の父、
[道一(；名)の通称/号]通称；熊吉郎/飛庄五郎/勘四郎/平左衛門、号；道閑
- K4102 **道一**(みちかず/ただかず・二階にかい、旧姓；白上)1814-70**57** 長門萩藩医、歌人；近藤芳樹門、
[夕まぐれ虫も舎りをかるかやのつゆに声ある山かげの庵]([萩の歌人]入)、
[道一(；名)の別号/通称/号]別名；唯一ただかず、通称；養安/玄東、号；桐雨/陶沢
- J4189 **道一**(みちかず・那須なす、)1821- 1885**65** 紀伊田辺の商家；三栖屋、
国学者・歌人；熊代繁里・本居内遠・加納諸平門、宗道の父、
[道一(；名)の通称]小八郎/熊吉/三五郎
- I4170 **道一**(みちかず・神谷かみや、)1823-1904**82** 美濃可児郡の国学；丹羽盤桓ばんかん・平田鉄胤門、
維新後；可児郡郡長、1883致仕、郷土史家家；岡田啓の残した原稿を継嗣、
1900(明治33)「新撰美濃志」刊行、「関ヶ原合戦図志」著、
[道一(；名)の字/通称/号]字；子貫、通称；藤太郎/佐左衛門/佐右衛門、号；簡斎/松径
道一(みちかず/ただかず・水野)→ 忠一(ただかず・道一・水野みずの/源、幕臣)U 2 6 9 4
道風(みちかぜ・小野) → 道風(とうふう・小野、廷臣/書家/歌人) 3 1 2 0
- 4103 **三千風**(みちかぜ・大淀おおよど/本姓；三井、三井つひい宗春男)1639-1707**69** 伊勢射和いさわの商家、
1668頃まで兄宗貞を助け家業/俳人；談林系；特定の師につかず、1669出家；松島/仙台住、
1679「独吟矢数」3千句成就、1683-94全国行脚/1695相模大磯の嶋立庵に住；
西行堂・法虎堂建立、1705・09九州行脚2度、1680「松島一色両吟集」「金光山一色両吟前集」
1682「松島眺望集」編95「富士詣」90「日本行脚文集」編、96仮名草子「法語三人物語」著、
1697「嶋立沢」、1701「倭漢田鳥集」編/「三千風笛探」1702「眺望廼戲章」著、宗貞の弟、
[いざや霞かすみ諸国一衣いちえの売僧坊まいせぼん](日本行脚文集；1683. 3. 25作/売僧坊は謙称)
[大淀三千風(；号)の名/別号]名；友翰、
別号；梅睡/尺鴫/無不非軒/松島軒/紫冥軒/無極軒/浮謡軒/無刀軒/頂雲軒/瓢々軒、
寓言堂/一念堂/椿木庵/無月庵/無玉庵/東往居士/風居士/天玄斎/友翰斎/不生斎、
東往斎/飛散人/行脚山人/狂散人/景狂人/吞空居/吞空法師/狂教人
- B4132 **道方**(みちかた・源みなもと、左大臣源重信男)969-1044**76** 平安中期廷臣；1012参議/20権中納言、
1029大宰権帥正二位、母；源高明女(公卿補任)or藤原師輔女(尊卑分脈)、
1015道長五十賀に諷誦文を奉ず、歌人；1024高陽院行幸和歌の作者、管絃に長ず、
赤染衛門と交流、菟玖波1句入、
[いづる空なき春の夜の月](菟玖波；十七1623/赤染衛門集132、
詞書；道長家で宴の最中に内の物忌にこもれとの命で人々が出る時に口惜しいと)、
赤染衛門の付け句「ふるさとにまつらむ人を思ひつゝ」
- B4133 **通方**(みちかた・中院なかのいん/本姓；源；村上流、土御門通親男)1189-1238**50** 母；藤原範兼の女範子、
1231権大納言/38大納言、故実家；「飭鈔」著、詩歌；1201熊野御幸歌会/13内裏詩歌合(；詩)参、
八幡宮で歌合主催、「権中納言通方卿集」、万代集入集、定家女民部卿典侍や公経と歌贈答
勅撰10首；新勅撰(433)続後撰(77/186/1066)続古(3首)続拾(1291)新後撰(1669)風(440)、
[谷深み雪の降る道あとたえて積れるとしをしる人ぞなき](新勅撰；六冬433/古溪雪)、
[通方(；名)の通称] 土御門大納言、通氏・通成の父
- B4134 **道形**(みちかた・黒沢くろさわ/二階堂、後名；道恒みちつね)1767-1829**63** 羽後大館の儒者；大田錦城門、
郷土史家、江戸行に常陸を旅；「筑波根日記」、「秋田千年瓦」「小野小町考」「高清水法の月」、
「齧田廼浦風あぎたのうらかぜ」「竹蔭隨筆」著、
[道形(；初名)の通称/号]通称；勘弥/多門/本之丞/長右衛門/兵衛/監物、
号；竹蔭/居易斎/大品
- B4135 **通賢**(みちかた・久米くめ、喜兵衛男)1780-1841**62** 代々讃岐大内郡引田郷馬宿村の舵師の家、
1798大阪に遊学/暦算・数学・蘭学；間重富門、天体観測機器・各種銃砲を發明、
1806高松藩御用測量方に採用；讃岐国実測地図作製、藩命で伊能忠敬を案内、
1811藩士；久米姓を名乗る/26普請奉行；坂出塩田開発に尽力；禄2百石、文学・墨竹を嗜む、
1806「高松測量絵図帳」「高松測量方位記」、「戦船作積之覚」「鎗間銃銘」著、
[通賢(；名)の通称/号]通称；栄左衛門、号；一器

- B4136 **通賢**(みちかた・屋代やし、清通(屋代弘賢の養子)男)?-? 江後期幕臣、1828「通賢花壇抄」著、1821-42弘賢「古今要覧稿」編集参加
- I4194 **道堅**(みちかた・日下部くさかべ、)1801-1845⁴⁵ 飛騨高山の国学者/歌;田中大秀門
1825(文政8)建碑(;飛騨車田の由来/田中大秀執筆)
[道堅(:名)の別名/通称/号]別名;忠雄、通称;九兵衛、号;神楽声園
道賢(みちかた・細川) → 持賢(もちかた・細川、歌人) B 4 4 3 5
通賢(みちかた) → 通賢(つうけん、連歌作者) 2 9 2 5
- 4104 **通勝**(みちかつ・中院なかのいん、通為男/本姓;源)1556-1610⁵⁵ 母;右大臣三条西公条女、廷臣;1575参議、1579権中納言兼侍従/正三位/1580勅勘を蒙り丹後へ出奔/85出家/99赦免;出仕、古典・歌;伯父三条西実枝門/丹後では細川幽齋門に古今伝授を受;歌道の奥義を究める、古典;源氏物語の注釈を大成、1798源氏注釈「民江入楚」、「源氏物語秘鈔」「源氏物語辨」著、歌;「也足軒詠草」「也足軒素然集」「也足軒名所百首」「素然五百首和歌」「五十首和歌」、「住吉法楽百首」「中院通勝五百首和歌」「中院通勝百首」「入道前中納言五百首」著、連歌;「天正十九年五月千句」「天正十九年至二十年素然永雄両吟」「夢想之連歌」著、「新古今聞書」編/「篠枕」「中院大納言集」「通勝卿記」「也足軒八朔風俗」など編著多数、[通勝(;名)の幼名/一字名/号/法名]幼名;松夜又麿、一字名;菊、号;也足軒、法名;素然、法号;竹溪院、通村の父
- B4137 **道門**(みちかど・神戸) ? - ? 伊勢の人、17c寛永1624-44頃満田出雲守「蒲生氏郷記」加筆
通門(みちかど・林) → 眞貞彦(まじこ・林はやし、和学者) R 4 0 8 9
- B4138 **道兼**(みちかね・藤原ぶじわら、兼家男)961-995^{35歳} 母;藤原中正女の時姫、廷臣;
986父の命で花山天皇退位を促し一条天皇即位と兼家の摂政就任を実現:大鏡に逸話入、道隆・道綱・道長・東三条院詮子(一条天皇母)の兄弟、986参議/正三位/権中納言、989正二位/父の遺跡を兄道隆と争い敗北/995兄没;関白・氏長者;7日間病没、、贈太政大臣正一位、歌;勅撰2首;拾遺1281(;栗田右大臣名/玄々集77)/続古1576、[しのべとやあやめも知らぬ心にも永ながからぬ世のうきに植ゑけん](拾遺;哀傷1281)、(息子の亡き幼児福足[福垂]が植え残した菖蒲が生育した様子を見ての哀惜歌)、(福足については大鏡道兼伝・栄花物語・小右記などに逸話/989頭に腫物ができ没)
[道兼(;名)の号/通称]号;栗田/二条/町尻、通称;栗田殿/二条関白/栗田関白/七日関白
- H4115 **通包**(みちかね、姓不詳) ? - ? 室町後期河野通直家臣?/連歌;
1482通直願主「大山祇社法楽連歌」(万句)参加
道兼(みちかね・太田) → 頼資(よりすけ・太田おた、吏員/地誌家) I 4 7 8 0
- L4101 **通樹**(みちき・源みなもと) ? - ? 江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]5首入、
[たゆとだにつげずは人にとはれめや露にやつるる宿の篠垣](麓の塵;秋279/秋故郷)
- H4179 **道樹**(みちき・橋たちばな) ? - ? 江後期;歌人/廷臣?;大膳亮、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[かきくらし晴間も見えず雲とちて日数つもりの浦の五月雨](大江戸倭歌;夏516)
道樹(みちき・守川) → 捨魚(すてな・至清堂せいどう、狂歌作者) D 2 3 8 3
- B4139 **通清**(みちきよ・源みなもと、宗長、清雅男)1123-? 平安後期廷臣;1170従五下蔵人、俊兼の孫、通時・通経・清延の父、歌人;1165[続詞花集]入(通清名)/通清の後の名;宗長むねなが、1170住吉社歌合(;正六上宗長名)/72広田社歌合参加、今撰集・夫木抄入集、千載1148(父の代詠)、宇治拾遺・十訓抄(土佐判官代道清名)に色好み失敗談の逸話、[旅寝する荒れたる宿の時雨には涙もともにもるにぞありけり](住吉社歌合;四番左57)
[後三条内大まうち君(三条公教/1103-60)身まかりてのちかの家にて人々花橋を題にて歌よみけるによめる、いにしへをしのぶにしげるつまにしも花橋の匂ふなるかな](続詞花;夏125)
- B4140 **道清**(みちきよ・源みなもと、為国男)?-? 関白基房[1145-1230]家の勾当;
歌;1178廿二番歌合参加、十訓抄(道清名)の逸話は為国男の道清かもしれない、
[まくずはふ蓬が宿をかき分けて秋はきたりとつぐる風かな](廿二番歌合;四番左4)
- I4130 **通清**(みちきよ・越智おち、)1763- 1839⁷⁷ 伊予桑村郡国安村の里正/歌人;冷泉為章門、「草庵百首和歌」(加地信之編?)入、

- [通清(；名)の初名/字/号]初名；健、字；有中、号；源波/剛中/樂水
- B4141 **道潔**(みちきよ・羽生はにゅう/本姓；菅原)？-？ 江後期薩摩藩種子島家の家臣、
1817藩招聘の近江の松村儀兵衛から養蚕技術を伝受/18種子島に養蚕を創始、
のち種子島に発生した蚕類に似た甘藷害虫のため養蚕は排斥禁止、
1842「蚕徳弁論」、「御家年中行事属類雑記」編、[道潔(；名)の通称] 六郎左衛門
- J4101 **通侃**(みちきよ・黒川くろかわ、高橋甚内[坦斎]男?) 1776-1852/77 伊予宇摩郡小林村の生、
伊予周布郡北条村庄屋を継嗣、近藤篤山・三品みしな崇たか(容斎/西条藩校教授)の弟、
国学者、
[通侃(；名)の通称/号]通称；丹次、号；石漁
- I4117 **方清**(みちきよ・植田うえだ、方正みちまさ長男) 1796-1870/75 備中窪屋郡倉敷の豪農、
村役人の公選制を主唱/1828(文政11)公選により庄屋、歌人；木下幸文門、
国学・歌；関梟翁きょうおう(政方まさみち)門、幸文の巖島参詣・高松の旅に同伴、
[方清(；名)の字/通称/号]字；明卿、通称；汶四郎/武右衛門、号；亀洞
- I4122 **通静**(みちきよ・江幡えはた、通寛みちひろ[晩香]長男) 1842-1909/68 母；岩子、出羽大館の儒者、
国学；佐々木弘綱門、妻；江幡糸子(貞子/1852-1912/歌人)、
詩歌人/新聞記者；1876遐邇新聞に入社/秋田住、1878(明治11)秋田遐邇新聞編集長、
のち秋田日々新聞の雑報主任、歌；寧静吟社設立、
[通静(；名)の字/通称/号]字；致遠、通称；運蔵、号；澹園/寧静楼/樗廬舎おうちのや
- 通清(みちきよ・中院なかのいん) → 通敏(みちとし・中院/源、廷臣/歌人) B 4 1 9 7
通清(みちきよ・中院/久世) → 通夏(みちなつ・久世くぜ/源/中院、廷臣/歌) C 4 1 0 9
通清(みちきよ・高木/牟田口) → 筠斎(いんさい・牟田口むだぐち、儒者) I 1 1 5 7
道精(みちきよ・横地) → 島狄子(とうてきし・横地、医者/書家) G 3 1 6 6
道浄(みちきよ・村上) → 道慶(どうけい・村上、闘争調停) D 3 1 2 0
- B4142 **通邦**(みちくに・稲葉いなば、通経男) 1744-1801/58 尾張藩士；1762(19歳)家督嗣；禄2百石、
国方吟味役、武芸・兵学を修得/小笠原流礼法；父門/古流故実伝相承；岡田重定門、
漢学；森川南堂・中村習斎門/国学；神村正鄰門・河村秀穎門/1787本居宣長門、
本草学；松平君山門、1790藩命により「神祇宝典」等の校訂、
1797大須宝生院の蔵で「倭名抄」を発見；刊行、「山路物語」「稲葉通邦記」「伊勢諸礼記」著、
「軍用鶏肋」「古流故実伝」「雫抄」「山路の雫」外著多数、歌；本居大平「八十浦の玉」中巻入、
[虫の音のすだく秋野に分け入りて衣は芽子ぎに匂ひぬるかも](八十浦；458/萩)、
[通邦(；名)の字/通称]字；君達、通称；喜三郎/喜蔵、 通故みちひきの父
- B4143 **通訓**(みちくに・河野こうの/本姓；越智、鉄之助男)？-？ 幕臣；近江守/豊前守/対馬守/1809家督嗣、
御使番/西丸御目付/日光奉行/1848山田奉行/京都町奉行/御普請奉行/1858田安家家老、
1862勤仕並寄合、1849「山田奉行河野対馬守通訓太平真鏡流初伝」著、
[通訓(；名)の通称] 権右衛門
通邦(みちくに・小倉) → 正信(まさのぶ・小倉おぐら、商家/国学/神道) F 4 0 6 5
- J4156 **通子**(道子みちこ・伊達だて、別名；孝姫・幸姫、久我通名女) 1713-69/57 京の生/歌人、
伊達吉村の養女/陸奥仙台藩士官床の伊達村胤(村興男/1707-31早世25歳没)の正室、
(涌谷伊達村胤とは別人)、江戸/陸奥仙台住
- B4144 **路子**(美知子みちこ・牧野まさの、越後長岡藩主牧野忠寿女) 1730?-94/65? 兄長岡藩主忠周ただちかの養女、
忠周の養嗣となった長岡藩主牧野忠敬ただたかの室、夫と早く死別；出家し明仙院と号す、
歌人；1765賀茂真淵門；生涯の詠歌2千余首、
1796「波奈賀都美はなかつみ歌集」(真淵の撰)、「あづまぢの日記」著、本居大平「八十浦の玉」入、
[路子(；名)の別名/号]別名；直姫/啓子、出家号；明仙院みょうせんいん、牧野忠利の養母
[鶯の声せざりせば春ぞとも知らでやあらむ雪の降れば]、
(八十浦；上18/1758[宝暦8]真淵家宴)
[路子(；名)の別名/法号] 直姫/啓子、法号；明仙院
- B4145 **三千子**(みちこ・小笠原おがさわら、藩主千村ちむら頼久女) 1787?-1857/71? 美濃久々利藩主の娘、
国学・歌人；1812本居春庭門、13信濃伊豆木領主小笠原長計と結婚/1820夫没；仏門、
長厚の母、長厚・長厚妻舒子のこの歌の師、

- 「文政九年手記」著、[三千子(；名)の別名/法号]初名；みち、法号；松寿院
- B4146 **陸子**(みちこ・市岡いちおか、旧姓；竹中)？-1855 尾張名古屋の歌人、
尾張藩士市岡猛彦(1778-1827)の妻、本蔵/和雄にぎおの母、
法号；園林院妙聴日達信女
- I4171 **三千子**(みちこ・川喜田かきた、川喜田敏則女)1800-8283 伊勢津の商家川喜田遠里とおさとの妻、
遠里は川喜田(本家)久太夫家13代、国学；富樫広蔭門(父と同門)、政明・政治まさはるの母、
[三千子(；名)の初名] 田鶴子たづこ
- H4182 **三千子**(みちこ・山路やまぢ、旧姓；桑田)1819-6648歳 歌人；香川景恒(景樹男)門、
備後沼隈郡藤江村の豪商山路重濟しげなり(機谷きこく/1817-69)の妻(；夫は香川景樹門)
- K4172 **道子**(みちこ・宮坂みやさか、初名；松子)？-？ 江後期；信濃松本の国学者/歌人(桂園派)、
国学・歌；香川景樹(1768-1843)門/漢学・歌；内山真弓(1786-1852)門
- I4189 **美智子**(道子みちこ・久津見くつみ、岡田輔幹長女)？-1878 越前大野の生/福井の久津見家に嫁ぐ、
国学/歌人；橘曙覧門
- K4191 **通子**(みちこ・吉岡よしおか、)？-1884 江後期；長門萩東田町の商人吉岡六郎の姉、
歌人；近藤芳樹(1801-80)門、1884(明治17)没、歌；[萩の歌人]入、
[隣にも臥やわびけん雪の夜に炭うちく音のきこゆる](萩の歌人)
- I4108 **道子**(みちこ・荒巻あまき、)1853-192068 紀伊和歌山の女流歌人
和歌山藩士荒巻利蔭(1836-1913、本居内遠男)の妻
みち子(みちこ/三千子/みち/三千)→ 桂子(かづこ・横山/大村、歌人)1570
道子(みちこ・松岡) → 勝子(かつこ・伊達だて、藩主側室；於勝の方、歌)U1589
通子(みちこ・田安、通姫)→ 森姫(守姫もりひめ・田安/近衛、宗武室/歌)K4434
- B4147 **通功**(みちこと・天野あまの)？-？ 江後期会津の人、「松前陣日記」「蝦夷地日記」著
- B4148 **通維**(みちこれ・中院なかのいん/本姓；源、久我こが通兄男)1738-182386歳 中院通枝の養子、
廷臣；1757左少将、1758久我敏通・西洞院時名らと皇権復活を謀る；露見し蟄居/60出家、
1778赦免、「中院通維日記」著、
[通維(；名)の初名/法名/法号]初名；維孝これたか、法名；見山、法号；敬義心院
- B4149 **道前**(みちさき・九条くじょう、尚実男/本姓；藤原)1746-70早世25 廷臣；1753(8歳)従三位/権中納言、
1759(14歳)内大臣、1769従一位、1770(明和7)「有馬六景」著、法号；盛光院
- B4150 **道貞**(みちさだ・橘たちばな、仲任男)？-？ 平安中期廷臣；999和泉守/皇后宮権大進、1004陸奥守/正四下、
37歳頃；妻；和泉式部(20歳位)、小式部内侍(997-8頃誕生)の父、のち夫婦中悪く離婚、
歌はない；金葉Ⅲ388交野女かたののおんなの歌の詞書/詞花集173和泉式部の歌の詞書入
- B4152 **通定**(みちさだ・清原きよはら、信定男or職頭男)？-？ 南北期？廷臣；五位/式部少輔/引付奉行、歌人、
勅撰2首；1364成立「新拾遺集」(1854)/新後拾遺(595)、
[うき世とは思ひもしらで過ぎにけり数ならぬ身をあるに任せて](新拾遺；雑1854)、
[通定(；名)の通称] 四郎左衛門尉しろうざえもんじょう
- H4142 **通定**(みちさだ・花山院かざいん、兼定[1338-78]男)1362-140039 母；九条光経女、南北期廷臣；
1371従三位/95(応永2)出家、忠俊の父、
[通定(；名)の法名/号]法名；信円、号；如住院
- B4151 **通定**(みちさだ・忽那くつな)？-？ 戦国期武将/河野通直一族、通称；因幡守、
1445-1504頃「大山祇社法楽神社連歌」参加(1445年；千句)
- H4113 **通貞**(みちさだ・土居どい)？-？ 武将/河野通直一族、
1445-1504頃「大山祇社法楽神社連歌」参加(1482年；万句)
- B4153 **道貞**(みちさだ/どうてい・山崎やまさき)？-？ 儒者；安東省庵門、1721「省庵先生遺集」編/序
- L4116 **道貞**(みちさだ・井出いで)1758-184386 or1756-183984 信濃佐久郡白田村の諏訪社神官、地方史家、
歌；加賀美光重門/書；雪下園門、俳人、息子茂高は京の円山派画修学(1833没)；孫通を養育、
文政(1818-30)年間から信濃各地の神社仏閣・名所旧跡を検分、
1834「信濃奇区一覽」著；江戸長谷川雪堤に縮図させ「信濃国全絵図」とす、
のち孫の井出通が校訂し「信濃奇勝録」として刊行、
瀬下敬忠(「千曲之真砂」著)・吉沢好謙(「四鄰譚藪」著)と共に佐久の三大郷土史家と称さる、
[道貞(；名)の字/通称/号]字；貞彦、通称；斎宮/兵部/日向守、号；日州/松亨/蘭阜

- I4121 **通貞**(みちさだ・江幡えはた、通称;掃部かもん/号;佳月)1776-1856⁸¹ 出羽大館の漢詩人/歌人、
通寛みちひろの父
- B4154 **道貞**(みちさだ・山田やまだ) ? - ? 江後期京高倉御池北の文筆家/のち三条柳馬場住、
「嘉永雑談」著(嘉永1848-54)、「光格天皇御登霞之巻」著、
[道貞(;名)の字/通称/号]字;有恒、通称;利九郎/成輔、号;竹澗/竹間
道貞(みちさだ・三浦) → 有隣斎(ゆりんさい・三浦、製塩業/歌) E 4 6 1 4
道貞(みちさだ・藤岡) → 月尋(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子) B 1 8 0 8
通貞(みちさだ・中院) → 通顯(みちあき・中院なかのいん/源、内大臣/歌) B 4 1 0 3
通貞(みちさだ・越智) → 鳳台(ほうだい・越智おち、藩士/兵法家) C 3 9 2 2
通貞(みちさだ・森野) → 藤助(とうすけ・森野もりの、農業/本草家) F 3 1 8 7
通貞(みちさだ・伊達/桑折) → 宗臣(むねしげ・桑折こおり、藩家老/歌/俳人) B 4 2 4 2
通定(みちさだ・河野) → 聖戒(しょうかい;法諱、時宗僧/一遍絵伝編) F 2 2 7 9
- B4155 **通郷**(みちさと・波多野はだの、元喜げんき)?-? 足利幕臣;評定衆/連歌作者、肥後守、
1385良基「至徳二年石山百韻」参(4句)、1399義満出家時に剃髪?、1408北山連歌御会に参加、
[花の過ぎてても残る秋草](石山百韻;賦何船第4句、
前句・周阿;松一木ひとときあらぬ落葉に色かです)
- H4117 **通里**(みちさと・河野こうの) ? - ? 伊予の武将、連歌;1445「大山祇神社法楽連歌」願主/千句参
- B4156 **通識**(みちさと・三木みき/河野、三木通資みちもと男)1687-? 1754存 母;山崎伊兵衛女、播磨姫路の生、
先祖は播磨英賀城主、竜野町に住、郷土史家、1753「麻生山略記」、「姫辺古記」、「皿屋舗」、
「古処集」、「続古処拾集」、「府中めぐり拾遺」、「本得寺縁起」、「八十岩橋記」、「姫路境地古処」、
「播州歌寄」、「播州神社歌寄」、「古処歌寄」、「府辺ホコラサガシ」、「影向松記」、「諸所随筆」外著多、
[通識(;名)の幼名/通称/号]幼名;与惣五郎、通称;伊助、号;東水/石狸子/好古斎、
屋号;おばせや、法号;恵円
- B4157 **通熙**(みちさと・久世くぜ、通理みちあや男/本姓;源)1818-75⁵⁸ 母;鍋島治茂女、廷臣;1851従三位/61参議、
1864従二位/1858日米条約反対公卿列参参加/のち公武合体派として奔走;一時失脚、
1868赦免;宮内省出仕、「久世通熙手記」、「久世通熙手録記」/1835-66「通熙卿記」著
道達(みちさと・宮川) → 道達(どうたつ・宮川、和学者/歌俳人) G 3 1 3 5
通郷(みちさと・浅加) → 久敬(ひさたか・浅加あさか、国史・国学・歌) B 3 7 2 1
- 4105 **道真**(みちざね・菅原すがわら、是善男)845-903⁵⁹歳 平安前期廷臣;漢学者/877文章博士/893参議、
894遣唐使;建議し派遣停止、899右大臣/901従二位、901大宰府に左遷;903同地に没、
没後京で災厄続発:道真崇りの風評;天神として祭祀、延喜23(923)本官に復し正二位追贈、
さらに993正一位左大臣/太政大臣を追贈、伝説化する、
詩文/歌;「菅家文草」、「菅家後草」、「日本三代実録」、「新撰万葉集」、「類聚国史」、「菅丞相日記」、
「菅家御詠百首」、「大安寺縁起」、「長谷寺縁起文」、「瑠璃壺百首」、「天満宮御詠歌集」著、文粹36首、
勅撰;35首古今(272/420)後撰(57/1356/1357)拾遺(5首)新古(16首)続後撰(3首)以下、
[このたびは幣もとりあへず手向山紅葉の錦神のまにまに](古今集;420)
[道真(;名)の別名/通称]幼名;阿古、唐名;菅道真、
通称;菅家/菅公/菅丞相/北野/聖廟/菅贈太政大臣、
[道真の系譜] 古人—清公—是善—道真—高規—文時
夫人宣来子のぶきこは島田忠臣女 → 忠臣(ただおみ・島田/嶋田、詩人) 2 6 2 4
- B4158 **通真**(みちざね・河野こうの、通親男)1664-1723⁶⁰ 幕臣;1682以降綱吉に出仕/書院番士/1718致仕、
「累考土鑑」著、
[通真(;名)の通称/法号]通称;市十郎、法号;泰円
道真(みちざね・太田、道灌父) → 道真(どうしん・太田、武将/城主/連歌) F 3 1 6 2
- B4159 **道真母**(みちざねのはは・菅原すがわら、是善の妻、伴氏)?-872 平安期歌人、拾遺473、
[久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな](拾遺;八473/道真元服時に詠)
- B4160 **通重**(みちしげ・中院なかのいん、通頼男/本姓;源)1270-1322⁵³ 母;姉小路顕朝女、廷臣;1285従三位、
正二位大納言/1316従一位/19内大臣/21出家、奨学院・淳和院の別当、
「中院内相府記」1290「扇次第」著、
歌;1289伏見天皇和歌御会/1307後宇多院仙洞歌合/15京極為兼催「詠法華経和歌」参加、

勅撰8首;新後撰269/玉314/続千465・784・1574/新千1067・2185/新拾685、
[彦星の契りたえせぬ秋をへていく夜かさねつ天の羽衣](新後撰;四秋269/春宮大夫)、
[通重(;名)の通称/法名] 称;後三条坊門/後中院、法名;良乗、通頭の父

4106 **通茂**(みちしげ/みちもち・中院なかのいん/本姓;源、通純男)1631-171080 母;高倉永慶女、廷臣;1655参議、
1660権大納言/1704内大臣/05従一位、和学・歌;祖父通村・父通純・後水尾院門、
後水尾院より古今伝授、香川宣阿・三輪希賢門、徳川光圀と親交、
書;祖父通村の中院[通村]流を修得;伝承、
家集「老槐和歌集」、「中院通茂詠草」「溪雲院集」「溪雲院通茂公詠歌」「中院三燈集」、
「中院通茂百首」著、歌論「溪雲問答」著(;幸隆記)、撰書「新耳底記」「類題和歌溪雲抄」著、
1702「一人三臣集」06「雲上和歌集」10「新明題和歌集」/「新題林和歌集」等に歌入集、
歌学書「詠歌大概聞書」「古今和歌集聞書」「源氏物語講釈」、「易然集」(近衛基熙らと共編)、
[通茂(;名)の幼名/一字名/法号]幼名;安居丸、一字名;水/老、法号;溪雲院、
中院通躬・野宮定基・久世通夏・円恕らの父

B4161 **通重**(みちしげ・河野こうの、通称;金重郎)?-? 江中期享保1716-36頃の常陸那賀郡の和算家、
1731「以呂波算四十八集」編

B4162 **道茂**(みちしげ・新田目あらため/本姓;藤原/旧姓;橋本)1800-5556 新田目道則の養子/秋田藩士、
検地法;小野岡義般門/田法に通ず、和算・俳諧を嗜む、国学;1841平田篤胤門、
「田法四六精術」「田法歩尺精辨」「斗代名義考」「古易命凶解」「四田欠借精術」、
「三凶神易辨」「神易辯奥秘」「俗田法論辨」「六郡生来考」「羽州秋田神社縁起」著、
[道茂(;名)の通称/号]通称;転じた、号;沢雉たぐち/右橋うきつ、橋本宗武の実弟

J4109 **通重**(みちしげ・河野こうの/本姓;越智、)1826-191085 信濃筑摩郡北方村の庄屋、
歌人;香川景樹・香川景恒門、
[通重(;名)の通称/号]通称;七郎右衛門、号;翠屏舎/楽園

| | | | |
|-------------|---|-----------------------|-----------|
| 道成(みちしげ・源) | → | 道成(みちなり/みちしげ・源、廷臣/歌) | C 4 1 1 1 |
| 道成(みちしげ・藤原) | → | 道成(みちなり/みちしげ・藤原、廷臣/歌) | L 4 1 1 0 |
| 通女(みちじよ・井上) | → | 通女(つうじよ・井上) | 2 9 0 1 |
| 道女(みちじよ・佐藤) | → | 道(みち・佐藤さとう/小川、歌人) | J 4 1 1 4 |

H4191 **美知女**(みちじよ・堀内ほりうち)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[かち人の帰るかたの夕闇に衣手寒く霰降るなり](大江戸倭歌;冬1242)
美知女(みちじよ) → 未知代(みちよ・眠我の妻、俳人) C 4 1 8 0

B4163 **通季**(みちすえ・藤原ふじわら、公実男)1090-112839 母;藤原隆方女の光子(堀河・鳥羽天皇の乳母)、
西園寺家の祖、廷臣;1115参議/17従三位/22権中納言兼左衛門督/28正二位、
妹璋子が中宮となる;中宮権大夫/待賢門院別当、「遷幸記」著、歌;万代集入、
実隆・実行の弟/実能の兄、有仁の室/待賢門院璋子と兄弟

B4164 **通輔**(道輔みちすけ・松殿まつどの、初名;兼輔、兼嗣男/本姓;藤原)?-? 1323存 母;松殿実春女、
廷臣;1300従三位/12兼輔を通輔に改名/13参議/14散位/17正二位、24出家?、
歌人;1315為兼「春日宝前詠法華経和歌」参加、1310刊[柳風抄]2首入(従三位兼輔名)、
玉葉集2首898/1394(;左近中将道輔名)、
[野辺はただ小笹をさばかりの青葉にてさらではなべて霜枯れの色](玉葉;六冬898)、
[空のいろ雨のけしきもくれぬかとおもふゆふべに春はひさしき](柳風抄;春16)

B4166 **道輔**(みちすけ・源) ?-? 歌;1491-2大内政弘家集「拾塵和歌集」英因法眼と共撰

K4110 **通右**(みちすけ・堀田ほつた、一輝いっき3男)1662-173069 幕臣;寄合、和学・歌;父門、
[通右(;名)の通称]大之助/源右衛門

I4131 **通輔**(みちすけ・越智おち、通郷男)1727-180478 伊予松山藩士;1759父没;家督嗣、1763祐筆、
勘定奉行/1781(天明元)御留守居足軽/83(天明3)御側役、国学者/歌人、新九郎の父、
[通輔(;名)の通称/号]通称;門兵衛/門之助/新九郎、号;虚子/和羅

I4138 **道輔**(みちすけ・大谷おたに、)?-1805 駿河府中の商家;駿府城内本丸広敷御用、
国学者、
[道輔(;名)の通称/号]通称;伊右衛門、号;蔵六亭

B4167 **道輔**(みちすけ・松浦まつうら/本姓;安倍、通称;源礼)1801-6666 阿波徳島中大工町の国学者;

- 1824平田篤胤門、1824「大同類聚方偽本辨」著、55「巫墨利加凶書」編、「韻鏡伝来記」著、「大祓科戸之風」「神聖經国考」「大扶桑国考辨」「花のたより」「松浦道輔雜集」外著多数
- I4127 **通亮**(みちすけ/みちあき・小野崎おのぎ、郡奉行の通孝長男)1833-1903 71 出羽秋田久保田藩士；
 龜ノ丁新町住、神道；父門/吉川忠行・同忠安門；惟神館で和魂洋才を修学、
 1863(文久3)同志と雷風義塾を設立；講師を務む、1868(慶応4)藩校明德館教授兼砲術頭
 国学者；平田鉄胤門、戊辰戦で吉川忠行らと藩論を勤皇に導き遊撃隊参謀；秋田戦争従軍、
 維新後東京で判事試補に就任/1870秋田藩大参事/廃藩後1873県社八幡社祠官、
 大教員・教導職取締・権少教正など歴任/1890秋田県皇典講究所分所長/97貴族院勅選議員、
 [通亮(；名)の通称/号]通称；鉄蔵、号；琴廼屋/烟水/九春軒
- 通相(みちすけ・久我) → 通相(みちまさ・久我が、太政大臣/歌) B 4 1 6 5
 道助(みちすけ・平井) → 道助(どうじよ・平井、武将/連歌) F 3 1 2 4
 道祐(みちすけ・福住) → 道祐(どうゆう・福住ふくずみ、伝記/俳人) H 3 1 6 3
 道亮(みちすけ・加藤) → 荷豆(かとう・加藤かとう、商家/俳人) O 1 5 1 7
 道甫(みちすけ・興野) → 成信(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人) L 3 2 5 1
 道輔(みちすけ・山路) → 岷雪(みんせつ・河村かわむら、絵師) G 4 1 8 3
- B4168 **通純**(みちずみ・中院なかのいん/本姓；源、通村男)1612-1653 42 母；溝口秀勝女、廷臣；左中将、
 1630正四下/31(寛永8)参議、32従三位/踏歌外弁/36左中将/37(寛永14)権中納言/39正三位、
 1641従二位/44賀子内親王勅別当/47(正保4)権大納言/52正二位、53(承応2)没(頓死)、
 歌人；1638[後鳥羽院四百年忌御会]「一人三臣和歌」参加、
 「中院三代和歌」入、1648「例幣記」著、「節会問答」「新耳庭記」「未来記鈔」「放生会次第」著、
 1644「源氏物語抄草稿」著、法号；栄玄院、通茂・野宮定輔の父、
 [降る音おとを木の葉にたどる小夜時雨もりくる袖にきゝやさだめむ](後鳥羽院忌；60、
 本歌；木の葉散る宿は聞分くことぞなき時雨する夜も時雨せぬ夜も；後拾遺；源頼実)、
 [通純(；名)の法号]栄玄院貞山利光
- 通蔵(みちぞう・仙台) → 築(たぬし・ら・今村、医/国学/歌) G 2 6 3 4
- B4169 **道隆**(みちたか・藤原ふじわら、兼家男)953-995 43 母；藤原中正女、廷臣；984参議従三位；右中将、
 986権中納言/987権大納言；正二位皇太后宮大夫/989内大臣；左大将/関白/摂政/993関白、
 995病のため公事は息子の伊周内大臣が代行/関白辞職/出家入道/南院第で没、
 通称；中関白、妻；高階成忠女の貴子、伊周これちか・隆家・一条天皇后定子之父、
- K4142 **道高**(みちたか・堀江ほりえ、栄昌男)1670-1722 53 江戸の歌人；父門/父を継嗣；陸奥南部藩江戸詰、
 初め茶道のち歌学をもって出仕、多田春水と共撰「題格詠証」(散逸)、
 [道高(；名)の通称]定右衛門/貞右衛門
- B4170 **通喬**(みちたか・河野こうの、通重男)1693-1756 64 幕臣；1725父遺跡継嗣；千石、豊前守/従五位、
 1728御徒頭/29目付/36小普請奉行/勘定奉行、48朝鮮使接待、49留守居役、「浪玉集」著、
 [通喬(；名)の通称/法号]通称；金次郎/勘右衛門、法号；元節
- B4171 **通魏**(みちたか・宮沢みやざわ/源、鑰ろう)?-? 江中期信州出身/豊前中津藩医、江戸住、
 国学；賀茂真淵門、1760「上総国夷隅郡所産竜骨之説」「竜骨辨」/1768「屠蘇考」、「医原」著
- I4128 **道孝**(みちたか・小野寺おのでら、)1761-1802 42 出羽久保田藩士；寺社奉行、歌人、
 [道孝(；名)の通称]量蔵/桂之助
- I4182 **道考**(みちたか・桜井さくらい、要親としちか男)1765-1837 73 信濃伊那郡山本村の旗本近藤家の代官、
 母；里勢りせ(歌人)、歌；桃沢夢宅門、春樹はるきの父、
 のち江戸住、
 [道考(；名)の別名/通称]別名；東/道成、通称；千代松/又一郎/重兵衛/茂兵衛
- B4172 **通堯**(みちたか・正木まさき/越智、熊之丞男)1800-43 44 近江彦根藩士/代々鷹匠；1806父を継嗣、
 1817騎馬徒、国学/歌人；小山田与清門、1830「漫詠鷹百首」著、37「続彦陽和歌集」編、
 「木柴の雪追考」、「ひかこと日記」「浪の下草」著、
 [通堯(；名)の通称]鉄蔵/六之介/治部
- I4110 **通孝**(みちたか・稲葉いなば、通称；儀八郎)?-?嘉永1848-54頃没 紀伊和歌山藩士、
 御膳奉行中奥詰に出仕、国学・歌；本居内遠門
- B4173 **道貴**(みちたか・太田おた、号；白楽庵)?-?1866前後没 江後期三河賀茂郡梅坪村の歌人、

1854「艶桜和歌集」編

- H4189 **通隆**(みちたか・寺川てらかわ) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[難波江にはえや汀みぎはの蘆の枯れふして霜置きわたす色の寒けさ](大江戸倭歌;冬1138)
- K4103 **通孝**(みちたか・野口のぐち、通称;隆平)1814-8067 紀伊田辺藩士、国学者
- K4190 **道恭**(みちたか・山根やまね、)1833-191583 石見美濃郡都茂村の庄屋、国学/歌;藤井宗雄門、
[道恭(;名)の通称/号]通称;助六、号;千代の舎/等鶴
通高(みちたか・江幡/那珂)→ 梧楼(ごろう・那珂なか/江幡、藩士/儒者) G 1 9 5 6
道隆(みちたか・大口屋/桃)→ 東園(とうえん・桃もも、商家/儒者) B 3 1 4 5
道隆(みちたか・柴山) → 愛次郎(あいじろう・柴山、藩士/儒者) D 1 0 1 8
道喬(みちたか・野村) → 野渡(やと・野村のむら、俳人) D 4 5 8 4
兌孝(みちたか・大寄) → 兌孝(ときたか・大寄おより友右衛門、大我講) U 3 1 3 8
- B4174 **行虎**(みちたけ・加藤かとう、藩医柴田竜溪男)1813-6048 尾張名古屋の医者/歌人、幼時に僧;のち還俗、
叔父の尾張藩奥医加藤常春の養嗣子;医者、国学・歌人;熊谷直好・香川景樹・鈴木胤門、
植松茂岳・上田仲敏門/江戸の小林歌城門、帰郷後は茶事・書を嗜む、鈴木胤の甥、
1853「釣船物語」55「乙卯紀行」56「花街竹枝和歌集」、「談助」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[花のよははかなかりけり春雨のしづくにも散る山桜かな](大江戸倭歌:302雨中落花)、
[むら鳥の朝たちくれば相模のや箱根のしのに霰降りつつ](大江戸倭歌:冬1237)、
[行虎(;名)の別名/時/通称/号]別名;三千丈みちたけ、字;寅阿いんあ/宗寅、通称;常德、
号;西垣三中氏/心齋/雨田舎/泉石田舎/正念工夫室/仰古/深潜隠居
- J4102 **道毅**(みちたけ・黒沢くろさわ、)1820-188465 出羽大館の神職、国学、
[道毅(;名)の通称/号]通称;源助/源吾、号;清痴
- B4175 **通桓**(みちたけ・河野こうの/本姓;越智、甲田意伯[顕雄]男)1838-62戦死25 母;河野守弘女の絹子、
下野吉田村の医者/兄と江戸で医学;儀野貞績門/詩人、国史;祖父河野守弘門、
勤王の志;1862坂下門外の変に三島三郎名で参加;没、「春雲楼遺稿」、
[通桓(;名)の字/通称/号/変名/法号]字;士威、通称;顕三、号;春雲/帛水学人、
変名;三島三郎、法号;節誠居士
通武(みちたけ・久坂) → 玄瑞(げんずい・久坂くさか、藩士/奇兵隊) C 1 8 4 2
- B4176 **通忠**(みちただ・久我こが、通光みちてる男/本姓;源)1216-5035 母;藤原範光女、鎌倉期廷臣;1230従三位、
1238正二位/39権大納言/48右近大将/50大納言、歌人;後嵯峨歌壇で活躍;十首歌合参加、
勅撰7首;続後撰(356)続古(1005/1846)続拾(177/222)新後撰(835)風雅(2177)、檜葉集入、
[難波渦あまのたく縄は長しとも思ひぞはてぬ秋の夜の月](続後撰;秋356/十首歌合)、
[素俊法師久我前内大臣(通光)に琵琶さづけける例とて中納言通忠卿又ならひけるを、
消息の便りに《たらちねのかしこき道もおろかなるわがしるべせし末にはあらずや》
と申したりける返事に、
さればわれも君をぞ頼むたらちねのあとふむほどの道しるべせよ]、
(1237刊素俊撰[檜葉集];雑912/権中納言通忠名)、
[通忠(;名)の通称]久我右大将、具房・通基の父
- B4180 **通尹**(みちただ・河野こうの、春察男)1646-171469 江戸の儒者;父門/1659(14歳)小学を講ず、
1665下総関宿藩主久世広之に出仕/1676父を継嗣;加賀大聖寺藩士;先筒頭/馬廻役、
小姓頭/表用人兼役、詩文に長ず、「小学鼈頭解」著、
[通尹(;名)の初名/字/通称/号]初名;通智、字;弘父、
通称;八十郎/新丞/四郎兵衛/三左衛門、号;環水軒/環翠軒
- B4177 **通欽**(みちただ・築山つきやま、通称;嘉平、通楞男)?-? 江中期安藝広島藩士/書と司箭流剣術・薙刀の家、
司箭流剣術;築山五郎通衡門/細川宗閑に伝受、「芹のしつき」著、通明の父、
- K4189 **道忠**(みちただ・山崎やまざき、)1782-185877 信濃安曇郡の国学者/歌人;香川景樹門
[道忠(;名)の通称/号]通称;伊野右衛門、号;祖龍
- J4192 **尽忠**(みちただ・中村なかむら、)1818-185942 三河吉田の歌人;岩上登波子とむこ門、
[類題三河集]入(;14歳)、

- [尽忠(；名)の通称] 俊次/藤兵衛
- 通尹(みちただ・立花) → 鑑寿(あきひさ・立花たちばな、藩主/歌人) 1080
- 道忠(みちただ・二条) → 満基(みつもと・二条/藤原、関白/歌人) E4196
- 道忠(みちただ・河浪) → 自安(じあん・河浪/菅原、医者/儒者) B2106
- B4178 通忠母(みちただのは・久我こが、藤原範光女)?-? 鎌倉前期歌人、太政大臣久我通光みちみの室、久我通忠・六条通有・中院雅忠の母、続千載2030、
[かたみぞと見るに涙ぞかかりけるあふひはよそのかざしと思ふに](続千;哀傷2030)
(後鳥羽院の月忌が賀茂祭に当り修明門院大貳の贈歌への返歌)
参照 → 大貳(だいに・修明門院[後鳥羽院妃]の女房、歌人) C2601
- B4179 通忠女(みちただのむすめ・久我こが、通基の姉妹)?-? 鎌倉中期の歌人、勅撰2首;続拾1304/玉葉2480、
[袖ぬらす昔ながらのふる郷に涙あらそふゆふ時雨かな](続拾遺;雑1304/人の死後詠)
- B4181 通胤(みちたね・中院なかのいん、初名;通泰、通世男/本姓;源)1499-1530³² 母;中院通秀女、廷臣;
1519参議、1520-22加賀下向/22参議に還任/25従三位/27権中納言、
1528「通胤卿記」、「慶申之日記」著、
1527-8和漢聯句3度、[通胤(；名)の法名] 理益
- H4156 道胤(みちたね・今井いまい) ?-? 江後期安政1854-60頃紀伊和歌山藩士、
国学者;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[海辺秋月]入、
[道胤(；名)の通称] 弥左衛門/健十郎
- B4182 通為(みちため・中院なかのいん、通胤男/本姓;源)1517-65⁴⁹ 母;姉小路濟継女、廷臣;1534参議、
1537加賀の家領に滞在/1556権大納言正一位/加賀で没/贈内大臣、歌;地方生活を詠、
「慈西院也石院百首」、連歌;1543天文十二年十月十四日藤中納言広橋大納言等白何百韻、
[通為(；名)の初名/法号]初名;通右/通量、法号;慈西院月亭、通勝の父
通為(みちため・林) → 淡水(たんすい・林はやし、医者/教育) I2690
- 4107 道足(みちたり/みちたる/ちたり/ちたる・大伴宿禰、馬来田まくた男)?-? 藤原・奈良期廷臣;704従五下/讃岐守、
正四下、730擢駿馬使てきしゅんめし;大宰帥大伴旅人邸で宴(万葉962詞書・左注/葛井広成随行)、
(擢駿馬使は優秀馬の選択・献進のため諸国に派遣される使者;九州では輸入馬調達か)、
のち参議、万葉集九1753-4の作者大伴卿と同一説あり/ただし旅人説が有力)
- B4183 道足(みちたり・物部もののかみ)?-? 755防人/常陸信太郡しのだのこおり、万葉2首廿4365-6、
[常陸ひたちさし行かむ雁かきもが我が恋を記して付けて妹にも知らせんむ](万葉:廿4366)
- B4184 道足(みちたり・斎部いんべ/斎柏)1758-1816⁵⁹ 陸奥(岩代)会津の国学者;荒木田久老門、
大阪住;商家;加島屋久左衛門店、歌人;長歌に長ず、詠歌数8百、
「ゆゆしみ言」「斎部道足長歌」「神国御稜威」著、
歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末;長歌4首短歌3首入、
[道足(；名)の通称/屋号]通称;新介/新助、屋号;加島屋久左衛門
- J4127 美知足(みちたり・篠田しのだ、)?-? 江後期;石見那賀郡津田八幡神社の宮司、
国学;大国隆正(1792-1871)門、
[美知足(；名)の初名/通称]初名;吉視、通称;伊予
- 道足(みちたり・田尻) → 梅翁(ばいおう・田尻たり、藩士/国学者) 3668
- 満足(みちたり・岡田) → 鑑玄(かんげん・岡田おかだ、俳人) S1578
- B4185 通善(みちたる・梅溪うめたに/久我/本姓;源、六条有言男)1821-99⁷⁹ 侍従梅溪通修の養子、廷臣;
1858日米通商条約反対、62右近衛権中将/64宇佐の勅使;参議/従三位/68正三位/神祇少副、
「梅溪家文書」/1864「宇佐香椎両宮使発遣覚」67「御元服定参仕雑記」外著多数
- 三千太郎(みちたろう・稲毛/市河) → 恭斎(きょうさい・市河/稲毛、書家/詩) N1682
- 道太郎(みちたろう・増田) → 立軒(りっけん・増田ますだ、儒者/著述) B4972
- 道太郎(みちたろう・中村) → 清旭(きよあき・中村、藩士/尊王派) N1604
- 道太郎(みちたろう・佐々木) → 高陳(たかのぶ・佐々木、幕臣/砲術) M2671
- 道太郎(みちたろう・安藤) → 直紀(なおのり/なおき・安藤あんどう/内藤、藩士/歌人) K3292
- 道太郎(みちたろう・今村) → 信正(のぶまさ・今村いまむら、国学者) H3544
- 道太郎(みちたろう・石野) → 氏恒(うじつね・石野いしの、藩士/国学) E1252
- H4124 三千(みちた・上毛野君かみつけのみき[君は姓])?-681 大和期廷臣;681大錦下だいきんげ、

681(天武10年)帝紀及上古諸事の記定に参加

参考 → 帝紀及上古諸事の記定者(ていきおよびじょうこしよじのきていしや)

- 4108 **通親**(みちか・土御門つちみかど/家名;久我/本姓;源;村上流、源[久我]雅通男)1149-120254歳、母;藤原行兼女、平安末期廷臣;1158叙爵/80参議/高倉天皇に近侍/85権中納言、1195権大納言/99内大臣、正二位/後鳥羽院側近、関白兼実を排斥:土御門天皇を即位;外祖父として辣腕を揮う、1202(建仁2)急死、歌人:六条季経門、1170住吉社歌合・78別雷社歌合参加/1200石清水和歌宮社歌合;判者、1201自邸;人麿影供歌合主催、新古今集撰進寄人、01千五百番歌合;判者、1180歌文集「高倉院殿島御幸記」81「高倉院昇霞記」記、1200後鳥羽院催「正治百首」/01「藤代王子和歌会」参加、月詣・万代・秋風・雲葉集入、勅撰32首;千載(6首92/777/806/903/949/1155)、新古(6首443/791/840/1299以下)新勅(5首205/563以下)続後撰(413)続古(3首)以下、[われならぬ人もあはれはまさるらん鹿鳴く山の秋の夕暮](新古今;五秋443)、漢文「擬香山模草堂記」、源通具・久我通光・土御門定通・中院通方の父、承明門院在子の養父、[通親(;名)の通称]土御門内大臣/源博陸
- I4118 **方隣**(みちか・植田うゑだ、)1808-187164 備中倉敷の商家/国学者、[方隣(;名)の通称/号]通称;助右衛門、号;芳斎、屋号;児島屋
通周(みちか・稲葉) → 知通(ともみち・稲葉いなば、藩主) Q 3 1 6 4
- B4186 **道嗣**(みちつぐ・近衛このゑ、基嗣男/本姓;藤原)1332-8756 母;藤原嗣実女、廷臣;1338従三位/内大臣、右大臣/1355従一位/60左大臣/61関白;氏長者、漢詩文に秀づ;「菟玖波集真名序」作、日記「愚管記」/1381「大臣大饗記」、「弘法大師行状図画」書、歌人;歌会主催、1356延文百首参加、勅撰41首;風雅(323/818)/新千載(5首;82以下)/新拾(9首)/新後拾(19首)/新続古(6首)[待ちえてもたどるばかりの一声はききてかひなきほととぎすかな](風雅;夏323)、[延文百首歌(131/花)奉りし時 花、高砂の松の木のに咲く花や尾上にたてる雲と見ゆらん](新千;春82)、[道嗣(;名)の通称/号]通称;堀川関白、号;後深心院のちのしんじんいん、兼嗣の父
- H4143 **三千継**(みちつぐ) ? - ? 江中期;大和芝村の俳人、1754潘山(百子)「しぐれの碑」(貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、[世に朽ちず其の名桜や幾時雨](しぐれの碑/貞峨の高津菩提庵にて)
- B4187 **通繫**(みちつぐ・中院なかのいん、通知男/本姓;源)1789-186375 廷臣;1815従四下侍従/1824致仕、「中院通繫日記」「補任略記」/1826「智恵却円如大姉凶事日記」著、「中院通繫雑抄」編
- 4109 **道綱**(みちつな・藤原ふじわら、兼家男)955-102066 母;藤原倫寧女(「蜻蛉日記」の作者)、廷臣;987従三位、9991参議/997大納言/1001正二位/1020出家;翌日没、奇矯な性格;[素食尸位そさんい]の称(小右記などに逸話入)、978-995「道綱記」著、986花山天皇退出事件に弟道兼と画策したか、道命阿闍梨・美作三位の父、歌;1007頃「傳大納言道綱歌合」主催、986花山天皇催「寛和二年内裏歌合」参加、玄々集・万田集・秋風集入、勅撰4首;金葉Ⅲ367/詞花208/新勅730/玉葉1654、[七夕にけさ引く糸の露重みたわむけしきを見でややみなん](金葉Ⅲ367/詞花208;恋)、(三句まで「たわむ[態度が和らぐ]」の序/七夕に因み靡かぬ女に贈/道綱母代作説あり)、[道綱(;名)の通称]傳の殿/傳大納言、道隆・道兼・道長・東三条院詮子の異母兄弟
- K4148 **益綱**(みちつな・真野まの、旧姓;渡辺)1834-191279 尾張名古屋の国学者/津島社社家真野家の養子、尾張海東郡の津島神社祠官
光綱(みちつな・柳原) → 光綱(みつな・柳原、歌人) D 4 1 8 8
- 4110 **道綱母**(みちつなのいは・藤原ふじわら、藤原倫寧ともやす女)934?-995?62? 母;源忍女or藤原春道女、954藤原兼家妻、本朝第一美人三人内(尊卑分脈)、955道綱出産、972源兼忠女所生の兼家女を養女、「蜻蛉日記」著、家集「傳大納言殿母上集(道綱母集)」、986「寛和二年内裏歌合」参加、993「帯刀陣歌合」入、中古36歌仙の1、麗花集・金玉集・玄々集7首・新撰朗詠集・続詞花集・万代集・秋風集入、

勅撰41首;拾遺(6首102/530/912以下)後拾(7首700/823/869以下)金Ⅲ(3首)詞(2首)以下、
[なげきつつ独り寝る夜の明るく間はかに久しきものとかはしる](拾912/蜻蛉日記)、
藤原長能の姉妹/菅原孝標の室(更級日記作者の母)の姉、清少納言・紫式部とも縁戚関係
道綱女(みちつなのむすめ) → 美作三位(みまさかのさんみ、藤原道綱女豊子/女房歌人) F 4 1 8 4

- B4188 **道経**(みちつね・藤原ふじわら、初名;家隆、顕綱男)1060?-? 母;藤原隆経女、平安後期廷臣;従五上、
和泉守、歌人;1104俊忠家歌合・16六条宰相家歌合・18新中将家歌合・34頭輔歌合参加、
藤原忠通家歌会の常連、1113-41頃藤原忠通・為忠・家成らの歌合に/出詠、綽名;ねずひさ、
1138俊成(姉の孫)を基俊に紹介、後葉集・続詞花集2首・言葉集・万代集入集、
勅撰20首;金葉(323/375)詞花(176/234/371)千載(6首)新古(3首)続後撰(2首)以下、
[君が代は幾いよろづよか重ぬべき伊津貫川いづぬきはの鶴のけごろも](金葉;賀323)、
(伊津貫川は美濃の糸貫川の古称;古く大嘗会の大歌の歌枕)、
兼子[伊予三位]・長子[讃岐典侍]・藤原実信母らの兄弟、
出家後法名蓮寂か? → 蓮寂(れんじやく、詞花歌人) B 5 1 1 2
- B4189 **道恒**(みちつね・山内やまのうち/やまうち、道慶男)1719-9779 陸前本吉郡入谷村養蚕家;篤農家の父を継嗣、
仙台藩領内北部に桑数十万株植樹;仙台平用の良質生糸を生産/1770藩士に列す、
郡奉行支配番外士/大番士/生糸方売方吟味役;禄122石、天明飢饉救済・藩財政援助に尽力、
1790「民家蚕桑記」著、
[道恒(;名)の通称/法号]通称;甚兵衛、法号;清涼院
- I4184 **通恒**(みちつね・吉良きら、号;得中)1725-8864 伊予松山の歌人
- I4168 **道恒**(みちつね・柏淵かしづち、松庵[道広/三千広]男)1778-184568 美濃多芸郡高田の国学者;
富樫広蔭門、
[道恒(;名)の通称]友治
- L4110 **道恒**(みちつね・新井あらい、道雄男)1815-9581 信濃伊那郡の豪農、国学者/歌人
[道恒(;名)の通称]通称;助三郎/弥右衛門
- K4168 **通庸**(みちつね・三島みしま、通純男)1835-8854 母;秀、薩摩鹿児島藩士/代々御能方鼓役、
急進的尊攘派;1862(文久2)寺田屋騒動に連座;謹慎、長州征討参加、藩内の廢仏に関与、
戊辰戦争参加/維新後;会計奉行/都城地頭、1871東京府出仕;権参事/各地県令を歴任;
わっぱ騒動・福島事件など弾圧多数、1884内務省土木局長/85警視總監;
三大事件建白運動を弾圧/保安条例を執行し民権活動家を東京から追放、
[通庸(;名)の通称]通称;林太郎/弥兵衛/別姓;千木
- 通経(みちつね・鈴木/稲葉)→ 迂斎(うさい・稲葉いなば、儒者) B 1 2 3 0
道恒(みちつね・大塚) → 松勉(しょうけん・大塚おおつか、藩儒/剣術) T 2 2 1 2
道恒(みちつね・黒沢) → 道形(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家) B 4 1 3 4
道彝(みちつね・池田) → 斉稷(なりとし・池田いけだ、藩主/歌人) K 3 2 3 5
- K4123 **通積**(みちつね・東久世ひがしぐぜ、博高2男/本姓;源)1708-6457 京の廷臣;権中納言/従二位、
垂加神道;竹内たけのうちの式部門、1758(宝暦8)宝暦事件に連座;辞職/60出家、64(明和元)没、
[通積(;名)の通称/法名]通称;五十丸、法名;思寛
- B4190 **道貫**(みちつね・仁井田にいだ、通称;助左衛門)?-? 紀伊海部郡加太の農業、南陽の父/稚岡の祖父、
1773和歌山藩士;御用部屋写物に出仕、のち藩留守居番20石、1812「雲上譜略凡例」著
- B4191 **道貫**(みちつね・本庄/本荘ほんじょう、吉田藩主松平信明男)1797-185862歳 三河吉田藩江戸藩邸の生、
美濃高富藩主本庄道昌の養嗣;婿養子、1819高富藩主襲封/従五下遠江守・伊勢守・安藝守、
大番頭/伏見奉行/奏者番/1841若年寄、藩政改革;農民に植林・家臣に儉約を命ず;抵抗多、
正室;本庄道昌女の蕃げ、後室;須坂藩主堀直皓女千勢ちせ、道美の父、
歌;「中山美石一周忌追悼和歌」1858「二葉ふたば集」著、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(妻千勢[千世子]と共に入集)、
[桜花まだ咲かねども春立てば霞ぞにほふみ吉野の山](大江戸倭歌;17早春山)、
[こし方を思へば夢の心地してうつつに濡らすけふの袖かな](同;雑1902、
撰津守正敦[堀田、1755-1832]の七回忌に往時如夢といふことを)
[道貫(;名)の幼名/通称/法号]幼名;陽之助、通称;主殿とのも/安藝守、法号;大善院
- B4192 **通貫**(みちつね・越智おち、通称;小林造酒助みきのすけ)?-1880 伊予弓削の国学者/今治藩校克明館教授、

歌に長ず、「瓊綸八衢合鏡」「活語口伝書」著

通貫(みちつら・坂倉) → 澹翠(たんすい・坂倉さかくら、詩人) I 2 6 9 1
通貫(みちつら・中院なかのいん) → 通村(みちむら・中院/源、廷臣/歌人) 4 1 2 1
道貫(みちつら・井原/中村) → 徳水(とくすい・中村、心学者) L 3 1 0 9

4119 通光(みちてる・みちみつ・久我こが、土御門通親男/本姓;源;村上流) 1187-1248 母;藤原範兼女の範子、
廷臣;1201従三位/05正三位/18大納言/20内大臣/21承久乱後致仕/後深草天皇即位後復帰、
1246太政大臣/従一位、歌人;1201父主催「影供歌合」・01千五百番歌合・05元久詩歌合参加、
1216内裏百番歌合・19内裏百番・36遠島・47後嵯峨院歌合など参加、1217「右大将家歌合」催、
「歌仙落書」「続歌仙落書」著/1207「最勝四天王院障子和歌」「最勝四天王院名所障子和歌」、
勅撰50首;新古今(14首25/2598-権大納言)新勅撰(4首388-前内大臣)、

続後撰(4首;後久我太政大臣)続古今(2首;後久我前太政大臣)続後拾遺(4首)以下、
雲葉集(9首/後久我太政大臣名)入/連歌;菟玖;2句入、久我通忠の父、徒然草百段;逸事入、
[三島江や霜もまだひぬ蘆の葉につのぐむほどの春風ぞ吹く](新古;春25/元久詩歌合)、
(本歌;三島江につのぐみわたる蘆の根のひとよのほどに春めきにけり/後拾;曾祢好忠)
[通光の称] 後久我前太政大臣のちのこがさきのだいようだいじん/後久我太政大臣

B4193 充輝(みちてる・吉成よしなり、剣術家渡辺友綱男) 1663-1742 吉成家の養子;羽後秋田藩士、
儒;木村松軒門;高弟、1688小姓/江戸藩邸兵員役;江戸と羽後久保田を往復、1694路地役、
1707文書改役/09文書所で藩主の伝記作成着手/師の松軒と修史作業;1720「佐竹家譜」著、
剣術;実父門;柳生心陰流の免許皆伝;剣術指南、
[充輝(;名)の通称/号]通称;藤兵衛、号;存養堂

K4117 通光(みちてる・肥田ひだ、) 1814- 1880 美濃中津川宿の庄屋;肥田家10代目、
幼年より俳諧(俳号;馬風うまかぜ)、国学者;平田鉄胤門、1864(文久4)上洛し国事奔走、
戊辰戦で東山道軍木曾路通行を嚮導、1868(慶応4)木曾谷百姓一揆で嘆願書提出;収拾、
藤村[夜明け前]の小野三郎兵衛のモデル、
[菊折つてすててまた折る山路かな](旭ヶ丘公園馬風句碑)

[通光(;名)の字/通称/号]字;士孝、通称;九郎兵衛、号;馬風うまかぜ、屋号;田丸屋

K4105 道任(みちとう・野瀬のせ、初名;靱雄/通称;平次郎) ?-? 江後期;飛騨高山の地役人、
国学・歌;山崎弘泰(地役人頭取/1797-1862)門

B4194 通遠(みちとお・越智おち/河野、越智通盛の長男) 1318-33 討死 16 武将;壱岐守、
元弘年中に父通盛と京の合戦に参加;1333(元弘3)討死、連歌作者;菟玖波集1句入、
[老のゆふへはいまゝての秋](菟;雑1114/前句;憂ことは我命にやかきるらん)

通治(みちとお・梅溪) → 通治(みちとほ・梅溪うめたに、廷臣/神職/歌) I 4 1 2 0

道遠(みちとお・松岡) → 道遠(どうえん・松岡まつおか/津村、医者) V 3 1 7 2

B4195 道時(みちとき・源みなもと;宇多流、大納言経信男) 1045-1120 母;源貞亮女、平安後期廷臣;
正四下大宮亮、右近少将/刑部卿/1106蔵人頭、基綱・俊頼の兄、琵琶の名手、
歌;1075-8内裏歌合に2度参加、1075「承保二年九月殿上歌合」参加、万代集入、金葉集137、
[五月雨に玉江たまえの水やまさるらん蘆あしの下葉のかくれゆくかな](金葉集;二夏137)、
(1078内裏歌合;八番左15勝)

L4112 道時(みちとき・橘たちばな、下総守仲任男) ?-? 平安後期廷臣;備中守/正五下、道貞(陸奥守)の兄、
歌人;備中赴任時の歌;1046-54成立[玄々集](62)・1165清輔[続詞花集](718)入、
[備中介にてくだり侍りける時 道にてよみける、

しながどりみなのわたりに旅寝して吉備の中山いつかこゆべき](続詞花;旅718、
5句;玄々;なにか越ゆべき/息長鳥;かいつぶり/雌雄が居並ぶ意から[みな]の枕詞)

B4196 通時(みちとき・北条ほうじょう、有時男/本姓;平) ?-? 1266 存 武将/廷臣;高陽院蔵人/式部大輔、
歌人;勅撰2首;玉葉610/続千載1174、
[鳴く虫の声も乱れてきこゆなり夕風わたる岡のかやはら](玉葉;四秋610)、
[通時(;名)の通称] 駿河五郎

J4118 通節(みちとき・境田さかだ、) 1645-1714 薩摩鹿兒島藩士、盲目・国学者/歌人
[かく計祈るかひなき神無月世はうき時と時雨ふるなり]、
(1705大玄院[藩主島津綱貴]の逝去によめる;得能通昭「石馬集」入)

- 4111 **通俊**(みちとし・藤原ふじら、経平男)1047-99**53** 母;高階成順女、信家の養子/廷臣;藏人頭/右京大夫、1084(応徳元)参議/右大弁/86従三位/右兵衛督/太皇太后宮権大夫/88正三位、92大蔵卿、1094(寛治8)権中納言/治部卿/従二位;白河院近臣、99(承徳3)没、有職故実家;「ものかく宰相」の評(今鏡)、詩歌人;1075白河天皇の勅撰集撰進の命あり、1078内裏歌合参加/86経平亭通宗朝臣女子達歌合;判者、1086「後拾遺和歌集」編纂奏覧、1093郁芳門院根合参加、「後拾遺問答」/「続新撰」編、1077「法勝寺供養記」86「通俊卿記」88「高野御参詣記」著、詩;中右記部類紙背漢詩集・別本和漢兼作・和漢兼作集入、歌;後葉集・続詞花4首・言葉・万代集・雲葉集入勅撰27首;後拾遺(5首108/136/346/532/731)金葉(241/324/384)詞花(68/268)以下[春のうちは散らぬ桜と見てしがなさてもや風のうしろめたきと](後拾;108/内裏歌合)、[白河院の御時(在位1072-86)題をさぐりて殿上の人々に歌よませさせ給ひけるに 朝霧、山里は霧立ちこめて人もなしあさたつ鹿のおとばかりして](続詞花;秋213)
☆通宗・藤原実季室・長実母の兄弟、伊勢大輔の外孫
- B4197 **通敏**(みちとし・中院なかのいん、初名;通清、法名;正綱、通冬男/本姓;源)?-? 南北期廷臣;1381参議、1385正四下/89通敏と改名、1411出家、通氏の弟、歌人;新続古今3首1518/1700/1980、[思ひのみますみの鏡せめてさほうき面影は残らずもがな](新続古;恋1518/百首歌)
- I4107 **道利**(みちとし・小豆沢あざきざわ、通称;七十郎)?-? 江後期;出雲神門郡朝山村の農業、国学・歌;島重老しげおい(1792?-1870)門、
- B4199 **通敏**(みちとし・守田もりた)1822-1894**73** 長門萩藩士;江戸詰/浦賀陣営に勤務、維新後は熊毛郡周防村に帰郷、1860「詠史集」著、[通敏(;名)の字/通称/号]字;伯修、通称;平右衛門、号;敬斎/城山/迎風楼
- J4169 **道年**(みちとし・武田たけざわ、出川いづかみ清流する男)1831-94**64** 出雲八束郡の生/歌人;父門、意宇郡来海郷の武田家継嗣、国学・神道・歌;島重老しげおい・千家尊澄たがずみ・島重養しげかい門、1880-81「類題一名一首百吟」編、尊澄「歌神考」の跋文筆、[道年(;名)の通称/号]通称;兵太郎/兵太夫/文一郎/郎子、号;梅の園
道智(みちとし・西) → 道智(どうち;名・西にし、医者/古典研究)G 3 1 3 7
道敏(みちとし・梅井) → 一室(いっしつ・梅井とがのい、書肆/歌人) B 1 1 4 7
道年(みちとし・中村) → 道紀(みちのり・中村なかむら、医者、国学者)H 4 1 5 9
通俊(みちとし・望月) → 周助(しゅうすけ・望月もちづき、藩士) X 2 1 7 7
通敏(みちとし・大庭) → 惟香(これか・大庭おおば、国学/歌人) Q 1 9 5 5
三千歳(みちとせ・麟馬亭) → 麟馬亭三千歳(りんばていみちとせ、戯作者) K 4 9 7 5
三千年(みちとせ) → 公明(きみあき・河内かわうち、医者/国学/歌)M 1 6 0 0
- I4120 **通治**(みちとほ・梅溪うめたに、通善の長男)1831-1916**86** 京の廷臣;右近衛権少将/石清水八幡宮司、平野神社宮司/稻荷大宮司歴任、権中教正/従二位、勤王88廷臣の1、国学者/歌人
- I4162 **通福**(みちとみ・愛宕おたぎ/中院なかのいん/本姓;源、彦山座主岩倉有清3男)1634-99**66** 母;日野忠宥女、中院通純の猶子、幼少時;後光明天皇の稚児やす丸として出仕/1647従五位上侍従/正五下、正保1644-48頃;愛宕家を再興;村上源氏;中院家庶流/家格;羽林家、有職故実を職;130石、1655左少将/60(万治3)従四上/61(寛文元)左中将/68従三位/75正三位/81参議、1687(貞享4)権中納言/94(元禄7)従二位権大納言;95辞任、歌人、妻;千種有能の女;通晴・福子(霊元天皇掌侍の源内侍)を産む、[通福(;名)の一字名/法号]一字名;佐・保、法号;智正院
- J4103 **道富**(みちとみ・黒沢くろざわ、4代道朗男)1670-1737**68** 出羽久保田(秋田)藩士;父早世/3代道重の嗣子、1681(天和元/12歳)黒沢家5代継嗣/91大小姓頭、94(元禄7)祐筆支配(指南)、国学者、1701小野寺六郎左衛門を新田20石で召抱える事を申請;許可される、妻;定之女/後妻;梅津敬忠女、1719十右衛門道矩が6代の家督嗣、[道富(;名)の通称]八太郎/伊兵衛/小内蔵
- C4100 **通富**(みちとみ・中院なかのいん/本姓;源、徳大寺実堅男)1823-85**63** 母;醍醐輝久女の信子、中院通繫みちつぐの養子、廷臣;1857参議/58安政の条約勅許の勅問に関与;幕府案に反対、1865正二位/68権大納言/新政府参与、1840-41「完用記」、「通富記」、「加勢中備忘」著

- C4101 **通禧**(みちとみ・東久世ひがしきぜ、通徳男/本姓;源) 1834-191280 母;信子(旧姓;柳沢)、京丸太町の生、
 廷臣;1842(天保13)童形のまま東宮に出仕/49(嘉永2)侍従/62(文久2)国事御用掛、
 1863国事参政、尊攘を主唱;政変により三条実美らと西下/官位停止、67王政復古で参与、
 1868軍事参謀/新政府の外交事務/69第2代開拓長官;箱館でガルトル開墾条約事件の和解、
 1871侍従長/岩倉具視の欧米巡視に随行/77元老院議員/84伯爵、88枢密顧問官、
 1863-67「西航日記」/「東久世通禧日記」/「竹亭回顧録維新前後」著、
 [通禧(;名)の幼名/字/号/変名]幼名;保丸、字;熙卿、号;竹亭/古帆軒、変名;大藪竹斎
- 4112 **通具**(みちとも・源みなもと;村上流/通称;堀川大納言、土御門通親男) 1171-122757 鎌倉期廷臣、
 母;平教盛女or通盛女、1201参議/08正二位/22大納言、妻;俊成卿女(俊成の孫)、
 歌;1201新宮撰歌合参、1201千五百番歌合参加、05新古今集撰者、18順徳中殿御会参、
 妻と「通具俊成卿女歌合」催、万代集・秋風集・和漢兼作集・夫木抄入集、
 勅撰37首;新古(17首46/96/239/294/374/以下)新勅撰(3首553/680/1243)続後撰(481)、
 続古今(4首144/以下)続拾(960)新後撰(1022)以下、
 [梅の花たが袖ふれしにほひぞと春や昔の月に問はばや](新古今;46/千五百番歌合)、
 (本歌;色よりも香こそあはれと思ほゆれ誰が袖触れし宿の梅ぞも;古今/読人不知)
- C4102 **通誠**(みちとも・久我こが、右大臣広通男/本姓;源) 1660-171960 母;貞清親王女、兄通名の嗣子、
 廷臣;1675従三位/1709内大臣/11従一位、歌;中院通茂門、1700中院通茂七十賀和歌参加、
 1689「伊勢一社奉幣宣命禄記」/1715「播州曾禰社御奉納和歌」、「通誠公記」/「貞暦」外著多数、
 [通誠(;名)の別号/法号]別名;時通(;初名)/通縁/通規、法号;得自性寺浄空覚性
- H4146 **道知**(道智みちとも・太田おた/池上)?-? 江中期宝暦(1751-64)頃紀伊牟婁郡の医者、
 紀伊藩士;紀伊家石格、歌人;冷泉為久・為村門、1798刊広通「霞関集」入、
 [立ちおほふ霞と見しは空めて月は雪げの影ぞくもれる](霞関;春50/余寒月)、
 [道知(;名)の別号/通称]別名;茂弘、通称;源兵衛/次郎左衛門
- C4103 **通知**(みちとも・中院なかのいん、通古男/本姓;源) 1771-184676 廷臣;1815参議/21正二位/24権大納言、
 歌人;「中院通知詠草」/「中院通知御歌会詠進集」/「中院通知和歌書法」、「知水記」外著多数、
 法号;守節心院、通繫みちつぐの父
- K4198 **通朝**(みちとも・渡辺わたなべ、) 1800-186970 周防岩国の国学者/神道・歌;森脇惟久門、
 [通朝(;名)の通称]新十郎/三郎兵衛/通仙
 通智(みちとも・河野) → 通尹(みちただ・河野こうの、儒者/詩文) B 4 1 8 0
- C4104 **通虎**(みちとら・嶋しま、立甫男) 1746-181772 陸中の医者;1769盛岡藩医/故実・旧記に通ず、
 俳人、「登曾双紙」/「風景歌仙」著、
 [通虎(;名)の通称/号]通称;玄泰、号;不昧庵/墨智
- H4116 **通名**(みちな、姓不詳) ? - ? 室町後期河野通直家の家臣?/連歌;
 1482通直願主「大山祇社法楽連歌」(万句)参加
- C4105 **道直**(みちなお・藤原ふじわら、号;富小路、道平男)?-? 南北期廷臣;左衛門佐/正四下/遁世、富小路家祖、
 医術;伯父覚通法師門、二条良基の弟、菟玖波2句入;483/1556、
 [木の葉吹く風より月はあらはれて](菟玖波;六冬/前句;松はかりには冬かれもなし)
- H4119 **通修**(みちなお・) ? - ? 連歌;1445大山祇神社法楽連歌;百韻・千句連中
- C4106 **通直**(みちなお・河野こうの、通久男/本姓;越智)?-1500 武将;伊予湯築城主、幼少より足利將軍家近侍、
 伊予守護/刑部大輔、1441嘉吉乱に赤松満祐を攻略、予州家の河野通春と相続めぐる争い、
 1467応仁乱には山名宗全に与し戦功;伊予守護を確保、
 1445大三島大山祇神社に「法楽連歌百韻」願主;奉納、
 1480「文明十二年四月通直其阿等大山祇社法楽千句」奉納(通直名)、
 1482「大山祇社法楽連歌万句」願主;奉納(通直名)/98同社本堂を修造、
 通宣みちのぶの父、弾正少弼通直みちなおの祖父
 [通直(;名)の幼名/初名/号]幼名;犬正丸/亀王丸、初名;教通のりみち、
 号;富春斎、剃髮号;道治/道基、諡号;善応寺殿
- C4153 **通直**(みちなお・河野こうの、弾正少弼、通宣男/本姓;越智) 1500-157273 武将;1519伊予湯築城主、
 娘婿の来島通康を跡目;家臣団と予州家通存の反発/通康と共に来島城へ退去
- H4132 **通直**(みちなお・河野こうの/本姓;越智、伊予守、通吉男?) 1564-87早世24 武将;

- 1569伊予湯築最後の城主;大野直之の反乱、小早川隆景に降伏;竹原で病死
- L4105 **通直**(みちなお・田辺たなべ、) ? - ? 江前期上方の武士/歌人;
1670下河辺長流「林葉累塵集」3首入、妻・娘も歌人;同集に多数入集
[朝日まつ霜はつれなきささの上にまだきとけぬる鶯のこゑ](林葉累塵;春39)
- C4107 **道直**(みちなお・野口のぐち、別名;祗一いち) 1785-1865 81 尾張枇杷島の青物問屋/歌人/国学書を読む、
1844「尾張名所図会」編/53「小治田之眞清水」編、遺墨菟集;1863尾張藩より苗字を許可、
「尾張高名家居所案内」「新続群書類従目録」「六国史撮記」編/「梅処漫筆」(恒固と)著、
尾張名所図会執筆出版に財産の半分を費す、
[道直(;名)の通称/号]通称;8代市兵衛、号;梅居/汲古堂/全花楼/継志軒、法号;梅居軒
- J4157 **道直**(みちなお・大條おおえだ、道英男) 1790-1877 88 仙台藩士;1814(文化11)出仕、大條本家15代;
亙理郡坂元領主/1819(文政2)伊達斉義に随従し江戸城登城、
1821(文政4)権番頭/22権大番頭/24近習兼任/1826(文政9)若年寄、
1832(天保3)奉行職/仙台城内の茶室を拝領し城下の川内筋違橋の自邸に移築、
1843(天保14)病で辞任隠居;弟道治を嗣子、1877(明治10)没、
[道直(;名)の通称/号]幼名;多聞、通称;監物、号;是水
- H4188 **道直**(みちなお・永島ながしま、通称;市助) ?-? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[山里の日影もうすき夕暮れに秋風さびし落じひの音](大江戸倭歌;秋1021/秋視聴)
- 通直(みちなお・河野、弾正少弼通直の祖父) → 教通(のりみち・河野、武将/連歌) G 3 5 4 4
通直(道直みちなお・藤木) → 生直(なりなほ・藤木ふじき、書家) H 3 2 8 4
通直(みちなお・柏木) → 眞海(しんかい・柏木かじわぎ、幕臣/儒者) D 2 2 6 6
道直(みちなお・村田) → 良穂(よしほ・村田むらた、国学者) G 4 7 9 1
- L4106 **通直妻**(みちなおのつま・田辺たなべ、) ?-? 江前期上方の歌人;
1670下河辺長流「林葉累塵集」80余首入、夫・娘(姉妹)も歌人;同集に入集、
[みちのくにに有りてかの国の名あるところどころをつくして読みける歌の中に、
東路のなこそをだにも越えぬれば春にはさはる関やなからん]、
(林葉累塵;春5/多くの陸奥の歌枕の詠が入集、娘[姉]が夫に随い陸奥滞在の為か)
- L4107 **通直女**(みちなおのむすめ・田辺たなべ、) ?-? 江前期上方の歌人;
1670下河辺長流「林葉累塵集」24首入、両親も歌人;同集に入集、
[姉のおとこにつきてみちの国より外のくにへまかりける時よめる、
いざといふ人をたよりにいづくまであねはの松のいなんとすらん、
返し、
風の音は絶えずきこえむ雲居にもあねはのまつのあらん限りは]、
(林葉累塵;雑1021-2)
- C4108 **通央**(みちなか・竹村たけむら、医者成田恭庵男) 1783-1853 71 尾張古渡の生、
名古屋藩士竹村順八の養子、尾張名古屋藩士;1800台所人見習/賄人/賄人頭、
1842小納戸詰頭格、故実・考証に精通、1814「知行考」著、17「尾張家儀物軌式」編、
1833「不足餅之考」、「喜暦元様談」「京都装束鈔」外著多数、
[通央(;名)の通称/号]通称;逸平、号;汀鷗斎/東亭、法号;遠離院
道仲(みちなか・久米) → 道香(みちか・久米くめ、医者/歌人) I 4 1 9 3
- 4113 **道長**(みちなか・藤原ふじわら、兼家男) 966-1027 62歳 母;藤原中正女の時姫、平安中期廷臣;987従三位、
995内覧宣旨/996甥の伊周・隆家の花山院奉射事件による配流以後政治の実権を掌握、
999女彰子の入内/1008女彰子の敦成親王(後一条天皇)出産/1015後一条天皇即位;摂政、
1017従一位/太政大臣/1019出家;法成寺造営、妻;源雅信女倫子と源高明女明子、
詩歌;986花山天皇催「寛和内裏歌合」参加、1003「太政大臣殿三十講歌合」ほか詩歌会主催、
「御堂関白集」、日記「御堂関白記」、和漢朗詠・玄々・新撰朗詠・続詞花・万代・秋風集等入集、
勅撰43首;拾遺(1064/1165)後拾(4首17/416/1103/1112)詞花(161)千(3首)新古(5首)以下、
「この世をばわが世とぞ思ふ望月のかけたることのなしと思へば」、
(1018. 10. 16 女威子立后し本宮の儀に詠)、
[後一条院(1008-1036/道長孫)の御いか(五十日)のひよみ侍りける、

いかにいかがが数へてやるべき八千年のあまり久しき君が御代をば] (続詞花; 賀332)、
[道長(;名)の通称/法名]通称; 御堂関白(しかし関白にはならなかった)/法成寺殿/
入道前太政大臣、法名; 行観/行覚、
道長の兄弟姉妹; 道隆・道兼・道綱・超子(三条天皇母)・東三条院詮子(一条天皇母)ら、
子; 頼通・頼宗・能信・顕信・教通・長家・上東門院彰子(一条天皇皇后・後一条天皇母)、
妍子けんし(三条天皇皇后)・威子(後一条天皇中后)・嬉子(後冷泉天皇母)ら

- H4114 **通永**(みちなが、姓不詳) ? - ? 室町後期河野通直家臣?/連歌;
1482通直願主「大山祇社法楽連歌」(万句)参加
- L4124 **通長**(みちなが・河野こうの、法号; 了心、) ?-1692 江前期; 幕臣旗本; 5百石、大番組頭、歌人、
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[行く雁の心よいかに帰るさを忘るならひの花に別れて](若むらさき; 31)
- I4169 **道長**(みちなが・片岡かたおか、旧姓; 中村) 1824-8966 丹波福知山の国学者、但馬生野銀山役、
[道長(;名)の通称/号]通称; 小源太、号; 白頭/梅翁
道長(みちなが・桜井) → 春樹(はるき・桜井さくらい、歌人) K 3 6 0 4
- C4109 **通夏**(みちなが・久世くげ/本姓; 源、中院なかのいん通茂みちしげ男) 1670-174778 母; 小笠原政信女、
久世経式の養嗣子、廷臣; 1702従三位/34正二位/36権大納言、歌学; 実父通茂門、
1706「雲上和歌集」編/「百人一首」著、
[通夏(;名)の別号/法号]別名; 顕長(;初名)/通清、法号; 詠雲院
- C4110 **道濟**(みちなり/どうさい・源みなもと; 光孝流、方国男) ?-1019 源信明の孫/廷臣; 文章生、藏人/式部少丞、
筑前守兼大宰少弼/1018正五下/19筑前で没、詩: 大江以言門、歌人、一条朝を代表する文人、
長能と拾遺集編纂に助力、999(長保元)道長家歌合参加/1001庚申作文会で序者、
1004道長邸の詩宴参列、道長催「太政大臣殿三十講歌合」参加、
詩文; 麗藻・文粹・扶桑古文集・和漢兼作集等入集、袋草紙; 藤原為時との逸話など入、
歌; 「道濟十体」/家集「道濟集」/「和歌十体」著、激しやすく[船路君]と綽名(江談抄)、
玄々集5首・新撰朗詠集・後葉集・続詞花集(13首)・万代集・雲葉集など入、
勅撰61首; 拾遺(461)後拾遺(22首125/126/135/177以下)金葉(281、Ⅲ6首)詞(6首)以下
[行末のしるしばかりに残るべき松さへいたく老いにけるかな](拾遺; 雑461/玄々; 113)、
(詞書; 河原院の古松を詠む/河原院は源融の旧宅で陸奥塩竈の浦の景を模したという)、
[忍ぶれど涙ぞしるき紅みにももの思ふ袖はそむべかりけり](玄々; 114)
- C4111 **道成**(みちなり/みちしげ・源みなもと; 醍醐流、源則忠男) ?-1036 母; 源仲忠女or藤原由忠女、廷臣; 正四下、
東宮少進/右衛門佐/若狭守/信濃守/因幡守/右馬権頭を歴任、則成・兼長の父、
歌人; 「道成集」、後拾遺集578、諸説には源道濟みちなりとの混同がある、
[ゆゝしさにつゝめどあまる涙かなかけじと思ふ旅の衣に](後拾遺; 十哀傷578)
(妻を亡くした女婿藤原兼綱の越前への旅立に装束を贈る歌)
- L4110 **道成**(みちなり/みちしげ・藤原ふじわら、) ?-? 平安鎌倉期; 廷臣、
歌; 1237刊[檜葉集]入、
[月の頃奈良の方に下りて知りたりける人にあひて後つかはしける、
そのままにくもりはてなばいかがせむうらみにふけし山の端の月](檜葉; 雑820)
- C4112 **通成**(みちなり・中院なかのいん、通方男/本姓; 源) 1222-8665 母; 藤原能保女、廷臣; 1242藏人頭、
1242従三位左中将/43参議/檢非違使別当/45正三位/47権中納言/52権大納言、
1254正二位、60淳和奨学両院別当/65大納言/69内大臣、70出家; 奨学院・淳和院別当、
1257「後中御室御得度記」著、歌人; 1247院十首歌合/51影供歌合参加、
1265当座歌合・龜山殿五首歌合など参加、万代・秋風集・雲葉集入、
勅撰28首; 続後撰(345/783/1362)続古今(476/1072/1277)続拾(6首)新後撰(3首)以下、
[秋の夜は須磨の関守すみかへて月やゆききの人とどむらん](続後撰; 秋345/左衛門督)、
[秋深くなりゆくまにさをしかのいる野の草もうらがれにけり](雲葉; 461/大納言名)
[通成(;名)の法名/通称] 法名; 性乗しょうじょう、通称; 三条坊門
- C4113 **道就**(みちなり・菅原すがわら、初名; 道成/通称; 孫兵衛) 1755-181763 羽後久保田(秋田)藩士; 銅山吏、
国学者/歌人、「傑士録」「菅原家集」著
- C4114 **道濟**(みちなり・前田まへだ、別名; 路博みちひろ、通称; 織江、道柯男) ?-1830 加賀金沢藩士; 1791父を継嗣、

- 1792奏者番、94小松城番/96世子前田齊広付き/97若年寄/1830致仕;没、
1794「前田姓老人在番被仰付覚書」、「小松城番方旧記抜書」「金谷御殿出席日記」外記録多、
- K4182 **道成**(みちなり・森田もりた、旧姓;湯口)1815-7561 備前磐梨郡円光寺村の森田家の養子、
市場村の庄屋として活躍;1860(万延元)豊田村の大庄屋、国学・歌人;平賀元義門、教育、
維新後;1869議頭補/岡山藩議員に参加/72戸長、「堰手之舎八詠」著、
[道成(;名)の通称/号]通称;彦四郎/輅九郎らくろう、号;堰手之舎いでのおや
- H4196 **道也**(みちなり・中田なかた) ? - ? 江後期;歌人、幕臣or藩士?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[もののふは弓を袋に納めおく御代にあふとも昔忘るな](大江戸倭;雑1970/教訓の心)
- 道也(みちなり・今西) → 小道(こみち・初世柳条亭、商家/狂歌) F 1 9 8 8
道成(みちなり・目黒) → 目黒道成(めぐろのみちなり、狂歌) 4 3 5 1
道成(みちなり・桜井) → 道考(みちたか・桜井さくらい、代官/歌人) I 4 1 8 2
- C4115 **通根**(みちね・みちもと・久世くぜ/本姓;源、栄通男)1745-181874 母;久世通夏女、廷臣;1775従三位、
1792参議;従二位/1803正二位/05権大納言、歌人、「節会参議要」著
- K4112 **道根**(みちね・羽石はねいし/本姓;藤原、)1808-6255 出羽秋田郡湊町の国学者;平田篤胤門、
松田道政の弟、
[道根(;名)の通称]文之助
- C4116 **陸奥**(みちのく・陸奥守橋たちばな葛直女)?-? 平安前期女房歌人、古今集992、父はのち石見権守、
[飽かざりし袖のなかにや入りにけむわが魂たまひのなき心地する](古今;雑992)、
(女友達と会話し別れた後の放心状態)
- 陸奥(みちのく・陸奥守藤原朝光or朝元女)→ 陸奥(むつ・皇太后宮、女房歌人) 4 2 9 2
陸奥茂太夫(みちのくもだゆう・藤原浄慈)→ 茂太夫(しげだゆう・陸奥、浄瑠璃太夫) C 2 1 3 8
道之丞(通之丞みちのじょう・葛西/佐藤)→ 一清(かずきよ・佐藤/葛西、和算家)M 1 5 1 8
道之助(みちのすけ・松平)→ 頼該(よりかね・松平まつだいら、藩士/宗教家) I 4 7 5 4
道之助(みちのすけ・仙石)→ 久利(ひさとし・仙石せんごく、藩主/騒動/歌) I 3 7 4 9
道之助(みちのすけ・浮田)→ 正家(まさいえ・浮田うきた、歌人) N 4 0 9 5
道之輔(みちのすけ・飯田)→ 正隆(まさたか・飯田いいだ、神職/歌) N 4 0 4 7
- C4117 **道信**(みちのぶ・藤原ふじわら、為光男)972-994早世23歳 母;藤原伊尹これまさの女、伯父藤原兼家の猶子、
廷臣;侍従・右兵衛佐を歴任/991左近中将/994従四上、今昔物語に逸話、死因;天然痘?、
歌人:「道信集」、後十五番歌合・麗花・和漢朗詠・玄々・後葉・続詞花・万代・秋風・雲葉集入集、
勅撰49首;拾遺(1283/1293)後拾(11首69/465/470/644/671/672/673/676/767/798/968)、
金葉Ⅲ(368)詞(223)千(5首23/549下)新古(9首167/486下)新勅(6首)以下、菟玖波入、
[明けぬれば暮るるものとはしりながらなほ恨めしき朝ぼらけかな](後拾672;後朝の歌)
道信の兄弟;誠信・齊信・公信ら
- H4110 **通宣**(みちのぶ・河野こうの、刑部大輔、教通[通直]男)?-? 武将:伊予湯築城主、予州家通篤と対立、
一時居城追われたが奪回、1504「大山祇法楽連歌」催;何人百韻、通直[弾正少弼]の父
- H4120 **通宣**(みちのぶ・河野こうの、左京大夫、通直[弾正少弼]男、刑部大輔通宣の孫)1522-81? 武将:
1543兄早世のため伊予湯築城主、元就と同盟;一族の衰退を招く
- C4118 **通言**(みちのぶ・久我こが、豊通男/本姓;源)1487-154357 廷臣;1502従三位/23内大臣/28右大臣、
1535従一位/36出家、1524「源朝子三十三回忌八講次第」著、
[通言(;名)の通称/号]通称;陽春院入道右大臣、出家号;大悦、法号;陽春院
- C4119 **道信**(みちのぶ・大岡おおおか) ? - ? 江中期大阪雑魚場の絵師:大岡春卜門、
1736「押絵手鑑」、「万歳武勇絵鑑」画、
[道信(;名)の通称/号]通称;伝内、号;夏月かげつ
- C4120 **道信**(みちのぶ・桂かつら) ? - ? 江中期信濃上田藩士/詩文・歌を嗜む、
「赤穂義人録」「城戸記」「別所温泉記」「六藝筆談」著、桂金溪の祖父
- K4101 **通信**(みちのぶ・南部なんぶ、盛岡藩主重信4男)1673-171644 母;栃内金右衛門女の沢(浄生院)、
陸奥盛岡の生、1699(元禄12)南部直政の養嗣;陸奥八戸藩3代藩主、従五下/遠江守、
歌人;飛鳥井家入門/武者小路実陰門、文武優れ馬術に長ず/茶道・蹴鞠に通ず、
藩政改革;俟約令・物価統制・凶作対策など、正室;友(秋林院/前田利明女)

長男広信(1709-1741)が家督嗣、
[通信(；名)の通称]内匠たくみ/右近/遠江守

- C4121 **典伸**(みちのぶ・狩野かのう、古信ひさのぶ[栄川]男) 1730-90 61 母；岡部忠平以誠女、兄玄信[受川]の養子、
絵師；江戸木挽町狩野家6世；1731遺跡継嗣、將軍家の寵遇；1762法眼/73医師並；采地2百石、
1780法印、1790禁裏造営に紫宸殿賢聖障子の画を下命され上京；没、「四季遊獵図」画、
「狩野典信印譜」/「武将図」/「桃太郎絵巻」/「御休息障子腰絵」画/「相中道之記」著、
[典伸(；名)の通称/号]通称；庄三郎、号；栄川(父の号継嗣)/栄川院/白玉斎、法号；法寿院
- C4122 **道伸**(みちのぶ・熊谷くまがい、居敬男) 1763-1816 54 因幡気多郡鹿野の庄屋/儒；1791大阪の中井竹山門、
帰郷後；大庄屋・宗旨庄屋、子弟教育、飯田秀雄と鹿野祭復興に尽力、
藩主池田定常(冠山)の知遇；その命で「鹿野故事談」著、「幸盛寺縁起」、「竹山先生文稿」編、
[道伸(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；武吉、字；子屈、通称；長左衛門、号；南峰
- C4123 **道修**(みちのぶ・永山ながやま) ? - ? 江後期越後新発田藩士、
藩主溝口直侯と本草の小野蘭山との交流の媒となる、1801「蘭山問目留簿」編
- L4117 **道信**(みちのぶ・伊藤いとう) 1791- 1871 81 筑前遠賀郡中間村大穴牟遲神社社司、
国学；本居宣長門、道保みちやすの父、
[道信(；名)の別名/通称]別名；道神、通称；大蔵/撰津守
- 通宣(みちのぶ・久我) → 通宣(みちのり/-のぶ・久我/源、廷臣/歌) C 4 1 2 5
通信(みちのぶ・村田) → 匏庵(ほうあん・村田むらた、漢学者/詩人) 3 9 0 8
道信(みちのぶ・有元) → 淵庵(えんりゅう・有元ありもと、医者/俳人) F 1 3 4 7
三千舎(みちのや) → 桃源(とうげん・渡辺、商家/俳人) D 3 1 4 5
- 4114 **道憲**(みちのり・藤原ふじわら、法名；円空/信西しんぜい、実兼男) 1106-59 斬首 54 母不詳、幼少時父と死別；
高階経敏の養子、鳥羽院判官代/少納言/1144出家；円空のち信西入道、
鳥羽院近臣として活躍；後白河天皇即位に尽力、後白河近臣の総帥；保元乱を平定；
新制七箇条発布/二条天皇即位後藤原信頼と対立、平治乱で逃亡中に捕縛/斬首される、
詩歌/故実家/観相家；明雲の兵死を予言、詩；「本朝無題詩」入、「本朝事始」/「筆海要津」著、
「信西古楽図」/「異朝明堂指図説」/「智証大師和讃」1156「大悲山寺縁起」/50-59「本朝世紀」著、
博学多才で九流八家に通ず；徒然草225段には磯の禪師に男舞を教授の話入、
歌；1135「家成家歌合」参加/後葉集・言葉集・月詣集・閑月集入集、続後撰740、
[君こふる涙は海となりぬれど見るめはからぬ袖のうらかな](続後撰；恋740、
家成家歌合にて/後葉集；恋349；[見るめはかたき])、
妻； 藤原兼永女朝子(後白河乳母紀二位)/藤原隆重女/高階重仲女/源有房女
男(息)； 俊憲(母重仲女、千載歌人)・
貞憲(母重仲女、千載歌人)・是憲(母重仲女、平治物語入)
成範(しげのり、母朝子、千載歌人)・修範(脩ながのり、母朝子、千載歌人)・
静賢(じょうけん、母重仲女、千載歌人)・澄憲(ちようけん、母重仲女、千載歌人)、
光憲・寛敏・憲曜・覚憲・明遍・勝賢・行憲・憲慶
女(娘)； 藤原宗隆母(中納言藤原長方室)・藤原保房母(左衛門佐藤原家房室)・
藤原隆清母(大納言藤原隆季[1127-85]室)・源信国母(為国室)・源有房室(有房；周防中将)
- C4124 **道教**(みちのり・九条くじょう、師教男/本姓；藤原) 1315-49 35 母；五辻宮守良親王女、九条房実の猶子、
廷臣；1325従三位/37(建武4/23歳)右大臣/39(暦応2)左大臣/42(康永元)関白/氏長者、
従一位、46(貞和2)出家；大乘院孝覚門、
法名；円恵、法号；三縁院さんえんいん/己心院、通称；三縁院入道前関白左大臣、経教の父、
歌人；勅撰2首；風雅2181・新千載1633
[行末をまつのみどりに契りおきてこだかくかかれ宿の藤波]、
(風雅集；廿賀2181/入道前関白左大臣名)
- C4125 **通宣**(みちのり/-のぶ・久我こが、太政大臣具通ともみち男/本姓；源) 1373-1433 61 室町期廷臣；左中將、
1387従三位/91陸奥権守兼任/93権中納言/96正三位権大納言(この年父が太政大臣)、
1398従二位/99辞職/1405正二位/1419(47歳)出家、1407後小松天皇催；内裏九十番歌合参、
[しもさゆるみかきの竹の夜とともにかはらぬ月の影ぞこほれる](内裏九十番；十六左)
- L4112 **道教**(みちのり・五十嵐いがらし、通称；半次) 1683-1745 63 近江彦根藩士、国学；沢村維頭(琴所)門、

師の教を受け儒学和ともに通ず

- C4126 **道紀**(みちのり・宇田川うだがわ、玄仙男)1710-60⁵¹ 祖父玄中以来江戸の漢方医/1752美作津山藩侍医、江戸藩邸住、「甲子雑録」編、
[道紀(；名)の字/通称]字；彦倫、通称；玄随、玄叔の兄/玄随の父
- C4127 **通則**(みちのり・滑川なめかわ、通頭男)1755-1787³³ 羽後秋田藩士/儒者；入江南溟門；徂徠学修学、藩主佐竹義敦の側小姓、のち町奉行/本方奉行、「義倉仕法」著/「北溟滑川先生吟稿」、
[通則(；名)の字/通称/号]字；子明、通称；長蔵、号；北溟/耕耨館こうどうかん、法号；文明良照居士
- J4198 **通徳**(みちのり・長崎ながさき/本姓；越智、)？-1798 薩摩鹿児島藩御連歌師、歌；風早公雄門、
[通徳(；名)の通称]仙右衛門
- J4110 **通儀**(みちのり・河野こうの、)？-1810 伊予大洲の町総年寄、国学者/歌人、
[通儀(；名)の通称/号]通称；太郎松/嘉平治、号；梁山
- I4124 **道則**(みちのり・小川おがわ、只七男)1763-1822⁶⁰ 陸奥(陸前)仙台の国学者/歌人/詩も嗜む、
[道則(；名)の通称/号]通称；衛盛/衛守、号；白英
- H4159 **道紀**(みちのり・中村なかむら)1790-1863^{74歳} 信濃安曇郡長尾村の医者、国学；本居大平/春庭門、大平撰「八十浦の玉」下巻；
[かぎりなくありへむ君は竹のよの千代とやいはむ八千世とやいはむ]、
(八十浦；1032/人の賀に竹に寄せて)、
[道紀(；名)の通称/号]通称；英碩、号；道年どうねん
- I4114 **道教**(みちのり・岩淵いわぶち)1829-1897⁶⁹ 陸奥(陸前)仙台の国学者/故実家；鑑定に長ず、茶道、
[道教(；名)の初名/通称/号]初名；廉、通称；栄喜、号；松隣
- C4128 **通載**(みちのり・岡田おかだ、市郎右衛門男)？-？ 江後期1804-18頃伊予新須賀村の郷土史家、伊予各地の名所・旧跡・故事の研究、「伊予二名集」「二名集」著
- K4126 **道訓**(みちのり・平山ひらやま、)1824-1862³⁹ 筑前早良郡の神職；鳥飼神社大宮司、国学；青柳種信(種麿)門、
[道訓(；名)の初名/通称]初名；幸彦、通称；甚之助/但馬/式部/遠江守
- H4162 **通徳**(みちのり・岩田いわた/本姓；平、通称；半太郎)1826-1907^{82歳} 旗本/幕臣；講武所頭取並/目付、1867(慶応3)京都見廻役/軍制再編に伴い新遊撃隊頭となる；再編により京都見廻役、1868江戸に帰る；隊士を指揮し江戸城警備/狙撃隊頭/日光奉行兼任；日光に出陣、新政府より退去命令；徳川家と駿府に移住；1869掛川奉行、のち式部寮雅楽課勤務、1878「音律入門」著、岩田武夫(工学博士)の父、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[大井川流るる水もかをるなり嵐の山の花のしづくに](大江戸倭歌；春292)
- 通徳(みちのり・田中) → 謙斎(けんさい・田中たなか、藩儒者) E 1 8 9 8
通徳(みちのり・鳥山) → 香軒(こうけん・鳥山とりやま、詩人) G 1 9 2 6
通徳(みちのり・館) → 通因(みちよし・館たち、藩士/国学/詩歌) J 4 1 7 0
通規(みちのり・久我) → 通誠(みちとも・久我が、源、内大臣/歌) C 4 1 0 2
- H4111 **通春**(みちはる・河野、通称九郎、通元男)？-？ 伊予武将、湯築城主の一族予州家、本家教通と争う、応仁乱の頃敗北/連歌；1480通直(教通)催「大山祇法楽連歌」万句参加(；九郎名)
- C4129 **通春**(道春みちはる・山本やまもと/本姓；源、春正2男)1648?-1702^{55?} 京の儒者；伊藤仁斎門、詩歌人、和歌山徳川家に招聘、周防徳山藩主毛利家に招聘、父に随い度々江戸下向；江戸歌壇と交流、1699「残林拾葉集」1704「文翰雑編」(没後刊)、「景陶十詠」「草木草」著、「懐旧涙詩詞巻」編、
[通春(；名)の通称/号]通称；利太夫/喜内/紀内/紀那異、号；豆山/長青軒/片玉子/永放/義和
- J4122 **道張**(みちはる・笹川ささがわ/本姓；源、)1721-83⁶³ 越前福井藩士；手廻役/近習番格、1780(安永9)旗奉行、国学；村上影面門、歌人、
[道張(；名)の通称]林太夫/治兵衛、隠居後；駒田自平を名乗る
- K4132 **道治**(みちはる・藤井ふじい、通称；市郎右衛門)1761-1822⁶² 伊勢度会郡の国学者；本居宣長門、藤井貫道つらみち(佐左衛門/1754-1807/同門国学者)と同族？
通春(みちはる・徳川) → 宗春(むねはる・徳川/松平/源、藩主) C 4 2 2 7

- 通春(みちはる・下条) → 敬義(たかよし・下条しもじょう、典医/歌人) X 2 6 5 6
 通春(みちはる・下条) → 秋水(しゅうすい・下条しもじょう、医者/国学) X 2 1 7 4
 通治(みちはる・中院) → 通氏(みちうじ・中院なかのいん、権大納言) B 4 1 2 0
- 4115 道彦(みちひこ・鈴木すずき/村上/藤原、名;由之、鈴木道察男)1757-1819⁶³ 代々仙台藩医;
 1785頃江戸で医開業、俳人:白雄門/1791師没後江戸三大家(巢兆・成美と)、俳論に長ず、
 1793「あみだ坊」編/94「武蔵野紀行」97「くろねぎ」98「無孔笛むくてき」著、
 「無孔笛」の付言で蕪村以下中興諸大家を酷評;非難多発/晩年徹底的罵声を浴びる、
 1801「鶴芝集」編、1802「馬の上」「長持男」/1802「誹諧三十六歌僊」/05「穂家露」著、
 1813「葛本つたのもと集」18「置洗濯」、「続葛本集」「秋草集」「三季衣」外著多数、
 「道彦七部集」(;妻応々編)、追善集;「はなばかま」「かたみの葛」外、
 [とある家に迎ひ火見えて降る雨か][ひらひらと朝霧乾くすゝきかな](葛本集)
 [道彦(;号)の通称/別号]通称;藤原の村上入道、
 別号;金令/金令舎/十時とき庵/藤垣庵/秋香庵/葛の本/三千彦/美知彦、
 法号;金令舎智秀道彦居士
 妻 → 応々(おうおう・鈴木とせ、尼/俳人) 1 4 0 0
- C4130 道彦(みちひこ・磯村いそむら/本姓;菅原)?? 1817存 江後期尾張藩士中条康永[多膳]の家臣、
 国学/歌:田中道磨門/1799本居宣長門、1817「春風集」編(615首;92名;尾張鈴屋門の集)、
 [道彦(;名)の別号/通称]別名;景忠かげただ/順弼、通称;万平/又七/万七
- J4194 道彦(みちひこ・中山なかやま、)1782-1832⁵¹ 京の地下役人、讃岐高松藩家老
 雪子(1799-1868/歌人)・行篤ゆきあつ(藩執政)の父、
 [道彦(;名)の別号/通称]初名;行敬、通称;千馬之助
- J4187 道彦(みちひこ・富田とみた、節斎[礼彦]男)1837-94⁵⁸ 飛騨高山の代官所地役人の家;継嗣、
 和漢学・詩歌;父門、綾子の兄、妻;大池栄えい、大池妙子の父、
 [道彦(;名)の字/号]字;義卿、号;鯉沼りしゅう
 道彦(みちひこ・成田) → 蒼虬(そうきゅう・成田なりた、藩士/俳人) 2 5 0 7
- C4131 通古(みちひこ・中院なかのいん/本姓;源、久世くげ栄通男)1750-95⁴⁶ 母;久世通夏女、中院通維の養子、
 右大臣久我通兄の猶子、廷臣;1777参議/85正二位/87権大納言、歌;「中院通古詠草」著、
 法号;清浄心院、通知の父
- H4133 通故(みちひこ・稲葉いなば、通邦[1744-1801]男)?? 尾張藩士/兵法家/古流故実伝;父より相伝、
 不易流砲術;沢重格門、門弟に教授、「古流故実伝目録」/1811「張藩武術師系録」編
 [通故(;名)の通称]通称;善太郎/喜太郎、
- C4132 道旧(みちひこ・清原きよはら) ? - ? 江後期陸前仙台藩士/国学を修学/俳諧;道彦門、
 言語の一行一義説を主唱、俳諧における仮名遣等門人に教授、1837「誹諧連句秘伝書」著、
 1841「安鼻起能通名」「誹諧証句集」「玉のひかり」、「猿蓑集註解」「沢夏草」「言霊音義解」著、
 [道旧(;名)の号] 黒樹園/道旧どうきゅう
- J4197 通久(みちひこ・永野ながの、通称;良華)1851-1902⁵² 伊予小松の医者、医・国学;半井梧庵(忠見)門
 道古(みちひこ・山内) → 道古(みちふる・山内やまうち、国学/歌人) C 4 1 4 8
 通久(みちひこ・賀茂) → 元久(もとひさ・賀茂かも、神職/連歌) D 4 4 9 7
 通久(みちひこ・山内) → 広通(ひろみち・山内やまのうち/藤原、家老) H 3 7 2 6
 通久(みちひこ・高橋) → 松園(しょうえん・高橋たかはし、商家/儒詩) H 2 2 3 1
 通尚(みちひこ・河野) → 智真(ちしん・一遍、時宗開祖) 2 8 1 2
 通尚(みちひこ・久我) → 通博(みちひろ・久我がが/源、太政大臣/歌) C 4 1 3 6
 通寿(みちひこ・谷田部) → 彦六(ひろく・谷田部やたべ、彫工) 3 7 7 8
 通故(みちひこ・安藤) → 通故(みちふる/みちひこ・安藤、藩士/国学) C 4 1 5 0
- C4133 通秀(みちひこ・中院なかのいん/本姓;源、通淳男)1428-94⁶⁷ 母;中院通敏女、廷臣;1450参議、
 1462権大納言/81従一位/85内大臣/88出家、歌人/連歌:宮中歌会・幕府連歌会参加、
 1475甘露寺親長催「公武歌合」参加、
 将軍足利義尚の打聞寄人、「打聞記」「十輪院御詠」「園太暦目録」「鳳朗集」著、能「狭衣」作、
 古今集・源氏物語秘訣を書写、1479-84連歌百韻6度、新撰菟玖波11句入、
 [さのみやはにはてる月にうかれましふけゆく秋のよごの浦舟](公武歌合;四番右)、

[通秀(；名)の初名/法名/法号]初名；通時、法名；妙益、通称；十輪院、法号；十輪院、
肖柏の異母兄、通世の養父

- L4111 **道英**(みちひで・新井あらい、道恒みちつね長男)1841-1908⁶⁸ 信濃伊那郡の豪農、
国学/歌人；祖父道雄・父道恒門、西川清園・宮下楠實・宮沢百山・松尾多勢子らと交流、
[道英(；名)の通称/号]通称；亀之助/弥惣治/宗治、号；駒岳くが、法号；昭徳院
通秀(みちひで・河野) → 帰橋(ききょう・蓬萊山人ほうらいさんじん、藩士/戯作/狂歌)1693
- C4134 **登平**(みちひら/たかひら/なかひら/なりひら/のりひら・源みなもと、為親男)?-? 1019存 平安中期廷臣；従五下雅楽助、
土佐守/従五位、叔父源為憲の猶子か?、能因の友人、歌：玄々集入、金葉Ⅲ57/詞花31、
[桜花さくらばな手ごとに折りて帰るをば春の行くとや人は見るらん]、
(詞花集；一春31/玄々集；120；初句山桜)
- C4135 **道平**(みちひら・二条/押小路おこうじ、兼基男/本姓藤原)1287-1335⁴⁹ 母；為顕女宣子、1295権大納言、
右大臣/1313左大臣/16関白/従一位/27関白再任、良基の父、「後光明照院関白記」著、
歌人：1320文保御百首・正中百首参加、1314「詠法華経和歌」、1330[北野宝前和歌]参加、
臨永/松花集/藤葉(6首)入、連歌；菟19句入、勅撰38首；
新後撰(830/871/1576)玉(4首)続千(7首)風(6首)新千(7首)新拾(3首)下、
[人知れず思ふとだにも言はぬまの心のうちをいかでみせまし](新後撰；十一恋830)
[なく蟬の声より外は夏ぞなき太山の奥の杉の下陰]、
(文保百首；夏234/藤葉；夏187；後光明照院名；藤葉四句みやまのおくの)
[道平の号] 後光明照院こうみょうしょういん
- I4111 **道平**(みちひら・今井いまい、通称；力三郎/勘兵衛)1818-94⁷⁷ 近江甲賀郡長野村の製陶家、
歌人/俳諧を嗜む
通平(みちひら・中院) → 通顕(みちあき・中院なかのいん/源、内大臣/歌)B4103
- C4136 **通博**(みちひろ・久我こが、初名；通尚、清通男/本姓；源)1420-1482⁶³ 廷臣；従三位右中将、
1443尾張権守、45権中納言/46正三位/48権大納言/51従二位/54正二位、
1461右大将兼任；内大臣/64右大臣/66従一位；右大臣辞任/73改名；通博、
1481(56歳)太政大臣/82没；東久世太政大臣と号す、
歌；1473按察使(甘露寺)親長家歌合参(久我前右大臣源朝臣名)、
[花鳥はなとりの色音いろねもよしやあづま野の千里に霞む春の曙](親長歌合；一番左/野外霞)
- C4137 **道弘**(みちひろ・綾部あやべ、道一男)1635-1700⁶⁶ 祖は丹後綾部出身/豊後杵築の医者；杵築藩儒、
門人には四書・小学・古文詩を教授、「謙卦辞」著、妻；小林シテ、綱斎(けいさい)の父、
[道弘(；名)の通称] 佐兵衛
- C4138 **道弘**(みちひろ・村井/邑井むらい、安堵あんど勝之男)1652-1716⁶⁵ 大和の筒井一族の末裔、村井に改姓、
奈良の俳人；種寛門/立圃系俳諧、三千風「日本行脚文集」入、1671「赤紫」著、
1675地誌「南都名所集」共著(太田叙親と)/序文執筆
- C4139 **通博**(みちひろ・那珂なか)1748 - 1817⁷⁰ 羽後秋田藩士；1793藩校明德館勤番支配、
1795助教兼幹事、詩歌人/書・俳諧を嗜む、1811(文化8)秋田遊覧の菅江眞澄と交流、
茂木知利と親交、1814屋代弘賢提唱の「風俗問状答」の「秋田領答書」を編纂執筆、
[通博(；名)の字/通称/号]字；公雅、通称；長左衛門、
号；碧峰/鶴峰/溪山閣/絃誦堂/飽煖ほうだん/左右宜斎そうぎさい/如琴
- C4140 **道啓**(みちひろ・田村たむら、初名；道慶/通称；貞之丞)1752-1800⁴⁹ 讃岐鷯足郡土器の歌人、
1789西行六百年追善集入集、1798鴨(梨本)祐為すけため門、「安原行記」著
- I4192 **通礼**(みちひろ・久米くめ、)1786- 1865⁸⁰ 伊予小松領広江村の庄屋、
国学・歌；香川景樹・熊谷直好門、
[通礼(；名)の通称/号]通称；弥助、号；欣雅/斎亭/万々園
- H4195 **道寛**(みちひろ・永持ながもち/本姓；藤原、通称；越中守)1799-1882⁸⁴ 江後期；信濃筑摩郡の国学者
- H4184 **通広**(みちひろ・長尾ながお) ? - ? 江後期；歌人、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[恋すれば心幼くなりにはけりすかさるるだに慰めにして](現存百人一首；22)
- J4111 **通溥**(みちひろ・河野こうの)1813- 1879⁶⁷ 山城伏見の国学者/歌人；福田美楯みたく門、通理みちまさの兄、
[通溥(；名)の通称/号]通称；主膳/真蔵、号；真憾/香雪堂/伏水隠士

- I4196 **通博**(みちひろ・口羽くちは、)1825?-1885 60余 長門萩藩士;大組、国学者;藩校明倫館に修学、歌;近藤芳樹門、子弟に尊王思想を説く、のち山口皇典講究所講師、
[通博(;)名)の通称/号]通称;市祐いちすけ/六兵衛、号;桜洲
道孚(道広みちひろ・桂) → 南野(なんや・桂かつら、藩士/儒者) 3 2 4 1
通寛(みちひろ・江幡) → 晩香(ばんかう・江幡/江幡えはた、詩人) H 3 6 6 0
道寛(みちひろ・角野) → 乙芽(おつが・角野、俳人) D 1 4 1 4
道寛(みちひろ・松山) → 道寛(どうかん・松山、狂歌) S 3 1 8 0
道広(三千広みちひろ・柏淵) → 松庵(しょうあん・柏淵かしづち、国学/歌人) G 2 2 6 1
道広(みちひろ・藤田/栗田) → 高伴(たかとも・栗田/藤田/大林、歌人) D 2 6 2 4
道熙(みちひろ・小野) → 鶴山(かくざん・小野、儒者) H 1 5 2 7
通広(道広みちひろ・海野、官人) → 信救(しんきゅう;法諱、僧) N 2 2 8 1 ①
通弘(みちひろ・石崎/河野) → 守弘(もりひろ・河野/越智、国学/史家) G 4 4 4 1
通熙(みちひろ・井上) → 蘭台(らんだい・井上いとうえ、儒者/折衷学) C 4 8 9 1
路博(みちひろ・前田) → 道濟(みちなり・前田まえた、藩士/記録) C 4 1 1 4
- C4141 **通房**(みちふさ・藤原ふじわら、幼名;長君、通称;宇治大将、関白頼通男)1025-44 早世20 母;源憲定女、廷臣;1037従三位/39正二位/42(18歳)参議を経ず権大納言/43右近大将兼任、1044流行病で没;栄花物語・今鏡に早世を惜む逸話、袋草紙に没後父の夢に歌を詠む逸話、室の源師房女の夫との死別の哀傷歌あり(後拾遺576)、歌人:秋風集・万代集入、勅撰2首;後拾遺245/新勅撰369、
[待ちえたる一夜ばかりを織女たなばたのあひみぬ夜半と思はましかば](後拾遺;秋245)、(ましかばの下にうれしからましの省略)、弟妹;師実・俊綱・寛子(後冷泉天皇皇后)ら、
参照 妻 → 師房女(もろふさのむすめ・源、土御門右大臣女) H 4 4 8 8
- C4142 **道房**(みちふさ・九条くじょう、忠栄[幸家]男/本姓;藤原)1609-47 39 母;豊臣秀勝女の完子、廷臣、1615従三位/31正二位/32(24歳)内大臣/40右大臣/42左大臣/47摂政/氏長者、1643「詩歌次第」44「後浄土寺殿記」、「道房公記」、「改寛永為正保」著、歌;1638[後鳥羽院四百年忌御会]参加、1647(正保4)没、
[恨みをば人に見えじとせく袖にうきをばしるやたえぬ涙は](後鳥羽院忌;63/忍恋)、
[道房(;)名)の別名/一名/法号]初名;忠象、一字名;旭、法号;後浄土寺
- C4143 **益房**(みちふさ・清閑寺せいかんじ、秀定男/本姓;藤原)1736-1803 68 母;大僧正常勤女、廷臣;1756参議、1786権大納言/93従一位、1752「内侍所御擲申沙汰記」53「尊真親王得度申沙汰雜誌」著、法号;深如海院、昶定の父
- C4144 **通藤女**(みちふじのむすめ・源みなもと、三条坊門源通教女/兄の従三位通藤の養女)?-? 鎌倉後期歌人:勅撰8首;1320刊「新千載」1169/新拾遺1699/新後拾(5首303/635/939/992/1330)/新続古、
[歎きわびくらせるよひもいかならむなぐさむほどの夢し見えずは](新千載;恋1169)
- C4145 **通文**(みちふみ・宝田たからだ、梅殿直叟男)1817-96 80 宝田通同の養嗣子/京の国学者;独学、1836江戸下向;金杉村住;子弟教育、輪王寺宮公紹親王・慈性親王の招聘で皇漢学を講ず、幕末期に志士の呼応し国事奔走/維新後は教部省出仕;大教正、「源氏物語釈義」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[何事もおくるるものをほととぎす待つは人にも先立ちにけり](大江戸倭歌;夏428)
- H4164 **通文**(みちふみ・阿野あ) ? - ? 廷臣?/歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[ほととぎす今一声を聞かばやと駒引きむけてしたひつるかな](大江戸倭歌夏465)
[むら雀片よりすなり御狩野にとやでの鷹の風ながれして](現存百人一首;32)
- J4160 **通文**(みちふみ・高野たかの)1841- 1897 陸奥会津の受証院修験、
耶麻郡小田付村の出雲神社祠官、小講義
道文(みちふみ・真木) → 佐忠(すけただ・真木まき、神職/国学) J 2 3 2 5
- C4146 **通冬**(みちふゆ・中院なかのいん、通頭男/本姓;源)1315-63 49 母;白拍子明一、廷臣;1329従三位、1340権大納言/奨学院・淳和院別当/42正二位/49大納言/63従一位、「通冬卿記」1341「叙位記」/59「新待賢門院七七忌御願文」著、通氏・通敏の父
- C4147 **通古**(みちふる・川野/河野かわの)?-1687 薩摩鹿兒島藩士;御記録奉行、

公命で「新撰系譜」大田久知と共編(藩歴々24家の伝)、1669「薩藩諸家大概」著、
[通古(；名)の通称/法号]通称；六兵衛、法号；雄岩宗英居士

- C4148 **道古**(みちふる/みちひさ・山内やまうち、通称；新四郎) ?-1846 駿河益頭郡岡部の国学者/歌：本居大平門、
江戸住、1840家集「美(御)山の落葉」(上下2巻；上巻は1834師の批正を受ける)、
大平撰「八十浦の玉」下巻；長歌入、
[藤なみの花をかざさな玉かづらかけのよろしくよき人よく見]、
(八十浦；769長歌[藤]の反歌)
- C4149 **通古**(みちふる・得能とくのう、通称；彦左衛門) ?-? 幕末期薩摩藩士；1868藩校造士館教授/69辞職、
1845「名臣小伝」、53「鬚切来由記」54「常磐松由来碑文」/64-67「得能通古莫根日記」著、
1866「高城郷由来記」著
- C4150 **通故**(みちふる/みちひさ・安藤あんどう) 1833-9866 日向臼杵郡岡富村の国学者；樋口種実門、
のち本居内遠・平田篤胤門、歌人、延岡藩士；御内用御用掛/1868寺社下役頭取、
1869千穂廼屋(皇學所)助教/70皇學訓導師/71延岡藩権大属官・皇學所教授/72教部省入、
1876日向延岡で子弟教育、
「岡玉乃屋歌集」編/「樋口種実翁略年譜」編、1867「日向国名所歌集」著
通古(みちふる・中院) → 通古(みちひさ・中院、大納言/歌人) C 4 1 3 1
通故(みちふる・稲葉) → 通故(みちひさ・稲葉いなば、藩士/兵法家) H 4 1 3 3
- K4144 **三千矛**(みちほこ・本間ほんま、) 1833-191078 佐渡の国学者・歌人；佐渡奉行鈴木重嶺いね門、
[三千矛(；名)の初名/通称/号]初名；友寿、通称；靱負、号；舜庵/松廼舎
- C4151 **通雅**(みちまさ・大江おおえ) ? - ? 平安前期廷臣/歌人；966内裏前裁合(8月15夜台盤所)参加、
[九重に咲きみだれたる花見れば千歳をの秋は色もかはらじ](内裏前裁合；28)
通理(みちまさ・みちよし・大江、正五下伊予・伊賀守)と同一なら澄景(951蔵人/969右衛門佐)男
- 4116 **道雅**(みちまさ・藤原ふじわら、伊周男) 992-105463 母；源重光女、廷臣；1016従三位蔵人頭/45左京大夫、
幼児に父が配流され一族没落；権勢を張る道長に反目、異端児的性格；言動放埒の逸話多、
1016三条院皇女当子内親王と密通；17三条院の勘当で左遷/生活の荒廃；荒三位と称さる、
歌人；1044八条山荘で歌会/47「八条山庄障子和歌合」主催；袋草紙に逸話、玄々・秋風集入、
勅撰7首；後拾遺(5首742/748/749/750/751)金葉(Ⅲ263)詞花集(149)、
[今はただおもひ絶えなむとばかりを人づてならでいふよしもがな](後拾750；禁断の恋)
[道雅(；名)の幼名/通称]幼名；松君、通称；荒三位/悪三位、上東門院中将の父
- C4152 **通雅**(みちまさ・花山院かざんいん、定雅男/本姓；藤原) 1233(32?)-7644(45?) 母；藤原定高女、廷臣；
1247従三位左中将/1250参議・正三位・右中将/51権中納言/57(26歳)正二位権大納言、
1262右近大将兼任/67中宮大夫兼任/68内大臣/69(38歳)右大臣/71辞任、
1275太政大臣；従一位/76出家；没、
1248「宇治御幸記」、「宸筆御八講記」「院中御八講記」、「後花山院大相国記」著、
歌人；1265「文永二年八月十五夜歌合」参加、
勅撰5首；続古(178/1443)続拾(464/751)新拾(1455)、
[ながらへてさてもいくたび惜しむらんみにかへつべき春の別れを](続古今；二春178)、
[通雅(；名)の号]号；後花山院のちのかざんいん、法号；空理
- B4165 **通相**(みちまさ・久我こが/中院、長通男/本姓；源) 1326-7146 母；園その基頭もとあき女、廷臣；1337従三位、
1347権大納言/56内大臣/62右大臣；従一位/66太政大臣/71出家、歌人；
1346仙洞[持明院]詩歌会参加、56延文百首/67新玉津島社歌合参加、「千種御抄」編、
勅撰8首；風雅集(791)新千載(683/1358/1465)新拾遺(3首)新後拾(155)、菟玖波1句入、
[難波瀉入江に寒き夕日かげ残るもさびし蘆のむら立](風雅集；八冬791/寒蘆)、
[池水にむすぶ氷のひまみえて打ちいつる波や鳩の通路かよひぢ]、
(新千；冬683/水鳥、延文百首；1462)、
[通相(；名)の通称/法号]通称；千種太政大臣、
千種入道前太政大臣(ちぐさにいゆうどうさきのだいじょうだいじん；新後拾遺)、法号；肯尊、具通の父
- C4154 **通昌**(みちまさ・岸さし、通称；与三右衛門) ?-? 江中期奈良の和算家、一時大阪南久太郎町四丁目住、
1773「算法得幸録」著
- I4161 **道賢**(みちまさ・奥村おくむら、桜井要親3男) 1774-? 信濃伊那の奥村家(鳥居丹波守家臣)の養子、

国学・歌人;桃沢夢宅門

[道賢(;名)の通称] 八十吉/雄司/又之進

- K4187 **道正**(みちまさ・矢野やの、通称;仙次/仙左衛門) 1795-185460 伊予喜多郡阿蔵村の大洲藩士、
国学者;平田篤胤門、矢野玄道げんどう/はるみち・直道なおみちの父
- C4155 **通理**(みちまさ・岡本おかもと) ? - ? 江後期大和高田の儒者:谷三山門、国学・史書にも通ず、
紀伊田辺藩安藤家の儒者、1856「振濯録」著、
[通理(;名)の字/通称/号]字;黄中、通称;富次郎、号;双峯山人
- J4112 **通理**(みちまさ・河野こうの) 1831- 190979 山城伏見の神職;芹川神社祠官/伏見稻荷神社主典、
通漣みちひろの弟、国学/歌人、
[通理(;名)の字/通称]字;子誠、通称;帯刀/伊予守
- C4156 **通政**(みちまさ・山県やまがた、河野清吉男) 1836-9560 豊後直入郡白丹村の生;山県重助の養嗣子、
岡藩士;藩老中川栖山家に出仕、勤王;小河おごう一敏かざとし門/尊王攘夷を志す、
安政1854-60頃熊本横井小楠訪問/伊予宇和島大隆寺住、鷲尾隆聚の勤王募兵に応ず、
戊辰戦争で三条実美の下に官軍軍曹、1869海軍省出仕、1865「山県小太郎日記」著、
[通政(;名)の通称] 勝太郎/小太郎
- I4123 **通理**(みちまさ・江幡えはた、通寛みちひろ[晩香]2男) 1849-1921677 母;岩子、出羽大館の医者、
国学;鈴木重胤・佐々木弘綱/歌;高崎正風・小中村義象門
[通理(;名)の字/通称/号]字;黄中、通称;才介、号;甘谷/樗おうちの屋/樗堂/細庵
円方(みちまさ・田付) → 景利(かげとし・田付たつけ、砲術家/歌人) L 1 5 0 6
道正(みちまさ・中岡) → 慎太郎(しんたろう・中岡、勤王派/討幕) 2 2 5 9
道正(みちまさ・東久世) → 通庸(みちいさ・東久世ひがしぐぜ、廷臣/歌) K 4 1 2 2
達昌(みちまさ・上田) → 胤親(たねちか・上田うねだ、国学/歌人) V 2 6 7 9
- C4157 **道雅女**(みちまさのむすめ・菅原すがわら) ?-? 平安中期歌人;拾遺集543、
[みつせ河渡る水竿みさをもなかりけり何に衣を脱ぎてかくらん](拾遺;雑543/地獄絵見て)、
(みつせ河は三途の川/川のほとりで亡者の衣服を剥ぎ衣領樹にかけるといふ)
- C4158 **道雅女**(みちまさのむすめ・藤原ふじわら、道雅三位女) ?-? 平安後期歌人;藤原道雅[992-1054]の女、
1051?六条斎院歌合(道雅三位女名/頼資・頼綱・家綱妹らと参加;当座即詠)、
上東門院中将と同一? → 中将(ちゅうじょう・上東門院、後拾遺歌人) G 2 8 3 7
道侯居翁(みちまたのきよおう) → 貞良(さだよし・栗田くりた、商家/国学) O 2 0 4 1
道間戸(みちまど・栞園) → 栞園道間戸(かえんみちまど、狂歌) P 1 5 9 8
- C4159 **道麻呂**(みちまる・生部おおしべ/みぶ) ?-? 755防人/駿河国助丁すけのよほろ/万葉廿4338
[豊薦たみけめ牟良自むらじが磯の離磯はなりその母ははを離れてゆくが悲しさ](万葉;廿4338)、
(たみけめ;たみこもの駿河方言;オ列乙類o→エ列乙類e)
- 4117 **道麿**(みちまる・田中たなか) 1724- 178461 美濃多芸郡榛木村の農業/歌・国学;大菅中養父門、
楫取魚彦・賀茂眞淵門/1780本居宣長門、1768頃名古屋霊岳院で国学を講ず;門弟3百余人、
尾張国学の祖/万葉研究、家集「田中道全集」、「万葉問聞抄」「万葉地名草」「万葉東語栞」著、
「畔あぜの苺穂」「垣根の落葉」「道丸随筆」「天明随筆」「道全集」著、
1784「万葉集類句歌抄」外著多、
歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌を含む13首入、
[天の原ふりさけ見れば八重霞たなびく春になりにけるかも](八十浦;340/立春)、
[道麿(;号)の通称/別号]通称;茂七/庄兵衛/莊兵衛しょうべえ、
別号;道丸/榛木翁はんのきおう/言霊有功老翁/道全(;剃髮号/法名)
- C4160 **道麿**(みちまる・喜多川きたがわ) ?- ? 江中期江戸の絵師;喜多川歌麿門、黄表紙の挿画、
1787「書集芥の川々」画
- C4161 **道麿**(みちまる・菴原いはら、号;菴齋かみさい、直一男) 1794-185865 水戸の生/幕臣;普請方改役、
致仕後;孫勇三郎に従い蝦夷箱館で土質調査;水稻試作に成功、亀ノ尾開拓;その差配、
「秋艦事略」「海防策論」「松陽奇談」「参考外寇遺事」著、「経営紀事」編/1857「蝦夷地土産」著
- C4162 **道麿**(みちまる・末田すえだ、名;種守、稻麿男) 1801-7070 安藝広島播磨屋町の書肆/国学;近藤芳樹門、
皇典に精通/歌人、明治初に藩校修道館皇学教授/土班に列す、「伊勢道中記」著、
[道麿(;号)の字/通称/別号]字;正勝、通称;麗蔵、別号;麗琴

道磨(みちまる・越智) → 古声(こせい・越智、酒造業/俳人) D 1 9 0 7
道磨(みちまる・吉永) → 千秋(ちあき・吉永よしなが/藤原、神職/画) N 2 8 7 9
三千磨(みちまる・桃花園) → 桃花園三千磨(とうかえんみちまる、狂歌/戯作) C 3 1 0 7
道満(道磨みちまる・生田) → 万(よろう・生田いくた、藩士/国学/救民) 4 7 4 2

- 4118 **通躬**(みちみ・中院なかのいん、通茂男/本姓;源) 1668-1739 72 母;小笠原政信女、廷臣;1688参議従三位、1707権大納言/26内大臣/29従一位/38右大臣;すぐ辞退、内親王家別当/神宮伝奏、武家伝奏/院執権を歴任、漢学;熊沢蕃山門/歌人;父門;古今伝授を受、父没後霊元院歌壇で重鎮、家集「通躬公集」、1685「歓喜光院集」/注釈「百人一首抄」著、1706「雲上歌集」/「雲泥和歌集」/「三槐和歌集類題」/「新題林和歌集」などに歌多数入、日記「右槐卿記」、1707「播磨国曾根松記」(曾根村の菅公祠に奉納)、外編著多数、1701(元禄14)田村建頭催[田村家深川別業和歌]に歌(海辺別荘の賛美)を贈る;
[吹き入るも小簾間こすのま涼し浦近く寄せきて響く波の秋風](田村家和歌;秋風入簾)、
[通躬(:名)の幼名/法号]幼名;益丸、法号;歓喜光院、円恕の兄、息通藤6歳没/養子;通枝
通相(みちみ・久我こが/中院) → 通相(みちまさ・久我こが、太政大臣/歌) B 4 1 6 5
- C4164 **通光**(みちみつ・弘ひろ) 1829 - 1903 75 周防都濃郡花岡の和算家;代々徳山藩花岡邸付、和算;松本平三郎・羽山文哉・近藤清石門/天文;田中民之丞門、1866長州戦争時に暦本「種蒔の葉」作成、67山口に召され藩校明倫館教授松本源一に入門、洋数学修得/1868助教に就任/歌、県内各地で教授/家塾日文舎開設、1864「算法定位鑑」著、「算法小学」「量地必携」「詞の橋立」「五十連字解」「視径儀自在」著、晩年失明、
[通光(:名)の別名/通称/号]別名;鴻、通称;亀太郎/忠助/市太郎/鴻之丞、
号;尋石/円斎/東璧/ひふみのや/日文舎ひふみのや主人
通光(みちみつ・久我こが) → 通光(みちてる・みつ・久我/土御門/源、太政大臣/歌) 4 1 1 9
- K4124 **通岑**(みちみね・東久世ひがしぐぜ、通庸みちいさ男) 1792-1848 57 京の廷臣;1848(嘉永元)従二位参議;没、歌道;久世大納言・飛鳥井雅光門/書;織仁おひと(竜淵)親王門/有職;高倉永雅門、歌人/書家/有職家・催馬楽・蹴鞠にも通ず、「東久世家乗」編、
[通岑(:名)の通称] 椒丸
- C4165 **道統**(みちむね・三善よし、字;善太、文明男) ?-? 998存 平安期廷臣;従四下文章博士/民部大輔、詩人、969大学頭、963自宅で「善秀才宅詩合」催;判者、963空也上人に金字大般若経供養願文執筆、藤原在衡「粟田左府尚齒会」参加;詩入、998年号勘申に関与、本朝文粹入
- 4120 **通宗**(みちむね・藤原ふじわら、経平男) 1040?-84 45? 母;藤原家業女/実母;高階成順なりより女、廷臣;能登・周防・若狭守を歴任/正四下/右衛門佐、歌人、1072「気多宮歌合」主催、1078内裏後番歌合参加、83篤子内親王家侍所歌合;判者、古今集書写(清輔本系統原本:袋草紙)、勅撰5首;後拾遺(122/140/171/303)金葉(614)、
[思ひおくことなからまし庭桜にはざくら散りてののちの船出なりせば](後拾遺;春122、周防に下る時の詠)、
通俊/藤原実季室/藤原長実室/藤原頭季室(清輔の祖母)らの兄弟、家実/隆源(後拾遺奏覧本の清書)の父
- J4171 **通統**(みちむね・谷たに、通称;久右衛門/号;忍斎、善兵衛善徳2男) ?-1744 和泉堺の故実家;有職故実;壺井義知よしちか(1657-1735)門、和漢学・香花兩道に通ず、善右衛門齊泉の弟、1722安産如意輪観音縁起を復す/1728向泉寺縁起制作/常樂寺天満宮の縁起の再制作、「香木誰が袖の記」「香木長月の記」「官位令私考」著など著多数、茶臼山観音寺朗湛の師、法号;忍斎善慎禪門
- 4121 **通村**(みちむら・中院なかのいん、通勝男/本姓;源) 1587or88-1653 66-67歳 母;一色義次女(細川幽斎孫)、廷臣;1605(13歳)従五位;通村に改名/14参議/24中宮権大夫・武家伝奏、1629権大納言、後水尾讓位を幕府に伝えず、「関東の臣にあらず」の発言に幕府の忌諱;1630武家伝奏罷免;江戸上野に幽閉、31幽閉中正二位/1647赦免;上京/内大臣;従一位昇進、古典・歌学;父通勝・細川幽斎門/書;世尊寺流(のち通村流)、歌壇指導者;多くの歌添削、古典「源氏物語抄」「源氏註解」、1622「関東海道記」/「通村東海道紀行」/「通村公記」、家集「後十輪院集」、「中院家御集」「後十輪院内府五十首」「五十首和歌」、外編著多数、

1638後鳥羽院四百年忌御会参加(51)、

[夏くれていくかもあらぬ袖の上にけさ立そむる風ぞ涼しき](1604[17歳]竹内門跡歌会)、

[行く方に身をばさそはで夜な夜なの袖の露とふ武蔵野の月](幽閉中/後水尾院へ返歌)、

[今も猶かしこき袖のなごりをや花橘の香ににほふらん](後鳥羽院忌;51/盧橋)、

[通村(;名)の初名/一字名/幼名/通称/法号]初名;通貫、一字名;水/菊/山、幼名;益丸、

通称;後十輪院のちのじゅうりん、法号;後十輪院虚観妙空、通純の父

通茂(みちもち・中院なかのいん)→ 通茂(みちしげ・中院/源、廷臣/歌学者) 4 1 0 6

C4166 通基(みちもと・久我こが、通忠男/本姓;源)1240-1308⁶⁹ 母;唐橋通時女、鎌倉期廷臣/1255従三位、
1278右近大将/88内大臣/97従一位、歌人/勅撰2首:続拾遺155・続千載467、
徒然草195段;奇異な行動(地藏菩薩像を田の水で洗う逸話)/196段;尋常の言動入、
[尋ねきてけふも山路に暮れにけり心づくしのほととぎすかな](続拾;三夏155)、
[通基(;名)の通称]愛宕あいたう/中院/後久我内大臣のちのこがなだいじん

C4167 通資(みちもと・三木みき/河野、通幸男)?-? 江中期播磨姫路の郷土史家/竜野町住、
先祖は播磨英賀城主、通識みちさとの父、「英賀日記」「村名故事記」「小刑部社記」著、
[通資(;名)の幼名/通称/号]幼名;竹松、通称;弥三郎/彦右衛門、号;冬月/三樹翁、
法名;西世

C4168 通元(みちもと・戸田とだ) ? - ? 江後期京の新町六角南・東洞院四条南の天文家、
1830「天経或問口授録」42「天保壬寅測月食」52「深草山陵考略」著、
[通元(;名)の通称] 久兵衛/久左衛門

J4137 道元(みちもと・煤孫すまご) ? - ?安政1854-60頃没 陸奥仙台の国学者、
国学・歌;保田光則(1797-1870)門

道基(みちもと・二条[藤原])→ 満意(まんい;法諱、門跡/大僧正/歌人) K 4 0 3 6

通根(みちもと・久世) → 通根(みちね・久世/源、廷臣/記録) C 4 1 1 5

C4169 通基母(みちもとのは・久我こが、唐橋通時女)?-? 鎌倉中期歌人/大納言久我通忠の室:通基を出産、
続拾遺958(;右近大将通基母名)、
[たのめしも忘れぬものを有明の月やつれなきかたみなるらん](続拾遺;恋958)

C4170 通守(みちもり・中院なかのいん、通氏男/本姓;源)1377-1418⁴² 母;万里小路仲房女、南北室町期廷臣;
1399参議/1414権大納言/16正一位、1410「通守卿記」「三席御会記」著、歌;新続古今2011、
[きかでただあらましものをけふの日も初瀬の寺の入相の鐘](新続古;2011/古寺鐘)、
[通守(;名)の通称] 三条坊門大納言

J4141 道守(みちもり・関せき、通称;清兵衛)1846-1908⁶³ 飛騨の国学者

I4105 道守(みちもり・橘たちばな、吉田安平男)1852-1902⁵¹ 上野桐生の生/歌人;橘冬照(守部男)門/養子、
養母橘東世子とせと共に関本吟社を創設/東世子撰「明治歌集」編纂、
守部遺稿の校正刊行、「明治千人一首」「詠進歌集」著、赤羽剛たけい・井手琴女の師、
[道守(;名)の通称]金之助/東市

道守(みちもり・高島) → 宣陽(のぶはる・高島たかしま/沢、代官/歌) I 3 5 9 4

C4171 通安(みちやす・土居とい) ? - ? 戦国期伊予の武家/守護河野通直の一族か、
連歌作者;大山祇神社連歌「文明万句」に参加、1499「水里玄義」著、
[通安(;名)の通称] 美作守

C4174 通泰(みちやす・穂積ほづみ/旧姓;竹内・斉藤)?-? 江中期遠江長上郡半場の商家、
歌人:杉浦国頭くにあきら[1678-1740]門、江戸日本橋通新石町で材木商を営む/名主、
国学・歌;荷田春満[1669-1736]・賀茂真淵[1697-1769]門、「穂積通泰家集」著、
「賀茂翁家集」三に真淵筆の「穂積集」の序あり、
[通泰(;名)の通称] 善左衛門

C4172 通泰(みちやす・河野こうの、通称;四郎左衛門、通都男)1763-1832⁷⁰ 幕臣;八王子千人同心頭、
1810取締方肝煎、日光勤番、歌人:「藻塩草」/「狂犬考拠」著

I4112 道安(みちやす・今井いまい)1783-1842⁶⁰ 信濃木曾福島の医者;山村家侍医、
医;渡辺昌菴・尾州の小鹿淳庵・京の高階藝州門、経;太田錦城門、歌;正木千樹門、
歌号;松尾千春の名を使用、音楽;笙・笛を好む、

[道安(；名)の別名/字/通称/号]別名；松尾千春、字；士欽、通称；松菴、
号；松屋/金床/橋門

- C4173 **道保**(みちやす・伊藤いとう、道信男)1791-1871 81 江後期筑前中間村大穴牟遲神社の神官、
従五位/伊賀守、国学・伊藤常足門、歌人、1868「筑前遺愛集」編、「足代先生著述目録」編、
[道保(；名)の通称/号]通称；民部/伊賀守、号；花守、
- K4195 **道保**(みちやす・吉和よしわ、通称；太兵衛)1792-1863 72 筑後久留米藩士、国学者、歌学；大隈言道門
- C4175 **通泰**(みちやす・宮崎みやざき/初姓；栗原)1818-75 58 武州秩父郡大河原村の医者；
1836川越の治田道意門、江戸に出て開業医/鳩ヶ谷に移住、1843宮崎通古の女婿；養嗣子、
1848頃長崎で蘭医学修得、東海道蒲原宿で開業/帰郷し養父を助け医業拡張、
養父没後は名主職継嗣；私塾を開く、門弟数百、歌を嗜む、
「蘭学辞典」「蘭書考」「五倫塾訓」「五倫則和歌集」著、
[通泰(；名)の幼名/初名/通称/号]幼名；道之助、初名；精意、通称；八郎右衛門、
号；楽水/娛山堂
- 通安(みちやす・西河) → 梅庵(ばいあん・西河にしかわ、藩士/儒/詩) 3 6 5 1
通泰(みちやす・中院なかのいん) → 通胤(みちたね・中院/源、廷臣/日記) B 4 1 8 1
通庸(みちやす・東久世) → 通庸(みちいさ・東久世ひがしぐぜ、廷臣/歌) K 4 1 2 2
道泰(みちやす・杉岡) → 宵眠(しょうみん・溪月庵、狂歌) L 2 2 6 9
道穩(みちやす・竹中) → 玄脩(げんしゅう・竹中たけなか、藩医/歌人) D 1 8 8 5
- C4176 **通幸**(みちゆき・林はやし、林子平の甥)？-？ 江後期文筆家；1867「海国兵談補遺」著、
[通幸(；名)の通称/号]通称；平造、号；柳圃
- I4119 **道行**(みちゆき・碓田うすだ、通称；忠左衛門)1827-1902 76 信濃埴科郡西船山村の歌人；遺稿集あり
- C4177 **三千代**(みちよ・県犬養橋宿禰あがたいぬかいのたちばなのすくね、県犬養宿禰東人あずまひと女)？-733 奈良期の歌人、
美努王(三野王)みのおおきみの室；葛城王(橋諸兄)・佐為王(橋佐為)・牟漏女王を出産、離婚、
のち藤原不比等の室；光明子(聖武天皇皇后)らを出産、内命婦正三位/正一位大夫人追贈、
万葉二・三期歌人4235、法隆寺に橋夫人厨子あり(阿弥陀三尊の念持仏収納)、
[天雲あまくもをほろに踏みあだし鳴る神も今日にまさりて恐かにけめやも](万葉；十九4235)、
(聖武天皇へ奉る歌/久米広繩の伝誦)
- C4178 **通世**(みちよ・中院なかのいん/本姓；源、通方男)？-？ 鎌倉期廷臣；1257参議/正三位/左近中将/70出家、
歌；1259正嘉北山行幸和歌入/1265(内裏)歌合参加；5首入、
[よそながら霞むと見えしみ吉野の山の桜ははや咲きにけり](文永二年歌合；三番左5)
- C4179 **通世**(みちよ・中院なかのいん/本姓；源、久我通博男)1465-1519 55 中院通秀の養嗣子、戦国期廷臣；
1487参議/93権中納言/1501従二位、加賀の家領に下向；同地没、
「通世卿記」「慈得院拝賀記」著、連歌；新撰菟玖波；3句入、
- C4180 **未知代**(みちよ、美知女、眠我の妻)？-？ 江中期俳人；蓼太門、
1765自邸に師を招聘し夫と三吟；「十牛図」(眠我編)
参照 夫 → 眠我(みが；号、蓼太門俳人) G 4 1 7 8
- K4175 **三千代**(みちよ・村上むらかみ、)1815-1889 75 三河碧海郡堤村の医者村上忠順ただまさ(1812-84)の妻、
国学者/歌人、3女2男を出産育成、
深見登之野としの(1833-1911/歌人)・鈴木小鈴(1839-93/歌人)・八千代(1841-62/歌人)・
忠明(1844-65/勤王家)・忠浄(1847-1922/医者)の母
三蝶(みちよう・古阿) → 古阿美蝶(こあみちよう・絵師、戯作) H 1 9 0 2
- C4181 **道良**(みちよし・土師宿禰はにしのすくね)？-？ 奈良期廷臣；746越前史生；越中守家持邸の宴に参加、
万葉四期歌人；3955、
[ぬばたまの夜よは更けぬらし玉櫛笥二上山ふたがみやまに月傾かたぶきぬ](万葉；十七3955)
- C4182 **道良**(みちよし・源みなもと、中納言源資綱男、源経長養子)1050-1111 62 平安後期廷臣；大蔵卿、
但馬権守、1100(51歳)従三位/非参議/1102大宮(太皇太后宮)権大夫兼任、
歌・承暦2(1078)内裏歌合参加(大宮亮名)、
[あやめぐさなにのためしにひきそめてかからぬ宿のつまなかるらん](内裏歌合；六左)
- 4122 **通能**(みちよし・源みなもと、源雅兼男)？-1174 母；大納言源能俊女、左中弁源師能もろよしの養子、
平安後期廷臣；正四下右近衛少将、歌人；1160清輔家歌合の判者、1166重家家歌合参加、

1167経盛家歌合参加、二条天皇内裏百首を詠進/続詞花集・今撰集・夫木抄入集、
勅撰3首;千載(629/671)新続古(493)、

[我が恋は尾花吹きこす秋風の音おにはたてじ身にはしむとも](千載;671/二条院百首歌)

- C4183 **道良**(みちよし・二条にじょう、関白良実男/本姓;藤原) 1234-59 早世 26歳 母;四条隆衡女の儷子、
鎌倉期廷臣;右中将/1243従三位/44正三位・権中納言・従二位/46正二位・左大将、
1247権中納言/50内大臣/1252(19歳)右大臣・左大臣/57従一位/59出家;没、教良・師忠の兄、
妻;藤原為家女の為子(後嵯峨院大納言典侍)、歌人:1259「北山行幸和歌」著、
勅撰5首;続古今(131)続拾遺(440/1026)玉葉(679)続千載(145)、
[咲きにほふ花をひかりにさしそへて木の間をいづる春の夜の月](続古今;二春131)、
[道良(;)名)の通称] 九条左大臣
息女も歌人 → 道良女(みちよしのむすめ・二条、九条忠教の室/歌) C 4 1 8 9
- C4184 **通慶**(みちよし・津田つた) ? - ? 江初期因幡鳥取藩士、馬術家;代々馬芸で出仕、
藩主池田吉泰の時に別当役、「病馬医鑑」著、養子;通明(みちあき)
- C4185 **道義**(みちよし・源みなもと) ? - ? 正親町公通[おおぎまちきんみち・白玉、1653-1733]の家司、
公通「祖父一品殿月次花鳥狂歌」筆録
- C4186 **濟美**(みちよし・三宅みやげ、観瀾男) 1702-82 81 幕臣;1718父の遺跡継嗣;小普請/28甲府勤番、
甲府移住/1771番を辞職/79致仕、儒者;室鳩巢門、詩文;「玉淵詩文集」著、
[濟美(;)名)の通称/号]通称;岩二郎、号;玉淵/拙堂/詠帰(;)致仕後)、
- J4138 **迪吉**(みちよし・鈴木ずき、) 1719-1791 73 佐渡両津の商家の生、幼少より学問を好む、
宝暦(1651-63)頃上京/和漢学・歌;大愚慈延(1748-1805)門、豪商鈴木北湖の弟、詩社結成、
[迪吉(;)名)の字/通称/号]字;士康、通称;利右衛門、号;逸甫/竜洲
- K4177 **道可**(みちよし・百瀬ももせ、旧姓;奈良井)?-1805 信濃筑摩郡洗馬(せま)宿の本陣経営、歌人;桃沢夢宅門、
道一(みちかず)の父、百瀬政武(まさたけ)(1741-1825)と同族、
[道可(;)名)の通称] 伝左衛門
- C4187 **道義**(みちよし・川崎かわさき/初姓;近藤) 1789-1864 76 岩代白河の商人/川崎家を継嗣;養嗣子、
白河郷学校に入学、儒;熊谷忠順門、天保1830-44の飢饉に民衆を救済;
その功績で白河藩西郷地代官に抜擢される、「谷樵夜話」「慎身録」「立身録」著、
[道義(;)名)の通称/号]通称;弥助/小三郎、号;谷樵
- C4188 **通義**(みちよし・河野こうの、三郎左衛門男) 1791-1851 61 加賀藩士;1827家督嗣/和算家;石黒信由門、
測量;本多利明門/天文暦学;黒川良安門/砲術;村上定平門/大坪流馬術・中条流劍法修得、
河島流・自得流火箭術修得、1807-8出現の彗星観測、1821-西村太沖と「金沢分間絵図」作製、
1828「製八線対数表法」著、1835柴野美啓(よしひろ)とハレー彗星観測、1837「直線三角往来」著、
「太陽往来算法」「地図製法」「量地直弧之異術」著、
[通義(;)名)の通称/号]通称;久太郎、号;淡水
- H4163 **道美**(みちよし・本庄ほんじょう、道貫の長男) 1820-76 57 母;本庄道昌女、1858父没;美濃高富藩10代藩主、
従五下/近江守/宮内少輔、1859大番頭/63二条御定番/67雉子橋御門番、
1868戊辰戦争では新政府に協力;69高富藩知事/廢藩置県で免職;4女に婿を取り隠居、
正室;九鬼隆都女、法号;隆徳院、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[花散りて青葉に繁る夏山の木の下陰ぞ風の涼しき](大江戸倭歌;夏394/新樹風)
- J4170 **通因**(みちよし・館たち、初名;通徳) 1826-1904 79 伊勢三重郡の津藩士/儒・詩;江幡(えはた)通寛(晩香)門、
漢学;斎藤拙堂門/歌;黒沢翁満・佐々木弘綱・三条西季知(すえとも)・横山由清門、
「西東日記」・歌集「楠園集」著、
[通因(;)名)の通称/号]通称;良太郎/友右衛門、号;楠園/吾足斎
- 道芳(みちよし・北小路/本荘)→道芳(みちか・北小路きたこうじ/本庄ほんじょう、陪臣/幕臣/歌) L 4 1 2 0
- 道能(みちよし・岩波) → 七郎右衛門(しちろうえもん・岩波いかなみ、代官/歌) a 2 1 1 8
- 道喜(みちよし・小倉) → 仙朴(せんぼく・秋山、棋士) N 2 4 1 2
- 道義(みちよし・野田/河浪)→ 質斎(しつさい・河浪かわなみ/野田、儒者) E 2 1 8 9
- 道義(みちよし・中島/江沢)→ 養樹(ようじゅ・江沢えざわ、医者) B 4 7 0 8
- 道慶(みちよし・田村) → 道啓(みちひろ・田村たむら、歌人) C 4 1 4 0
- 通良(みちよし・林) → 有通(ありみち・林はやし、国学;尊攘思想) F 1 0 8 1

- C4189 **道良女**(みちよしのむすめ・二条にじょう) 1251?-1315?65? 母;藤原為家女の為子(後嵯峨院大納言典侍)、
九条(くじょう)忠教の室;禊子(ばいし・よじ)を出産、鎌倉期の宮廷歌人、1299五種歌合参加、
1303仙洞五十番歌合参加、1304伏見院三十首参加、藤葉集入、
勅撰28首;続拾遺(809/1038)新後撰(141/412/990/1373)玉(11首)続千(3首)続後拾以下
[今はただもらしやせまし涙川誰ゆゑ忍ぶ浮名ならねば](続拾;恋809/九条左大臣女名)、
[二条道良女の通称]九条道良女/九条左大臣女/嵯峨上藤(さかのじょうろう)
参照 息女 → 禊子(ばいし・よじ・九条くじょう、忠教女) B 3 6 3 4
夫 → 忠教(ただり・九条、報恩院/右大臣/歌) F 2 6 6 0
三千代麻呂(みちよまる・細井)→金吾(きんご・細井ほそい、藩士/儒・国学) Q 1 6 8 6
- C4190 **通頼**(みちより・藤原ふじわら、雅材まさき男)?-? 平安中期廷臣;従五下/加賀権守、惟成の兄弟、
歌;居貞おきさだ親王屏風歌に参加、勅撰2首;拾遺1154/後拾遺617、
[早蕨や下したに燃ゆるん霜枯れの野原の煙春めきにけり](拾遺;1154/東宮居貞屏風歌)
- C4191 **道頼**(みちより・藤原ふじわら、山井大納言、道隆男) 971-995早世25 母;藤原守仁女、伊周の異母兄、
廷臣;伊予守/蔵人頭/左中将、990正四下参議/991従三位権中納言/992右衛門督・正三位、
994権大納言/995没、歌;988?東三条院詮子主催「皇太后宮歌合韻麦なでに合」左方人で参加
- L4114 **通頼**(みちより・中院なかのいん/本姓;源みなもと、内大臣通成の長男)?-1312 母;宇都宮檢校頼綱女、
廷臣;左近中将/1257(正嘉元)従三位非参議/58正三位/60(正元2)参議/左中将兼任、
中院家3代当主/1261(弘長元)権中納言/左衛門督/62従二位/檢非違使別当/63正二位、
1268(文永5)中納言/69(文永6)権大納言;87役職停止;息子通重雅参議のため、88本座、
1297従一位/准大臣、98奨学院別当/1304(嘉元2)出家/12(正和元)没、通教・禅助・信頭(の兄、
妻;姉小路頭朝女、通重(1270-1322)・通時(1273-?)・鷹司冬平正室の父、
歌;1259後嵯峨院[正嘉三年北山行幸和歌]入、
[あしびきの山のかひある桜花けふこそ雲の上とみえけれ](行幸歌;23)、
[通頼(;名)の号] 土御門
- C4192 **道依**(みちより・森田もりた、別名;道興、宮原みやはら正房男) 1820-8162 武蔵志木の国学・歌;本居内遠門、
1842(23歳)武州入間郡新井村の森田家の養子;名主を嗣、国学;平田鋏胤・鶴峯戊申門、
和漢学・暦算・歌に通ず、1850独力で宣長を祀る桜木神社を建立、「鈴屋霊社祭祀文歌」著、
[道依(;名)通称] 七郎左衛門
通縁(みちより・久我) → 通誠(みちとも・久我こが/源、内大臣/歌) C 4 1 0 2
- C4193 **道別**(みちわき・大野おのお、通称;鉄蔵) 1784-? 伊予新谷の国学者、新谷藩国学教導、歌人、
1812千蔭「万葉集略解」援助
道別(みちわき・信夫) → 槐軒(かいけん・信夫しのぶ/源、儒/国学) I 1 5 5 8
道別大人(みちわきのうし) → 正令(まさのり・戸沢とざわ、藩主/国学/歌) G 4 0 2 4
道別舎(みちわきのや) → 眞龍(まこと・湯沢ゆざわ/川又、神職/国学) J 4 0 5 1
- C4194 **美津**(みつ・杉木すざき、杉木赤右衛門光貞の妻) 1583-164765 伊勢度会の俳人;杉木望一(もちら門、
望一(もちら)の再従妹、美人の誉れ高く伊勢小町と称される、伊勢俳壇に夫婦で活躍、
1633「犬子集」6句入、1638「毛吹草」「伊勢俳諧聞書集」入、
没後;1676「古今俳諧師手鑑」84「俳諧女哥仙」入、
「俳諧百人一句」入、西鶴「名残之友」に逸話、夫光貞は伊勢外宮神職で歌・俳人、
[梅が枝はわが花笠や春の雨](犬子集;一148)、
夫 → 光貞(みつさだ・杉木/幸田/荒木田、神職/歌・俳人) D 4 1 4 5
- C4195 **美津**(美都みつ・河村かわむら、河村春雄(はるお)の妻)?-? 江後期伊勢山田の歌人、書道;御家流仮名書、
子女教育;書方・裁縫を教授、1853家集「砂謝南美(さざなみ)著(;長歌50首/短歌100首)、
(嘉永4(1851)年飢饉による物価高騰で衣と米交換する苦悩述懐の長歌など入)、
[美津(;名)の別号]別名;光子/充子/みつ子/光女/充女、
夫 → 春雄(はるお・河村、国学者) G 3 6 0 3
美津(みつ・山田/狩野) → 水子(みづこ・狩野かろう、歌人) I 4 1 6 5
三津(みつ・池田/毛利) → 三津子(みつこ・毛利もうり/池田、歌人) D 4 1 3 7
光(みつ・戸田) → 葆堂(ほうどう・戸田とだ、藩士/詩人) F 3 9 9 1
貢(みつ・鍋島/松平) → 健子(たけこ・松平まつだいら/鍋島、藩主室) Z 2 6 5 8

- 満(みつ・野中川原史) → 満(まろ・野中川原史のなかのかわらのふひと、日本書紀歌人) 4 0 3 9
 密(みつ・松崎) → 慊堂(こうどう・松崎まつぎ、儒者) 1 9 1 7
 密(みつ・前嶋) → 密(ひそか・前嶋/前島、諸学/郵便制度) C 3 7 5 5
- C4196 **光顕**(みつあき・土佐、光正or隆兼男)?-? 鎌倉前期絵師:画所預、「木筆三十六歌仙絵巻」
 C4197 **光顕**(みつあき・祝部はふりべ?)?-? 鎌倉後期阿波守/比叡神社関係者、
 歌;比叡社ひえのやしらの歌合参加:7首入、
 [郭公鳴くとばかりのひとこゑは夢うつつともわかぬ夜半かな](比叡社歌合;十五番左)
- J4182 **光顕**(みつあき・外山とやま/本姓:藤原、一字名;仙、日野弘資2男) 1652-1738⁸⁷ 母;家女房、京の廷臣;
 藤原北家日野家分流の外山家の祖、日野資茂の弟/豊岡有尚・日野輝光・豊岡弘昌の兄、
 1685(貞享2)従三位、左兵衛権佐・参議/権中納言、1731(享保16)権大納言/正二位
 歌・書画に通ず、光和・長澤資親・豊岡光全の父、
 [光顕(;名)の初名]宣勝
- C4199 **光章**(みつあき・加賀美かがみ/本姓:源、飯田、旗本間宮高成男) 1711-82⁷² 甲斐山梨郡の神道家、
 国学者、初め甲斐柴宮神社神主の飯田台正の養子、
 のち甲斐山梨郡下小河原村山王権現神主の加賀美堯光の養子、
 享保1716-36頃上京遊学/歌;姉小路実紀門/国学;鳥谷三蔵門/儒;三宅尚斎門、
 垂加神道;玉木正英門、有職故実・天文暦学をも修得、甲斐に帰郷;山王権現祠官継嗣、
 家塾環松亭を開設、書庫を公開し子弟教育;山県大弐・加藤昌融まさひらの師、
 「桜塙詩籙」「桜塙文集」「神学持衡」「神代諸説」「神代記筆録」「晩秋詩稿」「環松亭雑記」著、
 1764「大疑録辨評」編/71「神学指要」、外著多数、光起みつおきの父
 [光章(;名)の初名/字/号]初名;台前、字;小膳/大章/太章、
 号;霞沼かしょう/河上/桜塙おうお/桜園/環松亭
- D4100 **光秋**(みつあき・上田うねだ、通称;左内)?-? 江中期1748-64頃の京祇園社の祠官、
 神道/故実:多田義俊門、「冠帽辨」著
- D4101 **光顕**(みつあき・伊良子いらこ/本姓:源、道牛どうぎゅうの孫) 1737-99⁶³ 山城伏見の外科医、1758刑屍解剖、
 1777典薬寮の医師/長門守/92正六下、1765京円山で物産会開催、1767「外科訓蒙図彙」著、
 [光顕(;名)の初名/字/号]初名;主膳、字;孝伯、号;無荒堂/無航堂むこうどう
- I4152 **光顕**(みつあき・岡田おかだ、忠寛男) 1754-1836⁸³ 播磨佐用郡作用代官、歌人;烏丸光荣・有栖川職仁門、
 光隆の父、
 [光顕(;名)の通称/号]通称;源太夫、号;光斎
- J4181 **光秋**(みつあき・土岐とき、通称;孫次郎/主税ちから)?-? 江後期;和歌山藩士、
 長沢伴雄(1808-59自刃)の従兄、国学者;本居大平(1756-1833)門
- H4168 **光章**(みつあき・桜井さくらい、桃沢匡逸まさはや男) 1804-63^{60歳} 信濃伊那飯島本郷村名主桃沢夢宅の孫、
 伊那郡飯田の桜井家の養子、国学・歌;岩崎長世門、房光の父、
 [光章(;名)の通称/号]通称;桂助/文治郎/用内、号;桜之舎/一応亭/吾慎
- I4177 **光昭**(みつあき・木下きのした、旧姓;野原) 1814-78⁶⁵ 信濃伊那郡飯田の生/伊豆木領主小笠原家家臣、
 国学;小笠原三千子・桜井春樹門、養嗣子;北原光重、
 [光昭(;名)の通称]又左衛門/一馬
- J4159 **光明**(みつあき・高瀬たかせ、) 1837- ? 江戸の生/平田延胤の妹(鍊胤女?)と結婚、
 国学者;出羽久保田(秋田)に住(鍊胤・延胤が秋田藩士)/のち武蔵川越住
 [光明(;名)の別号/通称]別名;美佐雄/光彦、通称;権平/美濃
- J4168 **光昭**(みつあき・竹屋たけや、光有男) 1837-1906⁷⁰ 京の廷臣;日野家・広橋支流儒道・插花の当主、
 孝明天皇に出仕、有職家/歌人、維新後東京住;掌典/御歌所参候/雅楽部長/正三位
 妻;富小路熊子(富小路永忠女)・家女房(太田信熙女)、光富・津根子(皇太后宮職典侍)の父
- K4153 **光昭**(みつあき・槇島まきしま、通称;錠之助、旧姓;長谷部) 1841-65^{切腹25} 江戸生;槇島家の養子;
 近江膳所藩士、国学・歌;谷森善臣門、尊攘派、
 1865(慶応元)尊攘派11人処分の膳所城事件(家茂暗殺計画の嫌疑逮捕)に切腹
- J4142 **光顕**(みつあき・田中たなか/本姓:浜田、浜田金治[充美]男) 1843-1939^{長寿96} 土佐高知藩陪臣の子、
 土佐藩士/武市瑞山門;土佐勤王党入:尊攘運動/1864脱藩/67中岡慎太郎の陸援隊入、
 維新後;1868兵庫県権判事/71岩倉使節団に随行し渡欧、西南戦争で征討軍会計部長、

陸軍少将・元老院議官・警視總監・学習院長、1898宮内大臣；在任中宮中で権勢、茨城県大洗町の常陽明治記念館・多摩聖蹟記念館・高知県佐川の青山文庫建設、高杉晋作漢詩集[東行遺稿]刊、「維新夜話」「憂国遺言」著/口述回顧談「維新風雲回顧録」著、[光顯(；名)の幼名/通称/号]幼名：顕助、通称；辰弥、号；青山、妻；伊興子(1851-1905/歌人)/後妻；小林孝子

- K4149 **光昭**(みつあき・馬島ましま、)1844-1871**早世28** 長門萩藩士、代々医家/和漢学修学、1857(安政4)松下村塾入；塾中第一流の少年/松陰没後；1861(文久元)一燈銭申合に参加、国事奔走；1863馬関外国船艦砲撃に参加/高杉奇兵隊の書記役、1865(慶応元)吉田松陰の遺命を嗣ぐ；松下村塾で教授/松陰の遺稿整理、1870(明治3)朝廷勤皇殉難者の事蹟報告のため資料収拾、歌人、1870(明治3)8月近藤(田中)芳樹の抄宗寮夕食当座探題に入；「遺文」あり、1871(明治4)東京住；熱病で没、
[海原にかざやく月のさやけきに砕けて光る磯のいは浪]([萩の歌人]入)
[光昭(；名)の初名/通称/号]初名；光豊、通称；**甫仙**ほせん/誠一郎、号；桜山/孤雲子/樗櫟散人ちよれきさんじん/静斎
- J4183 **光華**(みつあき・土井どい、)1847- 1918**72** 淡路三原郡の国学/歌人；加藤千浪・海上胤平門、岩倉具視の侍講、1879(明治12)政治結社[北辰社]結成/81静岡で暁鐘新聞発行、自由民権運動家、1885東京府兵事課長/87三重県飯野飯高多気三郡郡長；88致仕；松坂住、衆議院議員；晩年松坂住、政治家/和漢学者/歌人/文筆家/翻訳家、
[光華(；名)の字/通称/号]字；士濟、通称；光次郎、号；淡山/舟雪
光暁(みつあき・桑門) → 光暁(こうぎょう、僧/連歌作者) 1995
光明(みつあき・津民/小森) → 一肖(いっしょう・津民/小森、俳人) C1183
光明(みつあき・佐野) → 竹之助(たけのすけ・佐野、藩士/大老襲撃) O2657
- D4102 **光明**(みつあきら・土岐とき/外山、土岐頼遠男/本姓；源) ?-? 南北期武将；五位遠江守、氏光の弟/光正の兄、歌人；1364成立「新拾遺集」980、
[越えわぶる相坂山の関よりもよそにもる名ぞ苦しかりける](新拾遺；十一恋980)
- D4103 **満詮**(みつあきら・足利あしかが、義詮よしあきら男/本姓；源) 1364-1418**55** 母；善法寺通清女の紀良子、武将、義満の弟、1402参議・従三位/03従二位・権大納言/出家；贈左大臣従一位、歌人；1314自邸で「七百晩歌合」主催ほか度々歌会催、新続古集5首(316/353/505/659/993)、
[時鳥おのがさ月も過ぎぬとやかたらふ声の遠ざかりゆく](新続古；夏316/郭公稀)、
[満詮(；名)の通称/号]通称；小河[川]殿、入道号；道智、法号；養徳院
- D4104 **光昱**(みつあきら・上部うかべ/本姓；度会、高向たかむ光郷男) 1717-72**56** 伊勢外宮権禰宜/正五下、宝暦1751-64頃上部に改姓、「中臣祓諱辞抄」著、通称；内蔵助くらのすけ
- E4148 **光憲**(みつあきら・大滝おたき/初姓；田中) 1799-1862**64** 出羽田川郡大山の大滝藤左衛門の養子、酒造業を経営、国学者；田中万春門/1821伊勢神官荒木田末寿門/京の富小路貞直門、1822帰郷；子弟教育/25隠居、1844鈴木重胤門/賢木舎社中を経営/46大山の年寄役を務む、1853「日本書紀伝開宴歌集」編、「推安政五年戊午暦歩数」著、息鈴木光胤(光俊)は重胤養子、
[光憲(；名)の字/通称/号]字；子章、通称；三郎/清三郎/弥三郎、号；賢木之舎さかきのや/樸斎
- D4105 **光淳**(みつあつ・阪/坂ばん・さか/本姓；平) 1665-1747**83** 尾張愛知郡武士/浪人；江戸住、歌；烏丸光雄門、堂上歌学を修得、門弟教育、1710「和歌継塵集」編/26「用心私記」30「和歌格式」著、1732「和歌山下水」編、27「柯山隨筆」「用心私記」/34「枕詞繼燭抄」39「和泉の柚」外著多数、
[光淳(；名)の別名/通称/号]名；常淳→光淳→**常淳**(常惇)、通称；幸助/将曹、号；**静山**、門人；萩原宗固・内山椿軒・平秩東作(立松東蒙)など
- J4176 **弥厚**(みつあつ・やこう・都筑つぎ、也更の長男) 1770-1833**64** 三河碧海郡和泉村の豪農・酒造業、1813(文化10)旗本松平家の根崎陣屋の代官に就任；碧海台地の新田開発・用水開削計画；村民の反対にも屈せず私財を投じ夜陰に測量を完成；許可を得たが1833(天保4)病没、没後約50年農民の協力で矢作川からの灌漑用水路[明治用水]完成、
[弥厚(；名)の通称/号]通称；弥四郎(父の称)、号；果楽
光文(みつあや・土佐) → 光文(みつふみ・土佐、絵師) E4180
- D4106 **光有**(みつあり・堀川/堀河ほりかわ、光継男/本姓；藤原) ?-1383**戦死** 南朝廷臣；藏人/右中弁/権大納言、

正二位、歌人;1365正平廿年点取三百首和歌(於住吉行宮;堀河中納言名)、
1375五百番歌合・住吉社三百六十番歌合参加、
新葉集9首;29/142/306/316/425/803/845/1040/1407、
[草の原みどりをこめてむさしのやかぎりもしらず霞む春かな](新葉;一春29)、
(正平廿1355内裏七百首歌/野霞)

D4107 **密庵**(みつあん:道号・古道こどう:法諱)?-?1854存 江後期磐城白河郡大村の曹洞宗松林寺30世、
1854能登総持寺輪住、1867「碧巖祖燈集」編

密菴(みつあん・武富) → 圀南(いなん・武富たけとみ、儒者/詩文) I 1 1 1 3
密庵(みつあん) → 鳥友(ちょうゆう;法諱、天台僧) J 2 8 9 8
密庵(みつあん) → 僧慈(そうじ;法諱、天台宗安樂律派僧) H 2 5 6 1
三亥(みつゐ・市河) → 米庵(まいあん・市河三亥みつゐ、儒/詩/書家) 2 7 0 0
密帷(みつゐ;法諱) → 文江(ぶんこう;号・実猷、臨濟僧) F 3 8 2 1

D4108 **満家**(みついえ・九条くじょう、経教男/本姓;藤原) 1394-1449 56 兄忠基の猶子/家督嗣、廷臣;
1406従三位/権中納言/14右大臣/18関白左大臣/31改名;満輔/38改名;満家/48出家、
「九条満家公(後三縁院)引付」、連歌/歌;新続古今4首;528/1514/1656/1688、
[長き夜も有明の月も見し夢も残る枕にうつ衣かな](新続古;五秋528/前関白左大臣名)
[満家(;名)の別名/法号]別名;満教(;初名)/満輔(1431改名)、法号;後三縁院

光家(みついえ・藤原) → 浄照房(じょうしょうぼう、定家男/廷臣/歌人) N 2 1 9 5
光家(みついえ・狩野) → 山雪(さんせつ・狩野かのう、狩野派絵師) E 2 0 5 2
光家(みついえ・佐竹) → 宗三(そうさん・佐竹、武家故実/弓術家) H 2 5 4 3
三井越前守(みつゐえちぜんのかみ) → 祥盛(しょうせい;法名、僧/連歌作者) K 2 2 2 4
みつゐ(みつゐち・萩田) → 山崎検校(やまさきけんぎょう、歌人) H 4 5 1 2

D4109 **三津飲子**(みついんし) ? - ? 江中期豊竹座の浄瑠璃作者、
1755「双扇長柄松」-57「写儘足利染」、57「祇園祭礼信仰記」合作(阿契・応律らと)

光氏(みつうじ・藤原) → 明教(みょうきょう;法諱、廷臣/出家/歌人) G 4 1 3 0
光海(みつうみ・石井) → 熊太(くまた・石井いひ、藩士/武道家) D 1 7 4 2

D4110 **密雲**(みつうん:道号・彦契げんかい:法諱、俗姓;河野) 1703-49 47 豊後野田村曹洞僧;安樂寺白猷穩貞門、
諸国遍歴後に白猷穩貞はくがいていの法嗣、丹波円通寺指月庵に住、
1742「豊鐘善鳴録」43「指月菴記」46「禅宗出世班次記」著

密雲峰(みつうんぼう) → 白雪(はくせつ・太田、国学/俳人) D 3 6 4 8

K4192 **盈枝**(みつえ・吉田よしだ) 1693- 1767 75 大坂の商家;材木問屋(or舟板問屋)備前屋、
和学者/連歌を能くす、
懐徳堂創設の[五同志]の1(三宅石庵を学主に船場に町人のための学問所を創設)、
[盈枝(;名)の通称/号]通称;備前屋吉兵衛、号;養斎/可久

D4111 **光枝**(みつえ・大村おむら/中村/本姓;藤原/羽柴) 1753-1816 64 京の国学者;賀茂真淵門、歌人、
1792頃信州松代藩主真田幸弘・幸専に出仕、越後で良寛とも交流、泉真国・長野美波留の師、
1792「皇国辞解」94「国辞解」、「藤原とうげん歌集」「ひなのてぶり」「鳩の浮巢」「越後日記」著、
「古今六帖旁注」、1812「万葉誤字愚考」著、晩年は江戸住、
門人;泉真国・長野美波留・山本以南・毛山正庸まさゆき・橘由之・橘泰樹など、
[世の中は鳩におの浮巢の浮きながらありなんものか波のまにまに](鳩の浮巢;序)、
[光枝(;名)の初名/通称/法号]初名;降住、

通称;行蔵(;羽柴)/彦太郎(;大村)/信濃(;中村)、法号;玄峯院

4123 **御杖**(みつえ・富士谷ふじたに、成章の長男/本姓;藤原) 1768-1823 56 筑後柳川藩士;京留守居役、
国学・歌学;父門/父没後は伯父皆川淇園門、歌;1785日野資枝門、言霊倒語説を主張、
1821(文政4)柳川藩の譴責にあい無禄、22半身不随となる;23没、元広の父、
1807「天爾波抄」(北辺成元名)、「北辺御杖大人家集」「富士谷御杖家集」/19「万葉集燈」著、
1821「脚結抄玄義」、22「神明憑談」、23「あし原蟹」編、「御杖歌集」「五代集類題」編、外著多数、
[御杖(;名)の初名/通称/号]初名;成寿/成元、通称;源吾/千[専]右衛門、
号;北辺きたのべ(父成章の号を継承)/北野/審神舎/須賀室すがのや/如蓮華道人、
門弟;榎並隆璉・並河基広・福田美楯・古山尹猷ただのり(女婿)、晩年の庇護者;五十嵐篤好

- K4138 **光徳**(みつえ・烏丸からすまる、権大納言光政男)1832-7356 尊王攘夷派;1867王政復古で参与、68参議、有栖川宮熾仁親王と江戸下向;軍政下で江戸府知事/初代東京府知事/帰京、1869宮内大輔、皇后宮大夫、妻;隋姫よりひめ(久世通理女)、光亨・南部光臣・郁・櫻野光正の父
光枝(みつえ→てるえ・桜井)→ 光枝(てるえ・桜井伊兵衛、国学/狂歌) C 3 0 7 0
光枝(みつえ→てるえ・渡辺)→ 光枝(てるえ/みつえ・渡辺わたなべ、問屋商/狂歌) F 3 0 2 7
光右衛門(みつえもん・小野)→ 以正(もちまさ・小野おの、里正/和算家) B 4 4 6 8
- D4112 **光雄**(みつお・烏丸からすまる、資慶男/本姓;藤原)1647-9044 母;清閑寺共房女、廷臣;1669参議/正四上、右大弁/80従二位/81権大納言、家学(;歌学)継嗣、「五十首四種」「光雄卿口授」著、「靈元院九十七題和歌」/1681「当座和歌難陳」「神楽催馬楽抄」、「光雄卿記」著
法号;大光院、宣定の父
- D4113 **光雄**(みつお・平瀬ひらせ、号;長水)?-? 播磨の弓術家;門弟指導/畑敬義[寛濟]などの師、1788「射学要録」/96「射法新書」「李滿弓射法指南」/99「射学精要」「射法本紀略説」著
- K4118 **光雄**(みつお・樋口ひぐち、) ? - 1820 江中後期;遠江浜松の国学者/歌人、妻;すみ
- J4195 **光雄**(みつお・中山なかやま、通称;広太郎)1832-9665 遠江佐野郡の国学者;石川依平門、掛川の雨桜神社から遠州報国隊に参加
- I4166 **三雄**(みつお/さんゆう・狩野かのう、本姓;三谷みたに)1834-8047 筑後三潯郡の久留米藩御用絵師、画;狩野永恵いとく門、国学;真木保臣門、歌人、尊攘派として水野正名らと活動、娘;すが、[三雄(;名)の別名/通称]別名;真琴/義信、通称;左京之進/永錫えいしやく
- J4188 **光雄**(みつお・伴林とまぼやし、光平男)1845-8541 河内河内郡の国学者;父門、勤王派、父と共に天誅組に参加(父は1864[文久4]捕縛され京六角の獄で処刑)、京都住、[光雄(;名)の通称/号]通称;芳太郎、号;芳林/周雅
光雄(みつお・神南) → 誠敬(のぶたか・神南かんなみ、神道/国学/歌) B 3 5 7 2
光雄(みつお・柳沢) → 保泰(やすひろ・柳沢やなぎさわ/源、藩主) C 4 5 8 9
- K4145 **光丘**(みつおか・本間ほんま、庄五郎光寿3男)1733-180170 出羽酒田の商家;3代目当主;豪商/大地主、1750(寛延3/19歳)播磨奈良屋権兵衛門;商業修行/1754(宝暦4)家督嗣、金貸業・上方との商取引・大名貸・田地集積などで巨商となる、1758酒田西浜砂防のため私財で植林事業、1762(宝暦12)士格;小姓格御勝手御用掛、藩政にも参画;酒田港口に灯台建設・藩士の借財を本間家の低利な資金に借換え、1768(明和5)酒田・鶴岡両城の普請掛を下命;備荒貯蓄米24000俵を献上;功で禄5百石、庄内藩の江戸藩邸焼失;藩の財政改革に参画/1794米沢藩主上杉治鷹山に金策援助
1792(寛政4)北海警備のため大砲10門献上、1801(文政9)没、国学者、光道の父、顕彰のため酒田光丘ひかりがおか神社が鎮座、
[光丘(;名)の通称/号]通称;四郎三郎/友次郎/久治/久四郎、号;宗善/蓬萊舎/蓬萊山其山
- 4124 **光起**(みつおき・土佐とさ、光則男/本姓;藤原)1617-9175 和泉堺の絵師/父と上京、1654画所預、従五下/左近衛将監/1681剃髪;法橋/85法眼、土佐派の中興;内裏障壁画制作、画論の整備、「秋郊鳴鶉図」「十二ヶ月歌意画卷」「三十六歌仙画帖」「執金剛神縁起」「源氏物語絵巻」画、「大寺縁起」「津礼津礼草四季画」画/1690「本朝画法大伝」、「詠鶯声誘引来歌和歌」著、[光起(;名)の幼名/号]幼名;藤満丸、号;春可軒、法名;常昭、法号;寿光院
- D4114 **光興**(みつおき・松波まつなみ/本姓;藤原、光篤男)1718-9376 松波資秀の養嗣子/官人;1735正六上;右衛門少尉/陸奥介/左衛門大尉/50女院北面/書綺門院御雇/71従四下播磨守、1792正四下、儒・詩;伊藤東涯門、「膝酌斎先生詩集」(;息葆光編)、[光興(;名)の字/号]字;士発/発、号;桐陰/酌斎、葆光やすみの父
- I4163 **光起**(みつおき・加賀美かがみ、光章みつあき男)1738-6730 甲斐山梨郡下小河原村山王権現祠官、国学;父門、
[光起(;名)の通称] 上総
- D4115 **光起**(みつおき・芳賀はが、木村吉六男)?-? 羽後大館の芳賀宅右衛門の養子/羽後秋田藩士;、数字・田法に長ず、御製薬方取扱/産物方役/1807蝦夷出兵の案内役、1818楮苗木購入のため岩代伊達郡梁川町へ派遣される、鶯の体を調査;羽を付け飛行研究、1821「芸桑録」、「楮養録」「経済秘録」「壬辰紀行」「楮方諸事留帳」著、

[光起(；名)の通称/号]通称；官助、号；穀木子/正木庵/右声

- D4116 **光宙**(みつおき・勘解由小路かでのこうじ/本姓；藤原、広橋胤定男)1808-6255 母；藤波寛忠女、1818(11歳)勘解由小路資善すけたるの養嗣子/従五下、廷臣；1841非参議従三位/45正三位、1831-62「光宙卿記」著
充興(みつおき・吉村) → 周山(しゅうざん・吉村、絵師/根付) X 2 1 4 1
光韻(みつおと・小池) → 光韻(こういん・小池こいけ、歌人) Q 1 9 1 4
- D4117 **舜臣**(みつおみ・浅井あさい、字；堯寅、因南[1706-82]男?)?-? 江中期尾張の詩人；1745「崑玉集」編
- D4118 **光香**(みつか・北小路きたのこうじ/本姓；藤原、光和男)1720-? 母；家女房、廷臣；1734(15歳)従五上、1738正五下/43従四下/45刑部権大輔/従四上/49中務大輔/51正四下/57従三位非参議、1763正三位/73(8月)返上位記、堂上文筆家、1747南嶺「千賀屋草ちがやぐさ」巻頭「千賀屋草註」著
- I4129 **満香**(みつか・尾山屋おやまや、)?- 1860 加賀石川郡の経師業、歌人/俳人、画；松村景文(1779-1843)門、
[満香(；名)の通称/号]通称；治六、号；永昌
- D4119 **光香**(みつか・牧村まきむら、光清男/本姓；源)1828-6437 石見津和野藩士、国学；父光清門、1842家督継嗣/藩主の小姓、1856上京/国学；大国隆正門、1858藩校養老館教授；藩主亀井茲監の信任篤く国事に奔走、1861「語格指掌図」著、通称；三香之進
三日庵(みつかあん) → 野坡(やば・志太した/斎藤、俳人) 4 5 1 2
密花院靈瑞(みつかいんれいずい) → 靈瑞(れいずい；法諱・一現；字、真言僧) 5 1 4 3
- H4158 **光景**(みつかげ・石原いしはら) ? - ? 越後古志郡長岡の国学者；本居大平門、歌；本居大平(1756~1833)撰「八十浦の玉」下巻；恋歌入、
[雨は降り風は吹くとも妹が家路われは通はむ時わかずして](八十浦；861恋)
- J4131 **三蔭**(みつかげ・首藤すどう、頼中男)1812-7362 伊予宇和島藩士；矢野組代官、歌人、
[三蔭(；名)の初名/通称]初名；頼郷、通称；忠左衛門/忠太夫
- D4120 **光和**(みつかず・外山とやま、光頭男/本姓；藤原)1680-174364 母；家女房、廷臣；1705勝守を光和に改名、1713従三位非参議/18正三位；刑部卿/26参議/宣命使・御酒勅使/31石清水放生会参向、1732東照宮奉幣使/33官職辞任/37権中納言；致仕、初名；勝守、法号；清巖院、1735「中御門院尊号宣下開闔解陣休所等之事」著
光数(みつかず・鴨) → 秀行(ひでゆき・鴨かも、神職) E 3 7 0 4
光風(みつかぜ・佐久間) → 立斎(りつさい・佐久間さくま、兵学者) B 4 9 8 3
- L4118 **光方**(みつかた・惟宗これむね、)?- ? 南北期；武家?/歌人、1375頃細川頼之(1329-92)家奉納[大山祇神社百首]出詠、
[心してゐでのかはづややまぶきのいはぬ色なる花になくらむ]、
(大山祇百首；15/款冬やまぶき/言はぬ色；梔の実で染めた濃黄色；口無しに掛けた洒落、井手は山城綴喜郡の歌枕；井手の玉川・山吹・蛙、
《かはづなくゐでの山吹散りにけり花の盛りにあはましものを》古今春125/読人不知)、
[露しぐれやしほにわきて染めずともよしや名に立つ岡の紅葉ば](大山祇；50/岡紅葉)
- D4121 **光賢**(みつかた・鳥丸からすまる、光広長男/本姓；藤原)1600-163839 廷臣；1615右中弁/19左中弁、1620正四上/25正四上/26参議；左大弁/27従三位/28造東大寺長官兼任/30権中納言、1631正三位、歌学者、資慶すけよしの父
- D4122 **光方**(みつかた・田中たなか、名；信光、号；銀竹軒)?-1680? 京の俳人・西武門；高弟、1654歳旦発句、1662「雀子集すずめごしゅう」編(自序あり)、「常盤草」「そらうそ」、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入/79誹諧玉手箱入(2句)、
[花を見てをらぬものこそなかりけれ](手鑑/感ぜぬものこそなかりけれ等浄瑠璃口調)
- H4173 **光賢**(みつかた・内藤ないとう) ? - ? 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[散る花にうづもれはてて庭の面のすみれつばなも雪の下草]、
(大江戸倭歌；春308/落花満庭)
- I4137 **光賢**(みつかた・大滝おたき)1810-187566 出羽田川郡の酒造業/大滝光憲みつあきらの甥、

国学;大滝光憲・鈴木重胤門、

[光賢(;)名)の通称/号]通称;順次/竜助/清三郎、号;樞廼舎(;)師鈴木重胤の号を継嗣)

J4177 **光賢**(みつかた・辻つじ、通称;平七郎)1824-9077 江戸の鉄砲洲神社祠官、歌;香川景樹門

K4109 **光謙**(みつかた・八羽はつば/はちは本姓;荒木田、八羽光穂みつほ長男)1834-7845 伊勢度会郡の内宮権禰宜、
国学者、林崎文庫の学校講師/大講義、妻;藤崎むら(1835-1911/歌人)、
[光謙(;)名)の通称]助之進/志庁/飛驒/常陸

H4178 **光賢**(みつかた・上田うへだ)1840- 189051歳 周防吉敷郡大道村大庄屋の郷士上田光美みつよしの養嗣子、
家督を継嗣、国学・歌人;近藤芳樹門、
[光賢(;)名)の字/通称/号]字;子善、通称;少槌/少蔵(先祖上田光陳みつゆきの称)、
号;琴台/百穎ひやくえい

三季(みつかつ・堀) → 季雄(ときかつ・堀ほり、藩士/詩歌/国学) J 3 1 0 5

H4108 **光間**(みつかた・岡田おかた、忠次男)1696-177479 播磨佐用村の大庄屋/本陣、漢学;1720伊藤東涯門、
歌人;烏丸光栄門のち有栖川宮職仁親王門、「光間歌集」、「播磨風土記考」「寒梅園筆記」著、
1754春名忠成「西播怪談実記」序文(;)岡靖軒名)、55「播磨古跡考」著、春名忠成の師、
光尉みつまさの父、光良みつよしの曾祖父、光良の母みね子は国学者、
[光間(;)名)の通称/号]通称;与一右衛門、号;尚佐/靖軒、法号;大庚院

K4185 **光門**(みつかた・矢内やない、)1819-189173 陸奥安達郡の国学者;安井九左衛門(静枝)門、
[光門(;)名)の通称/号]通称;武右衛門、号;鉾杉廼屋、千俊かぢ(星園)の父
満門(みつかた・銀杏) → 銀杏満門(ちちのみみつかた、幕臣/狂歌) E 2 8 7 5

D4123 **光兼**(みつかた・鴨かも、惟秀男)? - ? 1233存 下賀茂神社祝/五位・歌人;新勅撰1367、
1227頃藤原定家宅を訪問(明月記入)、
[へだてこしきりはのやまにはれねどもゆくかたしるく牡鹿鳴くなり]、
(新勅撰:雑1367/しきりはのやといふことを詠む/仕切羽は白黒羽を交互にはいだ矢)

D4124 **満包**(みつかた・有賀ありが)1701- 176868 会津藩士;郡奉行、「徳翁神君[藩主松平正容]積慶録」著、
[満包(;)名)の号]号;淖山しやくざん、神号;潮山霊神

D4125 **充懐**(みつかた・朝生あそう) ? - ? 幕末期歌人;山県藩主水野忠精門、
1867「後小竹桐集」編

I4191 **光包**(みつかた・久世くぜ、) ? - ? 美濃大垣の国学者;本居春庭・大平門、
国学;富樫弘蔭門、同門の久世御言みり(1811-71)と同族、
[光包(;)名)の通称]作兵衛

三日坊雛丸(みつかた・ひなまる) → 雛丸(ひなまる・初世三日坊、狂歌)

光樹(みつき・多田) → 義俊(よしとし・多田、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8

D4126 **貢**(みつぎ・乳井にゅうい/初姓;鈴木、名;建富/建福のりとも)1712-9281 乳井儀右衛門建尚の養子、
陸奥弘前の津軽藩士;1735奉公見習/近習小姓/寄合、
1753(宝暦3)藩主津軽信寧のとき勘定奉行;宝暦改革に着手;財政再建に成功、
1755(宝暦5)飢饉に餓死者の発生抑制など功績により賜名[貢みつぎ];1757知行千石、
1758飢饉対策時の借金増大・藩札発行等で藩内の経済混乱;知行没収/川原平村に蟄居、
その後も藩財政不振;1778(安永7)藩主信明のとき新知百石大組足軽頭格で復役;
勘定奉行に再任;1780藩士・商人の反対で再度罷免;川原平に幽閉、
1784赦免;5人扶持、弘前で私塾を開き子弟教育、儒・蘭学・和算・詩歌に通ず、
1772「陸稲記」77「節用則」78「夫貢制」79「期日而已可」81「初学算法」85「版籌」90「周礼通用」、
「王制利権之方」「象数」「観中数要」「検地政」「五虫論」「津軽名臣伝」「無名郷」外著多、
[貢(;)通称)の字/別通称]字;字徳/舒閏、別通称;弥三郎/弥三左衛門/市郎左衛門

K4135 **貢**(みつぎ・藤江ふじえ、字;綾/号;松濤)1814?-74?60余歳 陸奥会津の生/讚岐寒川郡の国学者

D4127 **御調**(みつぎ/みつぎ・松岡まつおか、名;信正/春禰はるとき、藩士佐野正長男)1830-190475 讚岐高松の国学者、
皇典学;友安三冬門/歌;中村尚輔門/画;森良敬門、書家、1850神職松岡寛房の養子;
讚岐志度多和神社祠官、1866藩校皇学寮督学/教授、金刀比羅神社禰宜/兵庫伊和神社宮司、
1885多和文庫創設;古文書蒐集、古器鑑定、1853「斉明紀童謡辨」著/54「讚岐国名勝図会」画、
[御調(;)通称)の別通称/号]別通称;調/美津岐みつぎ、号;香木舎/香木廼舎/滄溟/滄海
御調(貢みつぎ・村田) → 春門(はるかた・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1

- D4128 **光清**(みつきよ・欲賀ほしが) ? - ? 江前期歌人;有賀長伯門、
1700頃「増補歌枕秋の寢覚」(;師著「歌枕秋の寢覚」の補訂)
- D4129 **光潔**(みつきよ・勘解由小路かでのこうじ、韶光あきみつ男/本姓;藤原)1698-1732³⁵ 廷臣;1727右中弁、
1730式部大輔/31従三位、1723「禁中法親王等廻文留」/25・30「勘解由小路光潔記」著
- K4157 **光清**(みつきよ・松本まつもと)1816-1887⁷² 河内志紀郡の歌人・尊王;伴林光平門、
[光清(;)名]の初名/通称/号]初名;好光、通称;勝次、号;椰廼舎やしのみ
- I4158 **光精**(みつきよ・丹下たんげ、)1824-1896⁷³ 伊予今治の歌人(藩士?)、歌;西岡訓棟のりたか門、
歌人;半井忠見(梧庵)「ひなのてぶり」に12首入集、
[光精(;)名]の通称/号]通称;喜右衛門、号;逸翁/松寿軒/徳竜庵/徒然庵
- J4139 **光清**(みつきよ・鈴木すずき)1832-1907⁷⁶ 三河宝飯郡の国学者/歌、「花の下影」編、
[光清(;)名]の通称]浅七/久三郎
- D4130 **貢**(みつぐ・塩路しおじ/本姓;物部、別名;有嗣ありつぐ)1788-1829⁴² 紀伊日高郡の薬種業/医者、
国学;本居大平門、「古事記伝略解」編、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;短歌・長歌[白崎]入、
[春されば野辺の若草もえ出でぬ我家の桜いつか咲くらむ](八十浦;720待花)、
[貢(;)名]の字/通称]字;成章、通称;周造
- | | | | |
|--------------|---|-------------------------|-----------|
| 貢(みつぐ・広橋) | → | 兼勝(かねかつ・広橋、廷臣/歌/連歌) | C 1 5 7 3 |
| 貢(みつぐ・祇園) | → | 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) | 3 2 3 0 |
| 貢(みつぐ・田中) | → | 広道(ひろみち・田中/藤原、神職) | H 3 7 3 2 |
| 貢(みつぐ・行徳) | → | 周文(しゅうぶん・行徳ぎょうとく/平、医者) | Y 2 1 2 9 |
| 貢(みつぐ・倉成) | → | 自嬉斎(じきさい・倉成くらなり/くらし、藩儒) | Q 2 1 0 4 |
| 貢(みつぐ・井川) | → | 鳴門(めいもん・井川いかわ/橘、書家/絵師) | 4 3 4 0 |
| 貢(みつぐ・栗田) | → | 広治(ひろはり・栗田あわた、神職/国学/歌) | M 3 7 0 5 |
| 貢(みつぐ・乳井) | → | 貢(みつぎ・乳井にゅうい/鈴木、藩士/教育) | D 4 1 2 6 |
| 貢(みつぐ・今井) | → | 成忠(しげただ・今井いまい、代官/国学者) | N 2 1 4 3 |
| 貢(みつぐ・柏淵) | → | 静夫(しずお・柏淵かしぶら、里正/儒・国学) | N 2 1 9 9 |
| 貢(みつぐ・佐原) | → | 義昌(よしまさ・佐原さわら、藩士/歌人) | N 4 7 1 6 |
| 貢(みつぐ・山田;変名) | → | 桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派) | C 1 4 7 3 |
- D4131 **光国**(みつくに・藤原ふじわら、資実男)?-1270 鎌倉期廷臣;1263大蔵卿/25文章得業生/45蔵人、
漢学者/詩人、1257勸学院別当、1245「寛平遺誠」校合(宇多天皇著/1172定長書写)、
1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に詩入、
[開方便月新添景 真実相花不待春](定家追善詩;21/法師品)
- D4132 **光国**(みつくに・土佐とさ/家名;栗田口/本姓;藤原、土佐長隆男?)?-? 鎌倉末期絵師、従五下/備後守、
画所預えどころあずかり/法眼、「融通念仏縁起」「是害坊絵巻」画
- 4125 **光圀**(光国みつくに・徳川とくがわ、頼房男/本姓;源・松平)1628-1700⁷³ 母;谷久子、常陸水戸2代藩主、
1661父の遺跡を継嗣/従三位権中納言/1690辞職;91西山荘に隠居後も藩政に関与、
漢学;明の朱舜水を招聘、国学;小野言員門、史料蒐集・整理・校正;修史編纂事業を志す、
江戸藩邸に史局彰考館を設立;多くの人材を集め「大日本史」編纂に着手、
家集「常山詠草」/「常山文集」/「西山公集」著、「舜水先生文集」/「扶桑拾葉集」編/「积万葉集」、
1660「常山聯句」74「鎌倉日記」/「甲寅紀行」/90「西山公訓誠」1700「光圀卿教訓」著/外編著多、
1681[延宝九年水戸徳川家九月十三夜会]催(;)雨の夜会)、
[一とほりむら雨はるる跡よりも夕日にわたす虹のかけはし](常山詠草;雑)、
[降る雨はいとに乱れてながき夜もあかぬ心や月の友どち](十三夜会;冒頭/催者挨拶)、
[光圀(;)名]の幼名/字/通称/号]幼名;長丸/千代松、字;徳亮/観之/子龍、通称;黄門、
号;日新斎/常山人/率然子/梅里/西山、諡号;義公/神号;高讓味道根命
兄は頼重、妻は近衛信尋の養女尋子(1658没早世21歳→光圀室)、養子は綱条つなば、
- D4133 **充国**(みつくに・高こう、名;久、眼科医高甫策男)1771-1834⁶⁴ 播磨明石の医者/古法;吉益南涯門、
蘭方;;杉田玄白門、眼科医;大阪で開業/土生玄碩と親交、1828「和蘭用薬略記」訳、
錦国の兄、高良斎の義理の伯父、
[充国(;)通称]の字/別通称/号]字;伯幹、別通称;修助、号;一斎
- I4178 **光邦**(みつくに・木下きのした、通称;紋吉)1799-1869⁷¹ 信濃伊那郡の商家;飯田藩御仕送り御用達、

国学/歌;福住清風門

- D4134 **光邦**(みつくに・梅谷うめたに、光賢男/本姓;荒木田)1830-90**61** 伊勢山田神職;内宮酒作内人:国学者、歌人、「夏旅都日記」著、
[光邦(;名)の通称] 鞆負ゆげい/筑後
光国(みつくに・八羽) → 光穂(みつほ・八羽はつば/荒木田、神職/国学) E 4 1 8 1
- D4135 **光圀室**(みつくにのしつ・徳川尋子、泰姫やすひめ)1638-58**早世21** 関白近衛信尋の養女、1654光圀と結婚、歌人;「香玉詠藻」著、諡号;哀文夫人、法号;法光院
美津俱利乃舎(みつくりのや) → 為子(ためこ・中西なかにし、歌人) Y 2 6 5 7
- G4199 **見付内住**(みつけのうぢずみ) ? - ? 江戸狂歌;1785「徳和歌後万載集」1首入、
[関の戸も明る横雲たな引て一時早いときばやの馬や越すらん](後万載;羈旅413/大名行列)
(大名行列は重なると混雑するので出発時刻を調整したらしい)
- D4136 **密源**(みつげん;法諱・覚妙かくみょう;字)?-1737 武蔵真言律僧;福智庵応住門、1723慧密より衣鉢戒、
下総松林庵主、1693「七印一明伝授私記」、1718「真俗輯要記」26「秘蔵宝鑰ひぞうほうやく聞書」
密源(みつげん;法諱) → 滾庵(こんあん;道号・密源;法諱、曹洞僧) P 1 9 1 4
- L4113 **光子**(みつこ・高階たかしな、高階成忠女)?-? 平安中期女官/一条天皇中宮定子の宣旨/従五下、
定子の子敦康親王の乳母説、定子母の高内侍(貴子たかこ/藤原通隆室)の妹、
佐伯公行きんゆき(信濃守)の妻、明順・積善(金葉集歌人)・清昭(清照しょうしょう)の姉妹、
996(長徳2)二条宮で火災;藤原彰子は高階明順あきのぶ邸へ避難、
1009(寛弘6)藤原道長・中宮彰子・敦成親王を呪詛する事を計画;
源方理やその妻たちと厭符の製作を僧円能らに依頼;発覚し逮捕/官位剥奪、
兄弟の高階明順も首謀者として連座し没
- K4134 **光子**(みつこ・藤井ふじい、旧姓;香取)1771-1853**83** 下総香取郡の歌人
- D4137 **三津子**(みつこ・毛利もうり、三津/三津姫、鳥取藩主池田治道長女)1789-1856**68** 母;側室於三保の方、
長門萩藩主毛利斉熙なりひろの正室、和学者/歌文に長ず、
夫斉熙没後;武蔵葛飾邸から江戸麻布邸に移住、弘化1844-48頃周防湯田住、
「菊の和歌集」著、通称;三津姫、法号;法鏡院、 侍女に滝本庫子くらこ(歌人)あり
[あふがずや峯てる月は雲風のおさまるみ世の鏡なるらむ]([萩の歌人]入)
- I4101 **光子**(みつこ・豊福とよぶく) ? - ? 江後期;美作英田郡馬形村の歌人、
医者豊福則明(三平/俳号;秋風/1783-1845)の妻、
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- L4120 **光子**(みつこ・石井いし、)1817- 1894**78** 下総佐倉の歌人/税所敦子に出仕、
歌;河本延之・大国隆正門
- I4116 **美津子**(みつこ・上野うえの、初名;むつ)1829-85**57** 筑後久留米の歌人/上野嗣庸つぐもちの妻
光子(みつこ・藤原) → 典侍光子(すけのみつこ、歌人) G 2 3 8 7
光子(充子みつこ・河村) → 美津(美都みつ・河村かわむら、歌人/教育) C 4 1 9 5
光子(美津子みつこ・児島) → 操子(みさおこ・児島こじま/手塚、国学) J 4 1 0 6
満子(みつこ・小槻) → 甫子(なみこ・押小路おしこうじ、天皇乳母/日記) G 3 2 9 0
- D4138 **光子内親王**(みつこないしんのう、後水尾天皇皇女)1634-1727**長寿94歳** 母;逢春院隆子(櫛笥隆致女)、
1682父没後落飾/82観音堂建立(聖明山林丘寺)、「貞建親王並岩宮和歌」「光子内親王消息」、
[光子内親王の幼名/号]幼名;緋宮、号;照山元瑤/普明院
- D4139 **三津五郎**(3世みつごろう・坂東ばんどう、初世坂東三津五郎男)1775-1831**57** 母;森田勘弥6世女のこの、
江戸歌舞伎役者、1778江戸森田座で初舞台/99坂東三津五郎3世襲名/江戸三座中心;
上方にも進出;化政期の代表役者、立役・女方/時代物・世話物を演ず、舞踊の名手、
合巻「情競傾城嵩」(初世松島てうふ[2世桜田治助]が代作)、
[3世坂東三津五郎(;号)の別号/通称]別号;坂東三田八/坂東勘次郎/森田勘次郎2世、
坂東巳之助/坂東簀助(初世)/秀佳しゅうか/秀歌/高亭(初世)、
通称;永木の親方(親玉)/永木の三津五郎、屋号;大和屋
養子;森田勘弥10世・坂東三津五郎4世・坂東しゅうか
- D4140 **三津五郎**(4世みつごろう・坂東ばんどう、3世坂東三津五郎の養子)1800?-63**64?** 江戸の歌舞伎役者、
1803江戸中村座で子役/04初舞台/32中村座で坂東三津五郎4世襲名/33森田座再興、

半身不随;[よひ三津]と綽名されつつ舞台に立つ、50森田勘弥11世襲名/56守田座に改名、
座主・俳優を兼務、実事・和事・舞踊・世話物・実悪を演ず、俳人、咄家金原亭馬生の弟、
合巻(;浜村輔らが代作);1832「向人廓山彦」36「大和錦守袋」著、
[4世坂東三津五郎(;号)の別号/法名]別号;坂東簀助2世/守田勘弥11世/秀朝/是好/佳朝、
屋号;大和屋/喜の字屋、法名;実信院

満五郎(みつごろう・岩崎) → 求斎(きゅうさい・岩崎いささき、儒者) M 1 6 5 9

D4141 密蔵(みつごん;法諱・秀法しゅうほう;字、竹中七兵衛男)1781-1845⁶⁵ 播磨明石郡神出庄田井村の生、
若くして諸所遊学;明石真言宗密蔵院を中興;藩主以下帰依、嵯峨御所西輪院を兼務、
「愚案抄第一」/1838「光明真言袖鑑」著

密蔵尊者(みつごんそんじゃ) → 覚鑿(かくばん;法諱、真言僧) 1 5 0 7

D4142 光崎檢校(みつさきけんぎょう、都名いちな;浪の一)?-? 1853存 上方歌謡/三弦:一山いちやま檢校門、
箏;八重崎檢校門、1821登官;檢校、1837「秋風曲」作曲(「箏曲秘譜」所収)、
1828葛野端山編「絃曲大榛げんきよくたいしん抄」校合

D4143 光定(みつさだ・高向たかむこ、二頭大夫)?-? 伊勢山田の伊勢神宮神官/連歌;
1522細川高国願主・宗長宗碩両吟「伊勢千句」光定邸で催

D4144 光貞(みつさだ・徳川とくがわ/家名;松平、頼宣男/本姓;源)1626-1705⁸⁰ 母;中川重高女(理真院)、
紀伊和歌山2代藩主;1667家督継嗣、98息子綱教に家督譲渡;隠居/1702剃髪;対山号、
狩野派の画を嗜む、「創業記考異」補填、綱教・頼職・吉宗(頼方/將軍)らの父、
[光貞(;名)の幼名/通称/号]幼名;長福丸、通称;常陸介、出家号;対山、法号;清溪院

D4145 光貞(みつさだ・杉木すぎき/幸田、本姓;荒木田)?-(寛文1661-73頃没/53歳) 伊勢度会外宮神職;宮仕、
歌人;源正重門、俳人、家集「松花集」、1633重頼「犬子集」2句入/「古今誹諧手鑑」入、
[七種ななくさをたゝく拍子のすゑなかな](犬子集;一103)、
[光貞(;名)の通称]和吉太夫/赤右衛門、
妻;美津も俳人 → 美津(みつ・杉木すぎき)1583-1647、俳人) C 4 1 9 4

J4129 光貞(みつさだ・島村しまむら、通称;与兵衛)1717-68⁵² 但馬出石郡の国学者

D4146 光貞(みつさだ・土佐とさ、光芳男/本姓;藤原)1738-1806⁶⁹ 絵師;画所預、従四上左近将監、土佐守、
宮中の障子・屏風を制作、風俗画「遊女図」、「百人一首」画、
[光貞(;名)の幼名/字/号]幼名;茂松丸、字;土享、号;延蘭

光定(みつさだ・木村/小泉) → 檀山(だんざん・小泉/木村、神職/儒/画) I 2 6 7 9

光貞(みつさだ・鶴田) → 卓池(たくち・鶴田、俳人) E 2 6 2 8

満定(みつさだ・賀川) → 蘭斎(らんさい・賀川がわ/源、医者) C 4 8 2 0

光貞妻(みつさだのつま・杉木) → 美津(みつ・杉木すぎき、俳人) C 4 1 9 4

I4132 満郷(みつさと・大井おおい) 1650-1697⁴⁸ 江戸の幕臣;御腰物奉行、国学者、
[満郷(;名)の通称]三郎右衛門/八十郎/十左衛門、法名;徹心

D4147 光真(みつさね・狛こま、興福寺五師聖順男/母;狛光近女)1165-1240⁷⁶ 狛光近の養子;楽人、
1182楽所に出仕/1203左近将監/09/従五下;左方の一者/37出家、1217「舞楽雑談」著、
養子;弟近真ちかざね

D4148 光実(みつさね・姓未詳) ? - ? 1356存 南朝廷臣;左近中将、歌人;
住吉社三百六十番歌合参加、新葉集4首;329/381/655/1416、
[かづらきやたかまの月の影更けて雲ぞよそなる峰の秋風](新葉集;五秋329)

D4149 満実(みつさね・守矢もりや、通称;信濃守、貞実男)?-? 室町中期戦国期神職;信濃諏訪社上社神長、
父を継承、領主諏訪頼長・継満・師継の嗣立ごとに社例を授/1471信濃守、
「諏訪御符礼之古書」「諏訪大明神深秘御本事大事」「神長守矢満実書留」など著

D4150 光実(みつさね・外山とやま/本姓;藤原、権大納言烏丸光胤男)1756-1821⁶⁶ 江中後期廷臣、
母;大谷派本願寺17世光性女、外山光任の養嗣子/廷臣;1765家督継嗣、
1789従三位/1815権中納言/17正二位、歌人、光施みちはるの父、砂沢定栄の師、
1806「日光山奉幣使日記」07「文化四年御会始外山光実和歌」、「二荒行紀行」著、
「日光山御道之記」「石清水者御法楽等」「中納言光実卿御筆御伝書」著、
[光実(;名)の別名/法号]初名;資幹すけもと、法号;涼泉院

B4101 充実(みつさね・青木、充延みつね[1760-1816]男)?-? 備後三原の商家、学問;父充延に学ぶ、

地誌;1819充延「三原志稿」編;完成

光実(みつざね・原田) → 直胤(なおたね・原田はらだ、国学者) O 3 2 4 5

光三郎(みつさぶろう・杉井) → 吉従(よしより・杉井すぎい、藩士/歌人) N 4 7 4 6

光三郎(みつさぶろう・塚本) → 尊実(たかざね・塚本つかもと/藤原、陪臣/歌) Y 2 6 2 8

D4151 密山(みつざん;道号・道顕どうけん;法諱、号;朽木子、俗姓;足立) 1652-1736⁸⁵ 近江の曹洞僧:

1663(12歳)越前永建寺の海翁門;出家/明州殊心の法嗣、1699加賀大乘寺29世/1709退隱、
1734河内古市郡の大黒寺開山に招聘;同寺に没、「松樹林大乘寺由来」著、
「天童剩語附行業記」著(没後1739刊)

光次(みつじ・後藤) → 光次(みつづ・後藤、金工家) D 4 1 8 7

光次(みつじ・星屋ほしやの) → 星屋光次(ほしやのみつづ/-みつじ、藩士/狂歌) 3 9 6 8

光次(みつじ・中岡) → 慎太郎(しんたろう・中岡、勤王派/討幕) 2 2 5 9

D4152 光重(みつげ・土佐とき、行光男/本姓;藤原) ?-? 室町期絵師:正五下越前守/1390画所預えどころあずかり、
摂津豊嶋郡中村に領地/「浄土五祖絵巻」、「達磨堂雙紙」、「善導大師縁起」、「祭礼絵草紙」画
土佐光益(光増みつやす、1348-1424)の兄

D4153 光重(みつげ・丹羽にわ、白河藩主丹羽長重男) 1621-1701⁸¹ 母;織田信長女、
1637磐城白河藩主;遺領襲封、従四下/侍従/左京大夫、1643岩代二本松藩主に転封、
築城・町整備に尽力;藩政の基礎確立、黄檗集に帰依:1658隠元より法語を受く、
和算家礪村吉徳を招聘;二本松算学の礎、1679嫡男長次に家督譲り隠居、
茶;片桐貞昌門/画;狩野派修得、「佛祖図賛」編、
[光重(;名)の幼名/通称/号]幼名;宮松丸、通称;五郎左衛門、号;玉峰/半古庵、
法号;慈明院

D4154 光茂(みつげ・鍋島なべしま、藩主忠直男) 1631-1700⁷⁰ 母;松平忠明女(恵照院)、肥前佐賀藩主;
1657襲封、従四下/丹後守/侍従、1661殉死禁止令発布(全国初/63幕府も追隨)、1695致仕、
歌人;中院通村・飛鳥井雅章・三条西実教門;実教より古今伝授を受、「寛元事記」著、
[光茂(;名)の通称/法号]通称;翁介/翁助、法号;乘輪院

L4121 光茂(みつげ・原はら、) ? - ? 江中期;歌人;宮川松堅門(妻の津禰つねと共に)、
1722松堅[倭譚五十人一首]入/顕紉[同追加]2首入(;妻と共に)
[香に匂ふむかしの春をかざしにてけふきさらぎの雪のふる里]、
(倭譚五十人一首;29故郷梅/降ると故郷を掛る)
[河音に松吹く風をうちそへて夏も浪まのしらべ成りけり]、
(倭譚五十人一首追加;河辺納涼/無みと浪を掛る/水音と松風で夏を忘れる涼しい)

D4155 光重(みつげ・福武ふくたけ、芳重長男) 1741-1815⁷⁵ 備中玉島の国学者/歌;滝口美領・伴高蹊門、
漢学;西山拙斎門/神道・故実;姫路の瀬川玉山門、歌人/書も嗜む、神道儀礼を研究、
玉島山下町丹波亀山藩陣屋に出仕、家督を嗣/家塾を開、小野務・黒田綾山と交流、
允まこと・重臣の兄、妻;茂與(窪屋郡酒津村三宅重與女)、
「源氏物語を読む言葉」「神道うひまなび」「津々装束」著、允まことの兄、
[光重(;名)の幼名/通称/号]幼名;勝三郎、通称;平作/東福武、号;玉州/宮安舎、
法号;観心亮達清信士

H4152 光重(みつげ・堀口ほりぐち/本姓源、通称;二郎三郎/六兵衛) 1777-1839⁶³ 伊勢飯高郡鮎路の商人、
両替商/質商を営む、国学;本居宣長門、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;長歌を含め8首入、
[高山の巖の上に独りのみ君がいまさくあやに悲しも](八十浦;623長歌の反歌、
享和元[1801]師宣長の死をかなしびて)

D4156 光成(みつげ・広橋ひろはし、胤定男/本姓;藤原) 1797-1862⁶⁶ 母;葉室頼熙女、廷臣;1824参議/従三位、
1860従一位/62准大臣/35議奏、55米英露和親条約につて幕吏都築宇峰重に質疑、
1857武家伝奏;公武間調停、1814「侍中御燭要図鈔」17-36「白馬節会申沙汰記」29「訓備考」、
1842-55「後勁槐記」、「江家次第談」「内外位考」「光成卿記」「光成公雑録」外多数、胤保の父

D4157 光重(みつげ・石幡いしはた、通称;吉三郎) 1827-1903⁷⁷ 代々岩代伊達郡伊達崎村の養蚕業、
維新後は蚕種業世話係に推挙されその発展に貢献、1865「養蚕私記」、「蚕養ひ草」、
「養蚕以呂波歌」「増補再版養蚕全書」「蚕養ひ覚えの早道」など著多数

L4119 光重(みつげ・池田いけだ、) 1829-1908⁸⁰ 近江高島郡朽木村の生、福知山藩士、

池田輝政の末裔/漢学・詩;知足院管覚(和尚)/書画;芝山弘豊門、詩歌人/能書家、
のち青蓮院宮尊融法親王に出仕、高崎正風と交流、
[光重(;名)の通称/号]通称;主税ちから/左中、号;白鷗

- D4158 **光重**(みつしげ・鈴木すずき、通称;静衛、暉里男/本姓;穂積)1837-? 三河宝飯郡御馬奏神官、
国学者;羽田野敬雄門/1864平田鉄胤門、1864「二木廼松」編(;両親の賀に寄せられた歌)
- K4151 **光葆**(みつしげ・牧まき、通称;年魚市人あゆちじん)1843-192280 尾張名古屋の絵師、国学;野村秋足門
光成(みつしげ・源) → 光成(みつなり/みつしげ・源みなもと、廷臣/歌) E 4 1 1 9
光成(みつしげ・藤原) → 顕俊(あきとし・藤原、廷臣/記録) D 1 0 6 3
光茂(みつしげ・大窪) → 池屋(ちおく・大窪おおくぼ、医者) 2 8 5 1
光重(みつしげ・高山) → 兵四郎(へいしろう・高山たかやま、曆算家) 2 7 5 3
光重(みつしげ・片岡) → 東親(はるちか・片岡りかたおか/秋川、神職/国学) J 3 6 9 2
光繁(みつしげ・江坂/中山) → 南街(なんがい・中山/江坂、藩士/詩文) I 3 2 6 4
充茂(みつしげ・勝見) → 二柳(じりゅう・勝見かつみ、俳人) D 2 2 2 0
- L4116 **満湛**(みつしげ・荒木田あらかぎだ、?)-? 鎌倉南北期;伊勢内宮神職;権禰宜/神主、
歌人;1334(建武元)[度会朝棟亭歌会/八月十五夜]参加(3首)、
[今宵猶富士の高根の秋風に月や上なき影をそふらん](朝棟歌会;40)、
[捨てやらぬ心をさそふ月影にうき世の外の秋をとばばや](同;42)
美津女(みつしよ・光貞妻) → 美津(みつ・杉木すざき、俳人) C 4 1 9 4
光女(充女みつしよ・河村) → 美津(美都みつ・河村かわむら、歌人/教育) C 4 1 9 5
- D4159 **密乗**(みつじょう・釈) ?-? 僧;詩人、
1845雲如ら「玉池吟社詩」入(;星巖主宰結社の詩華集)
密乗(みつじょう;字) → 英憲(えいけん;法諱、戦国期三論僧) C 1 3 6 8
密乗(みつじょう・平松) → 理準(りじゆん・平松ひらまつ、真宗大谷派僧/詩歌) L 4 9 8 6
密成(みつじょう;字) → 僧敏(そうびん;法諱・密成;字、天台僧) C 2 5 8 2
密乗院(みつじょういん) → 禅盛(ぜんせい;法諱、社僧/連歌作者) M 2 4 7 5
密乗坊(みつじょうぼう) → 頼印(らいいん;法諱、真言/僧正/歌人) 4 8 1 5
密乗坊(みつじょうぼう;号) → 浄賀(じょうが;法諱・康楽寺、真宗僧/絵師) F 2 2 7 7
密乗房(みつじょうぼう;字) → 竜海(りゅうかい;法諱・密乗房、真言僧) D 4 9 1 9
三津人(みつじん・松井) → 三津人(みつんど・松井、俳人) F 4 1 3 1
- D4160 **満季**(みつすえ・洞院とういん、実信男/本姓;藤原)1390-? 1431存 母;法眼兼快女、洞院公定の猶子、
廷臣;1409従三位/1411参議/24内大臣/25従一位/31後小松天皇出家に随い剃髪、歌人、
「本朝皇胤紹運録」編、「朗詠略譜」/「後小松院探題五十首」入、新続古今2首1099/1986、
[袖の色を思ひもしるや年を経て我のみつつむ涙ならねば]、
(新続古;恋1099/後小松院探題五十首;互忍久恋、入道前内大臣名)、
[満季(;名)の通称/法名]通称;西山内府、法名;聖覚/聖元/浄導
- D4161 **光陶**(みつすえ・荻野おぎの/本姓;紀・藤原)1780-185677 近江高島郡の津野神社神主、
神道;山田以文もちのみ・平田篤胤門、1833「以盤登賀之波」47「三種神宝の恭解」著、
「中臣祓志頭の苧環」著、
[光陶(;名)の通称]式部/伯耆守
光季(みつすえ・藤原) → 定家(さだいえ/ていか・藤原、廷臣/歌人) 2 0 1 6
- D4162 **光資**(みつすけ・葉室はむろ、光顕男/本姓;藤原)?-? 1389存 南朝廷臣;1352右少弁/53右中弁/57大弁、
1367中納言/勅使として足利方と交渉;不成功、1381民部卿/82権大納言/89正二位、
歌人;1365南朝内裏五十番歌合(正平廿年点取三百首和歌;於住吉行宮)(別当名)参加、
1375南朝五百番歌合/76内裏探題百番歌合参加、
新葉集12首;66/129/187/254/329/796/849/866/1030/1137/1150/1174、
[春といへばやがて待たるる心こそ去年見し花の名残なりけり](新葉;春66/花百首歌)
- D4163 **満祐**(みつすけ・赤松あかまつ、義則男/本姓;源)1373-1441自刃69 武将;播磨・備前・美作の守護、
五位/左京大夫/大膳大夫/侍所所司、1441(嘉吉元)京の自邸に將軍義教を招き暗殺、
領国播磨で幕府追討軍に追撃され自刃(嘉吉乱)、
歌:幕府歌会の常連・自邸で月次歌会催、正徹・堯孝と親交、頓証寺法楽百首入、

新統古2首;621/1070、教康の父、

[まさきちる嵐の末の浮き雲や外山をかけてなほしぐるらん](新統古今;六冬621)、
[満祐(;名)の通称/号]通称;二郎、入道号;性具しょうぐ、法号;円福寺満祐性具

- D4164 **満助**(みつすけ・鎌田かまた) ? - ? 連歌;1470道真「河越千句」参加
- D4165 **光傳**(みつすけ・堀江ほりえ/本姓;藤原、通称;七郎)?-? 1495前没 戦国期武家;越前朝倉家家臣、
連歌:宗砌門、宗祇「吾妻問答」入、新菟玖波集2句入、
堀江七郎景用(「朝倉始末記」に連歌器用で入)と同一か?
- D4166 **光祐**(みつすけ・小林こばやし、貞祐男/本姓;鴨)1719-8365 母;藤原祐胤女、廷臣;鷹司家諸大夫/越前守、
筑前守、1763正四下/68主税頭/69治部少輔、「小林光祐雑考」著
- D4167 **光輔**(みつすけ・近藤こんどう)1781-184161 代々肥前長崎の会所役人;請払役、
国学・歌:1800本居宣長門、本居大平・春庭門、橘千蔭・香川景樹門、中島広足と親交、
「夜雨菴集」(息子光雄・門人達により1859刊)、「後撰集光輔問大平答」/「近藤光輔書簡」著、
[光輔(;名)の通称/号]通称;半五郎/羊蔵、号;夜雨庵、法号;法雲院
- J4185 **光介**(光輔みつすけ・時田しときだ、旧姓;転うた/井上)1836-191681 長門豊浦(府中)藩士、
転家より井上家を継嗣/のち時田と改姓/寺社奉行など歴任、国学者、
坂本竜馬らと薩長同盟実現に尽力、維新後;山口県官、
のち実業家;炭坑経営・水路開削・原野開発など、
[光介(;名)の別名/通称]別名;信高/光暉/実/光輔/少輔しょうすけ、通称;謙次郎/丹下
- D4168 **光輔**(みつすけ/みつね・外山とやま、光親男/本姓;藤原)1843-71自刃29 廷臣;宮内大輔/1866従四上、
維新後の新政府政策に反抗;不平の徒を糾合;画策罪で捕縛;自刃、「言渡之記」著
- 光輔(みつすけ・藤原) → 重家(しげいえ・藤原、廷臣/歌人) 2 1 1 0
光輔(みつすけ・加治) → 鳳山(ほうざん・加治かじ、藩士/儒者) B 3 9 0 4
光輔(みつすけ・長沼) → 時光(ときみつ・長沼ながぬま、藩家老、歌人) V 3 1 9 7
光輔(みつすけ・辛島) → 青溪(せいけい・辛島からしま、藩儒) B 2 4 1 0
光甫(みつすけ・早川) → 広海(ひろみ・早川/安田、医者/国学/俳) H 3 7 2 1
満輔(みつすけ・九条) → 満家(みついえ・九条、関白/歌人) D 4 1 0 8
- D4169 **三津助**(みつすけ・奈河ながわ)? - ? 幕末期歌舞伎作者;1857から上方で活動、
1825「劇場製伊達累着」57「明鳥後正夢」61「仇情浮名諷」63「菖蒲咲姿彩」「阿妻土産恋錦絵」著
- 密成(みつせい;字) → 僧敏(そうびん;法諱・密成;字、天台僧) C 2 5 8 2
密蔵(みつぞう;字) → 灌実(かんじつ;法諱・密蔵、真言僧) Q 1 5 9 0
- D4170 **満田出雲守**(みつだいでづものかみ、通称;出雲守)?-? 蒲生家の家臣/1621岩代会津若松の町奉行、
1624-44頃「蒲生氏郷記」著
- D4171 **満高**(みつたか・六角ろっかく/家名;佐々木、六角氏頼男/本姓;源)1369-141648 近江守護/武将:
従四上/左衛門尉/檢非違使/備中守/大夫判官、1392三種神器を奉じ入洛、
山名氏清・大内義弘らの討伐軍に参加、姉小路尹綱討伐の幕命に背く;1411守護剥奪、
のち復帰/晩年出家、「佐々木家犬追物法式」著、満綱の父、
[満高(;名)の通称/法名/法号]通称;龜寿丸/四郎、法名;崇寿、法号;大慈院
- D4172 **光高**(みつたか・前田まえだ、初名;利高、利常男/本姓;菅原)1615-4531 母;徳川秀忠女珠姫(天徳院)、
1629元服;光高に改名/1639(寛永16)父隠居で襲封;加賀金沢藩3代藩主/正四下筑前守、
儒学;1640松永尺五を招聘し学問を普及、歌人、
1642「持論記」「一本種」、「中庸聞書」「孟子聞書」「徒然百首」「光高公御詠歌」「陽広公百首」
「陽広公偉訓」「陽広院様戯御百首」外著多数、景周「燕台風雅」に事跡あり、
室;水戸藩主徳川頼房女(将軍家光養女)の大姫おおひめ(清泰院)、綱紀の父、
1645(正保2)大老酒井忠勝を招き茶会;席上急死、
[光高(;名)の幼名/法号]幼名;犬千代、法号;陽広院/通称;陽広公
- D4173 **光隆**(みつたか・蜂須賀はちすか/家名;松平、忠英男/本姓;源)1630-6637 阿波徳島藩主;1652襲封、
従四下/因幡守/阿波守/侍従、藩教学の確立に努力;初道の名師を招聘、歌;飛鳥井雅章門、
禅学を修学、「思蚕集」著、「蜂須賀光隆筆集歌書」書、綱通の父、
歌;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[鈴鹿川八十やそ瀬に落てゆく水の流れも速し五月雨の比こり](若むらさき;46/五月雨)、

- [光隆(；名)の幼名/初名/法号]幼名；千松丸/初名；至政よしまさ、法号；南崇院乾徳剛漢
- D4174 **光隆**(みつたか・幸田こうだ、光仲男/本姓；度会)1725-9975 伊勢神宮祠官：外宮大内人、
豊受大神宮神官、宮崎文庫神道講師、「詠物茹彙」著、「臚韻ようぶく集」編(；歌・連歌入)、
1780曾祖父光貞家集「松下集」編(；麗女序)、光孚みつたかの養父
[光隆(；名)の字/通称/号]字；子棟、通称；亀吉/内蔵、号；西湾、
- C4198 **光孚**(みつたか・幸田こうだ/本姓；度会むらゐ、幸田光隆の養子)1751-181666 伊勢神宮祠官：師職、
[光孚(；名)の別名/字/通称/号]別名；光亨、字；公貞、通称；因幡、号；謙堂/停雲/朴堂
徹子(足代弘訓の妻)の父
- D4175 **光隆**(みつたか・川角かわすみ) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃江戸の歌人、
高山彦九郎と交流、「活花極秘伝法」著
- D4176 **光高**(みつたか・吉村よしむら、松下正藏男)?-1801 吉村次兵衛光亨の養子/筑後久留米藩士；
1767家督継嗣；3百石馬廻組/側物頭、和算家；入江東阿(平馬)門、1770「計子秘解」、
「算学準繩」、久留米藩謡曲三番のうち「高良山」を手写；作者か？、
[光高(；名)の通称]通称；元三郎/源藏、
- D4177 **満亮**(みつたか・小笠原おがさわら、酬和男)?-? 江後期越前福井藩士；大御番/禄3百石/歌学・歌人；
江戸詰の時；村上影面(1730-1807/真淵門)門、帰郷後子弟教育に専念；
捨子・安子・岩子・美江子・里佐子ら女流歌人を育成、小島知策・牧田尚常の師、
「蟬吟集」、一門の詠草、通称；孫次郎
- I4153 **光隆**(みつたか・岡田おかだ、光頭男)1801-5858 播磨佐用郡作用代官の家の生、国学者/歌人、
[光隆(；名)の通称]源太左衛門/甚左衛門
光隆(みつたか・九鬼) → 守隆(もりたか・九鬼くき/藤原、藩主) F 4 4 5 7
光孝(みつたか・数藤/小出) → 光教(みつり・小出/北野/数藤、曆算家) E 4 1 4 9
光孚(みつたか・木下) → 光徳(みつり・木下きのした、藩士/国学) I 4 1 8 1
光雄(みつたか・烏丸) → 光雄(みつお・烏丸/藤原、歌人)
光隆(みつたか・有坂/星野) → 北馬(ほくば・葛飾、有坂、御家人/絵師) D 3 9 8 6
光隆(みつたか・熱海) → 又治(またじ・熱海あつみ、和算家/教育) J 4 0 4 4
- I4175 **光武**(みつたけ・神崎かんだき/本姓；大中臣、)1773-183159 下総香取郡神崎大社(神崎こうざき神社)神職、
大宮司、国学；平田篤胤門、
[光武(；名)の通称]播磨守
- D4178 **光武**(みつたけ・浅野あさの/本姓；源、通称；藤九郎)?-? 江後期；越中富山藩士/歌人；藩主前田利保門、
1850「あへにしき」51「天満宮奉納詠歌」、
1853「網廻網手あみのつなで」共編(前田利保著/小林佐倍すけます・山寄茂樹・伊林禮初ひろもとと共編)
光武(みつたけ・本間) → 光道(みつみち・本間ほんま、富豪/藩士/俳) K 4 1 4 6
光彪(みつたけ・秋山) → 光彪(てるたけ・秋山/原、兵学/国学) C 3 0 7 9
充武(みつたけ・小田島) → 松翁(しょうおう・小田島おたじま、書肆/地誌) H 2 2 3 8
- L4111 **満忠**(みつただ・荒木田あらかぎ、)?- ? 平安鎌倉期；伊勢内宮神職；六禰宜、歌人、
1233刊[御裳濯集]入、
[行路霞といへる心を、
あづまぢや霞もくさもはるばると同じみどりの武蔵野の原](御裳濯集；春42)
- D4179 **光忠**(みつただ・中院なかのいん/本姓；源、六条有房男)1284-133148 廷臣；1319参議/30権大納言/正二位、
亀山天皇葬送に亀山殿の後山まで参列；哀傷歌詠、1314詩歌合参加、続現葉集入、
勅撰2首；続千載1337/新千載618、徒然草102段；衛士又五郎に追儼式次第を聞く話、
[吹く風やよその梢をさそふらん松の下てる庭の紅葉ば](新千；冬618/亀山殿にて)
- D4180 **光忠**(みつただ・町田まちだ、町田直太夫光時の養嗣)1729-180577 陸奥会津藩士；用人、
垂加神道；木本成理なりまさ門、「或問習合弁」著、
[光忠(；名)の通称/神号]通称；直太夫、神号；偶窩霊神(社)
- H4174 **光忠**(みつただ・諏訪すわ) ? - ? 江後期国学者；斎藤彦磨門、
古事類苑の今神温泉の記事の話者(斎藤彦磨執筆)、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(師と共に入集)、
[春の野にあそびくらすけど楽しさのはても覚えぬ武蔵野の原](大江戸倭歌；316/野遊)

- I4179 **光忠**(みつただ・木下きのした、) 1797-1870 74 信濃伊那郡の商家;飯田藩御用達、歌人;福住清風門/国学;岩雲花香はなか門、養嗣子;鷺津光宝みつとみ、孫;順裕よりひろ、
[光忠(;名)の通称/号]通称;時蔵/三郎兵衛/馬刀之助、号;高石垣、屋号;中屋
- D4181 **充均**(みつただ・小島/小嶋こじま/本姓;源、通称;吟次郎)?-? 幕末期京の壬生の役人、
雑式未甲組松村三吾配下/維新後;刑部省中解部職員/大審院七等判事、
1867「京師三里五里四方図」著
光忠(みつただ・源) → 観空(かんくう、浄土僧/画) Q 1 5 2 4
光忠(みつただ・樋口) → 三生(さんせい・樋口ひぐち/日野、医者) N 2 0 4 8
満忠(みつただ・北脇/広瀬) → 保水(ほすい・広瀬/北脇、実業家) E 3 9 3 5
- D4182 **光胤**(みつたね・烏丸からすまる/本姓;藤原、中御門宣頭男) 1721-80 60 烏丸光栄の養嗣子、
1744光胤と改名、廷臣;1745参議/正四上/56権大納言従二位、
神道;竹内たけのうち式部門;1758竹内式部の宝暦事件に連座;勅勘・蟄居、1760出家/78赦免、
歌人;桜町天皇より天仁遠波伝授を受/歌学;職仁親王門、
伊勢物語の秘事を相伝、蟄居後は歌学で院に参ず、1736・45「光胤卿記」/39「春日祭雑記」著、
1753「桂紀行」「桂別業和歌留」、「ト山公百首和歌」著、
「光胤卿為村卿贈答」「光胤卿添削詠草」著、
[光胤(;名)の初名/号]初名;清胤、出家号;ト山ぼくざん、法号;竜泉院宗亀ト山
- J4145 **満胤**(みつたね・田辺たなべ、通称;治郎兵衛)?-1803 備中浅口郡長尾村の庄屋/亀山藩御用達、国学者
- D4183 **允胤**(みつたね・高木たかぎ、広当男)?-? 江後期越中富山の和算家;1839内田五観門、
1809「測量地秘録」「量地秘録」、「求球積之真術」「容術一百問答」「真数八線表」編、
「弧背真術之解」「関流算法草術」編、1839「算額」、稲野盛胤・宮川孟弼たけすけの師、
[允胤(;名)の別名/字/通称/号]別名;信英、字;子若、通称;吉兵衛/久蔵、号;静斎
- K4174 **光胤**(みつたね・宮和田みやわだ/本姓;平、) 1816-88 73 下総相馬郡宮和田村の名主、国学者;平田鍊胤門、
剣術;千葉周作門:北辰一刀流、尊攘運動、勇太郎(胤影)の父;
1863(文久3)勇太郎が足利三代木像梟首事件で捕縛;
1864養子を迎える;金子作十郎男の進(宮和田眞平胤道/1844-1869);
進はのち1869大村益次郎暗殺の実行犯8人の一人として敗走;自刃、
[光胤(;名)の通称]又右衛門
- K4193 **光胤**(みつたね・吉野よしひ、) 1825-1890 66 壱岐住吉神社禰宜、国学者、
「壱岐嶋式社沿革考」(後藤正恒と共著)、「神道論国体論」著
- K4115 **光為**(みつたけ・原はら、) 1738 - 1821 84 信濃伊那郡別府村の庄屋、
歌人;森広主・市岡猛彦・植松茂岳門、原穂足はたり(同門/別府村庄屋/1805-57)の一族、
[光為(;名)の別名/通称/号/屋号]別名;啓行/光磨、通称;栄吉、号;土ト、屋号;中島屋
光太夫(みつたけう・豊竹/竹本) → 専助(せんすけ・菅すが、浄瑠璃太夫/作者) G 2 4 1 1
- D4184 **光親**(みつちか・藤原ふじわら/葉室はむろ、法名;西親、光雅男) 1176-1221 斬首 46 母藤原重方女、廷臣;
1208(承元2)参議/11(建暦元)権中納言、按察使/1217正二位/後鳥羽院別当、
1221(承久3)承久変で北条方に捕縛後鎌倉に護送中出家;7月23日駿河加古坂で斬首、
日記「中都記(心言記)」著(断片が存)、菟玖波1句(1986)入、徒然草48段膳の衝重つがさね話入、
光俊[真観]/定嗣/明教/鷹司院按察の父
[こはいかにやれうへのきぬみぐるしや](前句;とよのあかりの雪のあけぼの、
前句は後鳥羽院御時白黒の賦物の連歌の中の句)
- C4163 **光親**(みつちか・度会わたらい) ? - ? 鎌倉初期の伊勢外宮の神職;外宮権禰宜/正四上、
源頼朝の祈祷師/1184頼朝より武蔵大河土御厨を神宮領に寄進、1194「神宮文書目録」著
- D4185 **満親**(みつちか・中山なかやま、初名;親兼、親雅男/本姓;藤原) 1371-1421 51 母;益井局、廷臣;蔵人頭、
1402参議/権中納言/1417正二位/18権大納言/21出家(;法名;祐親);没、
歌人;1407内裏九十番歌合/12広橋家月次始歌会参加、
勅撰3首;新後拾遺(787)新続古今(663/1240)、
[風さむき入江の蘆の夕霜に枯れてもさやぐ音ぞ残れる](新後拾;八雑秋787)
光親(みつちか・外山) → 光親(みつより・外山とやま、廷臣) F 4 1 2 6
光親女(みつちかのむすめ・藤原) → 按察(あぜち・鷹司院、女房/歌人) B 1 0 2 0

- D4186 **光継**(みつぐ・竹屋たけや、治光男/本姓;藤原) 1477-1540⁶⁴ 廷臣;1528従三位大蔵卿/36正三位、1538越中権守/40出家(法名;寂栄)、「葉室意見」著
- D4187 **光次**(みつぐ・後藤ごとう) 1571- 1625⁵⁵ 金工家;貨幣鑄造の後藤長乗門;手代、1601後藤家五代目徳乗より金座・銀座を譲渡され/徳川家康に出仕;駿府に随従、「駿府政事録」「駿府記」著、
[光次(;名)の通称/法号]通称;庄三郎、法号;宝照院
- L4121 **三譜**(みつぐ・石川いしかわ、通称;善兵衛)?-? 江後期;信濃松本の温泉宿和泉屋の主人、歌人;香川景樹(1768-1843)門
- K4196 **光次**(みつぐ・若井わかい) 1793- 1840⁴⁸ 伊勢度会郡の塗師屋(漆器店)、国学者、
[光次(;名)の通称/号]通称;源助、号;崗斎/錦川居
光次(みつぐ・星屋ほしや) → 星屋光次(ほしやのみつぐ/-みつじ、藩士/狂歌) 3 9 6 8
光嗣(光継みつぐ・葉室) → 定嗣(さだつぐ・葉室/藤原、廷臣/歌人) C 2 0 0 3
- D4188 **光綱**(みつな・柳原やなぎわら/本姓;藤原、冷泉為綱4男) 1711-60⁵⁰ 柳原資堯の養子/廷臣;1737参議、1748権大納言/1760従一位、歌人/「柳原光綱和歌」「従一位前権大納言光綱卿詠歌」著、「大嘗会歌」編/「大嘗会和歌寛延元悠紀方」「光綱卿記」「憲台日記」、「公事諸次第留」外著多、
[光綱(;名)の幼名/法号]幼名;次郎丸、法号;高嶺院
満綱(みつな) → 満綱(まんこう、15ct連歌作者) K 4 0 4 9
- D4189 **光綱母**(みつなのほは・源みなもと、源頼家の妻?)?-? 源光綱は筑前守源頼家男の満綱(伊豆守従四下)か、平安中期歌人、源頼家と贈答、金葉Ⅱ574Ⅲ564(五節に出たことを恨む頼家への返歌)、
[日蔭にはなき名たちけり小忌衣おみごろもきて見よとこそいふべかりけれ](金葉;九574)、
(光綱母が五節の舞姫に出て他の男と衣を重ねたと聞いた頼家が恨みの贈歌;
「まことにやなべて重ねしおみごろも豊の明りのかくれなき夜に」[後拾遺;1125])
- D4190 **光経**(みつね・藤原ふじわら:北家高藤流、定経男)?-? 鎌倉前期廷臣;従五上/宮内大輔/順徳院に近侍、1221承久変;順徳院の佐渡配流後に出家;高野山住、歌に堪能をもって昇殿;順徳院歌壇、1218道助親王家五十首/19内裏百番歌合/順徳院中殿御会参加/20道助法親王家五十首入、藤原基家・家隆・光俊の歌会参加、家集「光経集」/「光経百首」、新続古今1435、続歌仙落書入、
[有明の月をその夜のかたみにてなぐさむほどの契だになし](新続古;恋1435/内裏歌合)、
経房の孫、資経の弟、順徳院乳母従三位経子(光親室/光俊の母)の弟
- K4197 **光庸**(みつね・みつみね・分部わけ、光命の長男) 1734-90⁵⁷ 江戸の生、母;側室(今村家)、1754(宝暦5)父(大溝藩6代藩主)隠居;近江大溝7代藩主を継嗣/従五下隼人正/若狭守、女院使接待役・勅使接待役など公家接待役を勤務、1785長男光実(家督譲渡し)隠居、
[光庸(;名)の通称/号]通称;甚三郎/隼人/隼人正/若狭守、号;静好
- H4190 **光庸**(みつね・松平まつだいら、松本6代藩主松平光行3男) 1798-1878⁸¹ 母:錠姫(松平光悌女)、1820松本7代藩主松平光年の養子/1821従五位下/弾正少弼、1837(天保8)養父没;家督継嗣;信濃松本藩8代藩主/戸田松平家13代;丹波守、領内産業を奨励、1839年西の丸普請手伝/1841(天保12)財政改革を巡り譜代家臣と新参家臣が対立;積極派戸田図書らと反対する林忠左衛門の対立;お家騒動(戸田図書事件)起る、
絞木綿問屋による農村の家内工業奨励策が失敗;図書は免職/脱藩;捕縛・関係者処分、1844松本城本丸大火/1845(弘化2)家督を次男光則に譲渡;隠居/1853剃髪、72東京に移住、正室;伊保子(久世広誉女、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入集の松平かた子と同一?)、子;小笠原長国、光則、内藤政恒、戸田光芬(四男)、戸田光遠野々山義比(六男)、康載、
貞(安藤直裕正室)、孝(島津忠寛継室のち九鬼隆備正室)/養子:光領、
[光庸(;名)の幼名]幼名;起之進 後名;戸田光庸、通称;左京/主馬、隠居号;尤香齋
- K4137 **光鎮**(みつね・藤村ふじむら、旧姓;篠崎) 1807-91⁸⁵ 肥前長崎の国学者・歌人;中島広足門、権大講義、広足中心の長崎伊勢宮連中による[十八番歌合]に入(連中12人);
(広足・島重道・高田広端・井関元智・勝木信敏・谷川望古・坂本秋卿・嶋田長春・小田充興・飛鳥本孝・永親・光鎮の12人)、
[光鎮(;名)の通称]松十郎/庸平

- D4191 **光尋**(みつね・森田もりた、光義男)1825-9874 三河渥美郡牟呂村の八幡宮祠官；父を嗣、神道；草鹿砥宣隆門、国学：平田鍊胤門、歌を嗜む、寺子屋を開設；子弟教育、1851「万葉植物歌抄」52「万葉集譬喩詞私編」/「万葉長歌抄」編、御朱印改ため江戸への「道中記」著、
[光尋(；名)の通称/号]通称；播磨守/肥後守、号；白禱之生園
光輔(みつね・外山) → 光輔(みつね・外山とやま/藤原、廷臣) D 4 1 6 8
- D4192 **光連**(みつら・藤原ふじわら、光遠男；道兼流)1332-65横死34 母；法印実源女、廷臣；正五下；兵庫頭、中務少輔、洞院公賢の家司、1365(貞治4)横死、連歌；菟玖波集；1句入、
[おもかけにかへりし人をなほとめて]、
(菟玖波；十恋887/前句；夜の名残や身にはそふらむ)
- D4193 **満光**(みつてる・栗山くりやま)1702-177271 和泉堺の歌人；大安寺百花庵春山士蘭門/参禅、1756「藤川百首註」62「和歌道しるべ」64「梁塵愚案抄百花師説」著、
「百人一首諸抄異同辨解説」著、
[満光(；名)の通称/号]通称；新七、号；春秋庵、法号；良静処士
- D4194 **光瓊**(みつてる・八幡やわた、別名；光瑗てゐに、光慶男)1771-184676 伊勢宇治の神職；内宮祠官、国学者；本居春庭・富樫広蔭門、歌人・俳諧、光保みつやすの父、「文政七甲申月次歌合」参加、
[光瓊(；名)の通称] 熊之進/縫殿ぬい/中務/加賀 D 4 1 9 4
- D4195 **光暉**(みつてる・日野西ひのにし、延光男)1797-186468 母；日野西勝貫女、廷臣；1845従三位/59権中納言、1863正二位/勘解由長官、1812「補任歴名」編/25「伊勢例幣参向備考」28「賀茂祭奏事始」著、1831「南曹雑記」40「光格院御葬送」1814-64「日野西光暉日記」著、外記録多数
- D4196 **光輝**(みつてる・畑中はたなか)1818-187053 河内志紀郡柏原村の歌人；1851伴光平門、「畑中光輝歌集」著、
[光輝(；名)の幼名/別名/通称/号]幼名；松次郎/別名；真兵衛、通称；六兵衛、号；六水舎、法号；光俊
- K4152 **光照**(みつてる・牧野まきの、号；駒彦)?-1889 近江滋賀郡の国学者/歌人；[鴉のうみ]入
- D4197 **光照**(みつてる・鏡かがみ、彦兵衛男)1837or41-191579or75歳 羽前村山郡中桜田の和算家、1857下総佐倉藩高橋卯之助門/のち内山五観門、1862佐倉藩出仕、1864「算法称平術評解」編/67「地球経差説」、「圭竇形解」著、
[光照(；名)の通称] 久八/一造
光照(みつてる・玉置) → 賢孝(よしとか・玉置たまおき/原、醸造/国学) N 4 7 8 8
光輝(みつてる・岸) → 南岳(なんがく・岸きし、藩士/儒者) I 3 2 7 8
- D4198 **光任**(みつとう・中御門なかみかど、初名；光雄、光方男/本姓；藤原)?-1357? 1365存? 南朝の廷臣、1337勘解由次官/39従三位/52民部卿/権中納言/56大納言従一位、経高の父、歌人；1337「内裏月三十首」入/65「正平廿年点取三百首和歌」(於住吉行宮)参加、新葉20首；65/90/103/186/198/229/349/377/490/687/815/823/829/842/1047/1135以下、
[雪げこそなほ残るらめ芳野山花まちどほにかかる白雲](新葉集；一春65)
光任(みつとう・上松) → 木導(もくどう・上松/奈越江なおえ、俳人) B 4 4 0 4
密道(みつとう；字、仏国禅師) → 顕日(けんいち；法諱・高峰；道号、臨濟僧/歌) C 1 8 8 6
- D4199 **光任女**(みつとうのむすめ・中御門なかみかど)?-? 南北朝歌人；新葉4首；871/920/951/1316、
[きぬぎぬの涙ながらや残るらん別れしままの袖の月影](新葉集；十三恋871)
光遠(みつとお・河口) → 静斎(せいさい・河口/河、儒者/詩人) B 2 4 5 6
光通(みつとお・石河) → 勝延(かつのぶ・石河いし、幕臣/国学) T 1 5 6 5
- L4117 **満時**(みつとき・荒木田あらかだ)?-? 鎌倉南北朝；伊勢内宮神職；権禰宜/神主、1334度会朝棟歌会(8月15夜)参加(3首)、
[底清き五十鈴川波立帰り神代の秋と月やすむらん](朝棟歌会；43)、
[待つ人もさそはれぬべき今夜とは月にしらるる契なりけり](同；44)
- E4100 **光時**(3世みつとき・鷺田わしだ、名；光成/連親)1810-6253 出羽庄内藩抱の金工鷺田家の三代目、江戸の金工柳川直連門、藩の金工渡辺雅則と諸家の作風を研究、「庄内金工名譜」著、
[3世光時(；号)の通称/別号]通称；長平/精蔵、別号；求古堂、光親・渡辺光中の父
光時(みつとき・岡田) → 光尉(みつまさ・岡田おかだ、歌人) E 4 1 8 9

- 4126 **光俊**(みつとし・藤原ふじから・家名;葉室、光親男) 1203-7674 母;藤原定経女の経子(順徳院乳母)、
 幼児より順徳院近侍、廷臣;1221承久変で父処刑に連座;筑紫配流/22赦免召還/正四下、
 1235右大弁/36出家、歌人;「続古今和歌集」を共編、1223春日社歌合・31若宮歌合主催、
 1232洞院摂政家百首(権中弁名)・石清水若宮歌合参加/44新撰六帖題和歌・48宝治百首入、
 1253為家[定家13回忌追善詩歌]参加;歌(眞観名)入、
 1261宗尊親王歌合参加、家集「閑放集」、1249「現存和歌六帖」編/51「閑窓撰歌合」編、
 1260「簸河上」、64「瓊玉和歌集」編、「秋風和歌集」編、
 万代集・雲葉集(9首)・和漢兼作集・閑月集などに入集、
 勅撰100首;新勅(4首171/273/1144/1293)続後撰(10首163/458以下)続古(30首50/163下)、
 続拾(16首)新後撰(10首)玉(5首)続千(5首)続後拾(3首)風(2首)以下、菟玖波1句入、
 [五月雨の空にも月はゆくものを光見ねばやしる人のなき](新勅撰;夏171)、
 [光俊(;名)の通称/法名]通称;右大弁入道/弁入道、法名;眞観、
 弟;葉室定嗣、妹;鷹司院按察
 子息;堀川高定・定円
 息女;鷹司院帥たかつかさのそち・典侍藤原親子しんし・後一条関白家民部卿
- E4101 **光俊**(みつとし・平たいら、伊豆守祐俊男)?-? 南北期武家/廷臣;従五位上/筑後守、歌人、
 1 387(至徳4)浄阿奉納「隠岐高田明神百首和歌」出詠、有憲・定俊の父、
 勅撰3首;新後拾(1035)新続古(943/1067)
 [うき中のせきは宵々よひひもりそへて人めよくまの夢も通はず](新後拾遺;十二恋1035)
 [霜のたていつそめにけん清滝や紅葉にまじる瀬々の白糸](高田明神歌;54/滝紅葉)
- E4102 **光甫**(みつとし/みつよし・吉村よしむら) 1771-184878 河内河内郡島泉村の国学者;安田長穂・津守国礼門、
 画;墨梅を描く/茶道を嗜む、「墨江百五十番歌合」著、光徳みつりの父、
 [光甫(;名)の字/通称/号]字;君章/尹章、通称;彦三郎/彦次郎/七郎右衛門/甚七郎、
 号;東澹/栖雀園せいかくえん
- | | | | |
|-------------|---|---------------------------------|-----------|
| 光年(みつとし・伊藤) | → | 貞之(てい・伊藤、俳人) | B 3 0 0 2 |
| 光俊(みつとし・青山) | → | 宗俊(むねとし・青山あおやま、藩主/歌) | B 4 2 8 3 |
| 光俊(みつとし・足助) | → | 武雄(たけお・足助あすけ/小槻/辻、神職) | V 2 6 0 0 |
| 光俊(みつとし・鈴木) | → | 光胤(みつたね・鈴木すずき、国学者) | J 4 1 4 0 |
| 光利(みつとし・根津) | → | 六郎右衛門(ろくろうえもん・根津ねづ/滋野/渡辺、幕臣/鷹匠) | B 5 2 2 2 |
- E4103 **光棣**(みつとみ・竹屋たけや/本姓;藤原、准大臣広橋伊光2男) 1781-183757 左衛門佐竹屋勝孟の養嗣子、
 1784(4歳)継嗣/1791(11歳)元服/廷臣;右兵衛佐/1837従三位;没、故実家;有職典故に精通、
 歌人、「禁裡秘鑑」「京師大地震例」「衣服事」「乗車之事」「捻重単重之事」「竹屋雑抄」外著多、
 [光棣(;名)の法号]清光院
- I4173 **光福**(みつとみ・河路かわじ、) 1781-184868 近江坂田郡長浜の紙商、
 国学;歌人;賀茂季鷹・香川景樹門、光応みつまさの父、歌;[鳩のうみ]入、
 [光福(;名)の通称/号]通称;亀吉/平四郎、号;守静庵
- I4180 **光宝**(みつとみ・木下きのした、旧姓;鷺津)?-1870 信濃伊那郡の飯田藩御用達木下光忠の養子、
 国学・歌;小笠原三千子門、伊豆木領主小笠原家家臣、
 [光宝(;名)の別号/通称]別名;光審(音読;こうぼり)、通称;又左衛門
- E4104 **光福**(みつとみ・森もり、通称;清太夫)?-? 江後期の儒者;天保1830-44頃上総久留里藩に出仕;
 江戸藩邸から藩校三近塾に出講、「花裏啼鶯譜」編
- J4117 **三友**(みつとも・齋藤さいとう、) 1614-165441 江戸の幕臣旗本4千石;御小姓組番頭/従五下、
 撰津守/国学者、徳川家光乳母の春日局の甥;その縁で累進;寄合に列す;6千石、
 歌人;1691了然尼撰[若むらさき]3首入、
 [雲はらふ嵐ののちも散りまがふ花にくもれる春の夜の月](若むらさき;20)、
 [三友(;名)の通称/号]右近/撰津守、号;宗月
- E4105 **光友**(みつとも・徳川とくがわ、義直男/本姓源) 1625-170076 母;お尉(歓喜院/吉田甚兵衛姉)、
 尾張2代藩主;1650家督相続、従二位/権大納言/1693隠居、武技/書画に通ず、
 「亜槐光友卿御詠」著、
 [光友(;名)の幼名/初名/字/通称/諡号/法号]幼名;蔵人、初名;光義、字;子竜、

通称;越後/出雲/五郎八/五郎太、諡号;正公、法号;瑞竜院

- E4106 **光知**(みつとも・中臣なかとみ/家名;富田とみた、延庸男)1720-9071 神職;1738神祇権少佑、
1741春日社加任預、72従三位/90春日社正預/正三位;この年没、
歌;「詠歌大概」「新撰六帖」著、「春日神社記」「太神宮御法楽和歌」著
- J4135 **光伴**(みつとも・杉本すぎもと、正芳男)1807-6862 近江滋賀郡の国学者/歌人;[鴉のうみ]入、
- K4139 **光等**(みつとも・保々ほぼ、)1810- 189384 石見津和野藩士、国学;津和野藩士牧村光清門、
国学・神道;岡熊臣くまおみ門、
[光等(;)名]の初名/通称/号]初名;光良、通称;直記、号;桃垣内/幽壺
光朝(みつとも・藤村) → 秀賀(しゅうが・鶴亭かくてい、戯作者) G 2 1 9 6
- E4107 **光豊**(みつとよ・勸修寺かじゅうじ、晴豊男/本姓;藤原)1575-161238 廷臣;1599参議/正四上/右大弁、
1603武家伝奏/04権中納言/06正三位/12従二位権大納言/没後;贈内大臣、歌/連歌、
古典研究、「源氏物語大意」「光豊公記」「光豊公御懺法記」「勸修寺光豊詠草」「詠草三軸」著、
連歌;「夢想之連歌百韻」/1593何船百韻/96夢想百韻/99何人百韻/1609懐旧・何船百韻外多
法号;真徹(真徹)
- L4123 **光豊**(みつとよ・山名やまな、法号;道涉)1671?-173767? 江前中期;幕臣/御家人;廩米300俵、大番、
歌人;1691了然尼[若むらさき]入;10首、
[佐保姫の霞の衣いつ染めて碧みどりの空に今朝は干すらん](若むらさき;3)
[誰なれや月ほのかなる夕暮に先をも追はずやつす小車をぐるま]、
(同;202車/先追いの声もなく地味に目立たぬ車が行く/源氏「夕顔」の景)
☆幕臣旗本の山名玉山(1623-94/初名光豊/歌人)の一族?
- E4108 **充豊**(みつとよ・後藤ごとう) ? - ? 江後期和算家;菅原恵迪門、1861「数学氷解」
- H4134 **充豊**(みつとよ・岸さし、中村右衛門男)1843-9553 岸浅吉の養子/上州多野郡平井村の和算家、
斎藤宜義門/師の晩年を援助、「雑題点竄」著、[充豊(;)名]の通称]幸太郎/光太郎
光豊(みつとよ・武田) → 信豊(のぶとよ・武田、武将/故実) C 3 5 4 3
光豊(みつとよ・本多) → 臥高(がこう・本多ほんた、藩士/俳人) C 1 5 0 2
光豊(みつとよ・山名) → 玉山(ぎよくざん・山名、幕臣/歌人) 1 6 4 0
光豊(みつとよ・馬島) → 光昭(みつあき・馬島まじま、藩士/歌人) K 4 1 4 9
- J4191 **光多**(みつな・中津なかつ、旧姓;中村、)?-1777 伊勢松坂の国学者;本居宣長門、
嶺松院歌会参加;1752(宝暦2)から[詠草会集其一]として記録が残される、
初会の出席;小津道円・青木貞雄・嶺松院茂鮮・小津正啓・中津光多の5名;のち宣長が参加、
[光多(;)名]の通称]伊右衛門
- E4109 **御綱**(みつな・木村きむら)1814 - 186956 江後期武蔵埼玉郡野村の国学者;黒沢翁満門、
武蔵忍藩士;藩校国学館教授/平田篤胤没後門、「伊香保道の記」、
[御綱(;)名]の通称]茂左衛門/国吉
- H4187 **躬綱**(みつな・前田まえだ) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[東路あつまちのさのの舟橋霧はれて空行く月の影ぞ渡れる](大江戸倭歌;秋879/橋上月)
- H4181 **三綱**(みつな・二木にき/ふたき/姓;久川、二木恭豊たかとよ2男)1832-7645 飛騨高山の酒造業の一族、
国学・歌人;山崎弘泰門、秀幹ひでとの弟、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の[三綱]と同一?、
[三綱(;)名]の通称]源蔵/有一、
☆[五月閨岸にたちならしよる鹿はともしの松をあたと知らずや]、
(大江戸倭歌;夏573/嶺照射、三綱)
- E4110 **満直**(みつなお・境さかい) ? - ? 江前期江戸の俳人、立圃[1595-1669]門、
立圃「鶉鷺誹諧」入、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[汗水の流れをむすぶ清水かな](手鑑)
- K4106 **満直**(みつなお・白米はくまい、)1812-187059 伊勢度会郡の伊勢神宮外宮の祠官、国学、
[満直(;)名]の通称/号]通称;灌之助/左近、号;桂陰/香池
光直(みつなお・小林) → 眞中(まなか・小林/度会、神職/狂言) J 4 0 9 7
光直(みつなお・八羽) → 光穂(みつほ・八羽はつば/荒木田、神職/国学) E 4 1 8 1
- E4111 **満仲**(みつなか・源みなもと、経基男)912-99786歳 母;橘繁古女(or藤原敏有女?)、武将;左馬権助、

左馬権頭/春宮帯刀、摂津・武蔵・陸奥の国守/上総・常陸・武蔵の介、
969安和二年の変で陰謀密告の褒賞で正五下/鎮守府將軍;正四下、清和源氏の基礎を築く、
986出家;満慶/摂津多田郡に多田院を創建/贈従三位/追贈正一位、歌;拾遺334(満中名)、
今昔物語・源平盛衰記・宝物集・古事談などに逸話、頼光・頼信・源賢の父

[君はよし行末遠し留とまる身の松ほどいかゞあらむとすらん](拾遺;別334/返歌)

(肥後守赴任の清原元輔が餞別宴を開いてくれた満仲に贈歌;

「いかばかり思ふらむとか思ふらん老いて別るゝ遠き別れを」(拾遺;333)

[満仲(;名)の幼名/通称/法名]幼名;明王丸、通称;多田^だ満仲/多田新発意、法名;満慶

E4112 **光仲**(みつなか・池田いけだ、岡山藩主池田忠雄男)1630-93⁶⁴ 因幡鳥取藩主/左近少将、
国学/歌;鳥丸資慶門、「光仲侯和歌」、

[光仲(;名)の幼名/通称/法号]幼名;勝五郎、通称;相模守、法号;興禅院

L4115 **充仲**(みつなか・井上いのうえ、桐亭男)1732-1785⁵⁴ 河内交野郡の神職;船橋の二宮神社祠官、
詩歌に優れ父と共に坂村の岡田本房・三浦蘭阪らとサロンを形成、二宮社への奉納歌多数、
[充仲(;名)の字/通称/号]字;盈、通称;右京、号;金橋きんきょう/酔花軒主人

E4113 **光中**(みつなか・伊藤いとう、通称;猪十郎)?-1834 上州沼田藩士/国学;清水浜臣門、

1823「新撰字鏡捷見」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[うづもれてけふもむなしくくれ竹やあすの朝日をしたに待つらん]、

(大江戸倭歌;冬1268/雪埋竹)

J4167 **盈仲**(みつなか・竹村たけむら、松尾多勢子男)1838-85⁴⁸ 信濃伊那郡山本村の母の実家を継嗣/庄屋、
歌人;母門/国学;平田鍬胤門、

[盈仲(;名)の初名/通称]初名;盈中、通称;豊助/太右衛門

光仲(みつなか・吉原) → 黄山(こうざん・吉原よしはら、藩士/俳人) B 1 9 2 1

E4114 **光長**(みつなが・常盤ときわ) ? - ? 平安末期後白河院時代の代表的絵師/絵巻画家、
1156-9「年中行事絵巻」:後白河院の命で著/「伴大納言絵詞」「保元物語絵巻」「病草紙」外

E4115 **光長**(みつなが・藤原ふじはら、通称;九条三位、光房男)1144-95⁵² 母;藤原俊忠女、廷臣;1186参議、
1188従三位/95正三位/出家、皇嘉門院判官代/兵部権少輔/中宮権大進/右衛門権佐を歴任、
藤原基実・藤原基房・九条兼実ら撰関家の家司、歌;1169宇治別業和歌講師、
「光長記」、「源氏物語系図卷子筆」著、「源氏物語注釈」著?

E4116 **満長**(みつなが・小笠原おがさわら、氏長男)?-?(55歳没) 武将/故実家;武家礼法、備前守/従五下、
応永1394-1428頃の人;將軍義満より諱字を受、1404・16「騎射秘抄」(:犬追物について)、
1414「円物覚書」「円物条々」/18「犬追物検見条々」、「犬追物聞書」「犬追物之事」著、
一説;貞宗男/氏長の養子;京小笠原家を継嗣(小笠原三家系図入)、

[満長(;名)の初名/通称/法号]初名;善長、通称;次郎、法号;興光/興元

G4198 **満永**(みつなが・齋藤さいとう、通称;久兵衛)?-? 江前期摂津の貞門俳人/山城住;行風こうふうと親交、
1656「玉海集」58梅盛「鸚鵡集」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」20首/72「後撰夷曲集」144首入、
[春日野はけふもな焼きそ嫁がはぎまだ雪しるの妻にこもれる](古今夷曲集;春33)、
(嫁がはぎは嫁菜よめな/しるは雪解け水と椀の汁を掛る、

E4117 **充長**(みつなが・仁木にっき) ? - 1737 江前中期武蔵の歌人/歌学;冷泉為久門、1737(元文2)没、
1721「季秋吟行」/1721-4「在京随筆」22「都余波」、為久述「洞隠集」筆録、家集「桐隠集」、
「仁木随筆」「桐隠随筆」「藤沢記」「琵琶湖記」「二条家口伝」、1798刊広通「霞関集」入、風客、
[のどかなる都の春に出でん日を谷にまちてや鶯の鳴く](霞関;春36)

[充長(;名)の通称/号]通称;甚五郎/省二/五郎左衛門、号;鶉床亭じゅんしょうてい/洞隠翁/洞蔭翁

E4118 **光長**(みつなが・堀田ほった、通称;文平/順兵衛)?-? 江後期上野沼田藩士/和算;藤田貞資門、
1838-42「堀田光長日記」、「堀田光長題術解義」著、中村重恒・青島直弼らの師

J4107 **光融**(みつなが・幸田こうだ/本姓;度会、)1819-70⁵² 伊勢度会郡の神職;伊勢神宮土宮の守見物忌、
国学者、

[光融(;名)の通称/号]通称;主計かづえ、号;雪屋

充長(みつなが・本庄) → 義勝(よしかつ・武藤むとう/本庄ほんじょう、武将/城主) C 4 7 8 3

充長(みつなが・松山) → 長年(ながとし・松山まつやま/日下部、国学) O 3 2 9 3

光長(みつなが) → 光長(こうちよう、連歌) K 1 9 6 2

- 光長(みつなが・加藤) → 貞泰(さだやす・加藤/藤原、藩主/連歌) K 2 0 0 2
 光長(みつなが・徳永) → 日法(にっぽう; 法諱、日蓮僧/彫刻家) F 3 3 5 3
 光長(みつなが・生駒) → 元珉(げんみん・生駒いこま、医者) M 1 8 4 6
 満長(みつなが・大中臣) → 常長(つねなが・大中臣おおなかとみ/河辺、神職) C 2 9 8 3
- E4119 光成(みつなり/みつげ・源みなもと、致書男or致忠男[勅撰作者部類説])?-? 1132存 平安後期期廷臣、
 掃部助/中務少丞/蔵人(後朱雀の東宮時)/讃岐下向の時に源定頼と贈答歌;後拾遺487、
 [発たゝぬよりしぼりもあへぬ衣手にまだきなかけそ松が浦波](後拾遺;別487/返歌)、
 (定頼の贈歌;「松山の松の浦風吹きよせば拾ひてしのべ恋わすれ貝」後拾遺486)
- E4120 光成(みつなり・藤原ふじわら/家名;大炊御門、光俊男)?-1279? 母;平繁雅女、鎌倉期廷臣;左近中将、
 1260従三位/74出家、1243河合社歌合/46春日和歌宮社歌合/63住吉社・玉津島社歌合参加、
 勅撰9首;続後撰(1217)続拾(5首257/707/1065/1143/1268)新後撰(626/1039)続千(1571)、
 秋風・閑月・万代・夫木抄入集、
 [見るままに現うつの夢となりゆくは定めなき世の昔なりけり](続後撰;1217/往事似夢)
- E4121 光成(みつなり・惟宗これむね) ? - ? 平安末期廷臣、
 歌;1191若宮社歌合参加(2首;正六上行木工允もくのすけ)、
 [枝かはす松のしるしに梅の花色をも香をもときはなりせば](若宮社歌合;十四番左59)
- E4122 光業(みつなり・広橋ひろはし/家名;勘解由小路、兼仲男/本姓;藤原) 1287-1361 75 母;源親時女、廷臣;
 1320参議/43従二位/46権中納言/48辞任/52出家(法名;慈寂)、1324「光業卿改元定記」著、
 1326「光業卿記」「正中元年革令勘文案」29「妙蓮華院結界記」著
- E4123 三成(みつなり・石田いさだ、正継男) 1560-1600 処刑 41 安桃期近江武将、豊臣秀吉の寵を得;5奉行の1、
 経済・財政で活躍/佐和山城主;18万石、家康を除こうとして秀頼を擁し挙兵;関ヶ原敗北、
 京で斬首、「秀吉公奉納三十六首短冊」、
 [三成(;名)の幼名/通称]幼名;佐吉、通称;治部少輔
- E4124 光成(みつなり・榎並えなみ) ? - ? 江前期神道家、1679刊「六根清浄大祓和註」、
 1680「神道大道本紀」、「和朝撰要集」著
- L4103 光成(みつなり・檜村ならむら) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]恋歌7首入、
 [いはで世に消えもはてなぼうきほどをなき名おほせん神よことはれ](麓の塵;恋402)
- E4125 光成(みつなり・土佐とき、光起男/本姓;藤原) 1646-1710 65 絵師;1681左近将監;父の画所預を継嗣、
 1696従五下左近権大輔、96画所預を息子光祐に譲る/出家、「船のみとく」画、
 [光成(;名)の幼名/法名/法号]幼名;藤満丸、法名;常山/法号;江月常山居士
- E4126 光成(みつなり・塩田しおだ、通称;養的) 1749-1831 83 紀伊和歌山の鍼医/国学;1800本居宣長門、
 歌;鮎玉集入集、「若山月次会詠」著、貞嗣さだつぐ(医者/国学)の父
- J4173 光業(みつなり・丹蔵たんぞう、旧姓杉原) 1840-1904 65 伊勢度会郡の御師の家/伊勢神宮祠官、
 国学・歌;御巫みかんなぎ清直門、
 [光業(;名)の字/通称/号]字;楽天、通称;愛之助/大角/角平、号;桜滴
- 三成(みつなり・藤原) → 三成(ただひら/みつなり・藤原、平安期詩人) Q 2 6 6 4
 光成(みつなり・広橋/藤原) → 光成(みつげ・広橋、准大臣/武家伝奏) D 4 1 5 6
 光成(みつなり・藤原) → 顕俊(あきとし・藤原、廷臣/記録) D 1 0 6 3
 光成(みつなり・鷲田) → 光時(3世みつとき・鷲田わしだ、金工) E 4 1 0 0
 光業(みつなり・市野いちの) → 東谷(とうこく・市野、儒者) E 3 1 0 8
- E4127 光愛(みつなる・柳原やなぎはら、隆光男/本姓;藤原) 1818-85 68 母;正親町おおぎまち三条公則女の則女、
 廷臣;1851家督嗣/57参議/賀茂社奉行/国事御用掛/議奏/山陵修補御用掛/麝香間祇候、
 1865権大納言、公武合体派、1885従一位、「光愛卿記」/歌集「柳原光愛詠草」著、
 「続日本後紀難語考」編/「即位部類記」「吉田祭部類記」「例幣上卿已下歴名記」編、外著多数、
 [光愛(;名)の字/法号]字;子尚、法号;孝靖院、前光・愛子(大正天皇の母)の父
- E4128 光庭(みつにわ・惟宗これむね、光吉みつよし男) ?-? 早世 1338存 鎌倉・南北期の医者;父[1274-1352]を継嗣、
 准儒侍医/少内記、歌人;父門、新千載1949、光之(医者・歌人)の兄、
 [身にたへぬ我が名もよしや半天なかぞらに浮かべる雲のありてなければ]、
 (新千載集;十七雑1949/不義而富且貴於我如浮雲といへることを)
- 4127 躬恒(みつね・凡河内おおいうち、諶利男) 857?-? 924存 平安期廷臣;五位/894甲斐少目/丹波権目、

御厨子所/淡路権掾/和泉権掾、官暦は不遇、歌人:36歌仙の1、古今集撰者の1、
896寛平后宮歌合参/905平貞文家歌合913亭子院歌合参加、
921京極御息所歌合参、論春秋歌合;判者(問答形式)/家集「躬恒集」、屏風・障子歌制作、
898-901頃貫之邸の紀師匠曲水宴和歌参加;序を筆、連歌;菟玖波集入、
勅撰175首;古今(60首30/40/41/67/86/104/110/120/127/132/134/161/164/167/以下)、
後撰(23首2/9/13/19以下)拾遺(34首8/14/16以下)新古(12首22/68以下)新勅(6首)以下、
[心あてに折らばや折らむ初霜のおきまどはせる白菊の花](古今277)

- J4161 **光嶺**(みつね・高橋たかはし、通称;万蔵)1823-8967 越後弥彦桜井神社社家、光春の弟、国学者、
維新後;大講義/江戸住
三子(みつね→みつたね・高階)→ 惟恒(これつね・西田にしだ、国学者) O 1 9 5 4
三根(みつね・斎木) → 瑞枝(みづえ・斎木さいき/藤原、神職) 4 1 9 1
- E4130 **光舒**(みつのが・藤原ふじわら、清正きよただ[?-958]男/兼輔の孫)?-? 平安期廷臣;修理少進、重遠らの父、
清正女(拾遺歌人)の兄弟、歌:977三条左大臣頼忠殿前裁歌合参加、
[あけがたのきしのほとりの花見れば千種ちくさながらぞときはなりける](頼忠前裁合;34)
- E4131 **光信**(みつのが・土佐とき/本姓;藤原、広周男;実は光弘男)1434-1525長寿92歳 絵師;
1469画所預えどころあずかり、1491室町幕府絵師、96刑部大輔/1501従四下、連歌会参加、
絵巻・仏画・肖像画を描く;土佐派の権威を確立、光茂の父、
「桃井直詮なおき像」「後円融院御影」「三条実隆像紙型」「清水寺縁起」画、
1497「石山寺縁起」巻四画、「浄阿上人絵詞伝」「星光寺縁起」「役行者縁起絵詞」画、
「北野天神縁起」「俵藤太絵巻」「狐の草子」「藤袋草子」「承久記」「源平合戦図」画、
「弘法大師行状記」画、外画多数
- E4132 **光信**(みつのが・細見ほそみ、昌勝男/本姓;紀)?-? 戦国期丹波の武将;守護細川家家臣、蔵人/河内守、
連歌;1464?盛長催「熊野千句」参加、1465何船百韻・88宗祇花下開百韻・96何路百韻参加、
1496山何百韻参加/新菟玖波;5句入、法号;宗高、浦上則宗の兄
- E4133 **光宣**(みつのが・鳥丸からすま、光康男/本姓;藤原)1549-161163 安桃江戸初期廷臣;1577参議/従三位、
1587権大納言/1602以降;賀茂伝奏/11准大臣;従一位、歌/連歌/能書、「謡抄」編纂に参加、
1579天正内裏歌合参加(;何路百韻)、
[光宣(;名)の一字名/法号]一字名;丁、法号;顕性院覚融、光広の父
- E4134 **光信**(みつのが・狩野かろう、初世永徳男/本姓;藤原)1561/5-160848-44 絵師;狩野宗家6世、
狩野一門の中心として大和絵技法を取り入れ桃山障壁画様式を確立、
信長・秀吉に出仕/のち家康に出仕、京住;江戸と往復;桑名で客死、「瀟湘八景図」画、
[光信(;名)の幼名/通称/号]幼名;四郎次郎/四郎二郎/源四郎、通称;右京/右京進/右京亮、
号;慕蘭ぼりん、一般に古右京と呼称、法号;掌順院/常順院、妻;土佐光茂女、
- E4135 **光信**(みつのが・後藤ごとう、長乗男)1589-165668 金工家;白銀師の職(;上後藤家)、
寛永1624-44頃加賀金沢藩主前田利常に招聘される;下後藤頭乗と隔年交代で金沢で制作、
後水尾天皇の命で彫刻を勸覧に供す、1621「後藤家記録」編/34「家彫伝授書」著、
「後藤系図並彫物口伝」「後藤作目利留」「彫物秘伝書」著、
[光信(;名)の通称/号]通称;勘兵衛/喜右衛門、号;覚乗
- E4136 **光延**(みつのが・間はざま、通称;喜兵衛)1635-1703切腹69 赤穂藩士;勝手方吟味役;百石、
転流剣術;父門、1701(元禄14)主君刃傷;赤穂浪士、長男光興と大石良雄義盟に参加、
次男光風ものち参加/1702江戸下向;杣庄喜斎と変名;光興・光風と借家に潜伏、
1703吉良義央よしなな邸討入、細川綱利屋敷にお預/切腹、
歌、「剣術系図」「間喜兵衛書翰」著
- E4137 **光信**(みつのが・長谷川はせがわ、通称;庄蔵)?-? 江中期大阪絵師;西川祐信門?/浮世絵/絵本挿画、
1721「花王伊勢物語」画、30「絵本御伽品鏡おとぎしながみ」作/画、「絵本藤の縁ゆかり」、
「絵本家賀御伽かがみとき」作/画、「日本山海名物図会」画、「長谷川光信真蹟画稿」画、外画多数、
[光信の別号] 永春/梅春、梅峯軒/松翠軒/柳翠軒/外記光信
- K4180 **光宣**(みつのが・森もり、通称;元二郎)?-1813 備前岡山の国学者
- E4138 **充延**(みつのが・青木あおき、別名;淵/字;子纘/通称;新四郎)1760-181657 備後三原の商人/儒者、
詩文:春水・春風・杏平らと親交、1807「三原集」15「備後八幡雜記」著、

地誌御用係;「三原志稿」編(;息充実みつぎねが1819完成)

- E4139 **光暢**(みつのぶ・赤田あかだ、臥牛がぎゅう[1747-1822]男)?-? 江後期飛騨高山の代々酒造業/詩人、1829父の「臥牛集」編
- L4118 **光信**(みつのぶ・池上いけがみ、通称;文吾)1776-1836**61歳** 美濃神戸の生/近江彦根藩士、京の藤波季忠に出仕、歌/書/易に通ず、狂歌・連歌を嗜む
- H4169 **盈叙**(みつのぶ・桜井さくらい、旧姓;新井)1821-1859**39歳** 信濃伊那郡の生、飯田の商家桜井盈栄みつひでの養嗣子、町年寄、・盈寿みつひさ・芳孝の父、国学・歌;岩崎長世門、[盈叙(;名)の通称] 愛吉(;養父の称を継承)/好右衛門(;代々の称)
- I4103 **光信**(みつのぶ・岡野おかの、通称;要人かなめ?)1835-? 江後期;美作英多郡巨勢郷檉村の医者、歌人;1857平賀元義の楯の舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- K4119 **光信**(みつのぶ・樋口ひぐち/本姓;源、北原因信よりの男)1837-1923**87** 信濃伊那郡座光村の名主家の生、飯田和久町の樋口光寧の養子、北原稲雄(1825-81)・今村真幸まさき(信敬1830-1906)の弟、国学/歌;平田鋏胤・岩崎長世門;兄達と同門、歌人、1864(元治元)三兄弟(稲雄・真幸・光信)の画策で天狗党伊那路通行に飯田藩での流血回避、伊那の銀行創設に尽力;開業社社長倉沢清也を補佐、1923(大正12)没、妻;美寿、樋口龍峽(秀雄/暁雪/1875-1929/評論家/政治家)の父、[光信(;名)の通称] 松之助/与兵衛/与平
- E4140 **光信**(みつのぶ・渋谷しぶや、通称;源蔵)1839-1909**71** 岩代会津藩士/歌人:星暁村門、「三園艸」「徒之町百首俗解」著
- 光信(みつのぶ・宇都宮) → 東竹(とうちく・宇都宮うつのみや、庄屋/俳人) S 3 1 6 9
- 光信(みつのぶ・戸田) → 光行(みつゆき・戸田とだ/松平、藩主) F 4 1 0 6
- 光宣(みつのぶ・一色/一井) → 鳳梧(ほうご・一井いちのい/一色、儒者/教育) F 3 9 1 6
- 光延(みつのぶ・中西/小林) → 秋水(しゅうすい・小林/中西、俳人) X 2 1 6 9
- 光陳(みつのぶ・上田) → 堂山(どうざん・上田うへだ、酒造業/詩歌) E 3 1 7 0
- 三信(みつのぶ・池田) → 孤村(こそん・池田いけだ、絵師/歌) N 1 9 0 3
- みつの屋(みつのや) → 千船(ちふね・永井ながい、藩士/歌人) N 2 8 2 0
- E4141 **光範**(みつひ・藤原ふじわら、永範男)1126-1209**84** 母;大江行重女、廷臣;1193従三位/1205従二位、文章博士/東宮学士/式部大輔/1207民部卿/同年出家、歌人;1184後鳥羽天皇大嘗会の屏風和歌参加/1198土御門天皇大嘗会の屏風和歌参加、1200若宮歌合・1201影供歌合参加、和漢兼作集入、勅撰2首;千載1288/新古今755、[たちよればすゞしかりけり水鳥の青羽あはばの山の松の夕風](新古今;755)、(建久九年[1198]土御門天皇大嘗会悠紀歌/青羽山)
- E4142 **光憲**(みつひ・源みなもと) ? - ? 南北期?連歌作者:1356刊「菟玖波集」1句入、[鶯からすひとつ梢の松にみて](菟玖波;十四1420/前句;なく声まてに似もあはぬ哉)
- E4143 **満範**(みつひ・千秋ちあき、経季男)?-? 室町期熱田社大宮司、1423「熱田法楽連歌」発句[雪はけふ歌は神代を始めかな](熱田法楽;賦山何;発句)
- G4190 **光範**(みつひ・飯川いがわ、通称;新七郎、宗春男)?-? 戦国期能登の武将、歌人;冷泉為広門、1517冷泉為広が能登来訪時に父と入門、連歌;1523七尾城で「賦何路連歌」25「賦何人連歌」参加(父宗春と)
- E4144 **光則**(みつひ・土佐とさ)1583 - 1638**56** 土佐派の絵師;土佐光吉門、堺住;土佐流派様式の維持に努力、岩佐又兵衛の師
- E4145 **光軌**(みつひ・打它うった/うちだ/うだ/うった/うた、歌人景軌2男)1664-1731**68** 京の歌人;中院通茂・通躬門、1703磐城中村藩の歌師範;百石20人扶持、相馬打它家の祖、「藻虫集」「歌道相伝血脈」「歌道相伝目録」「和歌三神三聖秘密」「打它遺書」「古今集切紙」著、1716「溪雲問答」(;通茂述/松井幸隆筆記)に通茂からの問書入、[光軌(;名)の通称/号]通称;十右衛門、号;雲泉/藻虫庵
- J4126 **光似**(みつひ・宍甘しかい、通称;権左衛門)?-? 江中期;伊予今治藩士、歌人;町野政胤門、歌;姉小路実紀(1679-1746)門、今治2代目宗匠とされる、[ひなのてぶり]2首入、京の新玉津嶋神社に今治歌人20人で各1首奉納(光似が願主か?)/1742「星夕言志七首」著、

今治の和歌史;①政胤—②光似—③為親—④一雲—⑤半井梧菴

[雲の波も立ちなさかりそ天の川逢ふ夜まれなる秋の一夜に](星夕言志)

☆新玉津嶋神社奉納歌人;外に多羅尾光品・江嶋為正・定温長女富子・八重女/つま女など

- K4167 **満礼**(満禮みつり・三居み、) 1686- 176580 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入
[満礼(;)名)の通称]助四郎/孫太夫
- E4146 **光謨**(みつり・浦野うらの、柳井利好男) 1713-9785 浦野良起の養子、豊前小倉藩士/京都郡の郡奉行、
農政に尽力、武芸;青木正任・原正隆門、文学・書画を嗜む、「塵袋」著
[光謨(;)名)の通称/号]通称;順右衛門、号;一步/一步齋/明仙/松下亭
- E4147 **光官**(みつり・篠山ささやま、具晴男/本姓;伴) 1716-9075 母:越智清喜女、幕臣;1740父継嗣;寄合、
歩頭/西丸目付/西丸先手/1787新番頭、武芸;兵法・剣術・拳法・射法・鎗術など修得、
兵法教授;門弟多数/暦算;千葉歳胤門、1786「御伝略」著、資朋の養父、
[光官(;)名)の通称/法号]通称;吉兵衛/吉之助、法号;貫通
- J4162 **光則**(みつり・高橋たかはし、通称;舎人) 1761-182464 越後蒲原郡弥彦桜井神社神主/国学者
- 4128 **光則**(みつり・保田やすだ、光利男) 1797-187074 陸前仙台藩士;大番士/藩学養賢堂和学指南役、
藩主伊達慶邦師範役、漢学;志村蒙庵門/歌;河田安親門/国学者:本居大平門、
1827「訓誡和歌集」37「歳事和歌集」/39-63「雅言集覧増補并続篇」49「増補倭語便覧」著、
1851「挿頭抄かさしゅう増補」、52「万葉部類抄」編/55「霜を戴く撫子の記」/60「陸奥風土記」著、
1866「新撰百将歌」、「脚結抄あゆひしゅう考」「あさかの山のみ」「陸奥物語」「保田光則和歌」外多、
[光則(;)名)の幼名/通称/号]幼名;立之助、通称;貞治、号;渚廼舎なぎさのや/養軒、
- K4194 **光徳**(みつり・吉村よしむら、光甫みつとし/みつよし男) 1799-186971 河内丹北郡島泉村の国学者;父門、
島泉村の大里正、
[光徳(;)名)の字/通称/号]字;有隣、通称;麟之助/丹下、号;撫松/鷲原
- J4196 **光徳**(みつり・仲居なかい、旧姓;高橋) 1814-187966 近江彦根藩士、国学;山本昌蔭門、
歌人;[鳩のうみ]入、
[光徳(;)名)の通称]清人/弥五八
- I4181 **光徳**(みつり・木下きのした、) 1815-187561 信濃伊那郡の商家/のち飯田藩士、
国学;岩沢幸年門、維新後;権少参事
[光徳(;)名)の別名/通称]別名;光孚みつたか、通称;平九郎
- E4149 **光教**(みつり・小出こいで/北野、数藤宜陳男) 1820-7657 初め北野多郎兵衛養子/のち小出兼政養子、
阿波徳島の暦算家;小出兼政かみまさ門/京の土御門家で修学/江戸の内田五観門、蘭学も修学、
若山八十郎に砲台築造・砲鑄造を修学、徳島藩命で小出兼政家を継嗣;1866小姓格/櫓奉行、
砲台築造・大砲鑄造・天文算術御用兼任、のち土御門家に出仕;1869治河測量/会計課出仕、
晩年は徳島・讃岐で子弟教育、「安政元暦」「安政暦書」編/「安政三年日月食推歩」「変円解」、
「称平術原由」「西洋暦法和解」「螺線術解」「蘭埜略暦」「湾匠糸わんそう起源」外著多数、
[光教(;)名)の別名/通称]別名;光孝、通称;由岐太/由岐左衛門
- H4172 **光徳**(みつり・木村きむら/本姓;源、通称;鉄四郎) ?-? 江後期;幕臣、成島柳北邸出入(硯北日録入)、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[鶯の初音聞かねば耳名草若菜ととに摘みて帰らん](大江戸倭歌;春31/初春興)
[雨にあらひ日影にほして色あせぬ千代の霜ふる鶴つるの毛衣](同;雑1778)
- I4195 **充徳**(みつり・日下部くさかべ、通称;徳兵衛) 1836-1859早世24 飛騨高山の国学者/歌;山崎弘泰門
- E4150 **光訓**(みつり・藤堂とうどう、通称;数馬、光享男) ?-? 江後期伊勢津藩士/藩主連枝藤堂数馬家の7代、
祖父光寛の嗣、「炮術蘭語箋」著
- K4120 **光訓**(みつり・樋口ひぐち、通称;真彦/号;蒼竜、勘次光武長男) 1842-191574 陸奥会津藩士、
藩校日新館に修学;国学者/1862(文久2)藩主松平容保と上洛;容保に書を呈し時務を論ず、
維新後;岩倉具視の知遇で邸内に移住;西南戦争に功績、
愛君社を創設;皇典講究所の基礎となる
- 光教(みつり・鴨) → 秀行(ひでゆき・鴨かも、神職) E 3 7 0 4
光徳(みつり・樋口) → 三益(さんえき・樋口ひぐち/清水、幕府侍医) N 2 0 4 7
光徳(みつり・篠山/笹山) → 景德(かげり・篠山/笹山/木村、幕臣/奉行) L 1 5 1 9
光徳(みつり・烏丸) → 光徳(みつえ・烏丸からすまる、廷臣/政治家) K 4 1 3 8

- 光憲(みつり・大滝) → 光憲(みつあきら・大滝、商家/国学者) E 4 1 4 8
満教(みつり・九条) → 満家(みついえ・九条、関白/歌人) D 4 1 0 8
満穂(みつり・大野) → 玄鶴(げんかく・大野おの、医者/地誌) I 1 8 2 7
- H4166 三羽(みつは・稲村いなむら) 1797-1846 50歳 江後期;幕臣;御膳所ごぜんしよ御台所人組頭格、江戸築地住、国学/歌;初め築地本願寺僧元門・のち香川景樹門、蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
[藻塩汲むあまがすさびに折られけり手節の崎の秋萩の花](大江戸倭歌;秋735/崎萩)
[三羽(;名)の通称/号]通称;増五郎/松五郎、号;松園
- E4151 三ツ橋檢校(みつはしげんぎょう、三ツ橋勾当こうとう)?-1760 江中期大阪の音曲家;箏曲/地唄作曲、上方歌「手事物」作曲
- H4176 光逸(みつはや・上田うえだ、通称;五郎右衛門) 1783-1853 71 周防吉敷郡台道村上田光陳みつゆきの婿養子、光陳女菊子きくこ(絵師)の夫/光美みつよし・喜代子きよこ(清子)の父、酒造業・大庄屋を継嗣、歌人、「上田光逸詠草」著(吉田樟堂文庫入)、「上田光逸翁勤功録」あり
- I4102 光逸(みつはや・香西かさい、通称;十太夫)?-? 江後期美作吉野郡広井郡田殿村の歌人;平賀元義門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- K4121 光治(みつはる・樋口ひぐち、屋号;伊勢屋)?-? 遠江浜松の商家;味噌醤油業、国学者、国学;杉浦国頭くにあきら(1678-1740)門/荷田春満(1664-1736)門
- E4152 盈春(みつはる・小槻おづき/壬生みぶ、初名;智長ともなが、章弘男) 1710-59 50歳 母;小槻季連女、廷臣;1717家督嗣、1718左大史兼主殿頭/大蔵大輔/算博士、1759従三位、1723-42「小槻盈春日記」、1729「小槻盈春覚書」45「徳川家重將軍宣下一会日記」著、「新嘗祭」「盈春卿記」著
- K4127 満晴(みつはる・平山ひらやま、通称;伊右衛門) 1756-1837 82 下総香取郡鏑木村の醤油醸造業、国学;平田篤胤門
- I4176 光施(みつはる・外山とやま、光実男) 1784-1839 56 廷臣;公卿/正三位・修理大夫、歌人、神原かんばら友于ともゆきの師
- J4163 光春(みつはる・高橋たかはし、通称;舎人)?-1839 江後期;越後蒲原郡の国学者、光嶺みつね[1823-89/神職/国学者]の兄
- L4113 光春(みつはる・五十嵐いがらし/本姓;武田) 1788-1868 81 出羽置賜郡の生/出羽上山藩士、儒者、藩主松平信行に出仕/藩校明新館教授;1809(文化6)より40年間勤務;子弟教育、能書家;藩の制札や藩領境界の石標など執筆揮毫、自邸;松雨亭で歌指導、鳥海山人(武田孫兵衛)を敬慕し親交、上山来訪の巻菱湖に師事、晩年;家塾を開く;嵐貞と号す/隠居後;于拙うせつと号す、
[たきの山かへり詣の袖ふれて石の鳥居も細らぎやせし](元木の石鳥居を詠、のち西行の詠歌として膾炙;実は光春の詠歌)、
[光春(;名)の字/通称/号]字;竜溪、通称;柔兵衛、号;嵐貞/松雨/于拙うせつ
- K4128 光春(みつはる・広辻ひろつじ/本姓;橋、旧姓;小林) 1815-88 74 伊勢度会郡の国学者;足代弘訓門、歌人;中島広足門、宮崎郷学校教官、茶人;裏千家11代千宗室門、
[光春(;名)の初名/通称/号]初名;光昶、通称;虎若丸/勘解由/佐渡、号;松叟/松戸/通齋/通玄/宗敬
- 三春(みつはる・水野) → 三春(みつはる・水野みづの、神職/歌人) E 4 1 5 3
光治(みつはる・志自岐) → 小楯(おたて・志自岐じき/鎌奥、藩士/歌) D 1 4 9 5
満春(みつはる・唐牛からうし) → 東洲(とうしゅう・唐牛、儒者/詩) E 3 1 9 5
- H4170 光被(みつひ・柳沢やなぎさわ、信有の長男) 1784-1836 53歳 越後黒川藩6代藩主;1787父没;家督嗣、従五下/伊賀守、伊勢守、1802大坂加番/06日光祭礼奉行;21再任/23大坂加番再任、1828(文政11)日光祭礼奉行再々任、没後;養嗣光昭が継嗣、正室;戸沢正親女/継室;柳沢保光女、通称は金蔵、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[年を経て里は茅原と荒れゆけど月は都をうつさざりけり](大江戸倭歌;秋873)
- H4186 光被(みつひ・所ところ) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[多度山の滝の下水汲む人は老いても白きすぢやなからむ]、

(大江戸倭歌;雑1689、717[靈龜3]元正天皇多度山行幸;泉で治り養老に改元)、
[ほのぼのと明けゆく空に塵もなし霞むあなたやうき世なるらむ](現存百人一首;47)

E4154 **満彦**(みつひこ・松木まつき、盛彦男/本姓;度会わらい) 1616-8267 伊勢神職;1615正三位/22外宮十禰宜、
1676外宮一禰宜/外宮長官、伊勢両宮神官の立烏帽子の慣習を作る?、「神宮年代記抄」著、
「松木禰宜満彦年代記」「度会満彦卿家集」「寛喜御遷宮日記」「満彦卿日次」著、
直彦・親彦の父

☆[松木外宮禰宜家]匡彦-盛彦(養子)-**満彦**┌直彦-智彦-卓彦-言彦-算彦-品彦(養)-偉彦(養)
└親彦-条彦-意彦-宅彦-恒彦-武彦-偉彦↑

E4155 **光彦**(みつひこ・立斎りゆうさい/立亭りゆうてい/三亭さんてい) ?-? 江後期合巻作者:1852「初若菜雪曙」、
1851・55「鄙物語業平草紙」著

三彦(みつひこ・梅田) → 三彦(かずひこ・梅田うめだ、藩士/歌) M 1 5 4 0

光彦(みつひこ・高瀬) → 光明(みつあき・高瀬たかせ、国学者) J 4 1 5 9

光彦(みつひこ・市野) → 迷庵(めいあん・市野いちの、質商/儒者) 4 3 0 0

H4123 **満久**(みつひさ) ? - ? 室町期;尾張熱田神宮の神職、
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、

[日の落ちかかる方ぞ寒けき](熱田法楽;賦山何三裏2、

夕暮の日陰は寒く千鳥の声がわびしい/前句;覚阿;むら千鳥空に声ある潮みちて)

E4156 **盈久**(満久みつひさ・森もり/家名;伊関/本姓;賀茂) 1604-6663 京の上賀茂神社神職;1819権禰宜、
弟の輔久と森家名跡を争う;1856相続/65正禰宜、「若宮社奈良社沢田社氏神社正遷宮記」、
「御読経所神宮寺小経所正遷座記」著、維久の父、
[盈久(満久;名)の通称]刑部大輔/筑後介

E4157 **光久**(みつひさ・島津しまづ/賜姓;松平、家久男) 1616-9479 母;島津忠清女、鹿兒島藩主;1638襲封、
従四上/侍従・近衛中将・薩摩守・大隅守、金山開発・新田開墾・林業等産業振興;財政再建、
学問奨励;学者招聘、「寛永大系図」「新編島津氏世録正統系図」を編纂させる、
「八条宮諸家書簡集」編、正室;曹源院/継室;平松時庸女(陽和院;1638-1711・歌人)、
嗣;孫の綱貴、

[光久(;名)の幼名/名/通称/法号]幼名;虎寿丸、初名;忠元、通称;又三郎、法号;寛陽院

H4121 **光尚**(みつひさ/みつとし/みつなお・細川/本姓;源、忠利長男) 1619-4931 肥後熊本2代藩主;熊本細川家3代、
母;小笠原秀政女の千代姫(保寿院)、忠興の孫、1637父と島原乱に参戦、
1641(寛永18)父没;家督継嗣;光尚に改名、従四下/侍従/肥後守、
1642阿部弥一右衛門遺族による反乱;鎮庄、正室;烏丸光賢女の正受院(寧々)、
1645祖父忠興没時;忠興の遺言により従弟細川行孝に宇土藩3万石を立藩、
藩政の基礎を固める、綱利/利重の父、
歌人、行風「古今夷曲集」入、

[観音のちかひかこれも枯れて立つみを木に波の花咲きぬなり](古今夷曲集八)

(詞書「難波江のみをつくしに波のよせかくるをみて」)

[光尚(;名)の幼名/別名]幼名;六丸、初名;光利

☆阿部一族の反乱はのち「阿部茶事談」に脚色/森鷗外「阿部一族」の題材となる

E4158 **光尚**(みつひさ・加藤かとう、通称;主馬) ?-? 江戸初期;武芸;水泳術者;貴田孫兵衛門/伊予大洲住、
主馬神伝流創始、信濃上田藩に出仕、「神伝游泳之大略」「神伝游泳之大略並教悟」「教語」

K4183 **三久**(みつひさ・森脇もりわき、通称;三太夫、正仍まさより[1599-1690]2男) 1653-172775 周防岩国藩士、
古典・歌俳;北村季吟門/故実;平田(中原)職俊もととし門/神道・歌学;吉川惟足これたる門、
岩国藩神道方に出仕

K4110 **光尚**(みつひさ・八羽はつば/はちは、) 1663-173674 伊勢度会郡の和学者、
養子;太田光当みつまさ

[光尚(;名)の通称/号]通称;虎之助/内匠たくみ/左京、号;夢幻軒

E4159 **光久**(みつひさ・中村) ? - 1845 常陸の俳人;鳳朗門、
1845「俳林小伝」成稿後没(1853友人の千壽編刊)、「文雅便覧」編(1861刊)

J4119 **盈久**(みつひさ・桜井さくらい、) 1741-181878 信濃飯田の商家/神道・国学;桑沢正方門、歌人、
[盈久(;名)の通称/屋号]通称;好右衛門、屋号;板屋、盈栄みつひでの父

- I4134 **光久**(みつひさ・大久保おおくぼ/旧姓;山中)?-?天保1830-44頃没 陸奥(陸中)閉伊郡の国学者/神道、
年中行事・公事根源などに精通/歌人;賀茂季鷹と交流、「東奥古伝」「宮古風土記」著、
[光久(;名)の通称] 弥兵衛
- E4160 **光久**(みつひさ・高階たかしな/堀尾、西田惟恒男?) 1817-? 大舍人寮史生/1842正七下/43常陸大掾、
歌人:本居内遠門、1851-4「近世名所家集」/57「信恒翁靈祭歌集」編
- E4161 **光尚**(みつひさ・鈴木すずき/本姓;穂積、通称;源太)?-? 江後期歌人:香川景樹門、
1860「桂園遺文」編/51「節用早見二重引」校訂
- J4120 **盈寿**(みつひさ・桜井さくらい、盈叙みつゆぶ2男) 1842-1920 79 信濃飯田の商家;町年寄(;父を継承)、
のち戸長、国学・歌;岩崎長世門、
[盈寿(;名)の通称] 貞治郎/好右衛門(;代々の称)/好郎
光久(みつひさ・北原) → 台眠(たいみん・北原、俳人) L 2 6 0 7
光久(みつひさ・森田) → 久右衛門(きゅうえもん・森田もりた、陶工) M 1 6 2 8
光久(みつひさ・天羽) → 仏牛(ぶつぎゅう・天羽あも、藩士/俳人) D 3 8 2 8
- J4128 **光久室**(みつひさのしつ・島津しまづ、平松時庸養女[実父;交野時貞]) 1638-1711 74 京の宮中女官、歌人、
後光明天皇の掌侍か?、鹿兒島藩主島津[松平]光久(1616-94)の継室;江戸住、
夫没後;陽和院、
[見し人の限りを月に思ひ出でて馴れし雲井の秋ぞ恋しき](茂睡[鳥の迹]秋359)
[子におくれて
折々をおもひ出づるにいひ置きし言の葉毎に露ぞみだるる]([鳥の迹]哀傷617)
夫 → 光久(みつひさ・島津しまづ/松平、藩主) E 4 1 5 7
- E4162 **光秀**(みつひで・土佐とき/本姓;藤原、吉光or邦隆男)?-? 鎌倉後期の絵師、従五下飛弾守、
「弘法大師絵伝」「狭衣物語絵巻」画
- L4119 **満秀**(みつひで・平たいら、) ? - ? 南北期;武家/正六上/左衛門少尉、
歌人;浄阿奉納[隠岐高田明神百首和歌]出詠、
[秋ちかき西よりくれて小倉山ふもとの野辺は風ぞ涼しき](高田明神歌;33/麓納涼)
- E4163 **光秀**(みつひで・明智、通称十兵衛、惟任これとう日向守) 1528-82戦死 55 織田家臣の武将;土岐氏の一族、
近江坂本城主、のち丹波亀山城主;1582毛利攻め支援のため出兵;本能寺で信長を討つ、
秀吉に山崎で大敗、小栗栖おぐすで農民に殺害、
連歌;1582. 5. 24本能寺攻撃前夜に山城愛宕山西之坊威徳院で「愛宕あご百韻」催、
紹巴・兼如ら参加/表向き毛利征伐戦勝祈願;実は本能寺戦勝祈願を込めたと伝える、
[時は今天あまが下しる五月哉](愛宕百韻;賦何人連歌冒頭発句、
裏に土岐一族の自分が天下を取るといふ決意を込める、
本能寺変後に事前承知を責められた紹巴が元は[天が下なる]であったと主張)
娘 → ガラシャ(・細川、明智玉たま) F 1 5 9 4
- 4129 **光荣**(みつひで・鳥丸からすま、宣定男/本姓;藤原) 1689-1748 60 廷臣;1719参議/正四上/24権大納言、
1734正二位/48内大臣;2日後に没、歌人;霊元院門/1739中院通躬より古今伝授を受、
1744桜町天皇に古今集秘説を伝授、享保以後冷泉為村登場まで歌学大成者(今人丸の称)、
1706「雲上和歌歌集」入、1721「鳥丸光荣百首」、1736-40歌学「聴玉集」(加藤信成筆記)著、
家集「栄葉えいよう和歌集」、「鳥丸光荣歌集」「槐栄記」「鳥丸光荣詠草」「鳥丸光荣歌道教訓」著、
「関東路記」「東関往来之記」外著多数、法号;不昧真院、光胤の養父
- J4121 **盈栄**(みつひで・桜井さくらい、盈久の長男) 1790-1852 63 信濃飯田の商家(屋号;板屋)、問屋役
国学;桑沢正方門(;父と同門)、歌人、養嗣子;盈叙みつゆぶ(旧姓;新井)、
[盈栄(;名)の通称] 愛吉/寅之助/好右衛門(;父の称を継承)
秀仁(みつひと;名) → 四条天皇(しじょうてんのう、後堀河天皇皇子) E 2 1 1 5
満仁(みつひと;名) → 性仁親王(しょうにんしのう、真言仁和寺僧) B 2 2 1 1
三津人(みつびと) → 三津人(みつんど、江戸後期俳人) F 4 1 3 1
全仁親王(みつひとしんのう) → 全仁親王(まさひとしんのう・常盤井宮、歌) G 4 0 8 0
三津姫(みつひめ・池田) → 三津子(みつこ・毛利もうり/池田、歌人) D 4 1 3 7
満姫(みつひめ・伊達) → 詮子(あきこ・井伊い/伊達、守真院/歌人) G 1 0 9 2
貢姫(みつひめ・松平) → 健子(たけこ・松平まつだいら/鍋島、貢姫/藩主室) Z 2 6 5 8

- E4164 **光平**(みつひら・二条にじょう、一字名;東、康道男/本姓;藤原)1624-8259 母;貞子内親王、江前期廷臣;1635従三位権大納言/32内大臣/47右大臣/52左大臣/53関白/58従一位、氏長者/1663摂政/64致仕、1656「寛永廿年明暦二年御即位」62「識仁親王御元服次第」63-65「禁裏仙洞御会和歌」、「礼服御覧次第」「元日節会次第」「後西天皇御即位次第」外記録多数、[あけぼのの春に見そむる富士のねを我みや人びとに行きてかたらん]、(1638烏丸光広[春の曙の記]入;歌33;若君名/父康道に光広と共に随従し江戸紀行)、[光平(;名)の号] 後是心院、綱平の養父
- 4130 **光平**(光衡みつひら・伴林ばんばやし/ともばやし、俗姓;鈴木、浄土僧賢静男)1813-64処刑52歳 河内浄土僧、河内林村浄土宗尊光寺の生、京西本願寺学寮で修学/国学:中村良臣・加納諸平門、歌;伴信友門、還俗、1841兄鳳岳の懇請で河内八尾教恩寺住職、1857から大和中宮寺で国学・歌を講義、61還俗、中宮寺宮の家士;山陵調査、尊王;1863(文久3)天誅組の大和挙兵に参加;転戦後捕縛/64(文久4)京六角の獄で処刑、「伴林光平自記歌集」「輶の響」「歌道大意」「園の池水」「陵墓検考」「巡陵記事」著、「南山踏雲録」「須美麗草」「小田の中道」「阿濃之湊田」「櫃下詠草」「篠屋家集」著、「伴林光平詠草」外著多数、贈従四位、息子光雄も天誅組に参加、[光平(;名)の幼名/通称/号/変名]幼名;信丸、通称;左京/六郎/(還俗後)伴林光平、号;蒿斎/岡陵/斑鳩隠士/神楽舎/篠屋/小竹舎/万年樹下/破草鞋道人/八丘、法名;洲英/大雲坊/周永、変名;並木春蔵
- I4164 **称平**(みつひら・加藤かとう、)1831-1867自刃37 越中新川郡泊町の綿商、歌;井上文雄門、尊攘論を主唱して破門/京の中沼葵円きん門;葵円推薦で大和十津川の郷校文武館の助教、儒学教授として郷民を教育、金沢藩と薩長との連合を画策;計画の不成功を慨嘆;1867(慶応3)文武館の下河原において切腹、[遠津川瀬々のしら波たちつれて昔にかへせ君が御代をば](郷土に示す詠草)[称平(;名)の通称]松之助/謙二郎/梓
- 満平(みつひら:初号・小西)→ 来山(らいざん・小西、俳人) 4801
- E4165 **光弘**(みつひろ・土佐とよ、行秀男/本姓;藤原)?-? 室町前期絵師/土佐派10世;1443画所預えどころあずかり、中務丞/土佐権守、1430後花園天皇の大嘗会の主基すき屏風制作(父行秀が悠紀屏風制作)、光信(広周男)は実は実子
- E4166 **満広**(みつひろ・真下ましも、慶阿・啓阿)?-?1459前没 足利義教家臣/加賀守、剃髪、連歌;周阿・梵灯門、梵灯庵没後宗砌と追善二百韻詠、心敬「所々返答」入
- 4131 **光広**(みつひろ・烏丸からすまる、光宣みつのお男/本姓;藤原)1579-163860歳 廷臣;1581(3歳)従五下、1583元服昇殿、弁官/蔵人頭/1606(28歳)参議/右大弁を兼任/08従三位/09左大弁、1609(31歳)光広・飛鳥井雅賢・雅宣ら廷臣9人と宮廷女官5人との乱交事件が露見;解官、多くが流罪になったが光広は免除;陰に家康の力があつたといわれる、1611参議に復職、1612権中納言/13正三位/16権大納言/正二位、朝廷と幕府との調停役、**歌学**:細川幽斎門:二条家流;25歳で秘訣口伝を受;その記録「耳底記」著、学問/書道に通ず、「黄葉和歌集(光広集)」「孫の資慶編)、「烏丸光広家集」「烏丸光広詠草」「烏丸光広百首」等、**連歌/聯句/俳諧**;和漢聯句御会参加/近衛信尹・昌琢・沢庵らと連歌/西笑承兌らと連句、**紀行**;徳川家と親交;江戸往復/「東行道の記」1617「日光山紀行」18「あづまの道の記」、1635「春の曙の記」、「浅間の記」など、**狂歌**;行風「古今夷曲集」9首入/「後撰夷曲集」入/誓願時策伝と狂歌の贈答など、**仮名草子作者**?(「仁勢物語」「尤の草紙」「竹斎」「目覚し草」などに擬せられている)、[あづまより立ちくる春ものどけさは雲みの空や初めなるらん](黄葉集;冒頭歌/立春)[ほとばかりとぎすは聞かぬ初音はつねかな](静山「甲子夜話」入)、[光広(;名)の一字名/号]一字名;黄、号;烏有子/腐木、法号;法雲院泰翁宗山
- E4167 **光弘**(みつひろ・三輪みわ) ? - ? 尾張の俳人;1671友次「藪香物やぶにこうのもの」70句入
- K4188 **光寛**(みつひろ・山口まがち、通称;源太夫)1646-9550 江戸の幕臣;大番、和学者
- E4169 **光寛**(みつひろ・柴田しばた/本姓;藤原)1729-181183 尾張名古屋橋町の古道具屋/蔵書家、1763「張藩繁栄記」著、

[光寛(；名)の字/通称/号]字；公羽、通称；新助/井筒屋応助、号；家松軒/雲晴、
法号；雲晴公羽居士

- E4170 **光寛**(みつひろ・藤堂とうどう、光模男/本姓；多羅尾) 1755-1826 伊勢津藩士；1786家督嗣；数馬家6代、
騎将/家老職；藤堂高允に出仕；農民一揆を鎮圧・海防の指揮・藩校設立、文武の学に通じ、
1820藩校有造館執政兼総裁、伊賀上野の崇広堂創設に参与、音韻に通じ琴を嗜む、
「溌斎せつさい文集」「溌斎歌集」「溌斎詩集」「琴律考」、1821「学校興造記」25「病間偶記」外著多、
[光寛(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；只之丞、字；寅亮、通称；数馬、号；溌斎せつさい、
諡号；文肅、法号；文甫院、孫光訓みつゆりが数馬家7代継嗣
- E4171 **光裕**(みつひろ・北原きたはら、光保男) ?-? 江中期寛政1789-1801頃会津藩士、
藩政史料「会津家世実記」編纂に参画、画を嗜む；唐太絵・絵本、
[光裕(；名)の通称] 采女うねめ/内膳
- J4164 **光寛**(みつひろ・高橋たかはし・尾張連、) 1796-1864 越後蒲原郡の弥彦神社社家、国学者；平田篤胤門、
[光寛(；名)の通称] 彦相ひすけ
- E4172 **光熙**(みつひろ・岩谷いわや) 1814- 1870 讃岐丸亀藩士/和算家；会津の佐藤一清門、
さらに徳島の阿部有清・仙台の長谷川弘翁門、「算法無極集」著
- E4173 **満啓**(みつひろ・栗原くりはら、号；醒山) ?-? 江後期文政1818-30頃武州川越の人、
1819「武州川越善行録」編(最上徳内[1755-1836]の序)
- E4168 **光博**(みつひろ・源みなもと) ? - ? 江後期儒者、
1824八島定岡[岳亭丘山]「狂歌現在奇人譚げんざいきじんだん」後編の漢文序を執筆
- E4174 **光熙**(みつひろ・中井なかい、中井源左衛門光昌の養子) ?-? 江後期近江の富商中井源左衛門家3世、
仙台・大坂・天童・石巻・杵築に支店；30万両の豪商、
1829「光熙旅日記」著(詳細な献立の記録入)
- E4175 **光大**(光広みつひろ・岡田おかだ、通称；鼎) ?-? 1882頃没 江末期江戸の故実家、武家故実；伊勢貞春門、
歌；海野幸典(遊翁)門、幕臣山岡太郎の用人、
伊勢貞丈の草稿を編纂校訂；1843「貞丈雑記」として刊行
- J4108 **光潤**(みつひろ・幸田こうだ/本姓；度会、) ?-? 幕末明治期；伊勢度会郡神職；
伊勢神宮土宮の玉串内人、国学/歌；池袋清風きよかぜ(1847-1900)門、
[光潤(；名)の別名/字/通称]別名；双浦、字；民生、通称；因幡
- | | | | |
|-------------|---|-----------------------|-----------|
| 光寛(みつひろ・大島) | → | 義苗(よしなぬ・大島おおしま、旗本/俳人) | K 4 7 6 5 |
| 光熙(みつひろ・高月) | → | 紅器(こうき・高月たかつき、商家/俳人) | I 1 9 1 8 |
| 満啓(みつひろ・柚木) | → | 玉嶼(ぎよくしよ・柚木ゆきの、藩士/書家) | U 1 6 1 9 |
- E4176 **光房**(みつふさ・狛こま、秀房男) ?- ? 鎌倉末期神職/五位；大原野神社神主、
歌；風雅集2142、
[うがやふきなぎさにあとをとどめしぞ神代をうけしはじめなりける](風雅；神祇2142)
- E4177 **充房**(みつふさ・島田しまだ、号；雍南) ?-? 江中期宝暦明和1751-72頃の本草家；松岡怒庵門、
1759刊「花彙」著
- E4178 **光房**(みつふさ・清水しみず/本姓；藤原、中村至誠男) ?-1865 越後高田の国学者・歌人；清水浜臣門、
師の晩年に養嗣子；浜臣後継者とし活躍、1829師遺稿「珀泊舎集」編/34「光房桑石難陳」著、
1842「九曲折考」、47「まくりでまふりで考」49「若駒考」、「清水光房雑稿」「五題三詠」著、
「奉慕柿本大人歌」「書見次記」「藤原基俊事跡考」「和歌無底抄考」「毛利喫考」著、
歌は鴨川集・鯉玉集・千船集・青藍集・武蔵野集・清渚集・1858大江戸倭歌集入集、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[あめの下春にもれたる色もなしたつや霞の袖ひろくして](大江戸倭歌；35陽春布徳)、
[消えぬにぞ雪とは思ひはてぬとも散る花寒し春の池水](現存百人一首；8)、
[光房(；名)の通称/号]通称；八十吉/真八/慎八郎、号；珀泊舎さざなみのや2世、法号；光闡院
- | | | | |
|-------------|---|-------------------------|-----------|
| 光房(みつふさ・中院) | → | 親光(ちかみつ・中院なかのいん/源、廷臣/歌) | B 2 8 8 9 |
| 光房(みつふさ・柳原) | → | 紀光(もとみつ・柳原/藤原、詩歌/記録) | E 4 4 3 9 |
- E4179 **光文**(みつふみ・小佐治こさじ/本姓；藤原、土山武辰男) 1792-? 1857存 淡路守小佐治光風の養子、
江後期廷臣；代々検非違使/左衛門府生/弾正少忠/大志/1828石見守/51従四上、
1831-55「小佐治光文日記」、「小佐治光文雑記」

- E4180 **光文**(みつふみ/みつあや・土佐とき、光孚男/本姓;藤原)1812?-7968? 土佐光祿の養嗣子、京の絵師;画所預、従四下左近将監/備前守、「女鞍古図」画、
[光文(;名)の幼名/字/号]幼名;延丸、字;子炳、号;韓水、法号;照林院
光文(みつふみ・野間) → 坡仄(はそく・野間のみ、商家/俳人) E 3 6 7 7
光冬(みつふゆ・今宮) → 義透(よしすく・今宮いまみや、藩家老/記録) D 4 7 7 4
- E4181 **光穂**(みつほ・八羽はつば/はちは、家名;荒木田、八羽光頭男)1801-7171 伊勢宇治神職/代々内宮祠官;風日祈宮に奉仕(内人)、国学・歌人:1822本居春庭門/益谷末寿・平田鍊胤・足代弘訓門、子弟教育、憂国の士と交流;攘夷論の咎により一時幽閉、藪田守宣・生川鉄忠らの師、「勅使物語」;補、「伊勢神宮神職詠草」編、
[光穂(;名)の別号/通称/号]別号;光国/御穂/光直/御壺(;幽閉中の名)、
通称;日向/志摩、号;鶯笠園おうりゅうえん
- I4150 **満穂**(みつほ・太田おた、初名;友成)1829-8961 土佐片町の生/高知藩士;1868伊予松山に出征、続いて庄内鶴岡に出征/信頼厚く藩に厚遇、剣術;千葉周作門/国学・歌;鹿持雅澄門、のち高知郊外の朝倉神社祠官、「万葉集講録」著、
[満穂(;名)の通称/号]通称;仲十郎、号;三輪の舎
光穂(みつほ・中務) → 高岳(たかおか・中務なかつかき、国学/歌人) Y 2 6 5 6
参(みつほし・森本) → 藪里((せんり・森本もりもと、藩士/儒者) N 2 4 2 7
満穂之助(みつほのすけ・大野) → 玄鶴(げんかく・大野おの、医者/地誌) I 1 8 2 7
- E4182 **光雅**(みつまさ・葉室はむろ/堀河、光頼男/本姓;藤原)1149-120052 母;藤原親隆女、廷臣;頭右大弁、1185源行家・源義経の同意の輩として解官/86赦免;87従三位/91参議/97権中納言、1198従二位/1200太皇太后宮大夫、1171「高倉天皇冠礼記」「光雅卿記」著、通称;堀河中納言
- E4183 **光正**(みつまさ・土佐とき/本姓;藤原、吉光男)?-? 土佐光秀の養嗣子/鎌倉後期絵師、従五上越前守、葦手絵に長ず、「長歌葦手絵」「名目不知物語」画、長章の養父
- L4108 **光政**(みつまさ・秋山あきやま/本姓;源、光定[光忠]男)?-? 南北期;武将/光朝(秋山太郎)の孫、光朝が鎌倉幕府により処刑;一族は武蔵へ逃亡;定住、室町幕府の蔵人;1337-50的始射手、1351(観応2)阿保肥前守忠実と対決(大平記;阿保秋山河原戦)、歌人;1344足利家勸進[高野金剛三昧院奉納和歌]参加/1345刊[藤葉集]入、
光時(小太郎)・時忠(秋山三郎)・実定(七郎)の兄弟、
[村時雨まためぐりきていくたびかおなじ寝覚に音をきくらん](金剛三昧院歌;75む)、
[我をこそわすれはつとも後の世のむくいをなどか思はざるらん](藤葉;恋623)、
[光政(名)の通称] 秋山六郎/秋山新蔵人
- E4184 **光正**(みつまさ・土岐とき/今峯、別名;光行、頼遠男/本姓;源)?-? 南北期武将/五位駿河守、美濃加茂郡今峯に住/1359京を出立する足利義詮に随従(;太平記入)、1361兄の氏光と敵味方で戦う(:太平記入)、光明(みつあきら(武将/歌人)の兄
勅撰歌8首;1359成立「新千載」(1273)/新拾遺(1841)新後拾(685/1429)新続古今(4首)
[うき人のつらさはいつを頼めとて逢ふまでをしむ命なるらん](新千載;恋1273)
- E4185 **満雅**(みつまさ・北畠、教具父)1379-142850 伊勢の国司/武将、連歌;宗叡・心敬と交流
- E4186 **満政**(みつまさ・赤松あかまつ、満則男/本姓;源)?-1445 室町期武将;五位播磨守/左京大夫、足利義教の側近、1441嘉吉の乱後没収された旧領回復のため山名持豊と交戦;1445摂津有馬郡で息子満直と共に敗死、歌人;義教主催の幕府歌会に参加、「播磨守満政母遠忌品経和歌」編、新続古今集809、
[万代といはねをめぐる流れまでしづかにすめる庭の池水](新続古;809/左大臣家歌会)
- K4107 **光政**(みつまさ・畠山はたけやま、)1589-165668 江戸の医者;常陸水戸藩医、義高(桂花)の父、古筆鑑定家/歌人;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、1681水戸徳川家九月十三夜会参加、
[漕ぎ出でしもの入江も見えわかで霞む波路に迷ふ釣船](若むらさき)、
[光政(;名)の通称/号]通称;中外/随応、号;桂花園/牛庵/春耕斎/桂林斎/仙室/伝庵
- E4187 **光政**(みつまさ・池田いけだ、初名;幸隆、利隆男)1609-8274 母;榊原康政女、姫路藩主;1615父遺領襲封、鳥取に/1624光政と改名、1632岡山に転封/岡山藩政を確立/儒;熊沢蕃山門、蕃山を登用;学問の奨励;藩校開校/閑谷学校創設、農政;新田開発/藩制;諸制度整備、歌人/娘通も歌人、1637-68「池田光政日記」、「芳烈公自記」「撿過録」「烈公間話」、「帝鑑評」編、外著多数、

- [光政(；名)の通称/法号/諡号]通称;新太郎、法号;通源院、諡号;芳烈公、
- E4188 **満政**(みつまさ・福島ふくしま、平蔵男)?-? 江中期加賀金沢藩士;1720父の遺知百石継嗣/御近習、大小将/御留守物頭/1774致仕、「福嶋武左衛門書翰」42「能登御領所米高帳」著、
[満政(；名)の通称/号]通称;左兵衛/武佐衛門、号;安静
- K4111 **光当**(みつまさ・八羽はつば/はちは、旧姓;太田)1699-1773⁷⁵ 尾張名古屋の生、伊勢度会郡の八羽光尚の養嗣子、橘家きつ神道;玉木正英門、
[光当(；名)の通称/号]通称;代次郎/織部/内匠たくみ/左京(養父の称)、号;翼斎
- E4189 **光尉**(みつまさ・岡田おかだ、光佃みつたど男)1729以前生-1800⁷⁰余歳 播磨佐用村の大庄屋/本陣の生、歌人;有栖川宮職仁親王門、「詠百首和歌」著、
[光尉(；名)の初名/通称/号]初名;光時、通称;要人/与一右衛門、号;尚佐
- J4190 **光当**(みつまさ・奈越江だなごえ/本姓;源、)1751-94⁴⁴ 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・鶴]入
[光当(；名)の通称] 忠兵衛
- I4160 **満雅**(みつまさ・奥おく、猛雅たけまさ男)1760-1823⁶⁴ 安藝広島藩士;砲術家;父門;津田流を修学/指導、徒士隊長/国学、
[満雅(；名)の通称/号]通称;一学、号;白竜
- E4190 **光政**(みつまさ・烏丸からすまる、資董すけただ男/本姓;藤原)1812-63⁵² 廷臣;1814従五下/20侍従、1844参議/正四上/58権大納言、63歌道奨励と大祀屏風詠進により従一位、1862「新内裏清涼殿障子和歌」、「烏丸光政歌道消息」「烏丸光政飛鳥井雅豊歌道応答書」著、「籠虫を聞く和歌」「豊明宴会敷設図」「大床子御膳陪膳記」外著多数、1861松平春嶽「古今百人一首」入、
[近江のや瀬多の長橋ながらへて君が千歳を持ちぞ渡らん](古今百人一首;32)
- I4174 **光応**(みつまさ・河路かわじ、光福みつとみ男)1816-71⁵⁶ 近江坂田郡の商家、国学・歌人;父門/賀茂季鷹門、歌:[彦根歌人伝・続寿]入、
[光応(；名)の初名/通称/号]初名;成枝、通称;延蔵/信一郎/平四郎(父の称)、号;春樵/鷗処篤斎、屋号;紙屋
- K4116 **三昌**(みつまさ・原田はらだ、通称;繁八郎)1833-87⁵⁵ 信濃伊那郡の国学者;尊王思想
満雅(みつまさ・関口) → 東嶺(とうれい・関口、藩士/歌人) I 3 1 4 5
光政(みつまさ・吉田) → 宗恂(そうじゆん・吉田よしだ、秀吉家康の医者) H 2 5 9 2
光雅(みつまさ・平) → 帰一(きいきつ・平たいら、西洋兵学者) J 1 6 5 8
光致(みつまさ・片柳/石井) → 磯岳(きがく石井いい、絹織業/儒者) I 1 6 4 5
盈正(みつまさ・向後むかじり) → 河鳥(かちょう・都曲園、田口/向後、狂歌) N 1 5 1 5
光政女(みつまさのむすめ・池田いけだ、) → 輝(てる/池田いけだ/一条いちじょう、廷臣室/歌人) F 3 0 2 9
- E4191 **光益**(光増みつます・土佐とさ/本姓;藤原、藤原行光男)1348-1424⁷⁷ 土佐派絵師;父は土佐派の鼻祖、足利義満の御用絵師的存在、兵部少輔/1382-1412(後小松天皇在位)頃宮中画所預えどころあずかり、1405出家;法名六角寂濟(六角高倉の工房に因む)/以後六角絵所預として活動、光重の弟、1383「天神縁起絵巻」88「目連尊者絵」1402再建内裏の「賢聖障子絵」05「禁裏御八講屏風絵」、1421清凉本「融通念仏縁起絵巻」(制作6名の絵師の1/上巻冒頭2段分を描く;唯一現存画)
「山王靈験記」「日吉縁起」画、
[光益(；名)の通称/法名]通称;六角絵所預、法名;六角寂濟ろっかくじやくさい
- E4192 **光満**(みつまる・小田おだ) ? - ? 江後期天保1800-40頃江戸元飯田町の国学者;本居大平門、戸田家(江戸田安冬青木もちのき坂下)に出仕、1804「伊勢詣日記」著、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[難波津を漕ぎ出でて見れば雲かかる武庫山桜今盛りなり](八十浦;756)、
[光満(；名)の通称/号]通称;清左衛門/清吉、号;梅舎うめのみや
光麿(みつまる・原) → 光為(みつため・原はら、庄屋/歌人) K 4 1 1 5
- J4130 **光海**(みつみ・莊門しょうもん、通称;唱)1773-1804³² 伊勢度会郡の国学者;本居宣長門
- K4146 **光道**(みつみち・本間ほんま、久四郎光丘長男)1757-1826⁷⁰ 出羽酒田の豪商;大地主、1801(享和元)家督嗣;庄内藩士3百石、1802藩に5千両献金、1804酒田大火・鳥海山噴火と大地震;罹災者救済に無利子貸付や3万両献金、1806江戸藩邸焼失;2千両献金/1808(文化5)船場町新聞屋開設;本間船建造し蝦夷交易、

1812店名を正五郎/13酒田火消組組織/15(文化13)学校引移御用掛;致道館移転工事、
和漢学:経史・国学に通ず/俳諧;常世田長翠門;俳号;美杜李、
1825(文政8)隠居;養子光輝が嗣、「光道君筆記」「光道君著家譜」著、
[光道(;名)の初名/通称/号]初名;光武、通称;久蔵/新三郎/外衛/隼人介/庄五郎/正七郎、
俳号;美杜李、法名;速融院

光通(みつみち・松平) → 光通(てるみち・松平まつだいら、藩主) F 3 0 0 1

光通室(みつみちのしつ・松平) → 国(くに・松平まつだいら、国姫/藩主妻/歌) E 1 7 5 2

光庸(みつみね・分部) → 光庸(みつみね・分部わけべ、藩主/歌) K 4 1 9 7

E4193 光宗(みつむね・伊達だて、仙台藩主忠宗男) 1627-45天逝19 母;池田輝政女の振姫、江戸生;世子、
1639元服;將軍家光の光字を賜/越前守/1643従四下侍従/44飛鳥井雅宣より蹴鞠の伝受、
「政宗卿光宗卿詠歌」著、殉死を禁じ没;しかし7人が殉死、綱宗の兄、
[光宗(;名)の幼名/法号]幼名;万助、法号;円通院

光宗(みつむね・伊賀/藤原) → 光西(こうさい;武将/僧/歌人) B 1 9 1 2

K4169 光村(みつむら・三室戸むむろど//本姓;藤原/北小路、冷泉為村2男) 1739-8244 母;為信女、京の廷臣、
1749(寛延元)三室戸資方の養子/52(宝暦2)光村に改名/左兵衛権佐・正五下、
中務大夫輔従四上/1764養父没/1772(安永元)従三位宮内卿;非参議/75(安永4)参議、
1776(安永5)正三位/豊明外弁/77辞職、82(天明2)、妻;三室戸光雄女、能光の父、歌人、
[光村(;名)の初名]相秀

E4194 光茂(みつもち・土佐とさ、光信男/本姓;藤原) 1496?-? 1569存 戦国期絵師;1523画所預/左近将監、
1532刑部大輔/従四下、屏風絵「車争図」/1532「桑実寺くわのみでら縁起」35「当麻寺縁起」画、
「足利義晴像」「善導大師絵詞」「地藏堂草紙」「化物草紙」「法如絵伝」画、光元の父

K4176 光庸(みつもち・村田むらた、通称;中書) 1756-1784早世29 伊勢松坂の医者、国学;本居宣長(親戚)門、
母;宣長の実祖父小津孫右衛門道智の甥小津道円女、宣長第2回目[源氏物語]を聴講、
宣長に依頼し[拝薬神詞][むらたの光庸がこへるに書てあたへたる桜花詞]を受る、
病弱で1784(天明4)没;享年29歳

光持(みつもち・土佐) → 広周(ひろかね・土佐とさ、絵師) F 3 7 7 3

E4195 満元(満基みつもと・細川ほそかわ、頼元男/本姓;源) 1378-142649 母;赤松則祐女、武将;1397家督嗣、
従五四下右馬頭、摂津・丹波・讃岐・土佐などの守護/1412-31幕府管領、
歌人;飛鳥井雅縁・正徹・堯孝らと交流、自邸で月次会を催/1410頓証寺法楽一日千首勧進、
歌壇の後援者、1418「犬追物」著、勅撰;新続古今(5首121/417/1392/1562/1846)、
[思ひたつ雲のよそめのいつはりはある世うれしき山桜かな](新続古今;春121)
[満元(;名)の幼名/初名/通称/法名/道号]幼名;聡明丸、初名;満基、通称;五郎、
法名;道歎、道号;悦道、法号;岩栖院、持元・持之・持賢の父

E4196 満基(みつもと・二条にじょう、師嗣男/本姓;藤原) 1383-1410早世28歳 母;東坊城長綱女、
廷臣;1394従三位/98足利義満の諱字を賜り満基に改名/1409(応永16/27歳)関白左大臣、
1410従一位;没、二条良基の孫、日記「福照院関白記」著、歌人;1407内裏九十番歌合参加・
1410(応永17)後小松天皇三席御会に参加、「百人一首抄」著、「小椋山荘色紙和歌」の奥書、
勅撰1首;新続古781(福照院関白左大臣名)、連歌;賦何路・何木連歌、
[なべてだに松のよはひは久方の雲井の庭にいくとせか経む](新続古;賀781、
1410後小松天皇[在位1382(1392南北合体)-1412]の時に庭松契久を講ぜられるに詠、
序を成恩寺関白前左大臣一条経嗣つねつぐ780)

[満基(;名)の別名/法号]初名;道忠、法号;福照院

E4197 光元(みつもと・土佐とさ、光茂男/本姓;藤原) 1530-1569戦死40 戦国期絵師;画所預/左近将監従五下、
1569秀吉の出陣に参加;但馬で戦死、「酒飯論」画/1560「紫式部石山参籠図」(伝)

E4198 光祖(みつもと・烏丸からすまる、光胤男/本姓;藤原) 1746-180661 母;烏丸光栄女、
廷臣;1775参議/正四上、1785正二位/87権大納言、歌人、伊集院俊性としりの師、
1766-8「光祖卿記」/68「着到百首」74「内侍所造替記」外著多数

J4134 光基(みつもと・杉原すぎはら、旧姓;村井) 1786-185368 伊勢度会郡の久保倉右近家の家臣、
国学者;本居春庭門、御巫みかんなぎ清直の父、
[光基(;名)の通称] 惣次郎/隆蔵/丹蔵/八太夫

- L4123 **盈始**(みつもと・石塚いづか、通称;喜兵衛)?-1863 佐渡雑太郡金丸の国学・歌人;
海野遊翁[1794-1848]門
- E4199 **光守**(みつもり・常じょう) ? - ? 常は常澄or常道氏か、平安期詩人、経国集入、
[日月共に除さつて歳遷らんと欲す 風雲乍たちまちに改まつて尚ほ冬天
明鏡を看ずして暗に老を知る 況んや復た慈親七十年](経国集;13/本朝一人一首140)
- F4100 **光盛**(みつもり・藤原ふじわら、光範男?)?-? 鎌倉末期?廷臣/五位(勅撰作者部類)、隱岐守?、
新後撰集964、
[いつはりをたのまでもまたいかがせんかねてしらるるまことならねば](新後撰恋964)
- H4122 **満守**(みつもり) ? - ? 室町期;尾張熱田神宮の神職、
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)
[知らぬ頼みや命なりらん](熱田法楽;賦山何;二表/知らず知らず過去を忘れ命を頼る、
前句;其阿;思ひ出に過ぎにしかたのわすられて)
- 光盛(みつもり・川喜多/菅原)→ 玄無(げんむ:法諱、真言僧/歌人) D 1 8 1 0
見積(みつもり・飯田) → 正隆(まさたか・飯田いいた、神職/歌) N 4 0 4 7
密門(みつもん;字) → 本初(ほんしよ/ほんじよ;法諱・密門、真言僧) F 3 9 4 5
三弥(みつや・武田) → 梅菴(ばいりゅう・武田/篠田、儒者) C 3 6 2 0
- F4101 **光康**(みつやす・姓不詳) ? - ? 鎌倉後期大蔵権少輔、比叡神社関係者、
歌;比叡社ひえのやしらの歌合参加、
[たつた山たがみそぎとて白妙のゆふはな桜はなは咲くらむ](比叡社歌合;三番右)
- L4115 **満泰**(みつやす・荒木田あらかた) ?- ? 鎌倉南北期;伊勢内宮神職;権禰宜、
歌;1334(建武元)渡会朝棟亭歌会参加(3首)、
[くもりなき今宵はいとど明石がた月と浦との名こそをしけれ](朝棟歌会;37)
[昔にもかへらぬ老の波の上に和歌の浦ちの月を見るかな](同;39)
- F4102 **三安**(みつやす・嶋しま、一正男/本姓;織田)?-1644 幕臣;1612家康に御目見/大坂陣従軍/書院番、
近江水口城造営奉行/日光東照宮造替奉行、1639下野壬生城目付、
1642「日光山東照宮造営帳」著、
[三安(;名)の通称/法号]通称;四郎左衛門、法号;貞安、正長の父
- I4115 **光寧**(みつやす・宇治、) 1746 - 1820⁷⁵ 信濃伊那郡の歌人;桃沢夢宅門
[光寧(;名)の通称/号]通称;清兵衛、号;伊川/怡川
- K4108 **光泰**(みつやす・蜂谷はちや、) ? - ? 江後期;備中鴨方藩士、
歌人;木下幸文たかみ(1779-1821)門、
[光泰(;名)の通称/号]通称;市之丞/組之助/久米之助、号;竹蔭/遁翁
- K4181 **光保**(みつやす・森もり、通称;義平・伊右衛門)?-1830 伊勢松阪の国学者・歌人;本居宣長門
1789(寛政元)愛宕町菅相寺での宣長六十賀宴・歌会に参加、
歌;本居大平著「鈴屋紀行」入
- K4184 **光保**(みつやす・八幡やわた、光瓊みつてる2男) 1801-1874⁷⁴ 伊勢度会郡の内宮権禰宜、
国学者;本居春庭・富樫広蔭門、
[光保(;名)の通称/号]通称;賢次郎/中務(代々の称)/丹波/大膳/大進/志摩、号;遅月
- K4129 **光寧**(みつやす・不破ふむ、通称;権守) 1829-1907⁷⁹ 美濃不破郡の国学者;富樫広蔭門
- K4147 **光泰**(みつやす・本間ほんま、信十郎光章長男) 1841-87⁴⁷ 出羽酒田本町の酒造業;ひさご屋経営、
国学;鈴木重胤・広瀬巖雄門、出羽三山神社祠官/1869田川郡平形村に移住;宗家より義絶、
[光泰(;名)の通称/号]通称;新十郎/信十郎/九十郎、号;華瓢
- 光泰(みつやす・今宮) → 義透(よしとく・今宮いまみや、藩家老/記録) D 4 7 7 4
光泰(みつやす・早野) → 白菴(はくりゅう・橘湖斎きつこさい、華道) E 3 6 0 9
光泰(みつやす・佐藤/高津) → 溜川(しせん・高津たかつ、藩儒/従軍記録) E 2 1 4 3
光保(みつやす・小泉) → 松卓(しょうたく・小泉こいずみ、和算家) K 2 2 7 5
光凱(みつやす・野口) → 光凱(みつよし/みつやす・野口のぐち、神職/歌) K 4 1 0 4
光穆(みつやす・白米/大主) → 耕雨(こうう・大主おおぬし、神職/俳人) H 1 9 4 0
崇保(みつやす・賀茂) → 保遠(やすとお・賀茂/岡本、廷臣/神職) C 4 5 1 9
満泰(みつやす・多田) → 義俊(よしとし・多田、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8

- 4132 **光行**(みつゆき・源みなもと; 清和流、法名; 寂因、光季[光遠]男) 1163-1244⁸² 京の武将/1197頃鎌倉幕臣、1207-11頃帰京、廷臣:後鳥羽北面/民部大輔/大監物、大和守/河内守、1221承久乱に連座; 斬罪の予定を嫡男親行の涙の歎願で赦免/出家(;寂因)、再び鎌倉幕府に出仕(吾妻鏡入)、学者:有職故実家、源氏物語研究;河内本の校勘、歌;藤原俊成門/漢学;藤原孝範門、1191・1200石清水若宮社歌合参加、1195経房歌合参加、1204「蒙求もうぎゅう和歌」「楽府和歌」「百詠和歌」著;源実朝に献上、「水原抄」「廿四孝詩歌」著、「東関紀行」「海道記」「六代勝事記」の作者説もある、月詣集・万代・秋風集・夫木抄入集、勅撰19首;千載(473/759/831)新古(154)新勅(3首)以下、
[惜しめどもはかなく暮れてゆく年のしのぶ昔に返らましかば](千載;冬473/歳暮の詠)
- F4103 **光之**(みつゆき・惟宗これむね、光吉みつよし男、光庭弟) ?-? 南北期医者:兄光庭(みつわ・早世)の養子、四位/右京権大夫、1345権侍医、歌人;父門/1335内裏千首/50為世13回忌和歌参/藤葉集4首入、1356「新千載集」撰進和歌所寄人(父を継嗣)、62盛徳「勅撰作者部類」の風雅・新千載増補編、勅撰3首;新千載640/1047・新後拾遺404、
[ささの葉の深山おろしはさえくれて一夜のほどにむすぶ霜かな]、
(新千載;六冬640/等持院贈左大臣[足利尊氏]家歌に篠霜)
- F4104 **満之**(みつゆき・細川ほそかわ、頼春男/本姓;源) ?-1405 武将:従五下兵部少輔/阿波守/1393備中守護、「詠法華二十八品和歌」、基之(;阿波守護)・頼重(;備中守護)の父、頼之・頼元の弟、
[満之(;名)の法名/号]法名;常春、道号;陽中、法号;心鏡院、通称;右京大夫入道
- F4105 **光之**(みつゆき・黒田くろだ、忠之男) 1628-1707⁸⁰ 母;坪坂十右衛門女、福岡藩主;1654遺領襲封、左京大夫/右衛門佐/従四下/1688致仕、貝原益軒に「黒田家譜」編纂を命ず、
連歌:1673光之信祐等百韻/83天和三年正月廿二日光之信祐等百韻(;息子綱政も参加)、
[光之(;名)の幼名/別名/通称/法号]幼名;槌万、初名;長之、通称;吉兵衛、法号;江竜院
- F4106 **光行**(みつゆき・戸田とだ/松平、旗本戸田光為男) 1769-1839⁷¹ 信濃松本藩主戸田光悌の養嗣子、1786遺領6万石松本藩主襲封/従五下/弾正少弼/河内守・丹波守、寛政改革に当り藩政に新御条目を配布・藩校崇教館設立、1800致仕、
1829「弘裕齋撰語」、「梅一枝」著、
[光行(;名)の幼名/別名/号/法名]幼名;牛之助、初名;光信、号;弘裕齋、法名;竹翁、
法号;瑞光院
- I4185 **盈之**(みつゆき・紀きの) ? - ? 讃岐高松の国学者;中村尚輔ひさすけ(1809-79)門
光行(みつゆき・今峰/土岐) → 光正(みつまさ・今峰/土岐、武将、歌人)
光行(みつゆき・菊岡) → 沾涼(沾涼3世せんりょう、菊岡光行、俳人) N 2 4 3 4
光如(みつゆき・高向) → 光如(こうじょ・高向、俳人) B 1 9 3 4
- F4108 **光世**(みつよ・蜂屋はちや/本姓;源、号;丹鶴/鶴園) ?-? 江戸の幕臣/歌人:小山田与清門、鑑定;古筆了仲門、1858(安政5)「大江戸倭歌集おえどわかじゅう」/64「江戸名所和歌集」編、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[夕汐のみつにわかれて漕ぐ船もみやび一つはかはらざりけり]、
(大江戸倭歌;夏661/六月に源利齋・町野資礼つねひろと隅田川に詩歌管弦の船で納涼)
[菅の根のながき春日の暮るるまで見れどもあかぬ花ざくらかな](現存百人一首:2)、
母;歌人 → 光世母(みつよのはは・蜂屋/源、歌) H 4 1 6 1
妻;歌人 → 久子(ひさこ・鶴つる、歌人) I 3 7 4 8
光世(みつよ・烏丸/裏松) → 固禪(こぜん・裏松うらまつ、廷臣/故実家) D 1 9 1 8
- F4109 **光吉**(みつよし・惟宗これむね、吉国男) 1274-1352⁷⁹ 鎌倉・南北期の医者:四位/右京大夫/権侍医、後宇多院の信任を得る、光庭・光之の父、二条派の有力歌人;続後拾遺撰進の和歌所寄人、「惟宗光吉集」:息光之編?、亀山殿千首・1323亀山殿七百首詠進、25春宮歌合参(兼好らと)、内裏千首・為世家日吉社奉納百首・覚助法親王家五十首に詠進、出家法名;玄照、続現葉・臨永・松花・藤葉集(撰進にも関与/4首入)など入集、1350為世13忌歌参(玄照名)、勅撰19首;続千載(833/1058)続後拾(489/725)風(515/1526)新千(4首)新拾(3首)以下、
[後宇多院催の三首歌に月前恋、
つれもなき人をもさそへ夕ぐれにまたれて出づる山端の月](藤葉;恋496)、
[人すくふ道にや又もかえりこんながき別わかれの世々のふる里](辞世歌)

- F4110 **満吉**(みつよし・上月こうぎ、満盛男)?-? 1481存 武将;赤松満祐の遺臣、左近将監/美濃守、赤松家再興を図り拳兵;吉野山に入り南朝の一宮・二宮を討つ/1458神璽を奪い返す、20年後この変の顛末記の注進状を残す;1478「上月記」著
- F4111 **光吉**(みつよし・土佐とき/本姓;藤原) 1539-161375 安桃期大和絵土佐派の絵師;土佐光茂みつもち門、従五下左近将監、光茂の息子光元が但馬で戦死;遺児3人の養育を託される/出家、土佐家累代の資料を管理、和泉塚に住(和泉上神谷の絵所預や塚町衆との関係等の為?)、剃髮号;久翌(休翌)、「源氏物語画帖」「源氏物語画図屏風」「足利義輝像紙型」画など多数、父については光茂門人の玄二(源二)説あり
- F4112 **光慶**(みつよし・明智あけち、惟任/通称;十兵衛、光秀男) 1569-82 武将/連歌; 1581光秀催「五吟一日千句」参加、 1582(天正10). 5. 24本能寺襲撃前夜光秀催「愛宕百韻」参加;挙句、 [国々は猶ほのどかなるころ](愛宕百韻挙句;桜花蘭漫の太平の世、前句心前;色も香も酔ひをすすむる花の本もと)
- F4113 **光慶**(みつよし・日野ひの、一字名;精、資勝男/本姓;藤原) 1582or91-163049or40 母;烏丸光宣女、廷臣;1614参議/19権中納言/20従二位、「日野光慶詠草」、1618-28「権中納言光慶卿集」、1621-28「日野光慶卿記」、「光慶卿符案」
- F4114 **光由**(みつよし・吉田よしだ、周庵男) 1598-167275 京の嵯峨角倉の和算家:毛利重能門、外叔父角倉素庵門、肥後熊本藩主細川忠利に出仕、1861眼病のため帰郷;晩年失明、1627「塵劫記じんごうき」(江戸期最も普及した算術書)、1648「古暦便覧大全」編、1649「大日本王代記」、「算法円解大全」「算法指南車」「算法指南大全」「新編塵劫記」外著多、[光由(;)名]の幼名/通称/号]幼名;与七、通称;七兵衛、剃髮号;久庵、法号;悠久庵頭機円哲居士
- F4115 **三巖**(みつよし・柳生やぎゅう、宗矩むねり男) 1607-5044 母;松下之綱女、大和柳生領8千3百石の旗本、1616徳川秀忠の家臣、19家光の小姓/26勘気を受け出仕停止/諸国遊歴/武芸を磨き劍豪、1638赦免;江戸城書院番、39將軍前で剣法試覧(弟宗冬・父の門人木村助九郎と)、1642「月之抄」43「新陰流月見の秘伝」著、 [三巖(;)名]の幼名/通称/法号]幼名;七郎、通称;十兵衛/重兵衛、法号;長岩院
- K4199 **光好**(みつよし・蜂須賀はちすが、?)- ? 江前期;武士/歌人、妻も歌人、 [夕暮はあやめもしらぬ袂まで風にしられて匂ふ梅がか](忠能[難波捨草]春18/夜梅)
- F4116 **光吉**(みつよし・津田つた、通称;太郎兵衛、千連ゆきつら男) 1635-170268 加賀金沢藩士;1664書物役、1669書物奉行/75定番馬廻に列す、1679藩命で武蔵文蔵村の社寺の古記録調査、1681奈良東大寺等の蔵書調査/84-86京の堂上方書物の調査;古書蒐集、1679「武州文蔵記」/1684-86「書籍搜索記」著
- F4117 **三喜**(光義みつよし・橘たちばな) 1635-170369 肥前平戸の神道家;宮内昌興門/吉田神道を修学、宗源神道五十六伝と称する一派を創設;江戸浅草に住し講釈/全国行脚、増穂残口と交流、「思辨集」「神道あつめ艸」「秋津真言葉」「一宮巡詣記」「神道四品縁起」「与佐濃文」外著多数、 [三喜(;)名]の号]号;為証庵、神号;一樹靈神、武笠丹羽(弓矢神道家)・佐々木秀安の師
- F4118 **光芳**(みつよし・土佐とき、光祐男/本姓;藤原) 1700-7273 江中期絵師:従四下/左京少進/大蔵大輔、画所預えどころあざかり、眼疾のため1746落飾、「柿本縁起」画、「御即位図」画、 [光芳(;)名]の号/法名]号;廷蘭、法名;常覚、光貞の父
- F4119 **光義**(みつよし・谷村たむら) ? - 1750 江中期山城石清水八幡宮の社祠、故実家;壺井義知門、1738「神社故実叢談」編/32「建武年中行事略解」、「世諺故実百譚」著、「世説故実考」「令鈔」著、 [光義(;)名]の通称/号]通称;掃部かもん、号;集古堂
- F4120 **光吉**(みつよし・片岡たおか) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃讃岐高松の町医者、「万病通療」著、 [光吉(;)名]の字/号]字;便有、号;三耕子
- I4125 **光好**(みつよし・小野おの/本姓;橘、光壽男) 1776-181843 信濃伊那郡小野村の歌人;桃沢夢宅門、 [光好(;)名]の通称]兵右衛門、屋号;橘屋、法名;勝哲義運居士
- F4121 **三善**(みつよし・鍋田なべた) 1778- 185881 磐城平藩士;中老、江戸小石川大塚住、儒;読書家、

朽木綱泰の川々の会・屋代弘賢らの疑問会に参加、間引の悪習矯正を建議；農村振興を図る、1826「磐城志」、「赤穂義人纂書」「静幽堂叢書」「空々叢書」「安中家略伝」「成台墨基」編、「駅路の鈴」「古今枕干録」「昌山随筆」「昌山漫筆抄」「昌山蘭臭」「結包録」「柳宮婦女伝」著多、[三善(；名)の字/通称/号]字；士行、通称；舍人、号；昌山/静幽堂/静堂

- I4126 **光亨**(みつよし・小野おの、) 1783-1833 51 信濃筑摩郡の小野神社祠官/歌人；桃沢夢宅門
[光亨(；名)の通称] 和泉守、屋号；福住屋
- K4136 **光好**(みつよし・藤木ふじき、) ? - 1836 信濃安曇郡の歌人；香川景樹門
- F4122 **盈淑**(みつよし・平林ひらばやし、包教男) 1790-1860 71 信濃筑摩郡生坂村の名主；父を継嗣、生坂煙草の生産販売・質業、松本藩御用達；苗字帯刀槍一筋を許可、村有力者として活動；川手組新設/煙草荷の口銭切手採用/宗門・境界争議の仲裁など、歌文・書・道話に長ず、「家業大全」「家童訓論」「家業始末記」著、
[盈淑(；名)の通称/号]通称；文五右衛門/豊後右衛門/豊五右衛門、号；桃泉
- J4144 **満慶**(みつよし・田中たなか、) 1797-1844 48 周防岩国の鬢附油商；松金屋主人、歌人；熊谷直好・香川景樹門、
[満慶(；名)の通称] 徳十郎/穂十郎/又三郎、屋号；松金屋
- I4154 **光良**(みつよし・岡田おかだ、光間みつかどの曾孫) 1806-66 61 母；岡田みね子、播磨佐用郡佐用村本陣の家、国学者/歌人、
- F4123 **光美**(みつよし・上田うへだ、通称；源九郎、光逸みつはや男) 1811-72 62 母；菊子(琴風/絵師)、喜代子の弟、代々周防大道村の酒造業/大庄屋、上田光陳みつねぶ(堂山)の孫、国学・歌人；近藤芳樹門、父祖を継承し公共事業に尽力；郷土に列す、光賢みつかたの養父、1840-57頃「延齡松詩歌集」(光陳編纂/光陳没後編刊)
- K4104 **光凱**(みつよし/みつやす・野口のみづち、宮司野口光雅男) 1819-94 76 伊予温泉郡川内町三島神社の生、学問；6歳；医者安部貞亮門/1832(14歳)神道；長曾我部家入門、東予の高水朴斎門、国典・歌；田内董史門、1850(嘉永3)大国隆正門、歌人、1868(慶応4)松山藩主の命で道後伊佐爾波神社宮司；維新後この神社の重要性強調に尽力、(宮司は光寛・尚光と継承；尚光の時に神社の八幡造りが重要文化財となる)、
[光凱(；名)の通称] 通称；紀伊
- H4183 **光義**(みつよし・樋口ひぐち) ? - ? 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[落ちたたぎつ早瀬の水にきそはれて夏の暑さもとまらざりけり](大江戸倭歌；夏666)
- F4124 **光美**(みつよし・中臣なかとみ/家名；富田、中臣祐嵩男) 1831-96 66 中臣(富田)光和の養子/神職；神楽歌舞に長ず、1854春日社権預/64従四下大和守/1869従四上、1864「人長舞曲秘譜録」、「神代俳優倭歌舞」「御巫神楽歌」「内侍所御神楽歌譜」著、「春日祭元治復古以来略記」「神宮神嘗祭神饌之図」著、
歌舞の考証解説書「やまかつら」編(序；古川躬行/解説；城村五百樹[夏海])
- H4135 **光善**(みつよし・日野西ひのし/本姓；藤原、神職萩原員光男) 1849-1923 75 母；猪熊方至女、廷臣日野西延栄とおしげの養子、廷臣；従五上/越後権介、神職；京の白峯宮・豊国神社宮司、梨本神社・大阪四条畷神社等の宮司、平田鋏胤門、1864-63「日野西光善日記」著
- 満良(みつよし・荒木田) → 蓮阿(れんあ・神職/出家/歌人) 5 1 8 4
光良(みつよし・保々) → 光等(みつとも・保々ほぼ、藩士/国学) K 4 1 3 9
光好(みつよし・吉田) → 了以(りょうい・吉田・角倉すみくら、商家) 4 9 1 5
光喜(みつよし・櫻井) → 蕉雨(しょうう・櫻井さくらい、商家/俳人) F 2 2 3 0
光義(みつよし・木岡) → 蘆八(2世そのはち・宮古路、浄瑠璃太夫) E 2 5 1 9
光義(みつよし・徳川) → 光友(みつとも・徳川、尾張藩主/書画) E 4 1 0 5
光義(みつよし・島) → 北嵩(ほくすう・葛飾かつしか/島、絵師) D 3 9 5 1
光能(みつよし・喜多) → 古能(このう・ひさよし・喜多きた、能楽師) N 1 9 3 5
光甫(みつよし・吉村) → 光甫(みつとし/みつよし・吉村、国学者/画) E 4 1 0 2
三善(みつよし・渡辺) → 政香(まさか・渡辺/源、神職/国学/歌) B 4 0 6 4
- L4100 **光好妻**(みつよしのつあま・蜂須賀はちすが、) ?-? 江前期；武士の妻/歌人、夫も歌人、
[軒ちかく移しうゑずは梅の花あかぬ色かもよそにみてまし]、

(浅井忠能ただり[難波捨草]春13/軒梅)

- H4161 **光世母**(みつよのは・蜂屋はちや/本姓;源)?-? 江後期幕臣蜂屋光世の母、歌人、
1858(安政5)光世編「大江戸倭歌集おおえどわかしゅう」入、
[しるべともたのまれなくに呼子鳥山路まどへば声たてて鳴く](大江戸倭歌;春222)
[日影さへ柴のけぶりに打ち霞み冬としもなき山の庵かな](同;雑1739/山家如春)
- F4125 **光頼**(みつより・葉室はむろ、頭頼男/本姓;藤原) 1124-1173 50 母;藤原俊忠女の俊子、廷臣;1156参議、
従三位、1159平治乱に信頼専横を批判・惟方に諫言の逸話(平治物語入)、1160権大納言、
1161正二位/64出家、1149「光頼卿記」、詩歌;「葉室光頼歌集」「桂大納言入道殿御集」、
勅撰8首;新勅(1043/1251)続後撰(557)続古(1212)続拾(1280)新後撰(551)玉(1091)以下、
[いさやなほ花にもそめじわが心さてもうき世にかへりもぞする](新勅撰;十六雑1043)、
(世をのがれ葉室の山里に隠居した時の詠)
[光頼(;名)の通称/法名]通称;葉室大納言/桂大納言/号;六条、法名;光然/理光、
- J4165 **光頼**(みつより・高橋たかはし、通称;左近) 1650-1704 55 越後蒲原郡の弥彦神社神主、
神道・国学;橘三喜みつよし門/三喜の教えのもと仏教化を恐れ神仏分離を実行;
神宮寺の廃止/仏像を取払い神葬祭実施、1891(元禄4)神宮寺の僧の訴えで敗訴、
社殿造営願を1668(寛文8)以降度々幕府に提出;1702(元禄15)工事着手;翌03年完成、
1704(元禄17)2月没
- F4126 **光親**(みつより・外山とやま、光施男/本姓;藤原) 1807-50 44 母;郡山藩主柳沢保光女、廷臣;
1824勘解由次官/36従三位/40正三位、1827「文政十年諸家詠草留」著、
法号;心性院、光熙・光輔の父
光頼(みつより・木村/狩野)→ 山楽(三楽さんらく・狩野かのう、京狩野家祖) 2 0 5 9
- F4127 **躬行**(みつら/みゆき・古川ふるかわ) 1810-1883 74 江戸の国学者;平田鉄胤かねたね/篤胤門、
神祇伯家の坂東執事を務める/維新後神職;河内枚岡神社大宮司、奈良大神神社大宮司、
1883(明治15)讃岐金刀比羅宮に招聘;同地に没、故実/管弦に通ず、歌人、
「鳴弦原曲」「喪儀略」著、黒川春村の[考古画譜]を改訂編纂、
伝足利義視作御伽草紙「新蔵人物語」所蔵;無題だったものに命名、
中臣光美編の歌舞考証解説書「やまかつら」序を執筆、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[谷の戸をいまやいづらん鶯の霞にまどふ声のあはれさ](大江戸倭歌;春97/谷鶯)、
[躬行の字/通称/号]字;素平/将作、通称;仁右衛門/美濃守、号;汲古/汲古堂
- K4173 **三連**(みつら・宮谷みやたに、) 1840-1899 60 能登羽咋郡の羽咋はくい神社の社家、国学;井上頼圀門、
1874(明治7)大和の大神おおみわ神社禰宜/のち宮崎県神道事務局長、1899(明治32)没
- K4130 **水貫**(みつら・深川ふかがわ) 1845-1918 74 美濃関の国学者;羽鳥はとり春隆・佐々木弘綱門、
歌;吉田利和・松波資之すけゆき(遊山)門/詩・書画;村瀬太乙たいいつ門、詩歌・画・茶道を能くす、
[水貫(;名)通称/号]通称;茂七、号;竹廬舎/竹園/竹澗/友竹/梧竹
三津理山(みつりざん) → 理山(りざん・三津徳永、真宗僧) B 4 9 1 3
密林(みつりん;法名) → 高門(たかかど・京極、幕臣/禅門/歌人) C 2 6 6 3
- F4128 **躬弦**(みつら・安田やすだ、初名;若沖、征盛男/本姓;源) 1758-1816 59 越前福井の医家の生/福井藩医、
1796家督嗣/奥医師;藩主松平治好室の定姫付/その女広姫付、国学・歌道;賀茂季鷹門、
江戸住、1760真淵「大和物語直解」編/書写、1788「和歌大手仁葉秘極抄」著、
1790「安濃の日記」1808「橘千蔭いたみ歌」著/13「草根集私鈔類題」編、「安田躬弦詠」著、
歌;近世名所歌集・鯨玉集入集、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[うち寄する浪もいろなる池水のそこにかけたる藤の棚はし]、
(大江戸倭歌;春351/亀戸の藤をみて)、
[躬弦(;名)の通称/号]通称;一菴、号;棗本そうぼん
- F4129 **盈**(みつら・高橋たかはし、別名;景作、政房男) 1799-1875 77 上州吾妻郡横尾村医者/儒医;伊藤鹿里門、
1831高野長英門/江戸大観堂に修学、帰郷後医業と蘭書翻訳、門弟多数、「軍中備要」訳、
[盈(;名)の通称/号]通称;若仲、号;篁庵
- F4130 **充**(みつら・勝田かつた、通称;次郎、半斎男)?-1864 幕臣/従五下伊賀守、1841勘定吟味方改役並、
小普請方/代官/勘定吟味役/神奈川開港取調掛/1860箱館奉行/62先手鉄砲頭、

1850「和論語抄」編

- 充(みつる・岡本) → 稚川(ちせん、岡本、儒者/詩人) E 2 8 5 6
 充(みつる・宇佐美) → 蕨亭(ひんてい・宇佐美うさみ、藩士/儒/詩) 3 7 3 8
 彌(みつる・勝部) → 青魚(せいぎよ・勝部/勝、医者/儒/俳人) B 2 4 0 1
 F4131 三津人(みつんど・松井まつい、別号;月夜庵)?-1822 大阪の俳人:駝岳[一肖]門、1803立机、
 1807「松象紀行」著、「百家文筆奥の細道」編
 F4132 未徹(みてつ・大脇おおわき、名;重時/通称;弟右衛門)?-? 信濃木曾福島の人;尾張藩代官山村家の臣、
 助郷の設置に尽力、「関機提要」編、「心計記」著、信就の父/自笑の祖父
 彌天(みてん・永積;法諱) → 永積(えいしやく・彌天;道号、臨濟僧) 1 3 3 0
 味稻(みとう→うましね) → 味稻(美稲うましね、万葉吉野伝説人物) 1 2 8 7
 御堂(みどう・高) → 義路(よしみち・熊野御堂くまのみどう/高、国学) M 4 7 6 2
 御堂関白(みどうかんぱく) → 道長(みちなが・藤原、摂政) 4 1 1 3
 三辰鷹(みときまろ・河村) → 秀辰(ひでとき・河村/俵、藩士/国学) D 3 7 2 9
 4133 未得(みとく・石田、通称又左衛門、乾堂/巽庵) 1587-1669⁸³ 江戸両替商/剃髪/俳人;江戸五哲の1、
 1635「謡誹諧」独吟百韻、65「雪千句」入、69息未琢みたく「一本草」入(未得の終焉の記録入)、
 狂歌家集「吾吟我ござんわが集」、1666行風「古今夷曲集」63首入、
 [胸涼し消えをまつごの水の泡](一本草/辞世句;命の消えを待つと末期を掛る)
 三徳丸(みとくまる・嶋) → 計富(かざとみ・嶋・島/角鹿、神職/古典) M 1 5 3 1
 F4134 御年(みとし・木内きうち) ? - ? 江後期近江栗太郡山田浦の国学者:香川景樹門、
 賀茂季鷹門・世継直員門、歌人、1843「友のつとひ」著、歌;[鳩のうみ]入、
 [御年(;名)の初名/通称]初名;安至、通称;正右衛門/斉助
 H4175 御年(みとし・仲田なかだ/本姓;藤原)?-? 江後期;国学者/歌人、幕臣?、顕忠あきただの一族?、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [いたづらにかくてやけふも過ぎましかばかり長き春の日かげを]、
 (大江戸倭歌;春318/遅日)
 [冬枯れの野辺に青める色見れば草の常磐も有る世なりけり](大江戸倭歌;冬1132)
 御年(御歳/美年みとし・内田) → 幸夫(ゆきお・内田うちだ、医者/国学者) G 4 6 6 3
 御年(みとし・安田) → 穂並(ほなみ・安田やすだ、商家/国学/歌) G 3 9 4 3
 身人部王(みとべのおおきみ) → 身人部王(むとべのおおきみ、万葉歌人) 4 2 9 6
 H4122 みどり(;組連) ? - ? 江戸桜田(芝?)の雑俳の組連、
 取次;1748「筑丈評万句合」入;
 取次例;[透かさずに王手王手と一の谷](前句;はやい事々々)
 H4123 緑(みどり;組連) ? - ? 江戸下谷広徳寺前の雑俳の組連、
 取次;1757「収月評万句合」入;
 取次例;[やる廻るやらぬ廻らぬやる廻る](前句;あてがつて見るあてがつて見る)
 (人は駄賃次第で働きが変わる;人を使うには手当のあてがいの匙加減が必要)
 余談;広徳寺は小田原→神田→1631下谷→現在は練馬区桜台と移転、
 江戸期の地口;[びっくり下谷の広徳寺 おそれ入谷の鬼子母神]
 翠(みどり・有田) → 翠(すい・有田ありた、歌人) H 2 3 9 8
 美杜李(みどり;俳号) → 光道(みつみち・本間ほんま、富豪/藩士/俳) K 4 1 4 6
 緑の屋(緑舎みどりのや) → 正兼(まさかね・藤田ふじた、歌人) C 4 0 1 8
 緑舎(みどりのや) → 大海(おおみ・鬼沢、国学/歌人) C 1 4 8 4
 緑舎(みどりのや) → 直弼(なおすけ・井伊、藩主/大老/国学) B 3 2 3 9
 緑廼舎(みどりのや) → 庸平(つねひら・川中かわなか、国学者) F 2 9 5 6
 翠の屋(みどりのや) → 重正(しげまさ・鹿島かしま、歌人) S 2 1 6 6
 翠の舎(みどりのや) → 久樹(ひさき・星野ほしの/藤原、藩士/歌) I 3 7 7 6
 翠の舎(みどりのや) → 豊幹(とよもと・松田まつだ、国学者) W 3 1 4 9
 皆一(みないち・山崎) → 山崎検校(やまさきけんぎょう、歌人) H 4 5 1 2
 御苗(みなえ・田中) → 壽豊(ひさとよ・田中、商家/歌人) L 3 7 8 0
 皆右衛門(みなえもん・吉岡) → 安致(やすむね・吉岡よしおか、藩士) D 4 5 2 1

- J4178 **見直**(みなお・辻橋つじはし、通称;記一郎)1838-1873³⁶ 肥後熊本藩士、国学;林有通門、
玉名神社祠官
- 4134 **三中**(御中みなか・大伴宿禰おとものすくね)?-? 廷臣;736-7遣新羅副使/長門守、
741外従五下兵部少輔、山陽道巡察使/大宰少弼/746長門守/従五下/747刑部大判事、
万葉三期歌人、722丈部龍麻呂への挽歌(;443-5)/736遣新羅副使の歌(;3701/3707)、
[竹敷たかしきの黄葉もみちを見れば我妹子が待たむと言ひし時そ来にける](万葉;十五3701)
- F4135 **三中**(みなか・日下部使主くさかべのおみ)?-? 755防人/上総国造丁、万葉廿4348/**父の歌**4347
[家にして恋ひつつあらずは汝なが佩はける太刀になりても斎いはひてしかも](4347父歌)、
[たらちねの母を別れてまこと我旅の仮廬かほに安く寝むかも](4348)
- I4199 **御中**(三中みなか・松原まつばら、蔵田茂樹男)1831-92⁶² 佐渡相川の地役人の家の生、蔵田重時の弟、
国学/歌人、皇学館教授、
[御中(;名)の別名/通称/号]別名;三中、通称;小藤太
三中(みなか・色川) → 三中(さんちゅう・色川、国学) G 2 0 0 3
水上亭(みなかみてい) → 桃鏡(とうきょう・松村、俳人) C 3 1 7 8
- H4148 **みな子**(みなこ・妻木つまき、妻木弁之助女)?-? 父は幕臣;御徒頭、歌;1798刊石野広通「霞関集」入、
[たが宿ぞかきほをこゆる松が枝えにかかりて染めしつたのもみぢ葉](霞関;秋544)
- H4165 **成子**(みなこ・松平まつだいら、松平乗全のりやす女)?-? 豊後杵築藩主松平親良ちかよし(1810-91)の室、
夫は豊後杵築藩9代藩主(能見松平家12代/松平市正家;従四下大隅守/中務大輔)、
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(実父乗全・夫親良と共に入集)、
[匂はずはよそにや過ぎん奥山の木々の林にまじる櫛おうちを](大江戸倭歌;夏484)
みな子(みなこ・田辺) → 弓子(ゆみこ・田辺たなべ、歌人) G 4 6 9 8
全成(みなしげ・和気) → 全成(みななり・みなしげ・和気わけ、医/廷臣/歌) H 4 1 2 7
水無瀬宮(みなせのみや) → 惟喬親王(これたかのみこ、歌人/伊勢物語に逸話) 1 9 4 6
皆千代(みなちよ・榎倉/福井) → 端隠(たんいん・福井/度会/榎倉、神職/篆刻) T 2 6 1 5
- F4136 **御夏**(みなつ・輿石こいし、通称;圭雄)?-? 江後期1789-1830頃江戸牛込の歌人、
1801-21家集「櫃陰きょういん家集」
みなと(2世姉川) → 新四郎(三世しんしろう・姉川、歌舞伎役者) E 2 2 6 8
- F4137 **皆富**(みなとみ・八十島やそしま、別名;政信、尚政男)1835-? 1870存 加賀金沢藩医:70石、
「脚気病上表写」著
- H4127 **全成**(みななり・みなしげ・和気わけ、国成男)?-? 1324存 医者/廷臣;典薬頭/従四上/大膳権大夫、
花園天皇の幼時よりの侍医、歌;風雅集1536、
[日影残るまがきの草に鳴きそめて暮るるを急ぐきりぎりすかな](風雅;十五1536)
男女川(みなのがわ;俳名) → 幸四郎(初世こうしろう・松本、歌舞伎役者) 1 9 1 2
男女川(みなのがわ;俳名) → 団十郎(5世だんじゅうろう市川、歌舞伎役者/狂歌) I 2 6 3 1
南淵先生(みなぶちせんじょう) → 請安(しょうあん・南淵みなぶち、儒学) K 2 1 9 0
- F4140 **御名部皇女**(みなべのひめみこ・天智天皇皇女/元明[661-721]天皇の姉)?-? 高市皇子の妃、
長屋王[675?-729]の母、704増封、万葉三期77;708年元明天皇に和す歌、
[我が大君ものな思ほしそ皇神すめかみの副そへて賜へる我わが無なけなくに](万葉集;77)
- F4138 **美波**(みなみ・南向堂、姓;宮崎)?-? 江後期江戸日本橋の狂歌作者:「狂歌銅石集」編
南(みなみ・岡) → 間喬(かんきょう・岡おか、商家/諸芸) G 1 5 2 2
- F4139 **全成**(みななり・みなしげ・和気わけ、国成男)?-? 1324存 廷臣/医官;典薬頭/従四上/大膳権大夫、
花園天皇の幼少よりの侍医、歌;風雅1536、
[日かげ残るまがきの草に鳴きそめて暮るるを急ぐきりぎりすかな](風雅;十五雑1536)
- H4100 **皆人和良布**(みなひとわりう)? - ? 江戸狂歌;1785「後万載集」1首入;
[長船おさふね(備前長船)のなみなみならぬかちとりて一目の関をうちも越えなん]
南淵先生(みなぶちせんじょう) → 請安(しょうあん・南淵みなぶち、学問僧) Q 2 2 7 8
南御所若公(みなみごしょのわかぎみ) → 義嗣(よしつぐ・足利/源、武将/歌人) E 4 7 6 2
南谷僧正(みなみだにのそうじょう) → 聖基(しょうき;法諱、真言・三論大僧正) H 2 2 9 1
源兼忠母の乳母(みなもとのかねただのははのめのと) → 兼忠母の乳母(かねただのははのめのと、歌) G 1 5 8 1
みなもとの裁之(みなもとのたつゆき) → 裁之(たつゆき・長井/永井、藩士/国学) G 2 6 2 8

- 源猫彦(みなもとのねこひこ) → 元義(もとよし・平賀、歌人) 4 4 2 4
 源真楫(みなもとのまかじ) → 罔雄(国雄くにお・林、国学者/狂歌) C 1 7 6 5
 源僊(みなもとのやまひと) → 仙塙(せんう・細木ほそき/源、商家/狂歌) L 2 4 6 7
- F4141 三成(みなり・大田部おおたべ)? - ? 755防人/下野国梁田郡やなだのこおり上丁、万葉廿4380、
 [難波津を漕ぎ出でて見れば神さぶる生駒高嶺たかねに雲そたなびく](万葉;廿4380)
 美奈和(みなわ・高瀬) → 高輝(たかてる・高瀬たかせ、国学者) E 2 6 1 9
- H4101 三二一(みにいち;読方不明)?- ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;63、
 [おしなべて春は十七はち植のさくらの花と若返るらん]
- H4136 敏久(みにく・興原おきはら/本姓;物部)?-? 平安前期廷臣;大外記/主税助/811明法博士、
 813物部中原宿禰姓を賜う;大判事/824興原に改姓/830格式編纂の功により正五上、
 本朝文粹;883野相公小野篁「令義解りょうぎげ序」に清原夏野等撰令義解の執議に参加の記事
- F4142 敏(御野おみ・小篠/小篠おさき、修姓;篠、田淵玄統男)1728-180174 1752三河岡崎藩士小篠秀吉養子、
 1765養家を継嗣;藩主松平康福の侍医/儒臣、藩主転封で石見浜田住、儒;松崎観海門/易学、
 国学:1780伊勢松阪の本居宣長門;高弟/95松坂留学、師著「源氏物語玉の小櫛」出版を後援、
 九州・山陽の本居学普及に尽力、「日本書紀考証」「籙舎漫録」「詩書旁注」「周礼諺解」外著多数、
 [敏(;名)の字/通称/号]字;徳卿/興竜、通称;十助/道冲/大記、号;東海/轡竜ひりゅう/籙舎ささのや
 御野(おみ・上田) → 仲敏(なかつし・上田うえだ、藩士/砲術/歌) E 3 2 7 6
- F4143 水主内親王(みぬしのひめみこ/もひとりのひめみこ、天智天皇皇女)?-737 母;黒媛娘くろひめのいらつめ(栗隈首徳万女)
 奈良期;715四品/737三品、万葉4439左注:元正太上天皇下命の見舞歌(石川朝臣の歌)、
 所蔵の経巻は没後東大寺に施入され写経に利用され目録も作成された(;正倉院文書)
- K4133 美禰(みね・藤井ふじい、旧姓;河野)1800-4142 備中賀陽郡の歌人、
 吉備津神社宮司の藤井高豊たかよ(1791-1825/和漢学者)の妻、1825夫没;
 後継の堀家高雅たかまさ(たかつね/16歳)を養育;のち娘松野まつの(1821-46)の婿とす
- J4166 みね(高村たかむら、) 1819 - 187961 筑後久留米の歌人
 峯(みね・松平) → 峯子(みねこ・松平、定信室/歌人) F 4 1 4 5
 美禰(みね・中山) → 續子(いさこ・中山なかやま、女房/日記) F 1 1 4 9
 峰明(みねあき・稲城) → 峰朗(ほうろう;法諱・稲城いなぎ/織田、僧) G 3 9 1 5
- F4144 岑雄(みねお・上野かむつげ) ? - ?891存 平安前期承和834-848頃の廷臣;六位、
 歌人/勅撰2首:古今832(;堀川太政大臣藤原基経の死を悼む歌)/後撰1249、
 [深草の野辺の桜し心あらばことしばかりはすみぞめに咲け](古今;哀傷832)
 峯雄(みねお・北角/成島) → 衡山(こうざん・成島、幕臣/漢学/歌) J 1 9 2 6
 峰夫(みねお・児玉) → 順蔵(じゅんぞう・児玉こだま、医者/蘭学) L 2 1 3 0
 岑吉(みねきち・湯浅) → 祥薬(しょうやく;法諱、真言僧) K 2 2 1 5
- F4145 峯子(みねこ・松平まつだいら、別名;峯みね、白河藩主松平定邦女)1753-81早世29歳 江戸の歌人、
 1776松平定信と結婚、定信より「難波江」を受く;婦徳の教訓とす、1781結婚後5年余で病没、
 「花月百首」著、遺歌集「静徳院殿御詠」(;定信編)、
 [峯子(;名)の幼名/号/法号]幼名;栄、号・法号;静徳院
- I4155 みね子(みねこ・岡田おかだ、)? - 1829 播磨佐用郡作用本陣岡田家に嫁ぐ;光良みつよの母、
 歌人
- H4197 峯子(みねこ・阿部あべ、号;阿峯、香月春峰女)1793-185058 筑前鞍手郡の商家阿部家の妻
 歌人;伊藤常足門、1840友人と従者を連れて49日間の伊勢詣;「伊勢詣日記」著
- H4192 峯子(みねこ・竹川たけがわ/旧姓;井上)1820-6243 江後期;美濃羽栗郡の歌人、
 伊勢飯野郡の国学者竹川政恕(まさひろ、1812-1870)と結婚
 峰子(みねこ・稲田) → 米子(よねこ・野々村ののむら/稲田、歌人) O 4 7 4 6
- F4146 峰崎檢校(みねざきけんぎょう、峰崎勾当)?-? 大阪の地歌;箏曲/上方歌;手事物作曲
 峰二(みねじ・狭山) → 半水(はんすい・一荷堂、歌謡) I 3 6 1 3
- F4147 峰重(みねしげ・都筑/都築つぎ、飯島友直男)1803-5856 都筑峰久の養子、幕臣;1820勘定出役、
 評定所留役/勘定組頭/大津代官/勘定吟味役/1853佐渡奉行/54下田奉行;駿河守、
 1854ロシア使節プチャーチンの応接掛/55日米和親条約批准交換に参加、55禁裏付、
 1858条約勅許を得るため廷臣説得に尽力;業半ばで病没、「仁孝天皇御葬儀手続一件留」著、

- [峰重(；名)の通称/法号]通称;金之丞/金三郎、法号;顕功院
- 峰次郎(みねじろう・荒井) → 静野(清野しずの・荒井、国学者/教育) U 2 1 0 5
- 峯治郎(みねじろう・角野) → 乙芽(おつが・角野、俳人) D 1 4 1 4
- 峰輔(みねすけ・伊達) → 宗興(むねおき・伊達だて/成田、藩士/国学) D 4 2 9 0
- F4148 **峯隆**(みねたか・栗木くりき、通称;結城)?-? 江中期尾張春日井郡沖村の神職;三王社の社人、
国学者;1705吉見幸和門;秦親孝と並称、「高天原弁」著
- I4159 **峰忠**(みねただ・田窪たくぼ、本姓;串部)1760-1818⁵⁹ 伊予越智郡朝倉村八幡宮の神主、
国学・歌人;芝山持豊門、歌集「常盤の友」著(息子重忠編)、忠見「ひなのてぶり」に3首入、
[峰忠(；名)の通称]越前正、 鴨重忠・沼崎為子の父、
- F4149 **美根太夫**(みねだゆう・岡本おかもと)?-? 幕末期尾張名古屋の説教源氏節の祖;新内節、
峰陳人(みねちんじん) → 有隣(ゆうりん;号・二竹堂、俳人) E 4 6 0 7
- F4150 **岑嗣**(みねつぐ・菅原すがわら/初姓;出雲、出雲広貞男)793-870⁷⁸ 平安前期廷臣/医官;家業継嗣、
822左兵衛医師/医博士/内薬佐/侍医/攝津大目/東宮坊主膳正/835従五下/858典薬頭、
859備中へ石鍾乳採集に派遣される/863老年のため退隠;撰津権守/豊島郡山庄住、
868菅原に改姓、清和天皇の勅で「金蘭方」奏上(；散佚/流布本は偽作)
- 嶺利(みねとし・竹井) → 嶺利(れいり/みねとし・竹井たけい、俳人) 5 1 7 1
- 峯殿(みねどの) → 道家(みちいへ・九条/藤原、撰関/歌人) B 4 1 1 7
- 峰之助(みねのすけ・音羽) → 二郎三郎(初世じろさぶろう・音羽、歌舞伎役者) D 2 2 3 3
- 峯之助(みねのすけ・越) → 泷信(ひろのぶ・越こし、国学者/歌人) J 3 7 5 8
- 峰僧正(みねのそうじょう) → 覚濟(かくぜい;法諱、真言宗山本流祖) B 1 5 4 8
- 峰僧正(みねのそうじょう) → 成室(せいぼう;法諱、真言大僧正) J 2 4 6 2
- 峯僧正(みねのそうじょう) → 春雅(しゅんが;法諱、天台叡山僧) M 2 1 5 1
- F4151 **岑延**(みねのぶ・竹内たけうち、唐物屋儀右衛門)1638-? 1702^存 伯耆米子の商家;富豪/和漢の典籍涉獵、
歌人;貞享1684-88頃上京;日野資茂・飛鳥井雅豊・藤谷為熙門、詩・俳・狂歌・書・打鼓に通ず、
1694「伯陽六社道記」著/1698-1702「出雲大社奉納和歌一万撰集」編纂、「竹籬拾葉集」編、
私撰集「清地草きよちぐさ」編、「神路山紀行」著、晩年は家運衰微;女婿の家に寄宿、
[岑延(；号)の通称/別号]通称;唐物屋儀右衛門/治兵衛、別号;心山子/自安散人、
出家号;自安(じあん/時安斎/安斎、
- F4152 **岑信**(みねのぶ・狩野かのう、常信男)1662-1708⁴⁷ 江前期;絵師;將軍家宣の寵遇を得て幕府奥絵師、
松本姓を賜う、浜町狩野派を興す;その祖、狩野尚信の孫/周信ちかのぶの弟、「七福神図巻」画、
[岑信(；名)の幼名/号]幼名;吉之助、通称;主税ちから、号;随川/覚柳斎、
- F4153 **峯松風**(峰-みねのまつかぜ、榊原さかきばら男依おより)?-? 江戸牛込逢坂(若宮小路)の狂歌;四方連、
1785「徳和歌後万載集」16首/87「才蔵集」入、
[それとのみ言葉の橋はかけつれどいつか渡しが思ひはれなん](後万載;九恋下524)
- F4154 **岑久**(みねひさ・西岡にしおか、初名;生之、高島全延男)?-1757 阿波徳島藩士/郷土史家、
「阿陽忠功伝」「三好盛衰記」著
- 峰姫(みねひめ・徳川) → 斉脩室(なりのおのしつ・徳川、文筆) H 3 2 9 7
- 峰姫(みねひめ・伊達) → 温子(はるこ・伊達だて/徳川、藩主室) K 3 6 3 5
- 峰丸(みねまる・松波/齋藤/長井) → 道三(どうさん・齋藤、戦国武将) E 3 1 6 8
- 峰丸(みねまる・桜部) → 大梁(だいらょう・桜部さくらべ、真宗大谷派僧/国学) X 2 6 3 9
- I4135 **峰麿**(みねまる・大熊おおくま,)1769-1831⁶³ 備中浅口郡連島茂浦の医者;和田泰淳門、
書;赤松滄州門/歌;内藤中心門、医学関係・詩文の著あり、
[峰麿(；名)の初名/字/通称/号]初名;謙、字;受益、通称;玄遷/玄仙、号;益斎
- 嶺麿(みねまる・松田) → 顕業(あきなり・松田まつだ/橋、神職/歌) I 1 0 4 6
- F4155 **岑満**(みねみつ・伊佐いさ)1811 - 1891^{81歳} 江戸の幕臣;1823幕府金同心見習/諸役歴任、
1854下田奉行支配組頭;55米人ロジャースと会談;老中宛書簡受領/1868使番;静岡住、
1874初倉村へ移住、儒;岡本況斎門/書;小島五一門、考証学に精通/歌人、「修身訓話稿」著、
[岑満(；名)の通称/号]通称;新次郎、号;如是、法号;上善院
- F4156 **峰宗**(みねむね・伊達だて)1712 - 1783^{72歳} 羽後秋田藩の世臣/1767執政/69病で致仕、
「翠華園詩文集」著、

- [峰宗(；名)の字/通称/号]字；明卿/子琴/弘亮、通称；備前、号；松瀾
- 4135 **岑守**(峰守みねもり・小野おの、永見男)778-830⁵³ 廷臣；右少弁/式部少輔/内蔵頭/皇后宮大夫、822参議/大宰大貳；地方行政/826住四上/828勘解由長官・刑部卿、「凌雲集」(；序執筆)・「内裏式」(；序執筆)・「日本後記」編纂参加、詩文：凌雲13首・序、文華秀麗8首/経国9首、篁の父
- F4157 **岑守女**(みねもりのむすめ・小野おの、篁の異母妹)？-？ 平安前期の歌人、[篁物語]に篁との恋、勅撰集に兄篁との贈答歌；玉葉1278(；篁への返歌)・新千載1201(；篁の歌の詞書入)、[なかに行く芳野の川はあせななん妹背の山を越えて見るべく](玉葉；恋1277/篁)[妹背山かげだに見えでやみぬべく芳野の河は濁れとぞ思ふ](玉葉；1278/岑守女)、[濁る瀬はしばしばかりぞ水しあらばすみなんとこそ頼み渡らめ](新千；1201/篁)
- H4199 **峯行**(みねゆき・青木あおき、別名；美行)1718-1803⁸⁶ 越前丸岡藩医、国学；賀茂真淵門、江戸住、歌人、万邦まくにの父、
[峯行(；名)の号]松柏/蘭齋/演言
峯善(みねよし・山内) → 豊雍(とよちか・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 6
- F4158 **三野**(みの・刑部直おさかべのあたい)？-？ 755防人/上総国助丁すけのよほろ、万葉廿4349、[百隈もくまの道は来にしをまた更に八十島過ぎて別れかゆかむ](万葉集；廿4349)
- F4159 **美濃**(みの/美濃命婦みののみょうぶ)？-？ 平安前期；宮中の命婦/歌人、960天徳四年内裏歌合に右方で参加
- F4160 **美濃**(みの、美濃守源頼国女みなもとよりくにのむすめ)1041-1129⁸⁹ 平安後期；四条宮寛子の女房、藤原師実の妻、藤原家忠らの母、六条齋院宣旨の妹、歌人；1056(天喜4)皇后宮寛子春秋歌合参加/1089四条宮寛子扇歌合参加；2首入、[折りやせん折らでやあらん秋萩を露も心にかけてぬ日ぞなき](春秋歌合；四/鹿鳴草はぎ)、[初雁の雲みのよそにすぎぬれど声は心にとまるなりけり](四条宮扇歌合；左方19)
- F4161 **美濃**(みの・皇后宮こうごうのみや、上西門院讃岐、源仲正女)？1100頃生-？ 1178存？ 平安後期女房歌人、箏の名手、源頼政の姉妹/法性寺入道前関白家三河の姉、堀河天皇皇后令子内親王(二条大宮・白河天皇皇女；[1078-1144])に出仕、次に上西門院(統子内親王・鳥羽天皇皇女；[1126-89])に出仕、続詞花集2首入、勅撰5首；金葉(404/407/542/675/703)、
[かき絶えて程もへぬるを蜘蛛ささぎの今は心にかゝらずもがな](金葉；恋404)
1178(治承二年八月)の廿二番歌合右方参加の美濃(美濃殿)と同一？
[もも夜までいがきの内にまろ寝して恋のやまひをわれかつきぬる](廿二番歌合；42)
- F4162 **美濃**(みの・小津おつ、本居宣長女)1773-1838⁶⁶ 伊勢松阪の歌人/書家、1791同族の小津信厚の妻、1男2女を出産、実家の兄本居春庭失明後にその歌文を代筆、父「古事記伝」版下書きの手伝、「十五番歌合」「享和二年(1802)十月拾六番歌合」「辛巳年月次歌合」参加、「美濃詠草」「壱岐美濃贈答和歌」著、
[美濃(；名)の法号] 閑室利春大姉、別姓；長井(小津信厚の初姓)/大泉
- K4155 **美濃**(みの・松平まつだいら、維賢女)1815-1845³¹ 母；側室(神村家)、信発の妹、高木正坦の姉、美作津山藩8代主松平齐民(確堂1814-91)の継室、義父；津山藩主松平(本姓；源)齐孝、歌人、江戸住、
[美濃(；名)の初名] 敏
- 美濃(みの・小川) → 柳(りゅう・小川おがわ、神職/国学) M 4 9 0 3
美濃(みの・小林) → 延孝(のぶたか・小林こばやし/度会/出口、神職/国学) I 3 5 4 1
美濃(みの・高瀬) → 光明(みつあき・高瀬たかせ、国学者) J 4 1 5 9
三野(みの・荒木) → 三野子(みのこ・荒木あらき、国学/歌) H 4 1 5 3
御野(みの→みぬ・上田) → 仲敏(なかとし・上田うえだ、藩士/砲術/歌) E 3 2 7 6
みの笠の翁(みのかさのおきな) → 春信(はるのぶ・広瀬ひろせ、神職/歌/俳人) J 3 6 2 8
- H4153 **三野子**(みのこ・荒木あらき三野みの)？-？ 伊勢松阪の町年寄荒木久兵衛の妻、国学/歌；本居宣長・本居春庭門、本居大平「八十浦の玉」中巻；長歌を含め7首入、[暑き気も忘れてうれし旅人も寄りて汲まさね松の下水](八十浦；631/泉忘夏)
巳之次(みのじ・赤石) → 希范(希範きはん・赤石あかい/明石、医者) L 1 6 8 1

巳之助(みのすけ・保科) → 正静(まさやす・保科ほしな、幕臣/記録) I 4 0 0 3
 巳之助(みのすけ・松平) → 近禎(ちかよし・松平まつだいら、藩主/歌人) N 2 8 8 4
 巳之助(みのすけ・井上) → 正岑(まさみね・井上、藩主/幕政) H 4 0 7 1
 巳之助(みのすけ・加藤) → 泰統(やすむね・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 9
 巳之助(己之助みのすけ・外村) → 半雲(はんうん・外村とのむら、藩儒) H 3 6 2 3
 巳之助(みのすけ・平井/成島) → 錦江(きんこう・成島なるしま、幕臣/儒/歌) 1 6 6 1
 巳之助(みのすけ・坂東) → 三津五郎(3世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 3 9
 巳之助(みのすけ・平野) → 国臣(くにのみ・平野/大中臣/小金丸、国学/勤王/歌) 1 7 0 6
 巳之助(みのすけ・黒田) → 月洞軒(げつどうけん・黒田、幕臣/狂歌) B 1 8 1 4
 巳之助(みのすけ・早井) → 次賀(つぎよし・早井はやい、和算家) E 2 9 8 2
 巳之助(みのすけ・青木) → 夏彦(なつひこ・青木あおき/京藤、酒造業/歌) K 3 2 7 4
 己之助(みのすけ・大橋/小森) → 桃塙(とうやう・小森こもり、蘭方医/御典医) B 3 1 1 8
 己之助(みのすけ・塩谷) → 定興(さだおき・塩谷しおたに、医者/歌人) O 2 0 6 3
 簀助(みのすけ・坂東;初世) → 三津五郎(3世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 3 9
 簀助(2世みのすけ・坂東) → 三津五郎(4世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 4 0
 簀助(みのすけ・森) → 東門(とうもん・森もり、儒者/詩人) H 3 1 4 5
 巳之太郎(みのたろう・久米) → 博高(ひろたか・久米くめ、藩士/国学者) G 3 7 2 1
 美濃太郎(みのたろう・半谷) → 政忠(まさただ・半谷はんたに、神職/国学) S 4 0 0 3
 美濃入道(みのにゅうどう) → 頼蔭(よりかげ・土岐とき/源、道暁/歌人) Q 4 7 3 0
 美濃阿闍梨(みののあじやり) → 天目(てんもく;法諱・浄法房、日蓮僧) E 3 0 3 8

H4123 **三野王**(弥努王/美濃王みののおきみ)?-? 大和期廷臣;天武朝の多くの事業に参加;
 672(天武元)壬申乱東征の天皇に甘羅村で随従(美濃王名)、673小紫しよし;高市大寺造司、
 681(天武10年)天武天皇の詔で帝紀及上古諸事の記定に参加(記紀の母体)、

☆栗隈王の息子三野王とは別人

美濃守(みののかみ・樺山) → 久高(ひさたか・樺山かばやま/大野、武将/家老/歌) J 3 7 0 8
 美濃守(みののかみ・古川) → 躬行(みつら/みゆき・古川ふるかわ、国学/神職) F 4 1 2 7
 美濃守(みののかみ・加藤) → 泰義(やすよし・加藤かとう、神道/藩主嫡子) F 4 5 8 2
 美濃守(みののかみ・青山) → 守胤(盛胤もりたね・青山あおやま、神職) F 4 4 6 7
 美濃守(みののかみ・六人部) → 是香(よしか・六人部むとべ、国学/神職/歌) 4 7 0 4
 美濃守(みののかみ・松室) → 清雄(きよお・松室まつむろ;/秦、国学/歌) S 1 6 8 3
 美濃守(みののかみ・前田) → 如尚(ゆきなお・前田まえだ、神職/古典) H 4 6 2 5
 美濃守(みののかみ・堀) → 利邦(としくに・堀ほり、旗本/幕臣/歌) T 3 1 3 9
 美濃守(みののかみ・稲葉) → 正則(まさり・稲葉いなば、藩主/幕政) F 4 0 9 7
 美濃守(みののかみ・松平) → 輝延(てるのぶ・大河内おこうち/松平、藩主/老中) F 3 0 0 5
 美濃守(みののかみ・鈴鹿) → 秀麿(ひでまろ・鈴鹿すずか/平佐、神職/歌) J 3 7 9 3
 美濃守(みののかみ・南部) → 利剛(としひさ・南部なんぶ、藩主/国学/歌) T 3 1 7 7
 美濃守(みののかみ・田島) → 仲道(なかみち・田島たじま、神職/国学) N 3 2 5 9
 美濃守(みののかみ・原田) → 永寛(ながひろ・原田はらだ、神職/医者/詩歌) O 3 2 4 6
 美濃守(みののかみ・早雲) → 高廉(たかかど・早雲はやくも、神職/国学) Z 2 6 0 4
 美濃守(みののかみ・堀家) → 清敷(きよぶ・堀家ほりけ、神職/国学) V 1 6 1 9
 美濃守(みののかみ・吉永) → 千秋(ちあき・吉永よしなが/藤原、神職/画) N 2 8 7 9
 美濃正(みののしょう・福田) → 金塘(きんとう・福田、暦算家) R 1 6 4 9
 美濃正(みののしょう・南雲) → 喜珍(よしはる・南雲なぐも/藤原、神職) O 4 7 1 1
美濃関の三羽鳥(みののせきのさんぼがらす);美濃の関の三人の著名な俳人
 → 箕十(きじゅう) B 1 6 2 2
 → 角呂(かくろ・九成堂) E 1 5 8 3
 → 芦文(ろぶん・佐野) C 5 2 3 7

F4163 **美濃局**(みののつばね・待賢門院たいけんもんいん、紀光清[きのこうしよ1084-1137]女)?-? 平安中期女房、
 藤原実行[さねゆき1080-1162]女説あり、待賢門院璋子に出仕、
 覚快親王[鳥羽天皇皇子;1134-81]の母

- F4164 **美濃弁** (みののべん・上東門院じょうとうもんいん) ?-? 平安中期の女房歌人、
一条院后彰子[988-1074]に出仕、1032上東門院菊合参加(伊勢大輔・小弁・弁乳母らと)、
[たちならぶ色なきものはむらさきにうつろふ菊の花にぞ有りける](上東門院菊合;13)
身延庫裡和尚(みのぶのこりおしょう)→日整(につせい;法諱・琳瑯;字、日蓮僧) E 3 3 6 2
- F4165 **蓑麻呂** (みのまろ・大石おおいし) ?- ? 奈良期廷臣;736遣新羅使人、
746頃東大寺写経所に勤務(正倉院文書入)、万葉四期歌人3617(:遣新羅使人/安藝長門島)、
[石走いははる滝もとどろに鳴く蟬の声をし聞けば都し思ほゆ](万葉;十五3617/長門島)
蓑虫庵(初世みのむしあん) → 土芳(とほう・服部、俳人) 3 1 5 7
蓑虫庵(2世みのむしあん) → 桐雨(とうう・築山、俳人) B 3 1 1 7
蓑虫庵(3世みのむしあん) → 猪来(ちよらい・服部、俳人) K 2 8 4 6
蓑蟲庵(みのむしあん・下郷)→ 蝶羅(ちようら・下郷しもさと、醸酒業/俳人) K 2 8 0 7
蓑虫庵(みのむしあん) → 弘愛(ひろなり・石走いはし、神職/歌人) L 3 7 2 1
みのむし庵(みのむしあん) → 武雄(たけお・丸山、家老/歌人) O 2 6 2 9
- H4140 **蓑虫山人** (みのむしさんじん、本名;土岐とき源吾げんご) 1836-190065 美濃安八郡結村の絵師、
1849(14歳)郷里を出て全国を行脚(48年間)、北奥羽に長期滞在;詳細な記録を残す、
考古学に関心深く遺物蒐集;1887青森県亀ヶ岡遺跡発掘等民俗学の研究資料として貴重、
晩年名古屋長母寺に寄寓;1900(明治33)没、画;「蓑虫山人絵日記」「蓑虫仙人画記行」収納、
[降る雨もなにといふべき恵みえし国に再びといて来る身は]、
[蓑虫山人(;号)の別号]蓑虫仙人/三府七十二縣庵主/六十六庵主
美濃屋文蔵(みのやぶんぞう)→ 恒成(つねなり・瀬川/山川、戯作者) C 2 9 9 5
- F4166 **宣令** (みのり/のぶし/せんりょう・刀利とり/刀理/土理) ?-? 721存 奈良期渡来系漢学者/廷臣;711対策、
伊予掾、721従七下/佐為王・憶良らと退朝後に東宮[聖武]の侍臣、正六上、
歌;万葉三期歌2首313/1470、詩;懐風歌2首・経国集入、
[み吉野の滝の白波知らねども語りし継げば古いにし思ほゆ](万葉集;三313)
- I4190 **御言** (みのり・久世くぜ、) 1811 - 187161 美濃大垣の国学者;本居春庭・大平門、
国学;富樫弘蔭門、
[御言(;名)の通称] 吉良助/治郎兵衛
- F4167 **実弼** (みのり・香取かとり、吉植よしうえ庄左衛門宮儀男) 1813-7765 下総印旛郡本埜村の学者/神職、
香取豊敏・香取実房・朝野泰平らと親交、色川三中の香取文書輯録時に協力、
1873返田神社祠掌、「源太祝年中行事」著、
[実弼(;名)の幼名/号]幼名;四郎、号;織衛
- I4149 **美能理** (みのり・大原おおはら、旧姓;公地) 1838-190265 京の国学者;矢野玄道門/歌人、
1868公地雅之助と改称/のち大原姓を名乗り祇と改名、讃岐田村神社宮司/従六位、
[美能理(;号)の名/通称]名;正道(;公地)/祇(;大原)、通称;松之助/雅之助(;公地)
- F4168 **実** (みのる・稲毛いなげ) 1786 - 186984歳 高知の国学者/歌;今村楽・松本弘陰門、藩史の考証、
俳諧/狂歌/絵画を嗜む、「土佐国探古録」「漂流人聞書」「実みのる家集」「白頭雑談」「東遊稿」著、
1812「増補陸沈奇談」27「練子考」、28「御船御乗初記」編、36「麻生ヶ池奇談」、「閑隙雑記」著、
[実(;名)の通称/号]通称;多蔵、号;白頭/白頭老人
- F4169 **未白** (みはく) ? - ? 伊勢の俳人;1684-8雷枝「伊勢斐杉いせあやすぎ」、
1691賀子「蓮実」1句入、[としどしのよきもの隠す霞哉](蓮実;140)
- F4170 **未陌** (みはく) ? - ? 俳人;1696岩翁「若葉合」入
未白(みはく・高田) → 正方(まさかた・高田、国学/垂加神道) B 4 0 8 6
- F4171 **真柱** (みはしら・後醍院ごだいん、大河平おこびら隆棟2男) 1805-7975 母;津留八左右衛門左衛門正表女、
薩摩鹿兒島の生/1809国学者の父没;父の遺志を嗣/八田知紀を師事し古史の研究、
1839江戸で国学;平田篤胤門/41後醍院良次の養子、50(嘉永3)高崎崩れお由羅騒動に連座、
謹慎/のち赦免、1858薩摩藩校造士館訓導士/助教兼大史知国学、
維新後;1868新政府皇学所御用掛/教部省御用掛/76辞職、
1877(明治10)岡山吉備津神社宮司、
1827「神代三陵志」、「藤川紀行」「参宮日記」「にひひら」「日本紀訓点校正」著、
[真柱(;名)の別名/通称/号]別名;隆武(;初名)/隆風、通称;彦次郎、

号;玉廼舎たまのや/自凝舎おのころのや/自凝屋

- F4172 **三林**(みはやし・大伴宿禰) ? - ? 万葉三四期歌八1434梅の歌、『三依』の誤写説あり
[霜雪しもゆきもいまだ過ぎねば思はぬに春日の里に梅の花見つ](万葉集;八春の雑歌1434)
→ 三依(みより・大伴宿禰) 4 1 4 4
- F4173 **三原王**(御原王みはらのおおきみ、舎人親王男)?-752 奈良期廷臣;717従四下/737彈正尹、治部卿、
大蔵卿/中務卿歴任、正三位、淳仁天皇の兄、万葉三期歌人;1543/3926左注、
[秋の露は移しにありけり水鳥の青葉の山の色付く見れば](万葉;1543/移しは染料)
- 4136 **美波留**(美晴/三春みはる・長野ながの/本姓;藤原)1775-182248 信濃松代の国学者・歌人;大村光枝門、
江戸住、塙保己一門;群書類従の校正、和学講談所出仕;国書編纂作業、歌学講義、
辞任後;四谷北寺町で子弟教育と著述/歌論;当時の江戸の歌人を論破、
1799「万葉集類句」編/1811「徴古図録」編、1819「百人一首抄」、「筆のすさみ(目さまし草)」、
「県居雑録補鈔」「古語字類抄」「対照仮字格」外著多数、松井徳隣(りちかの曾孫/直寛の養父、
[美波留(;名)の通称/号]通称;七郎、号;麻生園、法号;本還院
- F4174 **美澄**(みはる・松井まつい、名;昌平/正意、綏定男/本姓;源)1794-186673 代々信州飯田藩医/医;父門、
祖父徳隣(りちかの嗣/松井家は代々医を以て藩主堀家に出仕;之翰-徳隣-美澄-直寛と続く、
歌;岩沢幸年門、国学・歌;文政(1818-30)頃服部菅雄門・植松茂岳門・市岡猛彦門、
飛騨の田中大秀門/1860平田家門、皇学の信州浸透尽力、詩歌人、養子;須田直寛(なほひろ、
「こゝろのすさひ」擬古鏡「東海談不審考」「大祓参考」著/擬古鏡百人一首「かりほ」著、
[美澄(;号)の幼名/通称/別号]幼名;享六/銀之進、通称;恭輔/恭助、
別号;見齋/見霽(けんせい/錦園、法号;為徳院
- E4153 **三春**(みはる・水野みづの)1800 - 186263 能登羽咋郡神代村の神職;神代神社家の生、
神道;堀松村神主宮谷義条門/医;大念寺新村医師川崎玄哲門/神道;1811吉田家入門、
1818閑院宮家の服部寛十郎の学僕;論語修得/医学;古山齋宮・北谷元安門、1820帰郷;医業、
1826家督嗣;神代神社神主、1831加賀藩寺社奉行所で社号帳を校合/48能登四郡神主触頭、
加越能各地で神道布教、歌;田中躬之門、従五下和泉守、歌集「葛の屋集」、「武神祭式」著、
「庸夫俚談」/1844「能登国神異例」著、
[三春(;名)の通称/号]通称;近江守/和泉守、号;葛の屋
- F4175 **三治**(みはる・中原なかはら、治右衛門男)1809-6658 信州伊那神郡竜江の旧家;1841家督嗣、
神道不二教を親交小谷三志門;定行三治の行名を受/教旨を説き社会教化/のち村政参画、
安政の南山騒動には南山郷中の救助に奔走、歌・俳諧を嗜む、「南山一件書類」編、
[三治(;名)の通称/号]通称;治部右衛門、号;魯伯、行名;定行三治
躬仁(実仁みひと) → 称光天皇(しょうこうてんのう、後小松天皇皇子) I 2 2 8 4
壬生(みぶ) → 雅頼(まさより・源、猪隈中納言/歌人) I 4 0 7 9
壬生(みぶ) → 俊家(としいえ・藤原、廷臣/歌人) M 3 1 0 6
壬生大納言(みぶだいなごん) → 師忠(もろただ・源、廷臣/和琴/歌人) H 4 4 3 6
- F4176 **未伝**(みぶつ・西来居さいらいきよ、姓;毛受めんじゅ/名;照寛)?-1831(40余歳没) 尾張藩典医/江戸市ヶ谷住、
狂歌作者;六樹園石川雅望門/五側判者、西来居社中として門弟多数、合巻を執筆、
1815「馬方蕎麦」著、15「狂歌水滸伝画像」27「文政歌集」29「狂歌甲斐家裏」編、
1829「忠臣合鏡」30「女岸流英雄録」著/32「春のなこり」編、「瓢箪園月次狂歌集」外編著多数
壬生二品(みぶのにほん) → 家隆(いえたか・藤原、歌人) 1 1 0 2
- 4137 **三船**(御舟みふね・淡海真人おうみのまひと、池辺王男)722-78564歳 初め御舟(三船)王みふねのおおきみ、
10代で出家、唐僧道璿(どうせん)門、751勅命で還俗;淡海真人姓を下賜、廷臣;内舎人、
752遣唐使;病で停止、754来日した鑑真に徳化を受ける、
756大伴古慈悲と共に朝廷誹謗罪;数日で放免、761従五下、
文部少輔/美作守/兵部大輔/大宰少弼/刑部大輔/大学頭兼文章博士、
785刑部卿従四下兼因幡守で没、天平宝字757-65以後石上宅嗣と[文人の首]と称せらる、
775「大安寺碑文一首并序」、「東大寺戒壇院扉絵」画、
779「唐大和上東征伝」著(真人元開の名)(;思託が鑑真17回忌に請託)、
石川名足・当麻永嗣らと紀に次ぐ正史編纂に着手;続日本紀前半の草稿、
大伴古慈悲との確執[万葉4467家持の歌左注]、漢詩文:経国5首、葛野王の孫、

[三船(；名)の通称/法名]通称；淡海居士、法名；元開

御船王(みふねのおおきみ) → 三船(御舟みふね・淡海真人おうみのまひと) 4 1 3 7

- F4177 **三冬**(みふゆ・紀きの、初名；俊庸、飛鳥井雅重男) 1769-1825 57 紀きの国造家75代を継嗣、
国学：1800本居宣長門、日前国懸宮ひのくまにかがすのみや75世宮司/1823辞職、紀俊和の父、
「神楽歌註解」「東遊歌風俗歌註解」「佐伊婆良さいばら註解」「日前国懸両大神宮書立」著、
[三冬(；名)の通称] 式部/麻績主/麻績麻呂おみまろ
- F4178 **三冬**(みふゆ・友安ともやす、医者友安盛方男) 1788-62 75 讃岐香川郡由佐村の儒者；菊池高洲門、
国学：藤井高尚門、1823藩主松平頼恕に召し出され士分；藩主の藩学の振興に尽力、
1824藩主とその母に歌学・儒学を講釈、1841君命の「類題和歌集補欠」を完成、藩主の侍講、
藩主の代作・代編も多い、「檜舎家集」「檜の屋集」「檜舎詩集」「檜の落葉」「檜舎翁和歌集」著、
「日日草」「竹取物語檜の落葉」著、盛敏の父、赤沢竜江の師、
[三冬(；名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名；伝之丞、別名；盛彬、字；子文、通称；良介、
号；檜舎ならのや/竹溪、諡号；国学齋詞宗文彬先生
- H4145 **未弁**(みべん・小谷こたに/北谷) ?- ? 江前期大阪の俳人、
1673西鶴「生玉万句」第二仏別脇句等入、78西鶴「物種集」入、
[赤梅檀しやくせんだんに来啼く鶯](生玉万句；仏別脇句/発句；釈迦の別れ悲しきかなや金仏、
嵯峨清凉寺の天竺仏工毘首羯磨作の赤梅檀の釈迦像)
- I4104 **美保**(みほ・赤禰あかね、旧姓；松村) 1823-92 70 周防熊毛郡の歌人、
赤禰忠衛門雅平(長州藩重臣土浦家の家老)の妻、養子に赤禰武人
三保(みほ・伊達/三保姫) → 琨子(たまこ・稲葉いなば/伊達、歌人) V 2 6 6 9
三保(みほ・須田) → 美尾(みお・須田すだ、歌人) J 4 1 3 2
美穂(みほ) → 美穂(よしほ・八木、国学者) 4 7 2 7
御穂(みほ・八羽) → 光穂(みつほ・八羽はちほ/荒木田、神職/国学) E 4 1 8 1
- F4179 **みほ子**(みほこ・伊藤いとう、通称；藤ふじ**三本子**みほこ) 1789-1864 76 上総周淮郡の歌人、
天羽郡峯上村鹿野山麓の義子の沢濟斎(医者)宅に移住、稲村(稲次)喜勢子きせこの歌の師、
「箱根日記并鹿野の山ふみ」著
- K4156 **三穂子**(みほこ・松原まつばら、今村宮神職今村衛守の長女) 1793-1865 73 備前御野郡今村の歌人、
1806(13歳)岡山藩主池田斉政なりまさの祐筆(2年間)、結婚；夫と死別、
1827(35歳)備前邑久郡豆田村の医者松原東省と再婚；後妻、備中総社の安原玉樹と親交、
京の高島式部と交流、岡山の森知乗尼・総社の安原玉樹と共に[幕末吉備の三女流歌人]、
1865(慶応元)没、紀行「道の記」著/歌集あり
- H4180 **三保子**(みほこ・荒井あらい) ?-? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[むすぶ手に月のしづくもかかるかな玉井の水の影の涼しさ](大江戸倭歌；夏539)
- I4133 **三保子**(みほこ・大池おおいけ、山崎弘泰の長女) 1829-1882 54 飛騨高山の地役人の家の生、
歌人；父門、高山の大池敏国(1831-94)の妻、歌文を能くす
- F4180 **三保女**(みほじよ・鈴木、三谷みくに三九郎女) ?-? 江戸日本橋伊勢町の地主鈴木三右衛門容寿の妻、
歌学；有賀長伯門/夫と共に香道を嗜む、夫助け家政「用事帳」20冊を記録、
1731-2「大和紀行」、「川越の紀行」「身延熱海紀行」著
- K4179 **三穂磨**(みほまる・森もり、直樹[1741-1803]3男) 1772-94 早世 23 駿河府中の酒造業深江屋の生、
直里(1770-1831)の弟、国学；父門/栗田土満門、通称；仙吉
- F4181 **御牧**(みまき・草野くさの/のち大神おおが/大賀) 1818-68 51 歳 会津藩士/歌人；井上文雄門、
1853文雄「冠註大和物語」校、66「春宜の茂とつ葉」、「愚詠草稿」、摘英集入、
1868師文雄みみおと落首記載の「諷歌新聞」発行；投獄、歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[桜散る山そは小田の苗代は花の種さへまくかと思ふ](大江戸倭歌；春345/苗代)、
[露深き軒端の萩をすむ月の影にたわむと思ひけるかな](現存百人一首；89)、
[御牧(；名)の通称/法号]通称；半平、法号；賢山常心居士
- F4182 **美作**(みまさか/美作蔵人みまさかのくろうど) ?-? 平安前期村上(946-966)の女蔵人、詳細不詳、
歌人；960(天徳4)天徳内裏歌合・962(応和2)庚申内裏歌合(袋草紙に判詞)に参加、

[あやめ草まだねもみぬにほととぎすいつかと待たで声をきかばや] (庚申歌合; 八番右、根・音・寝/何時か・五日の掛詞、左は紀文利ふみとし)

- F4183 **美作** (みまさか・皇后宮きさいのみや、美作守源資定すけさだの女、母; 出羽弁いではのべん) ?-? 平安後期女房歌人、祿子内親王 (後朱雀天皇皇女) 家に出仕・のち後冷泉天皇皇后寛子 (藤原頼通女) 家に出仕、歌合の歌41首余; 1046-78六条斎院祿子内親王家歌合のほとんどに20回参加、1078内裏後番歌合参加、橘俊綱と交渉、勅撰2首; 後拾遺 (79/183)、金葉Ⅲ251、[うらやましいる身ともがな梓弓伏見の里の花のまとみに] (後拾遺; 79)、(伏見俊綱邸の花見の歌会に行く人に託した歌/入ると射る・円居と的射の掛詞/弓の縁)

美作 (みまさか・板倉) → 璜溪 (こうけい・板倉いたくら、儒者) E 1 9 9 7
美作 (みまさか・加藤/黒田) → 一成 (かずなり・黒田、武将/藩士) M 1 5 3 4
美作 (みまさか・黒田) → 一利 (かずとし・黒田くろだ、藩士/歌人) M 1 5 3 0
美作 (みまさか・黒田) → 一誠 (かずのぶ・黒田くろだ、藩士/歌人) M 1 5 3 6
美作 (みまさか・竹俣) → 当綱 (まさつな・竹俣たけのまた、藩士/藩政) D 4 0 9 8
美作 (みまさか・黒田) → 一興 (かずおき・黒田くろだ、藩大老/詩歌) U 1 5 5 8
美作 (みまさか・島津) → 元直 (もとなお・島津しまつ、領主/詩文) D 4 4 4 2
美作 (みまさか・不破) → 正寛 (まさひろ・不破むね、藩士/藩政改革) L 4 0 1 7
美作守 (みまさかのかみ・土居) → 通安 (みちやす・土居どい、武家/連歌) C 4 1 7 1
美作守 (みまさかのかみ・加藤) → 泰義 (やすよし・加藤かとう、神道/藩主嫡子) F 4 5 8 2
美作守 (みまさかのかみ・奥平) → 昌男 (まさお・奥平おくだいら/源、藩主/歌) L 4 0 7 5
美作守 (みまさかのかみ・南部) → 信民 (のぶたみ・南部なんぶ/源、藩主/歌) G 3 5 6 8
美作守 (みまさかのかみ・青山/浅野) → 長容 (ながかね・浅野あさの、藩主/歌) K 3 2 6 6
美作守 (みまさかのかみ・岡本) → 経邦 (つねくに・岡本おかもと/賀茂、神職) F 2 9 5 0
美作守 (みまさかのかみ・角田) → 記博 (のりひろ・角田つのだ、神職/国学) J 3 5 2 3
美作蔵人 (みまさかのくろうど) → 美作 (みまさか、女蔵人、歌人) F 4 1 8 2
美作入道 (みまさかのにゅうどう) → 建照 (けんしょう、社僧/連歌) C 1 8 6 8

- F4184 **美作三位** (みまさかのさんみ、藤原道綱女の豊子ほうし/とよこ) ?-? 平安中期上東門院彰子の女房/歌人、典侍、讃岐守大江清通の妻、1008敦成親王 (後一条院) の乳母; 三位、09敦良親王誕生; 乳母の筆頭、御湯奉仕、1023禎子内親王の裳着; 髪上げ役/30章子内親王の袴着に列席、中宮威子の髪上げに奉仕、1036院崩御に伴い落飾、道命阿闍梨の妹、大江定経の母、大納言の君源廉子 (小少将の君) と共に後宮を支える、寂超「後葉集」入、[紫式部日記] に美女の親友として入、[赤染衛門集] に昵懇の人とある、亡き紫式部を娘大式三位が偲ぶ西本願寺本 [兼盛集] 逸名12首の詠歌群の編者説あり、勅撰2首; 後拾遺582/玉葉2366 (後一条院没後落飾時の歌; 従三位藤原豊子名)、[墨染の袂はいとゞこひちにてあやめの草のねやしげるらん] (後拾; 哀傷582)、(夫大江匡衡を亡くした赤染衛門への贈歌/恋路と小泥こひち・根茂ると音[声] 繁しを掛る)、(赤染衛門集; 赤染の返歌/あやめ草今日の袂の玉としては涙をかくるねのみなりけり) [美作三位の別呼称] 宰相の君、弁の宰相の君、讃岐の宰相、宰相の乳母、宰相典侍さいしょうのすけ、江三位ごうさんみ

F4185 **味摩之** (みまし) ? - ? 百済の人、612呉より伎楽舞を伝う (; 日本書紀)

G4174 **みます** (; 組連) ? - ? 江戸日本橋横山町の雑俳の組連、

取次; 1757「収月評万句合」入、

取次例; [よつ引ひいてひよつと扇がはづれたら] (前句; きのだくな事々々)、

(与一簞をとつてつがひよつびいてひょうやうど放てば/歴史のもしも)

三升鶴包 (みますかくほう) → 亀玉 (きぎょく・亀玉堂きぎょくどう、狂歌) J 1 6 4 1
三升文治 (みますぶんじ) → 文治 (ぶんじ・三升[梶]、歌舞伎作者) F 3 8 5 3
三升屋一二 (みますやいちに) → 四郎 (しろう・三升屋みますや、歌舞伎作者) N 2 2 0 4
三升屋四郎 (みますやしろう) → 四郎 (しろう・三升屋、歌舞伎作者) N 2 2 0 4
三升屋二三治 (みますやにそうじ) → 二三治 (にそうじ・三升屋、歌舞伎作者) 3 3 0 2
三升屋六兵衛 (みますやろくべえ) → 亀玉 (きぎょく・亀玉堂きぎょくどう、狂歌) J 1 6 4 1
身麻呂 (みまろ・若倭部) → 身麻呂 (みまろ・若倭部わかやまとべ、防人歌人) D 4 2 0 0

- 三磨(みまる・淡海) → 兵庫(ひょうご・栗本、両替商/塗師/劇書) F 3 7 2 2
 耳風(みみかぜ・牧馬堂) → 牧馬堂耳風(まきばどうみみかぜ、狂歌作者) K 4 0 9 0
- J4105 **三々子**(みみこ・小寺こでら、)? - 1869 筑前福岡藩士小寺貞雄室、歌人;大隈言道門
 木菟菴(みみずくあん/ぼくとあん・秋来) → 宣治(のぶはる・堀越、藩士/俳人) C 3 5 8 4
 木菟庵(みみずくあん) → 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4
 木兔入道(みみずくにゅうどう) → 洞々(とうとう・高橋、農業/俳人) G 3 1 7 9
 木菟舎(みみづくのや) → 赤山(せきざん・高橋、藩士/柔術/俳人) K 2 4 0 9
 木兔坊(みみずくぼう・ぼくとぼう) → 風石(ふうせき・宮地みやじ、藩士/俳人) 3 8 8 5
- 4138 **水道**(御道みみち・土師宿禰はにしのすくね、字:志婢麻呂じびまろ)?-? 万葉三期歌人、廷臣、
 730(天平期)頃太宰府赴任、730旅人梅花宴参加(万葉843)、上京時の歌(万葉557/558)、
 嗤笑歌:万葉十六3844(;巨勢豊人との贈答、3845左注に伝)
 [大船を漕ぎのまにまに岩に触れ覆かへらば覆れ妹のよりにては](万葉;四557)
 嗤笑歌の相手 → 豊人(とよひと・巨勢朝臣、[小黑]、3845作者) 3 1 6 5
- F4186 **水通**(みみち・石川朝臣いしかわのあそみ)?-? 上古廷臣;730以前の歌人、
 万葉3998(;747年大伴池主邸での家持餞別宴に池主が古歌として誦詠)、
 [我ががやどの花橘を花ごめに玉にそ我がが貫く待たば苦しき](万葉;十七3998)
 耳梨山人(みみなしさんじん) → 千蔭(ちかげ・加藤/橘、国学/歌人) 2 8 0 3
 耳彦(みみひこ・出諏訪) → 出諏訪耳彦(ですわみみひこ、狂歌作者) C 3 0 1 1
 御室戸僧正(みむろどのそうじょう) → 道慶(どうきょう・東山、天台僧/歌) C 3 1 8 5
 御室戸僧正(みむろどのそうじょう) → 隆明(りゅうみょう;法諱、天台大僧正/歌) F 4 9 7 2
- H4102 **三室雄鹿**(みむろのおじか) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;
 [女郎花さきだつ野辺は下馬をせよかの遍照が口どめの場所]
 (古今;遍照の「名にめでてをれるばかりぞをみなへし我おちにきと人にかたるな」の歌が
 近世では花をとろうとして落馬し口留めしたと解されていた)
- H4137 **三守**(みもり・藤原ふじわら、眞作4男)785-840/56 藤原巨勢磨の孫、平安前期廷臣;大学で五経修学、
 806東宮(後の嵯峨天皇)主蔵正/811従五上蔵人頭/内蔵頭・春宮亮兼任/816参議、
 821従三位権中納言/823正三位/嵯峨天皇退位;旧臣の故に辞職/嵯峨院に出仕、
 826刑部卿/828大納言/838右大臣、没後従一位追贈、通称;後山科大臣(のちのやましなのおとど)
 ミヤ(みや・中山) → 三屋子(宮子みやこ・中山なかやま、歌人) F 4 1 9 3
 宮石磨(みやいしまろ・吹本) → 瑞穂(みずほ・吹本ふきもと、神職/国学) K 4 1 3 1
- F4187 **宮川尼**(みやがわのあま、細川元常女/清原宣賢孫)?-1615? 武田信重[信高]の妻、細川幽斎の義姉、
 英甫永雄[雄長老、1547-1602]の母、晩年は雄長老に引き取られて建仁寺塔頭に住、
 歌/故実、「醒睡笑五」に逸話/「古今夷曲集」入、
 [御普請の用にもたゝぬ此の尼が百の石をばいかで引くべき](古今夷曲;625)、
 (御普請米の残り百石を与える由の義弟法印玄旨[醒睡笑;細川忠興]の手紙への返事)
 宮川舎(みやがわのや) → 彦磨(ひまろ・斎藤、国学者) 3 7 0 3
 宮記(三弥記みやき・佐藤) → 正明(まさあき・佐藤さとう、国学/歌人) P 4 0 8 6
- F4188 **宮木**(みやぎ、母;遊女今裳)?- ? 平安中期難波の遊女/もと藤原伊尹これまさ家の女房、
 歌;後拾遺1197(;円教寺性空[1007没]の結縁経供養に布施を受けて欲しいと訴えの歌)、
 [津の国のなにはのことか法のりならぬ遊び戯たはぶれまでとこそ聞け](後拾遺;廿1197)
 (なにはは難波と何かすべての事を掛ける/かは反語/遊びも讃仏乗の因と聞いている)
 美也吉(みやきち・皆川) → 梅翁(ばいおう・皆川みながわ、藩士/儒者) 3 6 7 0
 宮城堂(みやぎどう) → 心阿(しんあ・夢々庵、時宗僧/俳人) N 2 2 2 7
- F4189 **宮城野・信夫**(みやぎの・しのぶ;姉妹、農業四郎左衛門女)姉1707?-?-?・妹1710?-?-? 奥州白石足立村出身、
 1717?父が伊達藩武士田辺志摩に手討ち/姉妹が6年間武術修業後に1723見事敵討成功;
 この実話から脚色;1780浄瑠璃「碁太平記白石噺」/95歌舞伎「姉妹達大礎あねいもだてのおおきど」等
- F4190 **藐庵**(みやくあん・西村にしむら、名;伊之)1784-1853/70 江戸吉原江戸町二丁目の名主/1833(50歳)隠居、
 浅草奥山に丸丸堂建造;書;近衛三藐因流を修得/茶;宗偏流/俳諧・歌・琵琶・加東節を嗜む、
 1825「花街漫録」34「藐庵旅日記」/35「茶花印譜」編/41「三拾六歌仙貝合画譜」外著多数、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[衣打つ音もさえ行く秋風に真萩まほ露散る玉川の里]

(大江戸倭歌;秋1026/秋の末玉河に行きて)

[藐庵(;)号)の字/通称/別号]字;宗先、通称;佐兵衛、別号;花明園/歌仙庵/花の本、
法号;藐庵宗先居士

- F4191 **三宅麻呂**(みやけまろ・丹比真人たじひのみと)?-? 奈良期廷臣;717民部卿/719河内撰官/721参議
H4124 **都**(みやこ;組連) ? - ? 江中期江戸浅草阿部川町の雑俳に組連、

取次;1757「川柳評万句合」入、

取次例;「十月つきには弘めぬ先きの月を入れ」(前句;祝ひこそすれ々々/弘めは結婚式)

- F4192 **畿**(みやこ・千坂ちさか/吉田、横山源八男)1787-1864 78 下総関宿の儒者;清水浜臣門/昌平齋入、
古賀精里門/江戸住、幕臣;1813学問所出役/20千坂権平長衡の養子;
1820本所四ツ目御徒組屋敷の御徒、36表火番/37隠居、家塾を開く/多数の書籍書写、
「莞翁歌話」「千坂畿雑抄」「名園記」著/「雪香楼詩稿」評、
門弟;向山黄邨・松崎柳浪・乙骨耐軒ら、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入(;92番;千坂畿;誤記)、

[更科やいなばの露を吹く風に田毎の月の影ぞくどくる](大江戸倭歌;秋895)

[畿(;)名)の別号/字/通称/号]別名;都麿、字;千里/希楠、通称;一学/莞爾、
号;廉齋/緑兮/緑谷/北閨/莞翁/尚友/尚友堂/三鹿、法号;賢孝院

- F4193 **三屋子**(みやこ・中山なかやま、別名;宮子/ミヤ、戸倉[中山]泰輔女)1840-71 32歳 母;室屋民子、
母は中山忠能のお手付きの女中;泰輔は忠能より名を得て中山忠道とす、周防の生、
京に住/歌人;香川景恒門、太田垣蓮月・高島式部・税所敦子らと交流、
忠能のため各地の政治情勢などの諜報活動、1868から西国の旅;宮市で客死、
「浮木の亀」「一夜百首詠草」「旅日記」著、
法号;探誉智玄大姉

都一閑齋(みやこいっかんさい)→ 紫文齋(しぶんさい・宇治、2世千種庵/名主/一中節/狂歌) F 2 1 6 0

- F4194 **みやこえ**(;)名・姓;御春みはる)?-? 平安前期廷臣;保明親王やすあきらしんのう[903-923]の帯刀、
歌;904-23頃「保明親王帯刀陣歌合」入、

[まだきかぬ耳にやあるらむ初雁のおとだにもせぬ秋はきにしを](帯刀陣歌合;雁右12)

都国太夫半中(みやこくにだゆうはんちゅう)→ 豊後掾(ぶんごのじょう・宮古路みやこじ、浄瑠璃太夫) 3 8 2 1

宮古路豊後掾(みやこじぶんごのじょう)→ 豊後掾(ぶんごのじょう・宮古路みやこじ、浄瑠璃太夫) 3 8 2 1

都太夫一中(みやこだゆういちちゅう)→ 一中(初世いちちゅう、浄瑠璃太夫/一中節祖) 1 1 2 4

京みやこ太夫一中(みやこだゆういちちゅう)→ 一中(2世いちちゅう、和泉掾、浄瑠璃太夫) C 1 1 9 6

都太夫一中(みやこだゆういちちゅう)→ 一中(5世いちちゅう、浄瑠璃太夫/一中節中興祖) C 1 1 9 7

- 4139 **都の錦**(みやこのにしき・姓;宍戸/八田、名;与一、宍戸久光[友部円入]男)1675-1710? 36? 大阪生、
1695父と京住、1700放蕩のため勘当、山城新黒谷門前で結庵;山科大宅寺月坡和尚に参禅、
1701大阪で浮世草子作者;西沢一風門、02帰京;書肆升屋河勝五郎右衛門の世話で執筆、
1703仕官を求め江戸下向;無宿浪人狩で検挙;薩摩山ヶ野金山へ流刑/04脱走;捕縛入牢、
[牢訴状]が奏効し鹿籠金山へ移送/1709頃赦免;帰京/版下筆耕の傍ら浮世草子再執筆、
1701「御前伽婢子」、02「元禄曾我物語」「元禄太平記」「風流神代巻」「風流日本莊子」、
1702「沖津白浪」「女訓徒然草」/03「風流源氏物語」、08「播磨梶原」11「新鑑草」(没後刊?)、
「当世智慧鑑」「武家不断枕」「忠義太平記大全」「武道三国志」「武道穉寝覚」外著多数、
[金まきは泥にまぶせても光は失せぬ](元禄太平記)、

[都の錦(;)号)の字/別号]字;光風、

別号;八田宮内少輔光風/雲休堂/梅蘭堂/一止軒/円喜居士/二千風/鉄舟/往悔子(;)変名)、
林中助/友の部弥市/流入軒不埒庵童落院/宮内/少輔光風、法号;用道徹山居士

- F4195 **都の花風**(みやこのはなかぜ、姓名不詳)?-? 上方の浮世草子作者;1702「五ヶの津余情男ごかのつよせいおとこ」著
都秀太夫千中(みやこひでだゆうせんちゅう)→ 千中(せんちゅう・都秀太夫、一中節) G 2 4 3 4
都麿(みやこまろ・千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2
都麿(みやこまろ・杉浦) → 大学(だいがく・杉浦さざうら/甘露寺、尊攘) X 2 6 6 9
都万太夫(みやこまんだゆう) → 万太夫(初世まんだゆう・都、歌舞伎名代) K 4 0 7 2
宮崎(みやさき;号) → 道清(どうしやう/どうせい;法諱、社僧/歌人) F 3 1 3 7

- 宮作(みやさく・桑原) → 宮作(みやつくり・桑原、廷臣/詩人) F 4 1 9 8
宮次(みやじ・曾根) → 魯庵(ろあん・曾根そね、藩士/教育) 5 2 1 4
宮商洞(みやしょうどう) → 太祗(たいぎ・炭すみ/たん、俳人) 2 6 0 2
宮後弾正(みやじりだんじょう) → 貞董(さだのぶ・檜垣/度会/松本、神職) J 2 0 2 0
- F4196 美夜受比売(宮實媛みやずひめ)?- ? 記紀歌謡詠/尾張国造祖、倭建命と婚約唱和
H4109 宮寿丸(みやずまる;幼名) ?- ? 室町期連歌;1423「熱田社法楽連歌」参加(3句)
[ゆふべの峰か雲しづかなる](熱田法楽;賦山何第四、あれが夕暮に月の出を見た峰か、
前句;待つ春の花を御山の月出でて/花と雲・山と峰の寄合)
- 宮蔵(みやぞう・窪田) → 梨溪(りけい・窪田くぼた、藩士/詩人) 4 9 9 1
宮菌豊前(みやぞのぶぜん) → 菌八(2世そのはち・宮古路、浄瑠璃太夫) E 2 5 1 9
- F4197 宮継(みやつぐ・道守ちもり朝臣)?- ? 平安初期詩人;文章生/石見掾/801対策、経国入
F4198 宮作(みやつくり/みやさく・桑原くわばら)?-? 814存 平安前期廷臣;814従八下/陸奥少目、詩:凌雲入
造媛(みやつこひめ) → 遠智娘(おちのいらつめ) B 1 4 0 9
- G4100 宮門(みやと・海賀かいが、名;直求、秋月藩柔術師範海賀直春男)1834-62殺害29 筑前朝倉郡野鳥村生、
劍槍柔の諸術家;父門、各地周遊し勤王家;1861藩に幽閉/62脱出し大坂薩摩藩邸に潜入、
寺田屋騒動で捕縛;海路薩摩へ護送途中に日向細嶋で薩摩藩士により殺害、
「涉遊志」/1855「海賀徳門稿本」60「草野私議」著、「慨世遺書」著、
[宮門(;通称)の字/号]字;徳門、号;雖無堂いむどう、神号;直求神靈
- 宮戸川面(みやとのかわも) → 川面(かわも・宮戸/唯我堂、狂歌) H 1 5 9 0
宮君(みやのみきみ) → 麗景殿宮君(れいけいでんのみやのみきみ・歌人) 5 1 1 9
宮小弁(みやのこべん) → 小弁(こべん、祐子内親王家女房/歌人/物語作者) D 1 9 7 4
宮之丞(みやのじょう・島崎) → 正樹(まさき・島崎、庄屋/国学者) C 4 0 2 9
宮少将(みやのしょうしょう) → 少将(しょうしょう、藤原隆長女/物語作者) J 2 2 7 6
宮之助(みやのすけ・木村) → 調歌堂真枝(ちょうかどうさねき、藩士/狂歌) H 2 8 7 1
宮僧正(みやのそうじょう) → 覚源(かくげん;法諱、真言僧) J 1 5 7 2
宮僧正(みやのそうじょう) → 禅守(ぜんしゅ;法諱、真言大僧正/歌) F 2 4 8 5
宮大僧都(みやのだいそうず) → 深観(しんかん/じんかん;法諱、花山天皇皇子/真言僧) D 2 2 7 4
- G4101 宮内侍(みやのないし、弁内侍、平理義女、定親の姉)?-? 平安後期後冷泉皇后寛子[1036-1127]女房、
のち祐子内親王家に出仕、1056四条宮春秋歌合参加、続千載集252、
[いつしかと待ちつるよりもほととぎすききてぞいとどしづ心なき](続千載;夏252)、
(永承正四年1049祐子内親王家歌合に)
- 宮法印(みやのほういん) → 元性(げんしょう・覚恵、崇徳皇子/真言僧) F 1 8 0 8
雅舎(みやびのや・木口) → 訓重(のりしげ・木口きぐち/垣屋、国学/神職) I 3 5 0 7
- F4199 深山(みやま;組連) ?- ? 江中期上総の雑俳の組連、
取次;1746「雲鼓評万句合」入、取次例;[惚れた目も関寺へ来てあきれはて](万句合)、
(前句;いつのまにやら々々/謡曲「関寺小町」「鸚鵡小町」;勅使の訪問、
(芭蕉;浮世の果は皆小町なり[市中はの歌仙/前句;様々に品かはりたる恋をして;凡兆])
- 4140 宮増(みやます、宮増大夫) ?- ? 室町期能楽師/作曲者、大和の田部・小田社の楽頭、
[能本作者註文]に10曲・[自家伝抄]に27曲作(;両者一致は2曲;「元服曾我」「調伏曾我」、
脇の上手;生一小次郎(宝生座脇師、金春禅竹の女婿日吉与四郎と同時代)の師、
宮増五郎(音阿彌の息子観世与四郎の小鼓の師)と同一か?(;[四座役者目録]入)、
一族と後裔;宮増次郎五郎(1465没)・宮増弥七(宮増大夫の孫?)・弥六親次(弥七の兄弟)・
宮増三郎五郎(延徳1489-92頃)・宮増源三(永承504-21頃)など
- G4102 宮麻呂(みやまろ・石川朝臣いしかわのあそみ、宮守、石川連子むらじこ男)?-713 大和奈良期廷臣;
703持統大葬装束司次官/705大宰大貳/708右大弁/従三位、
万葉二期三247長田王に和える歌;石川大夫(左注;・石川君子か不明)
参考 → 君子(きみこ・石川朝臣) B 1 6 8 2
- 宮本院(みやもといん) → 義方(よしかた・雛田ひばた、神職) O 4 7 7 4
宮吉(みやよし・角田) → 信道(のぶゆき・角田つのだ、国学者) J 3 5 2 2
宮本屋俊蔵(みやもとやとしぞう) → 峨洋堂(がようどう、読本作者) P 1 5 6 2

- G4103 **御行**(みゆき・大伴宿禰、高市大卿たけちのおおまへつぎみ、長徳[馬飼]男)?-701 旧姓;連むらじ/684宿禰すくね、安麻呂(旅人の父)の兄、672壬申乱で功績/675兵部大輔/693氏の上/701大納言/正広算、没後;正広式右大臣を追贈、万葉二期歌人;十九4260、
[大君は神にしませば赤駒のはらばふ田井を都となしつ](万葉;4260/壬申乱後の飛鳥)
- H4125 **みゆき**(;組連) ? - ? 江戸牛込の川柳の組連;
取次;1778「川柳評万句合」、
取次例;[乳首ちつくびの腰をつかつて子をじらし](78万句合/前句あんまりな事々々)、
(母親が乳を飲ませる時のいたづら)
- G4104 **躬之**(みゆき・田中たなか) 1796 - 1857 62 加賀石川郡本吉の国学者・医者、
国学;京の賀茂季鷹門/医学;新宮涼庭門/1834帰郷/35金沢藩儒医、国学・歌を教授、
1851藩校明倫堂皇学訓導、「竹取物語抄補注」(門弟奥村美楯[栄通てらみち]書写)、「菊園集」著、
「菊園遺芳」、養子;山村猛之、門弟;青木秀枝・高木有制・大野木克敏・石黒千尋ら、
[躬之(;名)の通称/号]通称;兵庫、号;菊園、
- I4183 **躬行**(みゆき・木宮きみや、) 1798- 1859 62 越後長岡の国学者;本居大平門、磐根の父、
[躬行(;名)の通称] 八郎兵衛/惟之允
躬行(みゆき・古川、汲古堂) → 躬行(みつら・古川、国学者/神職) F 4 1 2 7
美雪(みゆき・島田) → 忠茂(ただしげ・島田しまだ、藩士/国学者) X 2 6 5 3
深雪(みゆき・三雪子・増山) → 勝子(かつこ・増山ますやま、藩主室/歌) V 1 5 7 0
みよ(美代みよ・杉山) → 廉(れん・杉山すぎやま/一時栗原、歌人) 5 1 1 0
妙(みょう) → 妙(たえ、遊女/歌人) C 2 6 4 5
- G4105 **妙阿**(みょうあ;法諱) ? - ? 法師(僧侶)、連歌作者:菟玖波集;1句入、
[夜を残す老の寢覚の物語](菟玖波;十五雑1505、前句;たがひに袖をぬらしつるかな)
- K4159 **妙阿**(みょうあ;法諱) ? - 1769(明和6) 江中期;信濃飯田の浄土宗来迎寺住職、
歌人;依田正純(1681-1749)・澄月(1714-98)門
- K4161 **明阿**(みょうあ;法諱、号;一声庵)?-1836 備前上道郡台崇寺住職、
歌人;香川景樹・熊谷直好門、[鯨玉集]入/[類題吉備国歌集]18首入
- K4160 **妙阿**(みょうあ;法諱) 1806 - 1867 62 近江栗太郡草津の浄土宗常善寺住職、
のち江戸浅草の浄念寺住職、歌人;[鴉の海]入
妙阿(みょうあ;号) → 玄秀(げんしゅう;法諱・妙阿、浄土僧) J 1 8 6 0
明阿(みょうあ/明阿弥/明阿弥陀仏) → 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学) J 4 0 6 6
明阿(みょうあ・磯貝) → 大愍(たいみん・磯貝いそがい、浄土僧/歌人) V 2 6 6 3
- G4106 **妙安**(みょうあん;法諱・惟高いこう;道号) 1480-1567 88 近江の臨濟僧;1493(14歳)相国寺瀑岩等紳門、
出家/のち法嗣、伯耆の山名家に招聘;30年滞留;保国寺・海蔵寺住持/出雲尼子家に招聘、
1540相国寺90世/43南禅寺住持の公帖/43-50相国寺鹿苑院塔主;僧録職を司る、
山城久世の華蔵院の開祖、「惟高詩集」「惟高和尚法語」「詩淵一瀾」「皆有亭記」「葉巢稿」著、
1558「作物記」著、「臥雲日伴録抜尤」「諸冊抜萃録」編、夢想聯句、
[惟高妙安の号] 葉巢子/懶安/鳥江
- G4107 **妙庵**(みょうあん) ? - ? 江前期奈良の百万ヶ辻子町の尼僧/俳人;、
夏安居中も写経より独吟に熱中;発句を詠み寺社に奉納、
1684西鶴「俳諧女哥仙はいかいによかせん」入;
[いにしへの桜やかはる百日紅ひやくじつこう](女哥仙;36、今の季節は桜に代りさるすべり、
詞花;29伊勢大輔/古の奈良の都の八重桜けふ九重に匂ひぬるかな)
- G4108 **明菴**(みょうあん;道号・哲了てつりょう;法諱、俗姓;田中) 1705-79 75 遠江周智郡茅間村の曹洞僧;
同国安楽寺真嶠門;出家/圭立法瑣(ほうせん[大梅]門;法嗣、1739信濃耕雲寺住持/貞祥寺住持、
近江常德寺住持/1767能登妙高庵住、「明菴了禅師語録」「明菴和尚垂誠」(没後1795刊)
- G4109 **妙庵**(みょうあん;道号・普最ふさい;法諱、山内俊章男) 1745-1821 77 岩代大沼郡金山の黄檗僧;
貫道寂器(照器)門/師と共に伊予久徳寺に移る;1765嗣法/69藩主命で松山千秋寺住持、
1809宇治万福寺26世/万福寺甘露堂で没、「五雲集」「五雲余稿」「妙庵和尚語録」著、
「妙庵禅師語録」「妙庵禅師進山語録」著、
[妙庵普最の初道号/号]初道号;勝音、号;寒巖室

- G4110 **明庵**(みょうあん;道号・竜徳;法諱)?-? 江後期曹洞僧;岱庵竜山門;法嗣、美濃徳巖寺21世、
「明庵和尚語録」著
明庵(みょうあん;道号・栄西)→ 栄西(えいさい;法諱・明庵、臨濟宗祖) 1 3 0 3
妙庵(みょうあん) → 幸隆(ゆきたか・細川/源、歌学/連歌) 4 6 2 0
- L4102 **妙意**(みょうい;法諱・小西、尼)?- ? 江前期;歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]3首入、
小西正方の妻か?、
[なれもまた秋はまなしき習とて月にや鹿のひとりなくらん](麓の塵;秋232)
- G4111 **妙怡**(みょうい;法諱・悦叟えっそう;道号、号;絶学)1793-186169 京臨濟僧;徳禅寺恭嶽門、
1845大徳寺457世、1854「竜宝摘撮」、「大成尼和尚行実」著
- G4112 **明一**(みょういつ;法諱、俗姓;大宅[or和仁部])728-79871 大和添上郡の法相僧;752東大寺の慈訓門、
752東大寺孟蘭盆経講師/780維摩会講師、787正倉院珍財帳に[三綱上座伝灯大法師位]と
署名、晩年妻帯し人望を失う、「聖徳太子伝」「法華記」「法華略抄」「法華論略記」等著
- G4113 **明逸**(みょういつ;法諱) 1727 - 179771 周防屋代島の真宗大谷派僧:
1741(15歳)伊予松山の円光寺で修業;円光寺7世住職、1746京に遊学/和泉堺に寓居、
江戸下向;儒学修得;服部南郭・宇野明霞らと交流、1760円光寺に帰り徂徠学を教育、
書;飯南山人門、1759「通機図解」、「扶桑樹伝」「阿弥陀経妙徳讃みょうとくさん稿本」著、
「明月上人伝」あり、門弟;宇佐美淡斎・杉山熊台ら、徳成(とくじょう)の父、
[明逸の初法諱/字/号]初法諱;義堂、字;曇寧、
号;明月みょうげつ/解脱隠居/化物園げぶつえん主人
- G4114 **明胤**(みょういん;法諱・号;如々房)?-? 平安後期天台僧;明覚(みょうかく1056-1106?)門、
一説に陽救門?、「台秘抄」著
明因(みょういん) → 角上(かくじょう・三上みかみ、僧/俳人) B 1 5 5 9
- G4115 **妙句**(みょうく;妙句尼/俗名;もしづ)?-? 江前期浮世草子作者(;作中の人物名/実作者不詳)、
1684「花の名残」著(京・鎌倉が舞台/挿絵;吉田半兵衛風/江戸西村半兵衛刊)
明雲(みょううん;法諱) → 明雲(めいうん・みょううん;法諱、天台座主) 4 3 0 6
妙雲院(みょううんいん) → 日賢(にちけん;法諱・純性、日蓮僧) B 3 3 5 4
妙雲院(みょううんいん) → 日承(にちじょう;法諱・梅菌、日蓮僧) 3 3 3 9
明恵(みょうえ・上人) → 高辨(こうべん、華嚴僧) 1 9 1 9
妙恵(みょうえ;法号) → 雅孝(まさたか・飛鳥井/藤原、廷臣/歌) D 4 0 1 4
妙恵(みょうえ;字) → 日善(にちぜん;法諱・即妙院、日蓮僧) C 3 3 6 7
- G4116 **妙永**(みょうえい;法諱・壽春じゅしゅん;道号、号;南涯)?-? 戦国期文明-明応1469-1501頃の臨濟僧:
幼少より相国寺勝定院の南洲乾能門;嗣法、1482京の真如寺住、87嵯峨勝曼院を兼任持、
円覚寺の坐公文を受、1500景徐周麟と有馬温泉で聯句「湯山とうざん千句」(湯山聯句)
妙益(みょうえき;法名) → 通秀(みちひで・中院/源、廷臣/歌・連歌) C 4 1 3 3
- G4117 **明円**(みょうえん;法諱) ? - ? 平安中期叡山天台僧;天台座主院源門?、歌人、
金葉集Ⅲ(三奏本)235(;明円聖人名/房前に女郎花を植えたのを院源にからかわれ詠む)、
[何ならんと思ふ思ふぞ掘りうゑし女郎花とは今日ぞ知りぬる](金葉集Ⅲ235/玄々集49)
- G4118 **明円**(みょうえん・めいえん、忠円男)?-1199 平安末鎌倉期の円派の仏師、
1166近衛基実の法要に阿弥陀如来・観音菩薩・不動明王の三軀を制作;法橋位を下賜、
1174蓮華心院の造仏;法眼、1180焼討焼失の興福寺復興に円派を率いて参加、
1176京の大覚寺五大明王像制作(現存)
- 4368 **明縁**(みょうえん;法諱) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、歌;1237刊[檜葉集]入、
[ほととぎすやすむほどもきくかとてこはたの里をかちよりぞゆく](檜葉;雑794)
明円(みょうえん) → 助員(すけかず・比企ひき/藤原、早歌作曲) 2 3 2 9
妙遠坊(みょうえんぼう/みょうおんぼう) → 日応(にちおう;法諱、日蓮僧) 3 3 8 5
妙円房(みょうえんぼう) → 日春(にっしゅん;法諱、日蓮僧) E 3 3 1 2
- G4119 **明応**(みょうおう;法諱・空谷くうこく;道号、熊谷直勝男/本姓平)1328-140780 近江浅井の臨濟僧、
1336僧童(9歳)/得度;臨濟僧;無極志玄・夢窓疎石門、75美濃天福寺住寺/天寧・等持寺住寺、
1386相国寺3世;鹿苑印塔主/92国師号を特賜/98北山等持院・1404天竜寺住寺、
五山文学;絶海中津と共に叢林の二甘露門と称、「仏日常光国師語録」「臨濟録直記」著、

伝記「仏日常光国師行実」(天章編)、

[空谷明応の俗名/号]俗名;熊谷孫太郎、号;若虚/仏日常光国師

妙応(みょうおう;法諱・真空)→ 真空(しんくう;道号・妙応、臨濟僧) N 2 2 9 4

明王院(みょうおういん) → 公胤(こういん;法諱、天台僧/歌) 1 9 7 2

明応院(みょうおういん) → 玉善(ぎよくぜん;法諱・知覚、真言僧) P 1 6 2 2

妙応院(みょうおういん) → 綱利(つなし・細川/源、藩主/詩人) B 2 9 1 4

明王院宮(みょうおういんのみや)→ 致平親王(むねひらしんのう、天台僧/歌人) C 4 2 3 6

妙応禅師(みょうおうぜんじ・円機)→ 蘭山(らんざん・正隆・臨濟僧) C 4 8 2 9

明応禅師(みょうおうぜんじ) → 宗璠(そうはん・玉舟、臨濟僧) I 2 5 7 4

妙応霊神(みょうおうれいしん)→ 兼敬(かねゆき・吉田/卜部うらべ、神職) D 1 5 1 8

G4120 妙音(みょうおん;法諱・字;普見)?-? 江中期天台宗安楽律僧、1755「別理随縁」「別向円修」著、

[妙音(;法諱)の号] 珍奇堂・吉祥子

妙音(みょうおん;法諱) → 白華(はくか;道号・妙音;法諱、臨濟僧) C 3 6 8 2

妙音(みょうおん;法名) → 清行(きよゆき・三善みよし、廷臣/漢学) 1 6 4 9

妙音院(みょうおんいん;諡号)→ 了祥(りょうしょう;法諱、真宗大谷派学僧) I 4 9 1 6

妙音院太政大臣(みょうおんいんのだいじょうだいじん)→ 師長(もろなが・藤原、楽人) H 4 4 6 1

妙遠坊(みょうおんぼう) → 日応(にちおう;法諱、日蓮僧) 3 3 8 5

G4121 明快(みょうかい;法諱、藤原俊宗[or俊家]男)985-1070⁸⁶ 年齢諸説あり 叡山天台僧;明豪大僧正門、

覚運・尋叡門、灌頂;皇慶阿闍梨門、後朱雀天皇護持僧;その功で1037権律師/52法性寺座主、1053天台座主32世;法成寺別当・恵心院検校を兼務、1054法印大僧都/55僧正/60大僧正、1065辞任;皇慶より台密谷ノ流を受/慶命に嗣法;台密十三流の一つ梨本流の祖となる、藤原統理の甥、歌:後葉集入(143)/続詞花集入、勅撰3首;後拾遺977/詞花98/千載468、[ありしにもあらずなりゆく世の中に変らぬものは秋の夜の月](詞花;三秋98/後葉集)、[明快(;法諱)の号]号;浄善房/蓮実坊、通称;梨本門跡/梨本大僧正、

G4188 妙誠(みょうかい;法諱・黙翁もくおう;道号、俗姓;源)1311-84⁷⁴ 肥前の臨濟僧;幼時関東で夢窓疎石門、美濃の元翁本元門;随侍、夢窓疎石の嗣法/阿波の補陀寺住寺/同国妙幢寺を開山、京の臨川寺住持/嵯峨の華蔵院を開創;退隱、「禅余吟」著

G4189 妙快(みょうかい;法諱・古劍こげん;道号、号;了幻)?-? 南北期相模臨濟僧;夢窓疎石門、入宋/1365帰国、鎌倉東光寺住寺/1373京等持寺住寺/79臨川寺住寺/82建仁寺58世/建長寺61世、晩年は京西山寿光院に隠棲、五山文学大家、詩文「了幻集」/「扶桑一葉」著

明海(みょうかい;初法諱) → 実運(じつうん・じちうん;法諱、真言僧/座主) U 2 1 4 3

妙解院(みょうかいいん) → 日透(にっとう;法諱・弁竜、日蓮僧) F 3 3 4 5

妙解院(みょうかいいん) → 忠利(ただとし・細川ほそかわ、藩主/連歌) Q 2 6 0 4

G4122 明覚(みょうかく/みょうがく/めいかく;法諱)1056-1106⁵¹? 加賀温泉寺の天台学僧;覚厳門、

安然の隔世の弟子と称す/[悉曇音義説]を主唱(明覚三蔵流と称され後世悉曇学に影響)、1084「悉曇大底」93「反音作法」98「梵字形音義」1101「悉曇要訣」、「胎蔵真言句義」外著多数、[明覚(;法諱)の号] 唯心房/温泉房、念昭・兼範・明胤の師

K4162 明覚(みょうがく;法諱、俗姓;堀口)1803-58⁵⁶ 近江滋賀郡堅田の真宗大谷派泉福寺住職、

国学・歌人;東条義門ざもん門、歌;[鳩のうみ]入、

[明覚の号] 香巖/羅云院

妙覚(みょうかく;法号) → 一条天皇(いちじょうてんのう、詩人) B 1 1 2 3

明覚(みょうかく;法名) → 為顯(ためあき-ら・藤原、歌人) G 2 6 6 3

明覚(みょうかく;法諱) → 翠峰(すいほう;道号・明覚、黄檗僧) E 2 3 9 7

妙覚院(みょうかくいん;号) → 秀順(しゅうじゅん;法諱、天台僧/連歌) X 2 1 5 3

明覚円源禅師(みょうかくえんげんぜんじ)→ 宥峰(ゆうほう;道号・宗恕;法諱、臨濟僧) D 4 6 7 7

G4123 妙観(みょうかん/たえみ・薩さつ/薛さち・せち、河上忌寸)?-? 渡来系女官;内命婦ないみょうぶ/

724河上かわかみ忌寸いみき姓/737正五下、万葉四期歌;廿4438;元正天皇と贈答/4456;諸兄と贈答

G4124 妙観(みょうかん;法諱、法名;高蓮社良山/良山)?-1361 岩代石川の僧;初め真言のち浄土宗に改宗、浄土宗名越派良慶(明心)門/奥義究め名越派中興の祖、一念業成説を主唱;白旗派と対立、如来寺を拠点に布教、磐城平矢の目如来寺の開山、1346「明中抄」49「開題考文抄」、

- 1352「弥陀授記事」56「略論安楽浄土義裏書」、「初学題額集」「初心示六端」外著多数
- G4125 **妙閑**(みょうかん・立羽たちば、立羽不角の妻)?-? 俳人;夫門、「武蔵俗談」に逸話入
- G4126 **名喚**(みょうかん;法諱、菅沼すがぬま好雪男)?-1781 三河賀茂郡九久平村出身の僧:1773江戸住、安楽寺住僧、1775「生涯物語」著
- G4127 **妙観**(みょうかん;道号・玄道げんどう;法諱)?-? 山城の曹洞僧:玄国素参門;嗣法、山城綴喜郡宇治田原の禅定寺15世住持、1836「禅定寺縁起」
 妙環(みょうかん;法諱・枢翁)→ 枢翁(すうおう;道号・妙環、臨濟僧) F 2 3 2 1
 明鑑弘照禅師(みょうかんこうしやうぜんじ)→ 杭州(こうしゅう;道号・克文;法諱、臨濟僧) J 1 9 5 0
 妙観寺(みょうかんじ;法号)→ 兼潔(かねきよ・醍醐だいで、廷臣/右大臣) O 1 5 4 4
- G4128 **妙鑑尼**(みょうかんに、岸本調和[1638-1715]の後妻)?-? 俳人;1720和葉「是迄これまで草」歌仙発句入
 明願房(みょうがんぼう) → 聖範(しょうはん;法諱、真言/華嚴僧) L 2 2 4 2
- G4129 **妙喜**(みょうき;道号・宗績そうせき;法諱、俗姓;星野)1774-184875 駿河駿東郡大岡庄の臨濟僧、幼時に同郷の潮音寺入;出家/駿河沼田の蓮光寺住持、阿波慈光寺春叢紹珠門、尾張総見寺卓洲胡僊に嗣法、「荊棘叢談けいきくそうだん」編、1843「竜門夜話」編、[妙喜宗績の号] 棘園きよくえん、
 妙祁(みょうき;法諱・叔京)→ 叔京(しゆくきやう;道号・妙祁;法諱、臨濟僧) Y 2 1 6 6
 明魏(みょうぎ;法諱・子晋;道号)→ 耕雲(こううん;号、花山院長親、臨濟僧/歌人) 1 9 0 4
 妙義(みょうぎ・等持院仁山)→ 尊氏(たかうじ・足利) C 2 6 5 2
 妙喜院(みょうきいん) → 宗栄(宗英そうえい/しゅうえい;法諱、興福寺法相僧) 2 5 6 3
 妙菊(みょうきく;法諱) → 金堂(きんどう;道号・良菊;法諱、曹洞僧) R 1 6 5 0
- G4130 **明教**(みょうきやう;法諱、俗名;藤原光氏、藤原光親男)1209?-? 鎌倉期廷臣/1226皇后宮権大進、正五下/丹後守、1230出家/沙彌、歌人;1232石清水若宮歌合参加、万代・雲葉・明玉集入集、1249清輔「金葉集二度本」書写、続古今1836
 [うきたびのただあらましと思ひしにちぎりありける墨染の袖](続古今集;十九1836)
- G4131 **妙慶**(みょうきやう;法諱・快庵;道号)1422-9372 薩摩曹洞僧:華叟門、越後頭聖寺を開創、1490下野大中寺開、「代語録」「済洞二家参要秘訣」著
 妙教(みょうきやう;法諱) → 蓮体(れんたい;字、真言僧/説話集) B 5 1 2 6
 妙鏡(みょうきやう・号) → かつ(・牛奥うしおく、藩老女/歌人) T 1 5 7 7
 妙暁(みょうきやう;初法諱)→ 月林(げつりん/がつりん;道号・道皓、臨濟僧) H 1 8 4 1
- G4132 **明空**(みょうくう;法諱、字;志玉しぎやく)1340-? 1400存 京の天台僧;京廬山寺の照源・仁空門、廬山寺8世、浄土念仏、密教の弘通に尽力、入唐を志し船中に没したという、1398「十如是義」「廬談目録」著
- G4133 **明空**(みょうくう;法諱・号;沢了たくりやう)1645-173086 浄土宗西山派西谷流の僧/山城十念寺住職、山城栗生光明寺住職:一山の大修繕を実施、[観経厭欣鈔][阿弥陀経私集抄]を校刻、西谷上人法興浄音の450回遠忌を執行、1701「新没故集要或問」25「西山十二祖贊略伝」、1708「靈符縁起集説」、「座右鈔」「西山古式」「往生要集和解」「当麻曼荼羅縁起」外著多数
- K4163 **明空**(みょうくう;法諱・天問上人、)1838-8851 三河幡豆郡の浄土宗香秀寺住職、歌人;[類題三河歌集]入
 明空(みょうくう;法名) → 師良(もろよし・二条、関白左大臣/歌) I 4 4 1 2
 明空(みょうくう・めいく) → 月江(げつこう;晩年の号、早歌大成者) B 1 8 0 5
 妙空(みょうくう;号) → 弁才(べんさい;法諱・妙空、浄土僧) B 2 7 2 3
- 4141 **明軍**(みょうぐん・余よ/金こん)? - ? 百濟or新羅王族系?/723従五下、大伴旅人の資人(舍人)、万三期歌8首:394/454-458(;731年旅人への挽歌)/579/580、
 [標しめ結ひて我が定めてし住吉すみえの浜の小松は後のちも我が松](万葉:394)
 茗溪(みょうけい/めいけい) → 紫山(しざん・宋そう、楠本/南、絵師) D 2 1 7 3
- B4112 **明賢**(みょうけん;法諱・通称;谷阿闍梨)?-? 室町前期叡山横川戒心谷住の天台僧、「誓願講式」「往生論五念門私行儀」「日吉根本塔縁起」著
- G4134 **明猷**(みょうけん) ? - ? 室町期京の北野法浄院僧/歌人、1450冷泉持為もちため講説の「古今抄」(花頂殿の希望で開講)を同聴し伝える
- G4135 **明源**(みょうげん;法諱) ? - ? 平安後期天台叡山僧/源師賢の伯父?、歌人;

1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;右方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、
[小牡鹿さをしかやしがらみふせてすぎぬらしこ萩が原の乱れたるかな](賢聖院歌合;三右6)

- G4136 **明玄**(みょうげん;法諱) ? - ? 1292存 歌僧;二条派?、1292[巖島社頭和歌]参加、
勅撰;続千載1980、
[住み侘びてそむくべき世と思ひしる心にいつか身をもまかせむ](続千載;十八1980)
[せめて世をまもるちかひや巖島浪のほかにも風ぞのどけき](巖島社頭歌;33)
明言(みょうげん;号) → 鉄翁(てつとう;道号・祖門そもん;法諱、臨濟画僧) F 3 0 1 6
明玄院(みょうげんいん) → 日声(にっしょう;法諱・禎音、日蓮僧/歌) H 3 3 2 7
妙顯禪師(みょうけんぜんじ) → 遂翁(すいおう・元廬、臨濟僧) E 2 3 1 8
- K4165 **妙現尼**(みょうげんに;法諱、みか子/みか、山本以南[泰雄]3女) 1780-1852⁷³ 良寛(1758-1831)の妹、
越後三島郡出雲崎の里正(名主)橘屋の生、出雲崎の浄玄寺の曾根智現(長生院)と結婚、
夫没後;妙現尼と称す、歌人;7百首、兄良寛・貞心尼と親交、1852(嘉永5)没
[墨染の君がたもとに摘み入れし野辺の若菜も形見とそ見る](兄良寛追悼歌)、
- G4137 **妙宏**(みょうこう;法諱・字;良湛、道士戒定坊男) 1785-1842⁵⁸ 下野那須那賀郡七石村の出身、
京岩倉山大雲寺不二坊・誣玉比丘門;天台学修学、正教院住職/1817上州桐生光性寺住職、
国学;江戸の小山田与清と書簡交流、「日蔭草」著、法号;大阿闍梨妙宏良湛大和上
妙康(みょうこう;法諱) → 泰叟(たいそう;道号・妙康、曹洞僧) K 2 6 5 3
妙高(みょうこう;字) → 良山(りょうざん;法諱、僧/国学者) M 4 9 4 3
妙香院(みょうこういん) → 尋禪(んぜん;法諱・慈忍;号、天台座主) 2 2 4 6
妙光院(みょうこういん) → 日意(にちい;法諱・宗鏡;字、日蓮僧) 3 3 3 9
妙香院僧正(みょうこういんのそうじょう) → 良快(りょうかい;法諱、天台大僧正) G 4 9 7 0
妙香院宮(みょうこういんのみや) → 尊道親王(そんどうしんのう、天台座主/歌人) F 2 5 0 0
妙光寺(みょうこうじ;号) → 師繼(もろつぐ・花山院/藤原、内大臣/歌) H 4 4 4 3
妙光寺内大臣(みょうこうじないだいじん) → 家賢(いえかた・花山院、南朝廷臣/歌) 1 1 3 2
妙光寺内大臣家中納言(みょうこうじないだいじんけのちゅうなごん) → 中納言(ちゅうなごん) G 2 8 7 2
妙光寺内大臣母(みょうこうじないだいじんのはは) → 家賢母(いえかたのはは・藤原家定女) E 1 1 0 1
- K4166 **妙香尼**(みょうこうに;法諱/号;貞壽庵)?-? 江後期;尾張名古屋の歌人、
国学/歌;石橋知空ちくう(蘿窓/1814-1900)門
妙国院(みょうこくいん) → 日祝(にっしゅう;法諱、月蔵房、日蓮僧) D 3 3 9 7
妙極堂(みょうごくどう) → 浄嚴(じょうごん;法諱・覚彦、真言律僧) S 2 2 2 2
妙巖(みょうがん;字) → 亮範(りょうはん;法諱・妙巖、天台僧) J 4 9 2 8
妙巖(みょうがん;法諱) → 蓮体(れんたい;字、真言僧/説話集) B 5 1 2 6
妙佐(みょうさ;法諱) → 汝霖(じょりん;道号・妙佐;法諱、臨濟僧) M 2 2 9 0
妙在(みょうざい;法諱) → 此山(しざん;道号・妙在;法諱、臨濟僧) T 2 1 5 3
- G4138 **妙旨**(みょうじ;法諱) ? - ? 1580存 日蓮僧;早く父と死別し出家;下総飯高檀林修学、
一寺を領するも俗世に交わることを厭い道人となり若狭小浜に閑居;書画を業とす、
母に孝養を尽くす、「しづが苗代」編、京山科秀典寺の秀典日孟の書の師
妙子(みょうし・石井) → 元政(げんせい、日政、日蓮僧/詩歌) 1 8 2 3
明式(妙式みょうしき;法諱) → 千那(せんな;号、本願寺派僧、俳人) 2 4 3 6
妙慈院(みょうじいん) → 日運(にちうん;法諱、日蓮僧) 3 3 5 2
妙事院(みょうじいん) → 日礼(にちらい;法諱、日蓮僧) D 3 3 7 1
- G4139 **明実**(みょうじつ) ? - ? 平安後期の絵師、
1171後白河院宣で静賢法印が命じ「後三年合戦絵」制作(康富記;文安元1444閏六月記載)
明积(みょうしやく;法名) → 為世(ためよ・二条/御子左、歌人) 2 6 8 2
妙寂院(みょうじゃくいん) → 日深(にちじん;法諱、日蓮僧) C 3 3 5 1
妙寿(みょうじゅ、妙寿院) → 惺窩(せいか・藤原、儒者) 2 4 0 3
明珠院(みょうしゆいん) → 日成(にちじょう;法諱、日蓮僧) C 3 3 3 4
妙種院(みょうしゆいん) → 日詮(にっせん;法諱・回純、日蓮僧) E 3 3 7 5
- G4140 **明秀**(みょうしゅう;法諱・別法諱;光雲、赤松則村男?) 1403-87⁸⁵ 浄土宗西山派僧;円光門、

- 1450紀州梶取に浄土宗西山派総持寺を建立;紀州西山派の基礎を築く、1461「愚要鈔」、
「往生礼賛私抄」「四十八願鈔」「選撰集私鈔」「秘訣集抄」/1481「安養報身報土義」外著多数
- G4141 **明宗**(みょうしゅう;法諱、明顕男)1469-1540**餓死 72** 近江堅田真宗本福寺の生;父を継嗣;本福寺5世、
父と共に本願寺蓮如・実如・円如・証如に仕える、1507争乱を遁れた実如を護持随伴、
近江六角氏の弾圧による騒動で困却;一家衆顕証寺蓮淳の勘気を受け餓死、明誓の父、
「本福寺由来記」著/1538「本福寺明宗跡書」
- G4142 **妙春**(みょうしゅん;号・伊藤いとう/久保くぼ、名;亀)?-? 江初期、了慶(伊藤仁斎の祖父)の後妻、
「妙春宜人遺筆」著
明春(みょうしゅん;字) → 如幻(にょげん;法諱・明春、真宗僧) F 3 3 9 0
明俊(みょうしゅん;号) → 兼忠(けんちゅう;法諱、真宗僧) L 1 8 1 4
- G4143 **明順**(みょうじゅん;法諱、明誓男)?- ? 1564**存** 近江堅田真宗本願寺派本福寺7世;父6世を継嗣、
1564「教訓並俗姓」著、本福寺5世明宗みょうしゅうの孫
- H4129 **妙清**(みょうしゅう;法諱、号;壇、俗姓;田中/本姓;紀、棟清男)1239-1305**67** 石清水八幡宮別当家の生、
1247出家;石清水八幡祠官/53法印/78別当/79社務/80検校/85権大僧都、「書札礼言上書」
明昇(みょうしゅう;法号) → 氏頼(うじより・大森おおもり、武将) C 1 2 8 6
明正(みょうしゅう;法名) → 為教(ためり・京極きょうごく、京極家祖/歌) 2 6 7 0
妙祥(みょうしゅう;字) → 宥祥(ゆうしょう;法諱・妙浄、真言僧) C 4 6 4 5
妙性(みょうしゅう;法名) → 妙性禅尼(みょうしゅうぜんに、宮川/歌人) L 4 1 2 2
- H4130 **明貞**(みょうじょう;法諱) ? - ? 戦国期永正1504-21頃の天台僧;常陸月山寺住僧、
1513「教相義案立権乗下種」著
妙浄(みょうじょう;字) → 宥祥(ゆうしょう;法諱・妙浄、真言僧) C 4 6 4 5
明星庵(みょうじょうあん) → 慧胤(えいん;法諱、天台僧/詩人) U 1 3 1 1
- L4122 **妙性禅尼**(みょうしゅうぜんに、俗姓;宮川)?-? 江中期;尼僧、歌人;宮川松堅門、松堅の一族、
1722松堅[倭譚五十人一首]入、
[流れ行く螢とどめて夏草の露に磨がける玉川の岸](倭譚五十人一首;40/川螢)
明照大師(みょうしゅうだいし) → 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1
妙性宝覚禅師(みょうしゅうほうかくぜんじ) → 雄禅(ゆうぜん・宗虎、臨濟僧) D 4 6 2 8
- L4126 **明信**(みょうしん・禅忍房) ? - ? 鎌倉期;華嚴密教僧;明恵(高弁)門、
高山寺報恩院住、明恵上人歌集入、
[三加禅の草庵(高山寺奥の禅堂)で滝壺の光る氷を月光の形見と見る明恵の歌への返歌
滝壺の氷のみかは曇りなき心も月のかたみなるらむ](明恵歌集;108/師の澄心を詠)
- G4144 **明信**(みょうしん) ? - ? 江中期京の真宗本願寺派光隆寺住職、
性海(じょうかい(慈航))の研究を継続;1736「暮帰絵詞人物考」著(暮帰絵詞の登場人物の略解)
明心(みょうしん;法名) → 為教(ためり・京極きょうごく、京極家祖/歌) 2 6 7 0
明心(みょうしん;法名) → 良慶(りょうけい;法諱、浄土名越派二祖) H 4 9 2 0
明心(みょうしん・松永) → 貞徳(ていとく・松永、歌学者/俳人) 3 0 0 8
明信(みょうしん;字) → 浄慧(じょうえ;法諱、真宗高田派僧) H 2 2 1 2
- H4138 **明尋**(みょうじん) ? - ? 平安後期の僧/歌人、
1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」右方入(紀伊入道素意判)、
[秋の夜の月すみわたる山の端は立ち寄る雲のかげだにもなし]、
(千世君歌合;二番右4/閑山秋月)
妙親院(みょうしんいん) → 日英(にちえい;法諱、日蓮僧) 3 3 5 8
妙心院(みょうしんいん) → 日奠(にちでん;法諱・義道、日蓮僧) C 3 3 9 5
妙心院(みょうしんいん) → 日芳(にっほう;法諱、日蓮僧) F 3 3 5 6
妙心院(みょうしんいん) → 信政(のぶまさ・津軽、藩主/兵学/諸芸) D 3 5 2 9
- G4145 **妙瑞**(みょうずい;法諱・恵深えしん;号、俗姓;田淵)1696-1764**69** 讃岐三野郡真言僧;
同国威徳院慧了門、出家;高野山で修学/宝巖院住、大阪生玉南坊に転住、
高野山に帰山;如意輪寺住、中院・西院流;英同門/安祥寺流;維宝門/小島流;教栄門、
1743高野山真別処円通寺住持、大和久米寺・弘福寺・河内通宝寺兼務、
1743「五門一乘論」48「西国巡拝風土記」53「攘苻説」58「帝細鈔自考記」、「外宗雑録」著、

「憲深秘決」「三憲自行記」「妙瑞拔萃録」外著多数

- G4146 **妙瑞**(みょうずい;法諱) ? - 1787 江中期浄土僧:江戸増上寺妙譽定月門、宗義研鑽、1773武蔵鴻巣勝願寺34世住持/81下総飯沼弘経寺53世、1779「円頓菩薩戒誘蒙講義」、「浄土名目問答奮迅鈔」「東宗要備講」「東宗要講録」「東宗要玄談」「徹選択集私志記」著、[妙瑞の法名] 法蓮社性譽本阿大空
妙瑞(みょうずい;法諱) → 俊鳳(しゅんぼう;字・妙瑞、1714-87/浄土西山派僧) L 2 1 8 9
明随(みょうずい;法諱) → 未角(みかく、法諱;明随、真宗僧/俳人) 4 1 5 7
- G4147 **明誓**(みょうせい;法諱、明宗みょうしゅう男) 1491-1560 70 堅田真宗本願寺派本福寺6世;父5世を継嗣、「本福寺由来記」著(父の著を継承)、「明誓日記」著、明順みょうじゅんの父
明正(みょうせい、明心) → 為教(ためり・京極、歌人) 2 6 7 0
妙性(みょうせい;法名) → 妙性禪尼(みょうしゅうぜんに、宮川/歌人) L 4 1 2 2
妙清(みょうせい;法諱) → 妙清(みょうしゅう;法諱、社僧) H 4 1 2 9
明静院(みょうせいゐん) → 日浣(にちかん;法諱、日蓮僧) B 3 3 0 7
明静院(みょうせいゐん) → 日境(にちきょう;法諱・伝能、日蓮僧) B 3 3 3 0
明静院(みょうせいゐん) → 日堯(にちぎょう;法諱・空雅、日蓮僧) B 3 3 3 9
妙節(みょうせつ・稻垣) → 正雄(まさお・稻垣いなぎ、名主/天文暦学) N 4 0 7 0
- G4148 **明詮**(みょうせん;法諱、通称;音石僧都、大原石本男) 789-868 80 大和奈良の法相僧:元興寺施敵門、法相学を考究、849維摩会講師/元興寺で講師/850最勝会講師/金光明経講演、864大僧都、晩年大和音石山に隠棲、桜井王の孫、「因明四種相違記」「因明大疏導」「因明大疏裏書」著
- G4149 **妙千**(みょうせん;法諱) ? - ? 僧侶、連歌作者:菟玖波集;2句入、[月のしたなるあけぼのゝ山](菟玖波;雑1140/前句;舟出づる浦より遠の霧晴て)
- G4150 **明専**(みょうせん;法諱、金宝寺明誓男) 1603-52 50 京の真宗本願寺派金宝寺67世、1607(5歳)父没、1620(18歳)本山に出仕/金宝寺継承;諸国巡教/囚人救済に尽力、1639「紫雲殿由縁記」、「金竜子裁許録」著、[明専(;法諱)の別法諱/号]別法諱;光宗、号;式部卿
- G4151 **妙船**(みょうせん・立羽たちば、不角の妹)?-? 俳人、「続近世畸人伝」に逸話入
明暹(みょうせん;法諱) → 明暹(めいせん;法諱、興福寺僧/歌人) 2 3 2 5
明洗(みょうせん;法諱) → 姫岳(きやく;号・明洗、天台僧/俳人) J 1 6 8 4
- G4152 **明禪**(みょうぜん;法諱、参議藤原成頼男) 1167-1242 76 幼時叡山で出家;天台僧/東塔西谷林泉坊住、檀那流;顕真・智海門/台密法曼流;仙雲門、のち山城毘沙門堂住、法然「選択本願念仏集」により念仏を称讃;信空の浄土教白川門徒となる/法印、「述懐抄」、「行者大要鈔」「熾盛光雜抄」「吽迦陀野浴油作法」「伝法灌頂三摩耶戒初後夜式聞書」著、[明禪(;法諱)の通称]萩焼法印/林泉房法印/毘沙門堂法印/中納言法印
妙善(みょうぜん;法諱) → 則祐(そくゆう;法諱、赤松/源、武将/僧/歌) D 2 5 5 9
明仙院(みょうせんゐん) → 路子(みちこ・牧野まきの、藩主室/歌人) B 4 1 4 4
妙善院(みょうぜんゐん;号) → 富子(とみこ・日野、義政室/歌/連歌) O 3 1 8 1
妙禅房(みょうぜんぼう) → 亮潤(りょうじゆん;法諱、天台僧/大僧正) J 4 9 1 8
- G4153 **妙宗**(みょうそう;法諱) ? - ? 1364前没 僧侶;法師、歌人:新拾遺891、[あきらけき今夜の月にさそはれてむなしき空に今帰りぬる](新拾遺;哀傷891/辞世歌)、(詞書;九月十三夜にをはりを取りける時みづから書きける歌)
- G4154 **明増**(みょうぞう;法諱、通称;海西法竜) 1737-? 1811 存 肥後の真宗本願寺派僧;越中善巧寺僧鎔門、真宗学に精通/肥後の清台寺住職/国学;和讃の天爾遠波を詳説、1811浄土和讃を副講、1806「一念帰命真妄決」、「真宗法要撮要記」「浄土和讃講録」
妙相院(みょうそうゐん) → 縫(ぬい・正木まさき、歌人) 3 4 1 8
妙蔵院(みょうぞうじ) → 禅祐(ぜんゆう;法諱、社僧/連歌) N 2 4 1 7
妙蔵院(みょうぞうゐん;号) → 禅智(ぜんち;法諱・真満院、社僧/連歌) M 2 4 9 4
- G4155 **明尊**(みょうそん/めいそん;法諱、兵庫頭小野泰時男) 971-1063 長寿93歳 小野道風の孫、天台宗園城寺僧、智弁・智静・慶祚門、学識高く八宗総博士の称を受/1017権律師/1030園城寺長吏、1033権僧正/38園城寺長吏再任;大僧正/1047輦車の宣旨を受/48天台座主;山門寺門の対立で山門の反発により3日で辞任/1053牛車の宣旨を受/関白頼通の護持僧、

宇治平等院の執印/晩年は志賀寺に住、1060頼道主催九十の賀を受、歌;万代集入集、勅撰4首;新勅撰(580/581)続千載(930)続後拾遺(1094)、

[誰もみな仏のたねぞおこなはばこの身ながらもならざらめやは](新勅;580/返歌)、
(山科供養の導師のとき草木成仏を説いたのを聞き大僧都深観が詠んだ歌の返し、
贈歌は深観の項参照→ 深観(しんかん/じんかん、花山天皇皇子/真言東寺僧) D 2 2 7 4

[明尊(;法諱)の通称]志賀(大)僧正/円満院大僧正/真言房

妙体(みょうたい→みょうてい・長谷川)→ 妙貞(みょうてい・長谷川はせがわ、書家) G 4 1 6 0

妙諦(みょうたい;法諱) → 聖僕(しょうぼく;道号・義諦;法諱、臨濟僧) E 2 2 7 5

J4179 妙泰尼(みょうたいに;法諱・出口でぐち、) 1751-1838 88 美濃岐阜の出口保行の妻、歌人;冷泉為泰門、
出口治左衛門定行(1766-1829/歌/茶人)の母、
[妙泰尼の通称/号]通称;里歌乃、号;受樂院

妙沢(みょうたく;法諱) → 周沢(しゅうたく;法諱・龍湫りゅうしゅう;道号、臨濟僧) I 2 1 0 6

G4156 明達(みょうたつ;法諱、初法諱;直仁、号;蓮華院、俗姓;土師) ?-955 平安前期摂津住吉の天台僧;
薬師寺勝雲門;出家/天台止観;四天王寺尋仙門、顕密二教;叡山天台座主尊意門、
将門・純友の乱の鎮定を祈願;内供奉十禅師・権律師に任せらる、「智界私記」編、
「妙成就私記」「理界私記」「胎蔵界印事秘要」「両界図位」著

G4157 妙智(みょうち;法諱) ? - ? 僧侶、連歌作者;菟玖波集;恋2句入798/899

[その別れまで夢になりぬる](菟玖波;恋899/前句;月見ればうき人さへに思はれて)

明智(みょうち;字) → 盛誉(じょうよ;法諱・明智/華嚴僧) L 2 2 7 8

妙智院(みょうちいん) → 日覚(にちがく;法諱、日蓮僧) B 3 3 0 3

G4158 妙智尼(みょうちに;法号、姓;稻垣/名;諏訪子/すは子) 1795-1869 75 稻垣清房(歌人)の妻、
上州桐生の歌人、黒川春村・橋守部門、
1848「伊勢参宮紀行」63「川端の日記」、「法の道芝」著、

[妙智尼(;法号)の号]号;扇折女/壺珪園/連榮亭/機之舎はたのや/白子

妙智房(みょうちぼう) → 玄雲(げんうん;法諱、天台僧/声明家) H 1 8 8 0

明昶(みょうちやう;法諱) → 金山(きんざん;道号・明昶、臨濟僧) R 1 6 0 4

妙超(みょうちやう;法諱) → 宗峰(しゅうほう;道号・妙超;法諱、臨濟僧) Y 2 1 3 8

4142 妙椿(みょうちん;法諱・斎藤さいとう、名;利藤、斎藤利永男?) 1411-80 70 武将;美濃守護代/越前守;
土岐成頼の家臣/出家し法印・権大僧都、1467応仁乱歌で西軍に所属;出兵、
1468東常縁の郡上領を押領のち返還の逸話、連歌作者;専順・兼良・宗祇らを美濃に迎える、
「鎌倉大草紙」入/新撰菟玖波集3句入、

[妙椿(みょうちん;法諱)の通称/号]通称;帯刀左衛門/従三位法印、号;持是印、
道号;大年、法号;開善院権大僧都妙椿

明珍(みょうちん) → 宗安(そうあん・明珍/1408-78、甲冑師) 2 5 4 4

G4159 明通(みょうつう/めいつう;法諱、号;通阿彌) ?-? 1350 存 僧(法師);時宗?、時宗第二祖他阿上人と交流、
歌:1336足利尊氏勸進「住吉宝前法楽和歌」参/50「玄恵法印追善詩歌」出詠、
「類聚万葉」「和歌口伝抄(為家口伝)」など歌書伝来に関与、風雅集1550、
西園寺公衡「公衡公記」の正和四(1315)記事の明通房と同一か、
[空はまだ残る日かげのうす霧に露みえそめて庭ぞ暮れゆく](風雅;十五雑1550)
[此門も市をなす世にめぐりあひてこよひはなほや住吉の月](住吉法楽;85/通阿名)

G4160 妙貞(みょうてい・長谷川はせがわ、名;佐多) ?-? 京の書家;御家流修得;一家をなす;女筆妙体流、
1713「佐々礼石」14「難波津女筆」33「近江八景」「蟬小川」/34「女筆指南集」書、
1735「女筆続指南集」「女筆見寿耐の雪」書、35「女教文海智恵袋」「女筆しのすすき」著、
「女筆洛陽往来」「女筆岩根の松」「女筆春日野」書/1754「女教倭文庫」、外書・著多数、
[妙貞(;号)の別号] 妙体みょうてい/筆海子

妙適齋(みょうてきさい;号) → 蓮体(れんたい;字、真言僧/説話集) B 5 1 2 6

G4161 明伝(みょうでん;法諱) ? - ? 備中笠岡真宗本願寺派浄心寺住職、
1681「百通切紙」編/87「御伝決疑抄」、「真宗故実選要抄」著

妙田(みょうでん;法諱・知嗣) → 知嗣(ちし;道号・妙田、曹洞僧) E 2 8 3 0

G4162 妙藤(みょうとう;法諱) ? - ? 南北期貞治1362-680頃の僧(法師)/歌人、

- 1364?「新玉津島社三十首」参加、勅撰2首;新後拾遺1400/新統古今1637(新玉三十首の歌)、
[そむくぞとよそにはみれどいにしへのあらましほどは捨てぬ身ぞうき](新後拾;1400)
- 明榎(みょうとう;初法諱) → 金山(きんざん;道号・明禊みょうちゅう;法諱、臨濟僧) R 1 6 0 4
- G4163 明幢(みょうとう;法諱・桂巖けいがん;道号、号;見桃) 1627-171084 信州松本の黄檗僧:丹波一絲文守門、
佐賀藩主鍋島光茂の招聘で肥前高城寺住寺、1667即非如一門;嗣法、
1667肥前鹿島藩主鍋島直朝の招聘で肥前藤津郡福源寺住持、
1677肥前鹿島藩主菩提所普明寺を開山、1685医徳寺住寺/94土佐嘉郡円珠寺住;没、
「普明寺桂巖和尚開堂語録」「普明寺桂巖禪師語録」著
- G4164 妙童(明幢みょうとう;道号・智巖ちごん;法諱)?-1736 曹洞僧:月舟宗胡門;法嗣、1699美濃天徳寺住持、
退隠後美濃齊宮寺開山、「妙童智巖和尚語録」著
- G4165 明道(みょうとう;道号・宗詮そうせん;法諱) 1738-9659 武蔵の臨濟僧:貫岑義文門;法嗣、
1786京の大徳寺400世、武蔵広徳寺住持/江戸品川東海寺輪番、「明道詮禪師遺稿」
- G4166 明道(みょうとう;法諱・宜然;字) 1762-? 1803存 真言僧:高野山正智院覚道門;勘気蒙り上京、
のち華嚴修学;経歴門、文政1818-30頃山城の海印寺住、「機教相応門安」「文義綱目」、
「妄尽還源観玄談」「明算流伝受聖教目次」「華嚴孔目一乗唯識章」「海印懸談」外著多数
- 明道(みょうとう;法諱) → 通方(つうほう;道号・明道、臨濟僧) 2 9 4 4
- 明道(みょうとう) → 慈性親王(じしょうしんのう、天台座主/日記) T 2 1 8 6
- 明洞(みょうとう;法諱) → 法雲(ほううん;道号・明洞、黄檗僧) D 3 9 8 4
- 妙道院(みょうどういん) → 日悟(にちご;法諱、日蓮僧) B 3 3 7 2
- 妙道院(みょうどういん) → 日霽(にちてん;法諱・慈成、日蓮僧) C 3 3 8 7
- 明堂古鏡禪師(みょうどうこきやうぜんじ) → 紹瀹(しょうやく;法諱・一凍;道号、臨濟僧) L 2 2 0 3
- 明道上人(明導みょうどうしやうにん) → 照源(しょうげん;法諱、天台学僧) I 2 2 5 3
- 明篤(みょうとく/みんとく;法諱) → 信仲(信中しんちゅう;道号・明篤、臨濟僧) 2 2 6 1
- 妙篤(→明篤みょうとく) → 信仲(信中しんちゅう;道号・明篤;法諱、臨濟僧) 2 2 6 1
- 明如上人(みょうによしやうにん) → 光尊(こうそん・大谷おおたに、西本願寺法主) Q 1 9 5 2
- F4107 明忍(みょうにん;法諱、俗姓;中原/字;俊正、中原泰雄男) 1576-161035 京の真言僧;
1582(7歳)高尾の晋海門、律師、1602兵火で焼失の槇尾西明寺を再興、「自誓得戒の教」著
- 明忍房(みょうにんぼう) → 釵阿(けんあ/けんな・明忍房、真言僧) B 1 8 1 6
- 4143 妙葩(みょうは;法諱・春屋しゅんおく;道号、俗姓;平、夢窓疎石甥) 1311-8878 甲斐の臨濟僧;叔父夢窓門、
甲斐恵林寺道満門/京の等持寺天竜寺等歴住、1379南禅寺39世、天下僧録司;日本禅宗最初、
国師号を受/相国寺創建尽力;1384夢窓が相国寺勸請開山/春屋は2世、
五山文学;天竜寺版多数刊行、鹿応院で没、詩文に秀づ、「智覚普明国師語録」「雲門一曲」、
1354「夢窓国師語録」編/「夢窓国師年譜」「西山夜話」編、「普明国師陞座法語」、菟玖波2句入、
[春屋妙葩の号] 芥室/不軽子/西河潜子、智覚普明国師、
- 命婦(みょうぶ・鴨脚) → 昭子(あきこ・鴨脚いちろう、女官/日記) D 1 0 3 5
- G4167 命婦乳母(みょうぶのめと、本名;源憲子、加賀守源兼澄女)?-? 母;藤原相如女、木工頭藤原周頼の妻、
陽明門院禎子[1013-94]の乳母、1013三条天皇の土御門第行幸の賞として従五下、
歌;後拾遺540(1027枇杷皇太后宮三条后妍子けんし葬送の夜の詠歌)、公任集・栄花物語入、
[などでかく雲隠れけむかくばかりんどかに住める月もあるよに](後拾遺;哀傷540)
- [命婦乳母(;女房名)の別名]大輔乳母、慶増の母
- G4168 明遍(みょうへん;法諱・入仏;字、信西藤原通憲男) 1142-122483 真言僧:1159平治の乱で父に連座;
越後配流、赦免後法東大寺東南院で修学/三論・密教;敏覚・明海門、承安171-75頃法然門;
浄土教を修学、高野山蓮華谷に蓮華三昧堂創建、高野蓮花谷聖の祖;後の高野歌念仏の礎、
蓮華三昧堂内の居所は[御庵室]と称され高野聖の本寺の觀を呈する、一言芳談入、
「往生行儀」「五念門頌」「念仏往生得失義」著、「法然上人行状画図」に法然との問答、
法然門下の[道心義]に数えられている、「有智の道心者」と称される、
[明遍(;法諱)の号] 空阿弥陀仏(空阿)/蓮華谷僧都、
- 兄弟;俊憲/貞憲/成範/修範/静賢/澄憲/勝憲など
- 妙法院法印(みょうほういんのほういん) → 経賢(きやうけん;法諱、僧/歌人) C 1 6 4 1
- 妙法院宮(みょうほういんのみや) → 覚胤親王(かくいんしんのう、天台座主/連歌) J 1 5 4 6

- 妙法院宮 (みょうほういんのみや) → 常胤親王(じょういんしんのう、天台座主/連歌) F 2 2 2 4
 妙法院宮 (みょうほういんのみや) → 眞仁法親王(しんにん/まさひとほっしんのう、天台座主/日記) P 2 2 5 5
 妙法房 (みょうほうぼう) → 快修(かいしゅう、天台座主/歌/俊成兄) B 1 5 0 6
 妙法房 (みょうほうぼう) → 日現(にちげん; 法諱・仏寿院、日蓮僧) B 3 3 6 7
 明満 (みょうまん) → 行道(ぎょうどう; 法諱、木食上人、遊行僧) O 1 6 3 5
 妙々庵 (みょうみょうあん) → 寒涯(かんがい・井田いた、庄屋/俳人) Q 1 5 0 6
 猫々道人 (みょうみょうどうじん) → 魯文(ろぶん・仮名垣、滑稽本) C 5 2 4 1
- G4169 妙融 (みょうゆう; 法諱・無著むぢやく; 道号、諡号; 真空禪師、日野能光男) 1333-9361歳 日野資実の曾孫、
 父が大隅配流時に誕生、曹洞僧; 日向大慈寺剛中玄柔門; 出家、無外円照の法嗣;
 師の跡継嗣し日向皇徳寺住持、のち美作太平寺・肥前医王寺・豊後泉福寺を開山;
 豊後泉福寺に没、「無著禪師語要」「参同契宝鏡三昧註」著
- 妙融 (みょうゆう; 剃髮後) → 捨女(すてじよ・田、貞閑尼、俳人) 2 3 1 6
 明猷 (みょうゆう) → 明猷(めいゆう、社僧/連歌作者) 4 3 4 3
 明融 (みょうゆう) → 明融(めいゆう、鎌倉期法師/歌人) 4 3 6 3
 明融 (みょうゆう) → 明融(めいゆう、荷月斎、時宗僧/歌人) 4 3 4 4
 明誉 (みょうよ・曜蓮社; 法名) → 如禪道人(にょぜんどうじん、浄土僧/書画) G 3 3 0 5
 妙誉 (みょうよ・観蓮社) → 定月(じょうげつ; 法諱、浄土僧; 大僧正) I 2 2 3 3
 妙用院 (みょうよういん) → 日運(にちうん; 法諱、日蓮僧) 3 3 5 1
 妙用院 (みょうよういん、妙有院みょうゆういん) → 日叡(にちえい; 法諱、日蓮僧) 3 3 6 3
 妙雷 (みょうらい・苗村) → 貞信(ていしん・苗村なえむら/駒井、国学) F 3 0 1 8
 妙立 (みょうりゅう; 字) → 慈山(じざん; 法諱・妙立; 字、天台律僧) M 2 1 4 0
 妙竜 (みょうりゅう; 法諱) → 諦忍(たいにん; 字・妙竜; 法諱、浄土僧/真言律) C 2 6 0 4
 妙竜院 (みょうりゅういん) → 日静(にちじょう; 法諱、日蓮僧) C 3 3 3 3
 明倫 (みょうりん) → 澄融(ちようゆう、天台僧/声明) K 2 8 0 0
- G4171 命蓮 (みょうれん) ? - ? 平安前期9-10c 信濃の僧/信貴山の修行聖、
 奇蹟譚; 古本説話・宇治拾遺入、「信貴山縁起絵巻」(作者不詳)の主人公; 三つの奇蹟
 蓮妙 (みょうれん; 字) → 寂黙(じやくもく; 法諱・蓮妙; 字、真言僧) W 2 1 2 2
 明蓮社光誉 (みょうれんしゃこうよ) → 一空(いっくう; 法諱・光誉、浄土僧) G 1 1 9 1
 名蓮社号誉称阿 (みょうれんしゃごうよしゅうあ) → 徳本(とくほん、浄土僧) L 3 1 4 6
- G4172 美瓊子 (みよこ・島田しまだ) ? - ? 江後期狂歌作者; 大田南畝門、
 1806南畝「ひともと草」狂文2編入
- E4129 みよし (; 組連) ? - ? 江戸黒船町の雑俳の組連、取次; 1739収月評万句合入、
 取次例; [よい人と言はるゝものは金持たぬ](前句; 野にも山にも々/草庵の隠者か)
 三芳野檢校 (みよしのけんぎょう) → 順義(ゆきよし・沼田、医/国学/歌) 4 6 2 7
- G4173 三四助 (みよすけ・並木なみき) ? - ? 江後期歌舞伎作者; 初世五瓶門、番付/1790-合作、
 1799「雪国嫁威容ゆきのなどころよめおどしだに」(; 万作と)/1801「新玉万歳台」
- 4144 三依 (御依みより・大伴宿禰おおとものすくね、御行みゆき男) ?-774 奈良中期廷臣; 748従五下/主税頭/三河守、
 仁部[民部]少輔/遠江守/義部大輔/出雲守を歴任/770従四下/774散位で没、
 神亀末-天平初に旅人の配下として筑紫住、
 万葉三期4首; 四552/578/650/690/556(題詞入)、
 万葉1434の歌; 三林(みはやし)/819の歌; 大伴大夫(おおとものまへつきみ・梅花宴参加)も三依か?、
 [我が君はわけをば死ねと思へかも逢ふ夜逢はぬ夜二走ふたはるらむ](万葉; 相聞552)、
 (我が君はここは女性; 賀茂女王か/わけは若輩の戯笑的用法/二走るは交互に過ぎる)
- H4107 御依 (みより・紀き) ? - ? 平安期嵯峨廷臣/漢詩人;
 嵯峨御製「河上落花詞」に奉和; 菅原清公[770-842]/滋野貞主[785-852]らと奉和;
 (「雑言奉和さつげんほうわ」入)
- H4193 美順 (みより・福田ふくだ) ? - ? 江後期; 歌人、福田美楯みたての一族?、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [かくばかり歎くもあやなあかつきのかねて思ひし別れならずや](大江戸倭歌; 恋1455)
- 4145 未雷 (みらい・滄浪亭そうろうてい; 号、通称; 鉄屋喜右衛門、一知男) ?-1739 筑前博多俳人; 1703野坡門、

- 野坡の九州行脚の度に交流、1707「青蜜柑」著、追善集「ぬれ若葉」(；素蝶編)、父も俳人、
妻も俳人 → 滄浪亭まん尼(そうろうていまんに) D 2 5 2 9
- 味頼(みらい・小杉) → 一笑(いっしょう・小杉こすぎ、俳人) B 1 1 4 9
- 未来居士(みらいこじ) → 来山(らいざん・小西、俳人) 4 8 0 1
- 未来坊(みらいぼう) → 月巢(げっそう・山村、医/俳人) B 1 8 1 2
- 4146 味両(みりょう・市石いつし) ? - ? 若狭小浜の俳人；1687尚白「孤松ひとつまつ」入、
1690言水「新撰都曲」4句入；[妹(いも)よびて肩うたせけり春の雨]
- 4147 未竜(見竜みりゅう・柳下泉) ?- ? 江戸本所住の狂歌作者、1770「柳の下」編
- 4148 未両(みりょう・平井ひらい、名；一益、平井一快[其両]男) ?-? 江後期筑前篠栗の俳人/福岡藩士、
1793父3忌追善「さゝ栗の露」；弟其朝と共編
父 → 其両(きりょう・久野/平井一快、藩士/俳人) H 1 6 6 9
弟 → 其朝(きちょう・磯辺/平井、俳人) L 1 6 3 4
- 4149 未了(みりょう・安崎やすさき) ? - ? 阿波の俳人、1666「阿波千句」百韻入、76一雪「言之羽織」入
- L4125 海松子(みること・石野) ? - ? 江中期；歌人、石野広通の一族、
歌；広通「霞関集」作者目録入
- H4131 未練(みれん) ? - ? 江前期浮世草子/八文字自笑の代作者；
1715「風流証やさ平家」「義経風流鑑」著、
風瓢子と同一? → 風瓢子(ふひょうし、浮世草子) B 3 8 0 0
身祿(みろく・食行) → 食行身祿(じきぎょうみろく、伊藤伊兵衛/神道家・富士講) G 4 1 7 4
弥勒寺法印(みろくじほういん) → 成清(せいせい、法諱、社僧/歌人) T 2 2 3 5
- I4136 三輪(みわ・大倉おおくら、鷲夫女) 1820-? 母；左知子、土佐高知通町の商家[蔵屋]の生、
歌人；父大倉鷲夫門、鹿持雅澄門、1822(文政5)一家は大坂住/父は観相売ト業に転ず、
同地の清水某と結婚、1876(明治9)頃高知通町の大倉常三郎の元に娘千代と共に寄寓；
手習いを教授、のち大坂に帰住
- L4109 弥若(みわか・東門院or東南院) ?- ? 南北期；南都の童、歌人、
1237刊「檜葉集」2首入(735；東門院弥若/827；東南院弥若)；興福寺東門院・東大寺東南院、
[配所に侍りける人のすみはつべくもなきよし申しつかはしたりける返事に、
なにかいふいづくもかりのやどなればうきよのうちはなれやはする]、
(檜葉；雑童735/東門院弥若)
- J4180 三和子(みわこ・勅使河原てしがわら、別名；三輪女) ?-1818 信濃飯田の歌人；桜井知栄尼門、
歌；加藤千蔭・村田春海門
- I4187 三輪子(みわこ・菊池きくち、旧姓；清家) 1804-65 62 伊予風早郡喜木村の庄屋に嫁ぐ、歌人、
武胤(1830-1883)の母
三輪上人(みわしょうにん) → 宝篋(ほうきょう；法諱、真言僧) 3 9 4 3
三輪助(神助みわすけ・津田) → 正生(まさなり・津田つだ、商家/地誌家) F 4 0 4 0
三輪助(みわすけ・津田) → 穂積(ほづみ・津田、正生男/国学/神職) G 3 9 2 6
三輪蔵(みわぞう・賀集) → 惟一(これかず・賀集かお、製陶/国学) Q 1 9 6 1
- H4104 三輪杉門(みわのすぎかど) ? - ? 狂歌；1787「才蔵集」3首入；
[我が伽をしてくれかゝる秋の日にかならず後のちもまつむしの声]
三輪の舎(みわのや・太田) → 満穂(みつほ・太田おた、藩士/神職/国学) I 4 1 5 0
三輪丸(みわまる) → 円松(えんしょう；法諱・岩谷いわや、僧/歌) T 1 3 9 0
- G4175 旻(みん、日文) ? - 653 大和期；渡来系学者、608-632隋唐留学、
帰国後「易経」教授、645国博士；高向たかむこ黒麻呂と改新制度推進
民阿(みんあ・安蓮社) → 靈応(れいおう；法諱、浄土僧) 5 1 1 4
珉庵(みんあん・須田) → 仲之(なかゆき・須田すだ/河野、藩医/歌) N 3 2 4 6
眠庵(みんあん・藤田) → 川面(かわも・宮戸みやとの/唯我堂、狂歌) H 1 5 9 0
民彝(みんい・宇和屋/遠近) → 鶴鳴(かくめい・遠近とおちか、商家/儒者) K 1 5 4 9
民一(みんいち・中村) → 民一(たみかず・中村なかむら、歌人) Y 2 6 6 4
眠雲(みんうん・本間) → 遊清(ゆうせい、清清ゆうせい・本間、医・国学・歌) 4 6 0 5
眠雲跂石(みんうんきせき) → 親教(ちかのり・今中いまなか/秦、藩士/国学) M 2 8 1 1

- 眠雲山房(みんうんさんぼう) → 同齋(どうさい・朝川、儒者) E 3 1 4 4
- G4176 珉恵(みんえ:法諱) ? - ? 江後期1804-18頃武蔵児玉郡共和村の曹洞宗長泉寺住僧、1806「真福寺由緒記」著
- K4164 珉瑛(みんえい:法諱、俗姓;梁崎) 1805-5450 近江滋賀郡の天台僧/園城寺権僧正探題職、聖護院宮の侍講、歌人;[鳩のうみ]入
- G4177 眠翁(みんおう・平田ひらた、名;知足、小林利延男) 1807-8276 因幡若桜藩侍医平田金牙の養嗣子、因幡岩井郡矢谷村の医者・本草家;上京し水野皓山門/山本亡羊・錫夫父子門、1843若桜藩主池田定保の侍医/江戸参勤の時に歌;斎藤彦麿門、1847致仕、鳥取で医開業、1852鳥取藩薬園掛/維新後鳥取県医学校教授、1849「薬性提綱」53「物名類聚和訓抄」著、1856「薬品発蒙」編、60「因伯産物薬効録」64「校正薬品阿手引草抄」、「保赤漫筆」著、[眠翁(;号)の通称/別号]通称;榮/景韶/景順、別号;仁則/慎微堂、
- 眠鷗(眠翁みんおう・伊勢) → 茂興(しげおき・伊勢/沢、農業/和漢学) B 2 1 9 8
- 眠鴨(みんおう・広沢) → 安任(やすとう・広沢ひろさわ、藩士/牧畜) C 4 5 2 0
- 明遠(みんおん・俊哲) → 明遠(みんおん:道号・俊哲、臨濟相) G 4 1 8 4
- G4178 眠我(みんが:号) ? - ? 江中期俳人:蓼太門:妻未知代[美知女]も同門、1765自邸に師蓼太を招聘し妻と三吟:1766「十牛図」編
- 参照 → 未知代(みちよ、美知女、眠我の妻/俳人) C 4 1 8 0
- 岷岳(みんがく・橋本) → 慎三(しんぞう・大橋おおはし/橋本、土佐勤王党) P 2 2 2 8
- 明極(みんきょ:道号) → 楚俊(そしゆん;法諱・明極、臨濟渡来僧) D 2 5 8 4
- 眠牛(みんぎゅう)
- 眠牛(初世めんぎゅう・増田、俳人) 4 3 5 2
- 眠牛(3世めんぎゅう・増田、俳人) 4 3 5 3
- 眠牛(みんぎゅう・大野) → 春彦(はるひこ・大野おおの、酒造業/国学) J 3 6 8 5
- 眠居(みんきよ・みんご) → 忠旧(ただひさ・小川おがわ、神職/国学) V 2 6 9 6
- 民興(みんきょう・水野) → 陸沈(りくちん・水野みずの、藩士/儒/尊王) 4 9 7 9
- L4104 眠空(みんくう:号) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]入、[世は終にありもはてなんいづくとも人のしらぬを隠家にして](麓の塵;雑584)
- 民卿(みんけい・奥田) → 橘園(きつえん・奥田おくだ、儒者) L 1 6 4 1
- 民卿(みんけい・伊藤) → 両村(りょうそん・伊藤/池田、里正/儒者) I 4 9 7 5
- 眠軒(みんけん・保岡) → 嶺南(れいなん・保岡/安岡やすおか、藩儒官) 5 1 6 0
- 眠軒(みんけん・保岡) → 川荘(せんそう・保岡、嶺南男/藩儒者) G 2 4 2 7
- G4179 莨乎(みんこ・杳掛くつかけ、名;保章、別号;明々齋) 1767-183367 信濃小県郡上塩尻の農業、傍ら寺子屋師匠、俳人:冬瓜坊支元門、1799岩鼻崖下に去来の句碑建立、1800「巖端集」編、参照;上塩尻の先輩俳人 → 眠郎(みんろう・佐藤、1711-84/俳人) G 4 1 9 6
- 民興(みんきょう・水野) → 政和(まさかず・水野、鋳物師/和算家) B 4 0 7 7
- G4180 岷江(みんかう・橋たかはな、名;正敬/正敏) ?-? 大阪の絵師/初め縫箔師/のち浮世絵師、江戸住、滑稽本・読本の挿絵;吹きぼかしの彩色、1765「小夜時雨」69「郭中奇譚」70「彩画職人部類」、1771「阿艶草紙」「操双紙」82「嫩草紙」、「岷江画帖」「弄花唇言」画
- [岷江(;号)の別号] 玉樹軒
- 岷江(みんかう・梶山) → 主水(もんど・梶山かじやま、藩家老/和算) I 4 4 3 5
- G4181 岷谷(みんこく・甲斐かい、名:愨、石安男) 1772-182655 名古屋生、父は美濃大垣の人で名古屋で医業、儒;関元洲門/尾張藩校明倫堂で細川平洲門、尾張藩に出仕;典籍本役、詩人、名古屋に来た岷之(歌舞伎役者)・谷風(力士)に因み岷谷と号す、「岷谷詩集」「鷄窓偶吟」、[岷谷(;号)の字/通称]字;士誠、通称;楨之丞/清太夫
- 眠齋(みんさい) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、麦阿、俳人) D 4 9 3 3
- 眠齋(みんさい・梅本) → 敏鎌(とがま・梅本うめもと/岡田、売薬/歌) U 3 1 3 6
- 珉齋閑人(みんさいかんじん) → 二三治(にそうじ・三升屋、歌舞伎作者) 3 3 0 2
- 岷山(みんざん・中江) → 岷山(びんざん/みんざん・中江、儒者) 3 7 3 4
- 眠山(みんざん・松平) → 乗富(のりとみ・松平まつだいら/源、幕臣/国学) F 3 5 2 5
- 珉山(みんざん) → 鄰松(りんしょう・鈴木/藤原、船橋、幕臣/絵師) K 4 9 4 7
- 珉山(みんざん・塩沢) → 亮雄(すけお・塩沢しおざわ/竹村、庄屋/歌) I 2 3 5 8

- 珉子(眠獅みんし:俳名) → 雛助(初世ひなすけ・嵐、歌舞伎役者/俳) E 3 7 2 8
 珉子(みんし:俳名・叶) → 小六(四世ころく・嵐、雛助男/歌伎役者) E 1 9 6 3
 民之(みんし/たみゆき・桑原) → 桂叢(けいそう・桑原くわばら、絵師) G 1 8 2 8
 民司(みんじ・新渡戸) → 維民(これたみ・新渡戸にとべ、藩士/兵学) O 1 9 4 8
 民治(みんじ・杉) → 梅太郎(うめたろう・杉すぎ、藩士/教育) D 1 2 3 8
 銀治(みんじ・宮崎) → 曩宗(ひさむね・宮崎みやざき、国学者) L 3 7 4 4
 眠獅堂(みんしどう) → 常春(じょうしゅん・服部はつとり、俳人) T 2 2 1 0
 G4182 眠松(みんしょう) ? - ? 京の俳人;1680自悦「洛陽集」入
 民親(みんしん・恩田) → 木工(もく・恩田おんだ、藩士/財政改革) 4 4 6 3
 民声(みんせい・大原) → 東野(とうや・大原おほら、絵師/博物学) H 3 1 5 0
 民生(みんせい・幸田) → 光潤(みつひろ・幸田こうだ/度会、神職/国学) J 4 1 0 8
 G4183 岷雪(みんせつ・河村かわむら、名;君錫)?-? 1767存 江戸の絵師/葛飾住;旅の行脚、富士を描く;
 葛飾北斎の富嶽三十六景に影響を与えたか?、1767「百富士」画、
 [岷雪(;号)の字/別号]字;類之、別号;黙二庵/山路道輔/神立愚鈍
 明叟(みんそう:道号・彦洞) → 彦洞(げんどう;法諱、臨濟僧) C 1 8 7 9
 民則(みんそく・安井) → 金竜(きんりゅう・安井やすい、藩士/儒者) J 1 6 0 8
 民則(みんそく・高橋) → 呂川(ろせん・小有軒、庄屋/俳人) C 5 2 0 6
 民村(みんそん・小松) → 有隣(ありちか・小松こまつ、名主/国学/歌) H 1 0 5 0
 眠存義(みんそんぎ・馬場) → 存義(初世ぞんぎ・馬場ばば、俳人) E 2 5 7 3
 G4170 明兆(みんしょう;法諱・吉山きつさん;道号) 1352-1431 80 淡路の臨濟僧/絵師;淡路安国寺大道一以門、
 仏道より画事に専念し一破門;自嘲的に[破草鞋]と号す/1356師大道に随い東福寺入、
 僧位は殿主です(仏殿管理)[通称;兆殿主]、北宋李竜眠の画法を修得し寺院専属の絵師;
 將軍義持より支援、禅宗仏画の中心、1383-88「五百羅漢図」1394「大道一以像」、
 1404普明国師像」08「大涅槃図」、「聖一国師(円爾)像」「寒山拾得図」「白衣観音図」外画多数、
 [吉山明兆の通称/号]通称;兆殿主ちようです、号;破草鞋はそうあい
 民丁(みんちよう/みんてい:初号・貴志) → 沾洲(せんしゅう・貴志きし、俳人) F 2 4 8 8
 民聴(みんちよう・宮脇) → 政成(まさなり・宮脇みやわき、郡代/詩歌人) T 4 0 0 4
 眠亭(みんてい・越智) → 古声(こせい・越智、俳人) D 1 9 0 7
 眠亭賤丸(みんていしずまる) → 川柳(4世せんりゅう、人見周助/雑俳点) 2 4 4 2
 眠亭賤丸(2世みんていしずまる) → 賤丸(2世しずまる・眠亭、川柳作者) M 2 1 3 0
 H4144 民道(みんどう) ? - ? 江中期俳人;1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 [北に貴布根鼻からさゆる嵐哉](伊丹発句合;冬)
 明篤(みんとく;法諱) → 信仲(信中しんちゅう;道号・明篤、臨濟僧) 2 2 6 1
 民徳(みんとく・小川) → 含章(がんしょう・小川おがわ、儒者) R 1 5 0 8
 明庵(みんなん;道号・榮西) → 榮西(えいさい;法諱・明庵、臨濟宗祖) 1 3 0 3
 民入(みにいゅう・宮脇/宮腰) → 忍斎(にんさい・宮川、兵学/軍記作者) G 3 3 3 9
 民年庵(みんねんあん) → 広海(ひろみ・益岡ますおか、国学者) K 3 7 9 9
 G4184 明遠(みんのん:道号・俊哲しゅんてつ;法諱) 1386-1455 70 伊予の臨濟僧:若くして上洛;絶海中津門、
 嗣法、近江金剛寺住持/京等持寺住持/1443相国寺57世;入寺なし、相国寺勝定院住、
 「芙蓉冊」編
 民表(みんびよう・小野) → 損庵(そんあん・小野おの、藩士/儒/詩文) B 2 5 4 4
 G4185 民部(みんぶ) ? - ? 平安前期女房/歌人:956坊城右大臣殿(師輔)歌合参加、
 [ほりおける心からにや池水の水底さへはめでたかるらむ](坊城右大臣歌合;右18)
 G4186 民部(みんぶ・氷室むむろ) ? - 1728 江前中期尾張津島神社神主、1712「正徳註進記」著、
 [民部(;通称)の別通称]民部大輔/左兵衛
 民部(みんぶ・井上) → 正岑(まさみね・井上、藩主/幕政) H 4 0 7 1
 民部(みんぶ・畠山) → 休山(きゅうざん・畠山はたけやま、幕臣) M 1 6 6 4
 民部(みんぶ・跡部) → 良隆(よしたか・跡部あとべ、幕臣/歌人) D 4 7 9 5
 民部(みんぶ・菅沼) → 定忠(さだただ・菅沼すがぬま、幕臣/歌人) P 2 0 8 5
 民部(みんぶ・山方) → 泰護(やすもり・山方やまがた/真崎、藩家老) D 4 5 3 1

民部(みんぶ・今枝) → 直恒(なおつね・今枝いまだ/日置、藩家老) L 3 2 2 0
 民部(みんぶ・今枝) → 近義(ちかよし・今枝いまだ、直恒男/家老/国学) C 2 8 1 8
 民部(みんぶ・今枝) → 直方(なおかた・今枝、近義の養嗣/家老/国学/詩) 3 2 8 8
 民部(みんぶ・檜垣/足代) → 弘氏(ひろうじ・足代/度会、神職/俳人) F 3 7 5 6
 民部(みんぶ・保科) → 正興(まさおき・保科ほしな、家老) B 4 0 4 7
 民部(みんぶ・吉良) → 義弥(よしみつ・吉良さら/源、幕臣/高家) K 4 7 3 6
 民部(みんぶ・小笠原) → 持易(もちやす・小笠原おがさわら、幕臣/故実) B 4 4 7 5
 民部(みんぶ・山田) → 昌巖(しょうがん・山田、藩家老/記録) H 2 2 8 4
 民部(みんぶ・石川) → 宗弘(むねひろ・石川いしかわ、邑主/治水対策) C 4 2 4 0
 民部(みんぶ・山根) → 信満(さねまる・山根やまね、神職/国学) L 2 0 3 4
 民部(みんぶ・宮脇/宮腰) → 忍斎(にんさい・宮川、兵学者/軍記作者) G 3 3 3 9
 民部(みんぶ・内藤) → 政樹(まさき・内藤、藩主/算学/俳) C 4 0 2 1
 民部(みんぶ・水野) → 守俊(もりとし・水野みずの、藩士/文筆家) F 4 4 9 3
 民部(みんぶ・板垣/春原) → 信直(のぶなお・出雲路[寺]いづもじ、神職) C 3 5 4 7
 民部(みんぶ・細川) → 重賢(しげかた・細川/源、藩主/詩/武芸) C 2 1 0 6
 民部(みんぶ・竹腰) → 正武(まさたけ・竹腰たけのこし/石河、藩主/歌) D 4 0 3 4
 民部(みんぶ・松木) → 卓彦(つねひこ・松木まつき/度会、神職) D 2 9 3 1
 民部(みんぶ・松木) → 言彦(のぶひこ・松木、卓彦男/神職) C 3 5 8 9
 民部(みんぶ・磯野) → 政武(まさたけ・磯野/源/平塚、幕臣/歌) D 4 0 3 5
 民部(みんぶ・栗田) → 土満(ひじまる・栗田、神職/国学/歌) 3 7 0 7
 民部(みんぶ・伊藤) → 道保(みちやす・伊藤いとう、神職/国学者) C 4 1 7 3
 民部(みんぶ・井上) → 頼正(よりまさ・井上いのうえ/源、医者) J 4 7 7 6
 民部(みんぶ・不破) → 惟益(これます・不破ふわ、神職/神道家) O 1 9 2 9
 民部(みんぶ・逸見) → 義広(よしひろ・逸見へんみ、神職) G 4 7 7 1
 民部(みんぶ・元木/畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/修姓; 銭、医者/儒) J 1 5 9 1
 民部(みんぶ・森) → 暉昌(てるまさ・森もり、神職/国学) C 3 0 9 2
 民部(みんぶ・畑) → 鶴山(かくざん・畑はた/銭/元木、医者/儒) J 1 5 9 1
 民部(みんぶ・片桐) → 宗幽(そうゆう・片桐かたざり、幕臣/茶人) J 2 5 0 3
 民部(みんぶ・伊達) → 宗充(むねみつ・伊達だて、領主/民政) D 4 2 9 2
 民部(みんぶ・宇都宮) → 安浦(やすうら・宇都宮うつのみや/渡部、神職) F 4 5 3 8
 民部(みんぶ・疋田) → 千益(ちます・疋田/匹田ひきた、医/歌人) F 2 8 4 0
 民部(みんぶ・前田) → 利寛(としひろ・前田まだ、藩主男/和学) W 3 1 4 2
 民部(みんぶ・佐草) → 文清(ふみきよ・佐草さくさ、神職/国学) I 3 8 2 8
 民部(みんぶ・大西) → 有定(ありさだ・大西おにし/岡本、神職/絵師) H 1 0 2 8
 民部(みんぶ・水原) → 立華(りっか・号・水原、祈祷師/教育) B 4 9 6 3
 民部(みんぶ・町田) → 久成(ひさなり・町田まちだ/藤原、藩士/官僚/儒/僧) L 3 7 0 1

G4187 民部卿(みんぶきょう・後一条関白家いちじょうかんぱくけ、藤原光俊[真観1203-76]女) ?-? 鎌倉中期女房歌人、
 関白藤原実経家女房/近衛兼経(岡屋入道)家の女房、1251建長三年閑窓撰歌合参加、
 1256前内大臣基家百首歌合(典侍親子と参加)、勅撰2首; 続古今1506/新続古356、
 定円・鷹司院帥・典侍親子しんしの姉妹、雲葉集入(前撰政治家民部卿名)
 [民部卿(; 女房名)の別通称]一条関白家民部卿、関白家民部卿(; 続古今集)、
 岡屋入道前撰政治家民部卿おかのにゅうどうさきのせつしょうけのみんぶきょう(; 新続古今集)、
 [見たたびにあはれ心のなぐさめみてうきにまぎれぬ花の色かな]、
 (続古今; 1506/基家百首歌合; 245番左489)
 [さしもやは身にもしみける秋の立つ気色ばかりの萩のうは風]
 (新続古今; 秋356/基家百首歌合; 12)

民部卿(みんぶきょう・藤原) → 成範(しげのり・藤原ふじわら、中納言/歌) C 2 1 7 8
 民部卿(みんぶきょう・長楽門院) → 少将内侍(しょうしょうのなしい・後醍醐院) N 2 1 9 2
 民部卿(みんぶきょう・一橋) → 治済(はるさだ・一橋、歌人) G 3 6 3 5
 民部卿(みんぶきょう・松井) → 永雄(ながお・松井まつい、官人/歌人) O 3 2 8 2

- 民部卿(みんぶきょう) → 厩元(阿元あげん;号、真宗僧/歌人) 1 0 9 1
- G4192 民部卿三位(みんぶきょうのさんみ)?- ? 後醍醐天皇妃/護良親王[1308-35]の母
- G4191 民部卿典侍(みんぶきょうのすけ・後堀河院ごほりかわいん、典侍因子すけのいんし、定家女)1195-? 母;藤原実宗女、1205後鳥羽院出仕/安嘉門院出仕/1229藻壁門院(道家女)入内に当たり後堀河院に出仕、1233藻壁門院の死により出家、歌:1232光明峰寺撰政九条道家家歌合・名所月歌合参加、家集「後堀河院民部卿典侍集」、雲葉集入、勅撰24首;新勅(66/753/典侍因子名)続後撰(7首)続古(2首)以下、[前関白(九条道家/1193-1252)家歌合に 寄鳥恋といへるころをよみ侍りける、よそにのみゆふつけ鳥のねをぞなくその名もしらぬ関のゆききに](新勅撰;恋753)
- 民部卿典侍(みんぶきょうのすけ・後伏見院)→中納言典侍(ちゅうなごんのすけ・後伏見院) B 2 8 7 5
- 民部卿典侍(みんぶきょうのすけ)→ 春子(はるこ・四辻、歌/連歌) G 3 6 3 3
- 民部卿僧正(みんぶきょうのそうじょう)→ 栄海(えいかい・真言僧/歌/説話作者) 1 3 0 2
- 民部卿僧都(みんぶきょうのそうず)→ 教舜(きょうしゅん;法諱、真言学匠) N 1 6 9 6
- 民部卿入道(みんぶきょうのいゅうどう)→ 為家(たけいえ・藤原/御子左、廷臣/歌人) 2 6 5 5
- 民部卿法印(みんぶきょうのほういん)→ 玄以(げんい・前田、武将/歌/連歌) F 1 8 1 6
- 民部卿法印(みんぶきょうのほういん)→ 行長(ゆきなが・東条/源、武将/連歌) F 4 6 1 4
- 民部権少輔(みんぶごんのしょう)→ 義延(よしのぶ・朝山あさやま、廷臣/歌人) L 4 7 2 1
- 民部権大輔(みんぶごんのたいふ)→ 良典(よしすけ・小林、官人/尊皇/歌人) L 4 7 8 5
- 民部左衛門(みんぶさえもん・平田)→ 可竹(かちく・平田ひらた、藩士/兵法家) N 1 5 1 2
- 民部僧正(みんぶそうじょう) → 定豪(じょうごう;法諱、大僧正/歌人) V 2 2 7 7
- 民部少輔(みんぶのしょう) → 広家(ひろいえ・吉川きつかわ、武将/領主/連歌) F 3 7 5 3
- 民部少輔(みんぶのしょう) → 尚清(なおきよ・小笠原、武将/故実家) B 3 2 0 9
- 民部少輔(みんぶのしょう) → 長直(ながなお・小笠原、武将) F 3 2 0 0
- 民部少輔(みんぶのしょう) → 宗砌(そうせい、高山/源、武家/連歌) 2 5 1 3
- 民部少輔(みんぶのしょう) → 義勝(よしかつ・櫛木いちき/くぬぎ、砲術家) C 4 7 8 4
- 民部少輔(みんぶのしょう) → 植元(たねもと・朽木くちき、藩主/国学) W 2 6 8 8
- 民部少輔(みんぶのしょう) → 貞継(さだつぐ・菅原すがわら、神職/国学) O 2 0 6 9
- 民部少輔(みんぶのしょう) → 鳩翁(きゅうおう・鶴殿うどの/熊倉、幕臣/歌) S 1 6 8 9
- 民部丞(みんぶのじょう) → 盛長(もりなが・安富やすとみ/紀、武将/連歌) G 4 4 1 1
- 民部丞(みんぶのじょう) → 寿正(ひさまさ・池田/藤原、武家/連歌) B 3 7 9 0
- 民部丞(みんぶのじょう) → 基恒(もとつね・齋藤/藤原、幕臣/日記) D 4 4 1 5
- 民部少丞(みんぶのしょうじょう) → 行忠(ゆきただ・青木あおき/宗岡、官人/歌) G 4 6 4 4
- 民部二郎(みんぶのじろう) → 業連(なりつら・藤原ふじわら、歌人) H 3 2 6 6
- 民部大輔(みんぶのたいふ・小笠原) → 信定(のぶさだ・小笠原、武将/故実) B 3 5 4 4
- 民部大輔(みんぶのたいふ・上杉) → 房定(ふささだ・上杉/藤原、武将/連歌) C 3 8 0 5
- 民部大輔(みんぶのたいふ・畠山) → 基祐(もとすけ・畠山はたけやま、幕府高家) L 4 4 0 0
- 民部大輔(みんぶのたいふ・氷室) → 民部(みんぶ・氷室ひむろ、神職) G 4 1 8 6
- G4193 民部内侍(みんぶのないし) ? - ? 平安中期の女房、歌人、詳細不詳、1039伊予守藤原資業への離別歌(金葉集三奏本)、or1021伊予守藤原広業(資業の兄)への離別歌(詞花集/玄々集)、同じ歌;金葉Ⅲ349/詞花172、[都にておぼつかなさをならはずは旅寝をいかに思ひやらまし](詞花;172)、(都ですすでに離れ離れに馴れていると言いつつ未練の心)
- 珉文(みんぶん/びんぶん・萩野/孔平) → 復堂(ふくどう・萩野、藩士/医/儒) B 3 8 5 9
- 珉平(みんべい・賀集) → 惟一(これかず・賀集かほ、製陶/国学) Q 1 9 6 1
- G4194 民也(みんや) ? - ? 山城伏見の俳人;1689言水「誹諧前後園ぜんごえん」入、1690「新撰都曲みやこぶり」4句入;85-88、[梅嗅ぐに野は遠からじ近からじ](新撰都曲;85/野はほど良い距離)
- G4195 民屋(みんや) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」1句入;375、[おり立ちて馬かゆる野の薄村きかな](卯辰集;三375/馬交換のため下りた野の花薄)

民弥(みんや・山田) → 以文(もちぶみ・山田/藤とう、神職/故実) B 4 4 6 3
眠柳(眠流みんりゅう) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、麦阿、俳人) D 4 9 3 3
眠竜(みんりゅう・一貫斎) → 一貫斎(いっかんさい・国友、砲術/蘭/国学) G 1 1 8 4
眠柳亭(みんりゅうてい) → 常春(じょうしゅん・服部はつとり、俳人) T 2 2 1 0

- G4196 **眠郎**(みんろう・佐藤さとう、名;良昭)1711-8474 信濃小県郡上塩尻の俳人:伊勢の麦浪/のち關更門、
關更の信州進出の助力、1777「雪の薄ゆきのすずき」編、
[眠郎(;号)の通称/別号]通称;莊右衛門、別号;無著庵/無著舎/麦丘舎/三似房
- H4126 **珉和**(みんわ・合川あいかわ、名;秀成)?-? 江後期化政1804-30頃大阪の絵師:岸駒門、
挿絵:1808「石井物語」「物草太郎」「名技伝」画/11「ありま筆」17「窓螢余譚」18「光琳画式」画、
1819・21「扁額規範」画(;琴魚序)/琴魚と交友、19「通神画譜」20「小桜姫風月後記」画/外多数、
[珉和(;号)の字/別号]字;士陳、別号;雪山/合川亭